(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告第216集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

Yata Site vol.VIII

矢田遺跡VIII

Yoshii, Tano, Gunma
群馬県多野郡吉井町

中近世編（併古代以前非竪穴遺構）

1997

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告第216集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

Yata Site vol.Ⅷ

矢田遺跡Ⅷ

Yoshii, Tano, Gunma
群馬県多野郡吉井町

中近世編（併古代以前非竪穴遺構）

1 9 9 7

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

序

「鏑の谷」を形成する鏑川下流域の多野郡吉井町大字矢田は、国指定史跡多胡碑の碑文に記された「八田郷」にかかわる由緒ある地です。この地域の南に高速道路・上信越自動車道が通過し、吉井インターチェンジが建設されるところとなり、昭和61年度から平成3年度の6年間にわたって発掘調査が行われました。

調査対象地域は約9万m²の広域に及び、750軒余の古墳から奈良・平安時代の竪穴住居をはじめとする多数の遺構・遺物が発見され、多胡郡の歴史を解明する上で貴重な資料を得ることができました。その成果は、平成2年から始めた整理事業により発掘調査報告書『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』として、逐次刊行してまいりました。

本書『矢田遺跡Ⅷ』は、古代以前の竪穴住居を除いた遺構・遺物を報告したものです。これら遺構の中で特に注目されるのは、天王原館跡として命名された中世の方形居館があげられるでしょう。居館の内部には塀で囲われた区画が見られ、さらに外側には道路をはさんで掘立柱建物群・井戸跡・墓地などが多数検出されました。それは、中世の在地土豪の生活の一端を知る貴重な資料を提供しています。

ここに、矢田遺跡最終の発掘調査報告書として本書が刊行の運びとなりました。発掘調査から刊行に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、吉井町教育委員会をはじめとする関係諸機関、並びに発掘調査・整理事業にかかわった多くの皆様のご協力とご支援に厚くお礼を申し上げます。そして、本書が地域の歴史を解明する上で、多くの方に広く活用されますことを願い、序といたします。

平成9年3月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　小寺弘之

例　　言

1　本書は、矢田遺跡(群馬県多野郡吉井町大字矢田・多胡・多比良所在)の上信越自動車道建設に伴う発掘調査報告書の内、中近世及び古代以前（竪穴住居を除く）の調査成果の報告書である。

2　本遺跡の発掘調査は、当事業団が昭和61(1986)年4月1日より平成3(1991)年11月26日まで行った。古代以前の竪穴住居の調査成果については、『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』として平成2(1990)～8(1996)年に刊行済みである。

3　発掘調査は、次の体制で行った。

調査担当　鬼形芳夫・依田治雄・中沢　悟・春山秀幸・関口功一・内木真琴・富田一仁・関口博幸

事務担当　関越道上越線調査事務所

所長　井上　信・高橋一夫・阿部千明・松本浩一・吉田　肇

総括次長　片桐光一・大澤友治　　次長　原田恒弘・徳江　紀

調査課長　長谷部遠雄・鬼形芳夫・依田治雄

庶務　黒沢重樹・宮川初太郎・国定　均・笠原秀樹・吉田有光

発掘作業員

青木いせ・天田文子・（故）新井克巳・新井幸子・新井すみ子・新井高子・新井まつ子・新井　緑・
新井富貴子・新井真弓・飯塚和良・飯塚初代・飯塚　房・伊倉茂登子・井田松寿・今井　好・
浦野千代子・江原まさ子・遠藤秀子・大木みさ子・大木みつ・落合君子・鬼形田鶴子・加藤節子・
金井すみ江・金井はる・金沢友次・神戸ハツエ・神戸　啓・喜多川源造・木村ハナ子・工藤きみよ・
栗原　清・黒沢敦子・黒沢京子・黒沢　治・小嶋八重子・小林愛子・小林きよ子・小林善三・小林初美・
佐藤千代子・斎藤友枝・斎藤初子・斎藤英子・斎藤政宏・斎藤美知子・志賀シゲ子・志賀　大・
紫藤カヲル・紫藤　孝・篠崎とよ・篠崎太郎・島田八千代・清水桂子・清水千代・白井精一・神保恵子・
神保すみ江・神保　進・杉田きくの・鈴木ふさ子・鈴木幸男・高田　嵩・高田三枝子・高橋智恵子・
高橋ちよ子・高橋春代・滝沢利子・竹内栄子・建部すみ子・田中みき江・田端春治・佃　満・寺尾克代・
中村いち・櫛島静子・（故）櫛島豊続・野口節郎・野口照子・野中正江・長谷川良一・長谷川高子・
林　敏子・原口葉子・平田　昇・藤本ひろ子・本間敏子・松本タツノ・松本良子・三ヶ島富二郎・
三木時一・宮下恵子・村上繁代・望月登代子・百瀬美子・森　利子・森　基司・谷田部喜代美・山崎孝子
湯浅安代・吉田良子・吉田たづ子・（故）吉田一子・若林さく子・若林てい子・若林トヨ子

4　整理作業は、次の体制で1995年4月1日～97年3月31日(平成7・8年度)に行った。

事務担当　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団事務局

事務局長　原田恒弘　調査研究部担当部長　神保侑史(7年度)・赤山容造(8年度)

調査研究部担当課長　岸田治男（7年度）・平野進一（8年度）

整理担当　山口逸弘（7年度）・坂井　隆（8年度）

整理作業員

7年度　猪野熊洋子・加藤和子・鈴木紀子・高橋フジ子・長岡美和子・中橋たみ子・萩原由美子

8年度　新井加寿恵・串渕すみ江・佐藤信子・須田はつ江・南雲繁子・丸橋富美子・吉原清乃

保存処理　関　邦一

遺物撮影　佐藤元彦

5　本書は、8年度整理担当である坂井が責任編集し、署名部分を除いて執筆した。また景観の推定復元図は新井加寿恵が描いた。縄文晩期土器については、当事業団の大木紳一郎の助言による。

凡　　例

1　整理報告の基本方針

速やかな報告書刊行を最大の目的とした。後述のように本書の報告対象とされたのは、竪穴住居以外の縄文時代を除く遺構・遺物である。しかし、責任編集者にはその区分の意味は理解できず、中近世の遺構・遺物の報告を主とし、古代以前の竪穴住居以外の遺構・遺物については事実報告にとどめざるをえなかった。

2　本報告書の構成

主な遺構について地区別に報告し、その後に調査時に「ピット」と総称されたものを小型遺構として地区別に掲載した。

3　遺構について

ア　掲載対象　：　小型遺構は、ほとんど遺物出土のものに限定せざるをえなかった。

イ　遺構番号　：　調査時の呼称に関わらず、内容に応じて種別ごとに通番を付した。また内容の乏しいものは削除したため、番号は完全には継続していない。

ウ　報告の焦点　：　可能な限り立地条件を現すことを優先した。図だけではなく、原則として本文に従って掲載した遺構景観写真を併用されることが望まれる。

エ　グリッド　：　調査時の国土座標に基づく5×5mの小グリッドを踏襲した（南西側を原点とし、北東端の点により、Y軸方向－X軸方向の順で呼称）。

オ　掲載順序　：　時代に関わらず、大字矢田分の西から東、大字多比良分、そして大字多胡分の順で掲載した。時代・遺構番号による検索は、遺構索引(P.193)を利用されたい。

カ　基本層序　：　参照『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』

4　遺物について

ア　掲載対象　：　責任編集者は、本報告で掲載した遺物について、陶磁器と金属器・骨類を除いて、その選択理由を物理的要件により引き継いでいない。そのため、遺構と遺物の関係は完全な状態では報告できなかった。

イ　遺物番号　：　4桁の通番を付け、第1桁を次のように分けた。

0：土器・陶磁器類　1：石製品類　2：金属製品類　3：骨類

ウ　報告の焦点　：　中近世の遺構の時代観と性格を把握することを中心とした。古代以前の遺物については本遺跡の竪穴住居関連の報告書で詳述されてあるはずだが、やはり物理的要件によりそれらとの照合は行っていない。

エ　出土状態認識：　上述のように、遺構からの出土状態については明確にはできなかった。

オ　実測方針　：　古代以前の土器については、初年度整理に実測されたものを時間的制約によりそのまま踏襲したため、その表現と仕上がりについて責任編集者は関係していない(須恵器坏類の底部拓本については省略した)。それ以外の土器類は使用痕表現を最優先した。

5　その他

略　称　　埋文：（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

ア　石材認定　：　飯島静男氏(群馬地質研究会)

イ　トレース　：　遺構図・遺物図　(株)湖研　小池智賀子他

ウ　コンピュータグラフィック　：　(株)四門

抄　　録

1　遺跡の概要

本遺跡は多野郡吉井町大字矢田・多胡・多比良にまたがって所在する。鏑川右岸に注ぐ支流矢田川と多胡川に挟まれた矢田段丘南端に立地する。

発掘調査は、昭和61(1986)年4月1日より平成3(1991)年11月26日まで行った。現在は、上信越自動車道の吉井・高崎南インターチェンジとその東に接する高速道本線となった。

本遺跡調査成果の中で古代以前の竪穴住居については、『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』として平成2(1990)～8(1996)年に刊行してある。

2　遺構数量

種別	時代	主な種類		特記事項
生産 交通	近代	畠 道路	18 5	近世後期の浅間山爆発以後に形成された道路に区画された畠地　現在の字界に一致
交通 生産 生産	近世	道路 溝 土坑	6 31 46	浅間山爆発以前から存在していた道路そして耕地の区画を示した溝と畠地周縁に普通見られる短冊形土坑を中心に多数の農耕に関係する土坑が多い
居住 居住 交通 埋葬	中世	掘立 館跡 道路 墓坑	11 1 1 3	13世紀を上限とする方形居館がある　その外側の平坦地には掘立建物群と井戸で形成される居住区画が別に広がる墓坑群を含めた外側居住空間と居館は堀状の道路によって区分されている
居住 生産 生活	古代	掘立 小鍛冶 土器集積	9 3 4	大型掘り方を持つ掘立群　総柱建物が多い　竪穴住居内で検出した小鍛冶は周辺に鉄滓の分布がある　低地際には大甕や甕・坏などの日常器の須恵器集積が見られる
居住 自然	古墳	柱穴列 旧河川	3 2	掘立柱建物になる可能性もある柱穴列が集中　その西側の多胡川旧流路では石敷遺構がある
生産	縄文	土坑	1	晩期東信濃の水式土器甕片出土

3　まとめ

1　近世・近代　広大な段丘上平坦面は、基本的に畠地として広く利用されていた。しかし、18世紀後半の天明年間の浅間山爆発により、それまでの景観を構成していた道路と畠は荒廃し、その後復興された道路と畠は現在に至る大字・小字の地境を決定した。地形的には不自然な本調査地での矢田と多胡の境界もこの時に形成された可能性がある。

2　中世　天王原館跡として確認した方形環濠居館は、核心部分は調査対象にはならなかったが内部に柱穴列による区画と方形竪穴を配する構造を検出した。この居館は、13世紀を上限として成立しており、西側には北の鎌倉街道方向に向かう堀状の道路が接している。さらに道路の西側の平坦地には、堀などで囲われない状態での掘立柱建物群、そして墓坑群が見られた。この建物群は、15世紀頃と推定される環濠居館の廃絶後も利用が続いた可能性がある。

3　古代　掘立柱建物群の数はかなり多く、従来言及されてきた、この時代の集落が竪穴住居のみで構成されていたという印象が、事実とは異なることが判明した。鍛冶滓もこの集落の一つの重要な生業として存在したことは間違いない。日常用の土器の集積状況は、低地部の利用の仕方と関係があるだろう。

4　古墳時代　南西側で見られた柱穴列群は、掘立柱建物になる可能性もある。この時代においても竪穴住居のみで集落が構成されていたのではないことは確かである。旧河川での石敷遺構は、川での何らかの生活を示唆するものである。

5　縄文時代　弥生前期並行の西からの土器文化は、早い速度で甘楽回廊を東進したことを示している。

目　　次

序　例言　凡例　抄録　目次

一　本文

I　序章　P.9

1　調査整理経過　P.11

2　中近世の環境　P.12

II　検出遺構と遺物　P.19

1　概要　P.21

2　遺物概要と大型遺構　P.25

ア　北西側地区　P.25

イ　東側地区　P.65

ウ　南西側地区　P.81

3　小型遺構と遺構外遺物　P.118

ア　北西側地区　P.118

イ　東側地区　P.128

ウ　南西側地区　P.136

4　表面採集遺物　P.153

III　遺物の特徴　P.159

1　陶磁器　P.161

2　中近世土器　P.163

3　銭貨　P.164

4　金属製品　P.166

5　石製品類　P.167

6　獣人骨　宮崎重雄　P.168

IV　遺構の特徴　P.171

1　中世居館と道路　P.173

2　掘立柱建物　P.179

3　景観復元　P.181

V　調査成果まとめ　P.183

1　近世以降　P.185

2　中世　P.187

3　古代以前　P.189

VI　索引　P.191

遺構索引・遺物索引　P.193

summary　P.198

報告書抄録　P.199

二　写真図版

遺跡の立地と遺物(原色)　PL.1
眺望・景観・全景・作業風景(単色)　PL.7
北西側地区大型遺構と遺物(単色)　PL.16
東側地区大型遺構と遺物(単色)　PL.43
南西側地区大型遺構と遺物(単色)　PL.53
小型遺構と遺物(単色)　PL.71
表面採集遺物(単色)　PL.90
銭貨(単色)　PL.94

三　資料

表目次・利用法　P.299
遺構一覧　P.301
土器陶磁器類一覧　P.307
石製品類一覧　P.331
有機物一覧　P.331
金属製品一覧　P.331

一　本　文

第Ⅰ章　序章

1　調査整理経過

関越自動車道上越線（上信越自動車道）は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道である。路線は東京都練馬～群馬県藤岡市まで関越自動車道新潟線と併用し、群馬西部の藤岡ＪＣから藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・妙義町・松井田町・下仁田町を経て長野県佐久市に至り、長野県内を通過して新潟県上越市までの約280kmに及ぶ。平成５(1993)年３月に藤岡インターから佐久インター間約69kmが開通した。

昭和47(1972)年、関越自動車道上越線（群馬県藤岡市～長野県佐久市間）の基本計画が策定され、同54年に建設大臣から日本道路公団へ施行命令がなされた。昭和56(1981)年、藤岡市より松井田町までの東部の路線が、同57(1982)年には松井田町から長野県佐久市に至る西部の路線が発表された。

ア　発掘調査に至る経過

昭和49年度　群馬県教育委員会は県企画部幹線交通対策課に対して協議要請

昭和55年度　県教委文化財保護課、路線及びその周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を実施

昭和59年度　日本道路公団からの依頼で県教委文化財保護課、包蔵地の詳細分布調査を実施

昭和60年度　県教委文化財保護課、発掘調査想定面積を約100万㎡、55遺跡と回答

調査の基本方針を次のように策定

① 発掘調査は昭和61～66年の６年間。後に昭和65年度（平成２年）までの５年間に変更。

② 発掘調査の中核機関となる当事業団が藤岡市～富岡市の約76万㎡を担当し、他の22万㎡は関係市町村で調査会を組織し対応。

③ 当事業団は上越線調査事務所を開設し、整理事業も合わせて実施。

※ 調査の実施にあたり、日本道路公団と県教委は年度毎に委託契約を締結する。県教委はそれを受けて当事業団、関係市町村の遺跡調査会に対し再委託契約を締結。

イ　発掘調査の実施と整理

吉井・高崎南インターとその東側隣接地である矢田遺跡は、昭和61(1986)年度から調査を実施した。以後調査は工事の進捗に先んじて、約90,000㎡に及ぶ対象地を足かけ６年間に渡り順次行った（詳細については『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』参照）。

整理は、延べ９年間の期間が必要であるとされ、平成１(1989)年より継続されてきた。当初策定された基本方針は、「地域を区切ることが困難なため、時代別（地域を加味する）に実施し、最終整理で全体をまとめる」とされた。

その際に決められた区分では、平安時代住居跡編３冊（Ⅰ～Ⅲ）、奈良時代住居跡編１冊（Ⅶ）、古墳時代住居跡編３冊（Ⅳ～Ⅵ）、旧石器・縄文時代１冊（Ⅳに併記）となり、本書Ⅷの対象は「住居跡以外の遺構編」とされた。

平成７年度から本書の対象を整理してきたが、①対象そのものの設定が曖昧であり、②７・８年度整理担当者は共に発掘調査に参加しておらず、③それまでの整理担当者の本書整理対象に対する理解が明確でなく、④物理的要件により７年度整理の引継が十分でなかったため、遺憾ながら本書の報告は理想的な形にはならなかった。

そのため責任編集者は、速やかな刊行を最大の目的としながら、これまでの整理の対象にはなっていなかった中近世の遺構・遺物の報告を本書の報告内容とした。また、古代以前の竪穴住居以外の遺構と遺物については事実報告にとどめざるをえなかった。そのため、本書は「全体をまとめた」最終報告書ではない。

2　中近世の環境

ア　自然環境

A　本州中部山地の要衝、甘楽回廊

本遺跡北の利根川支流鏑川は、水源の上信国境荒船山(海抜1422m)から約50キロ東流して、関東平野に入ってから、他の大きな支流と共に利根川本流に合流している。

鏑川の流域は、北の碓氷川との間に奇峰妙義山(海抜1104m)から続く比高100m弱の岩野谷丘陵が連なり、南は神流川との間に赤久縄山(海抜1522m)と西御荷鉾山(海抜1286m)をピークとする急峻な山脈が走り、その裾には河岸段丘が発達している。両側の山地に挟まれた現在水田となっている平地は南北の幅が1～3キロ程度と狭いが、鏑川の流れは平地が形成される富岡市南蛇井付近から東は大きな蛇行がないため、東西方向は眺望が良く開放的な景観を示している。そのため、鏑川流域(古代名は甘楽)全体は、東西走向の回廊地形として認識できる。

荒船山は頂上が長く平坦で、航空母艦のような特異な形状をしているため、頂上北側の内山峠への断崖を含めて、背後の活火山浅間山(海抜2542m)と共に、広く関東平野北部全体から識別できる。碓氷峠など荒船山に連なるいくつかの関東山地の峠を越えると、千曲川上流の長野県佐久地方に達する。千曲川は下流では信濃川と呼ばれて新潟で日本海に注いでおり、荒船山周辺は本州の分水嶺にあたるが、この山の周辺には通行がそれほど難しくない峠が多い。

また佐久地方から南西には蓼科山塊が広がるが、そこにあるいくつかの峠を経て遠州灘に流れる天竜川源流の諏訪湖に達することは容易である。甘楽回廊は中部山地へ深く入り込んだ関東平野の最西端であると同時に、本州中部山地の東の末端としても見ることができる。

B　段丘面の最南端、「天久山」

甘楽回廊の中で富岡市街地南部の高瀬丘陵東半より東では、右岸（南側）に2段の段丘が発達しているが、この段丘面は南の赤久縄・御荷鉾山系から北流する小河川により分けられている。本遺跡は、そのような河川矢田川と多胡川が東西両側を削って形成された上位段丘面である矢田段丘面（南北1.5km東西0.5km）の南端に位置している。

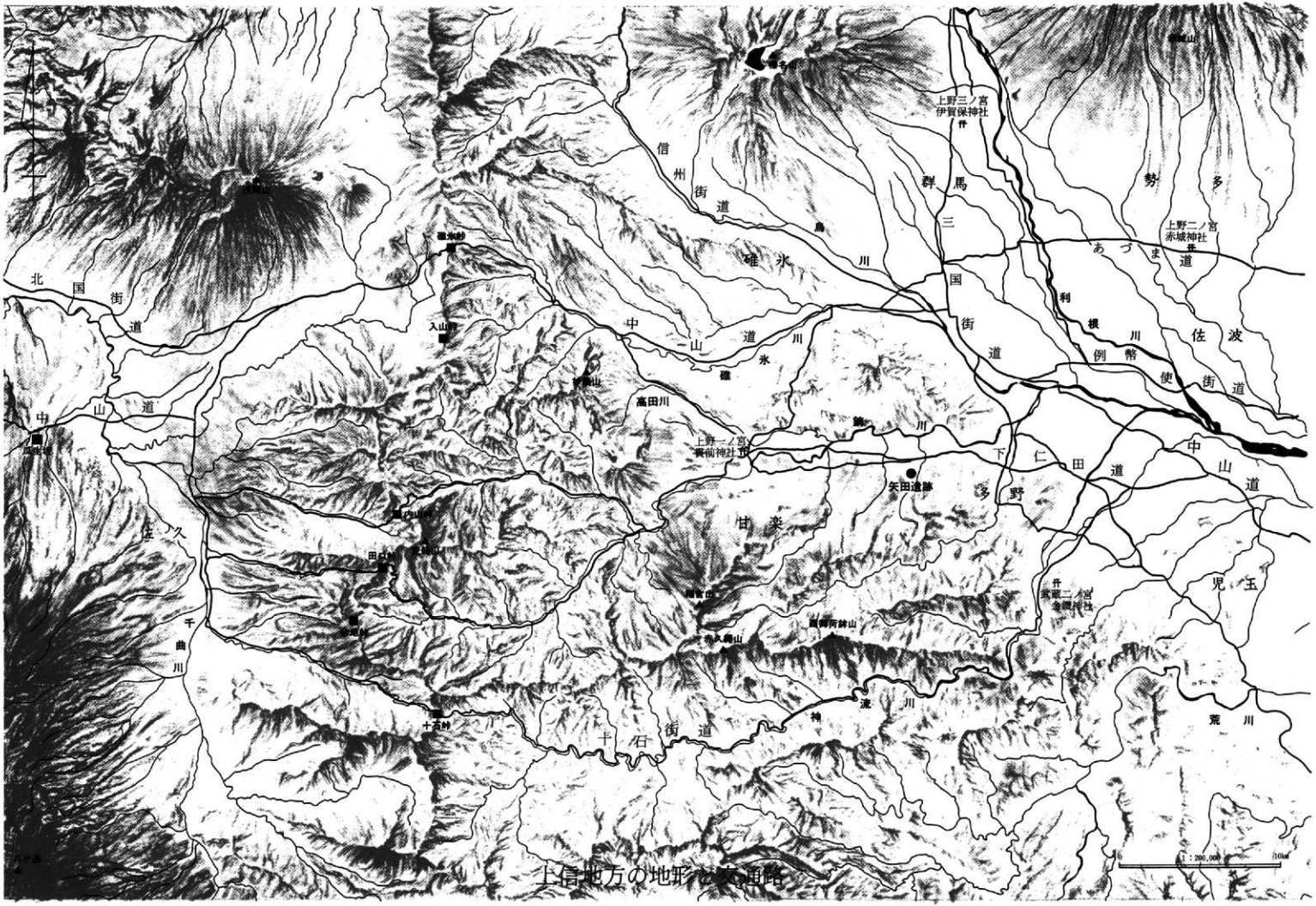
この地域では、南側の山は赤久縄・御荷鉾山系の前衛である熊倉山(896m)山系が屹立し、さらにその前面北側には、大きく開析を受けて独立峰状に連なる牛伏山(490m)山系が、段丘面の直接背後の山として並んでいる。両河川はこの牛伏山の北麓を源流としている。

本遺跡地は、牛伏山山頂から北北東2.5kmに位置し、牛伏山系の末端の無名小丘陵(221m)の北麓に面する。矢田段丘面は、この小丘陵の直下から平坦面として北に延びているが、小丘陵最北端が天久山(観音山182m)である。ほぼ四方に眺望の良い天久山の下部30mの北・西側に本遺跡は展開している。比較的平坦な天久山山頂の南と東は、50mの急斜面が矢田川低地まで達している。

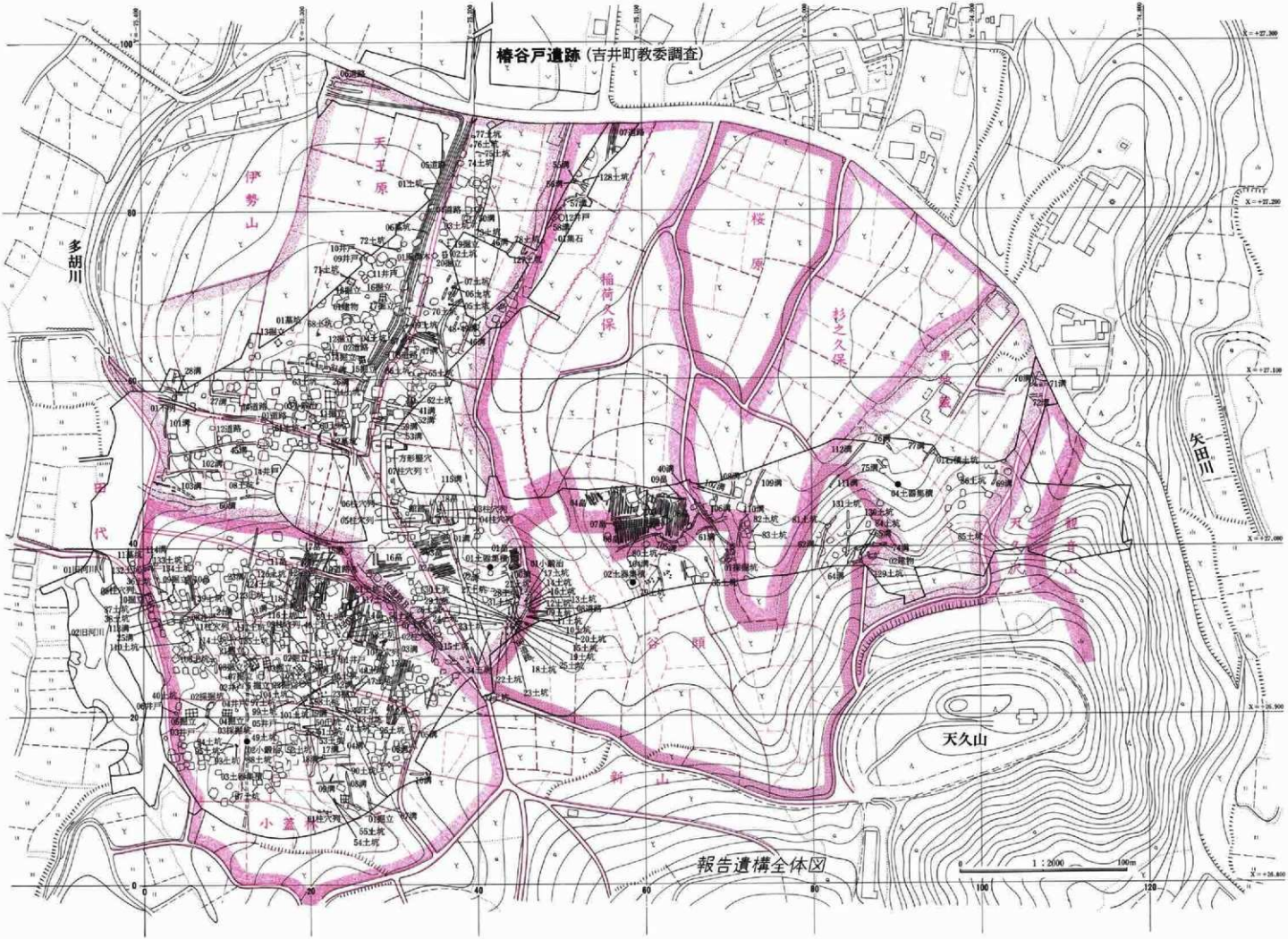
この天久山丘陵から北北東方向に矢田川に向かって2本の低地（稲荷久保・前久保低地と杉之久保・尾崎久保低地）が延びており、そのため、概ね東西方向に延びる今回の調査地は、3個の平坦面に区分される。しかし、この3個の平坦面は均一ではなく、東端の天久山直下部分では矢田川まで30mの比高を持つやや急な傾斜地であるのに対し、最西端は多胡川まで10mの比高で緩やかに下がっている。

C　気象状況

南西15kmの稲含山は、夏季の雷の発生地として知られており、本遺跡地もその初期段階の通過地点である。



上信地方の地形と交通路


椿谷戸遺跡（吉井町教委調査）
報告遺構全体図
伊勢山
多胡川
天王原
稲荷久保
桜原
杉之久保
車塚
矢田川
天久山
新山
谷頭
小蓋
1：2000
100m

周辺の中近世遺跡一覧

番号	遺跡名	中世	近世	文献
1	矢田	○	○	本書
2	馬場城	○		県，1988
3	奥平城	○		県，1988
4	奥平地域城	○		県，1988
5	坂口城	○		県，1988
6	蓮谷城	○		県，1988
7	甘薬条里		○	甘，1983／88
8	小棚城	○		県，1988
9	片山の砦	○		県，1988
10	本郷城	○		県，1988
11	塩川の砦	○		県，1988
12	吉井陣屋		○	県，1988
13	澄城	○		県，1988
14	上淀館	○		県，1988
15	岩崎城	○		県，1988
16	入道谷屋敷	○		県，1988
17	中林城	○		県，1988
18	間庭城	○		県，1988
19	下山		○	吉，1990A
20	根小屋城	○		県，1988
21	寺尾下城(山名城)	○		県，1988
22	茂場城	○		県，1988
23	仁比屋城	○		県，1988
24	天引狐崎	○	○	埋，1996A
25	天引口明塚	○		埋，1992A
26	倉内城	○		県，1988
27	長根城	○		県，1988
28	長根宿	○	○	吉，1987
29	長根羽田倉	○		埋，1990
30	神保館	○		県，1988
31	神保富士塚	○		埋，1993
32	神保植松	○	○	埋，1996B
33	神保（植松）城	○		埋，1996B
34	折茂の砦	○		県，1988
35	高の砦	○		県，1988
36	多胡下の城(金沢城)	○		県，1988
37	多胡館	○		県，1988
38	多胡城	○		県，1988
39	川内	○		吉，1982
40	河内の砦	○		県，1988
41	椿谷戸	○		吉，1989A，90B
42	矢田城		○	県，1988
43	天王屋屋敷	○		県，1988及本書
44	天久沢陣城	○		県，1988
45	多比良追部野	○	○	埋，1997
46	祝神	○	○	埋，1991
47	峰山城	○		県，1988
48	入野	○		吉，1985，86
49	黒熊遺跡群	○		吉，1984
50	小串館	○		県，1988
51	小串塚原	○		吉，1983
52	三ッ木（中）城	○		県，1988
53	黒熊海道端		○	吉，1995
54	中（黒熊）城	○		県，1988
55	黒熊栗崎		○	埋，1995
56	黒熊中西		○	埋，1992B，94B
57	新堀（多比良）城	○		県，1988
58	瀬戸（尚平）城	○		県，1988
59	中ノ原城	○	○	吉，1989B
60	天引城	○		県，1988
61	八束城	○		県，1988
62	一郷山城	○		県，1988
63	平井城	○		藤青，1991
64	東平井の砦	○		県，1988
65	藤岡平地区遺跡群	○		藤，1994
66	F12飛石の砦	○		埋，1994A
67	東平井盲正前	○		埋，1994A
68	東平井盲正前	○	○	埋，1994A
69	東平井土井下		○	埋，1994A
70	常岡（神田）城	○		県，1988
71	F13b西平井天神	○		藤，1994
72	F13b西平井島	○		藤，1994
73	F2大工ヶ谷戸		○	藤，1994
74	F2緑禁上郷		○	藤，1994
75	白石大御堂	○	○	埋，1991
76	F9鳥飼原	○		藤，1985
77	鮎川城	○		県，1988
78	上大塚城	○		県，1988
79	白塩道南	○		藤，1985
80	A2北山	○		藤，1987
81	白石の砦	○		県，1988
82	美土里地区№2	○		藤，1983
83	東原II	○		藤岡市史
84	白石北原	○	○	藤，1993
85	美土里地区№4	○		埋，1991
86	平井地区№11	○		埋，1991
87	落合城	○		県，1988
88	岡の砦	○		県，1988
89	美土里地区№1	○		埋，1991
90	動堂城	○		県，1988
91	中大塚（駒形）城	○		県，1988
92	中大塚	○		埋，1989
93	美土里地区№11	○		埋，1991
94	上栗須寺前	○	○	埋，1996C
95	照照数	○		県，1988
96	上栗須		○	埋，1989
97	中城	○		県，1988
98	森西館	○		県，1988
99	C12立石堀		○	埋，1991
100	山名館	○		県，1988
101	本部城	○		県，1988
102	本部館	○		県，1988
103	一八様	○		埋，1991
104	竹沼・緑禁遺跡群	○	○	埋，1997B

文献一覧（中世・近世の遺構遺物検出について何らかの記述があるもの）

甘：甘薬町教育委員会　1983／88，『甘薬条里遺跡Ⅰ～Ⅵ』　**県**：群馬県教育委員会　1988，『群馬県の中世城館跡』　**藤**：藤岡市教育委員会　1983，『藤岡市遺跡詳細分布調査報告Ⅱ』　1985，『F9薬師原遺跡』　1987，『A2藤岡北山遺跡他』　1993，『市内遺跡Ⅰ』　1994，『F12藤岡平地区遺跡群』　**藤青**：藤岡青年会議所　1991，『シンポジウム中世東国の都平井城の時代』　**埋**：群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989，『上栗須・中大塚・上大塚遺跡』1990，『長根羽田倉遺跡』1991，『白石大御堂遺跡』　1992A，『神保下條遺跡』92B，『黒熊中西遺跡Ⅰ』1993，『神保富士塚遺跡』1994A，『飛石の砦跡・東平井塚間遺跡他』94B，『黒熊中西遺跡Ⅱ』1995，『黒熊栗崎遺跡』1996A，『天引狐崎遺跡Ⅱ』96B，『神保植松遺跡』96C，『上栗須寺前遺跡Ⅲ』1997A，『多比良追部野遺跡』97B，『緑禁遺跡群他』　**吉**：吉井町教育委員会　1982，『川内遺跡図版編』1983，『塚原遺跡黒熊第1遺跡』1984，『黒熊遺跡群』1985，『入野遺跡』1986，『入野遺跡Ⅱ』1987，『西場脇長根宿遺跡』1989A，『椿谷戸遺跡』89B，『中ノ原城跡』1990A，『下山遺跡』90B，『椿谷戸遺跡Ⅱ』1995，『黒熊海道端遺跡』

イ　歴史的環境

本遺跡地をとりまく中世以降の歴史的に重要な要素は、次の二点に集約できる。

A　伝鎌倉街道と信濃との関係

近世に甘楽回廊には、下仁田道と通称する中山道の脇往還が走っていた。中世以前においては、上信間の幹線路としてこの甘楽回廊ルートが北の碓氷川ルートより主体的な役割を担っている。本遺跡の北側も含めた上位段丘の裾を鎌倉街道の名が残る古道が走り、その周辺には多くの中世遺跡が展開している。

最も直接的な資料は、この道の橋桁として長く転用されていた13世紀中葉の紀年銘を持つ甘楽町小川の大日碑(長3.5m)である。残念ながら、発掘調査により路面が検出された例はこの地域ではまだないが、周辺に残存する石造物はかなり多い。

また長根城(西北西2.5km)など、上位段丘の崖線を利用した中世城郭の数も少なくない。

中世に甘楽回廊一体を支配したのは、甘楽町小幡(おばた)に本拠を持っていた小幡氏である。すでに13世紀には文献に登場しており、この地域の石造物の増築にも大きく関与していた。

12世紀前半に当地が多胡庄と呼ばれていた頃、その管理者として木曽義仲の父義賢が、多胡館(西北西0.5km)に本拠を置いていたと言う。後、信濃で挙兵した義仲はただちに甘楽回廊を下り、当地を勢力圏に置いてから、北陸方面に向かっている。一方、中世前期には、小幡氏の同族である奥平氏が鏑川北方の奥平の谷に盤踞していた。奥平氏は南北朝争乱期に三河に移ったとされる。

15世紀以降、関東管領山内上杉氏は、本拠地を鎌倉から平井城(南西4km)に移しているが、それは甘楽回廊の入り口部を押さえることの意味が大きかったためだろう。16世紀中葉の甲斐武田信玄の西上野制圧にあたっては、小幡氏の協力のもと、当地を拠点として北方の箕輪城攻撃を行っている。

このように、当地を含めた甘楽回廊の中世は、西方の信濃さらにその先の三河・甲斐あるいは北陸などとの予想以上に頻繁な動きを見ることができる。

B　牛伏砂岩の動き

南部の山地は古生代の三波川系変成岩帯に属しており、さまざまな石材の供給源であった。代表的なものは、武蔵荒川水系上流と共に中世の板碑材料としてあまりにも有名な緑色などの片岩そしてその近縁の蛇紋岩・滑石があるが、それと同程度以上に歴史的に広く利用されたものが、牛伏層から供給される牛伏砂岩(天引(みちびき)石・多胡石)である。

脆さのため板状の石材にほぼ限定される片岩や小型品に限定される滑石に対して、牛伏砂岩は加工がしやすいものの比較的頑健で、大型の石材として古くから多用されてきた。

碑石としての最も著名な例は、吉井町池に残る8世紀初頭の多胡碑(北2.5km)である。日本三大古碑として、また上野三碑としても数えられるこの碑の石材と形態は後世にも受け継がれ、14世紀初頭前後の天引笠塔婆群(甘楽町天引)はその代表的なものである。その他にも五輪塔や大型板碑などにも多用されている。

15世紀後半から16世紀前半にかけては、平井城に本拠を置いた関東管領山内上杉氏の勢力下に、五輪塔石材として広く利用され、また近世では18世紀代に鳥居石材としての利用がある。

牛伏層の分布は、当遺跡南面に屹立する牛伏山系と一致しており、東から並ぶ牛伏山(490m)・城山(453m)・旭岳(448m)のいずれでも採石されている。

参考文献
秋池　武.1988「関東管領山内上杉氏と牛伏砂岩・多孔質角閃石安山岩について」『群馬の考古学』群馬文
群馬県教委.1983『歴史の道調査報告書　鎌倉街道』.1988『群馬県の中世城館』

第II章　検出遺構と遺物

1　概要

【報告原則】

序章で記したように、本報告は矢田遺跡の調査で検出した遺構・遺物の中で、古代以前の竪穴住居とそれに関わる遺物以外の全てを対象としている。

広大な面積の調査地に散らばる時代・遺構種類共に多岐に渡るものを的確に報告することには、少なからず無理を生じることが避けられなかった。そのような条件のもとに存在する選択肢の中で、ここでは中近世の報告を主とすることを第一とし、次に比較的理解が容易であることを考慮して、以下の原則を考えた。

1　大字・小字ごとに遺構を区分する。

2　各小字内の遺構相互の位置関係を重視する。

3　遺構出土とされる遺物は時代・種類にかかわらず、そこで全てを紹介する。

4　遺構に伴わない遺物は小字ごとに時代・種類別にまとめる。

ここで「遺構」としたものは、当然竪穴住居を含んでいない。

また、調査時に「ピット」と総称された数多い比較的小さな遺構(通常、土坑として扱われるものも多く含んでおり、中には径１mの掘立の大型柱穴になったものも複数ある)があった。この扱いは、グリッド別にそれぞれ個別番号があったため、性格を識別するには非常に煩雑であった。そのため報告は、次のように行った。

5　調査時に通しの個別番号が付与されていた遺構（溝・掘立など)は大型遺構とし、それらとは区別して小型遺構と総称して、別に小字ごとに報告する。

6　ただし、大型遺構の報告欄内でも可能であれば、小型遺構の報告を行う。

7　小型遺構の中で、平面図もしくは遺構写真のある単独存在のものを「土坑」と名付け、通し番号を付与する。

8　７の条件にあわない遺物及びグリッド出土遺物を遺構外遺物として小字ごとに報告し、最後に出土状態不明の遺物を表面採集遺物として時代・種類ごとに報告する。

序章で記したように、古代以前の遺物については責任編集者は、その選択に関わっていないため報告基準を理解しておらず、出土遺構との厳密な関係も検討する機会を得なかったことを付記しておく。

【地域区分】

検出遺構全体図（23頁）に記したように、本調査の範囲は次のように多数の大字・小字に分かれている。

大字	小字
矢田	天王原・稲荷久保・谷頭・杉之久保・車地蔵・天久沢
多比良	観音山
多胡	小蓋林

以上の中で、多比良観音山では全く遺構を検出しなかった。地形的状況も考えて、ここでは以上の各大字・小字検出遺構と遺物を、以下のようにまとめた。

北西側地区	矢田天王原
東側地区	矢田稲荷久保～天久沢・多比良観音山
南西側地区	多胡小蓋林

これらは、地形的にはそれぞれまとまりがある。

北西側地区　　段丘上の平坦面　　調査前は畠地

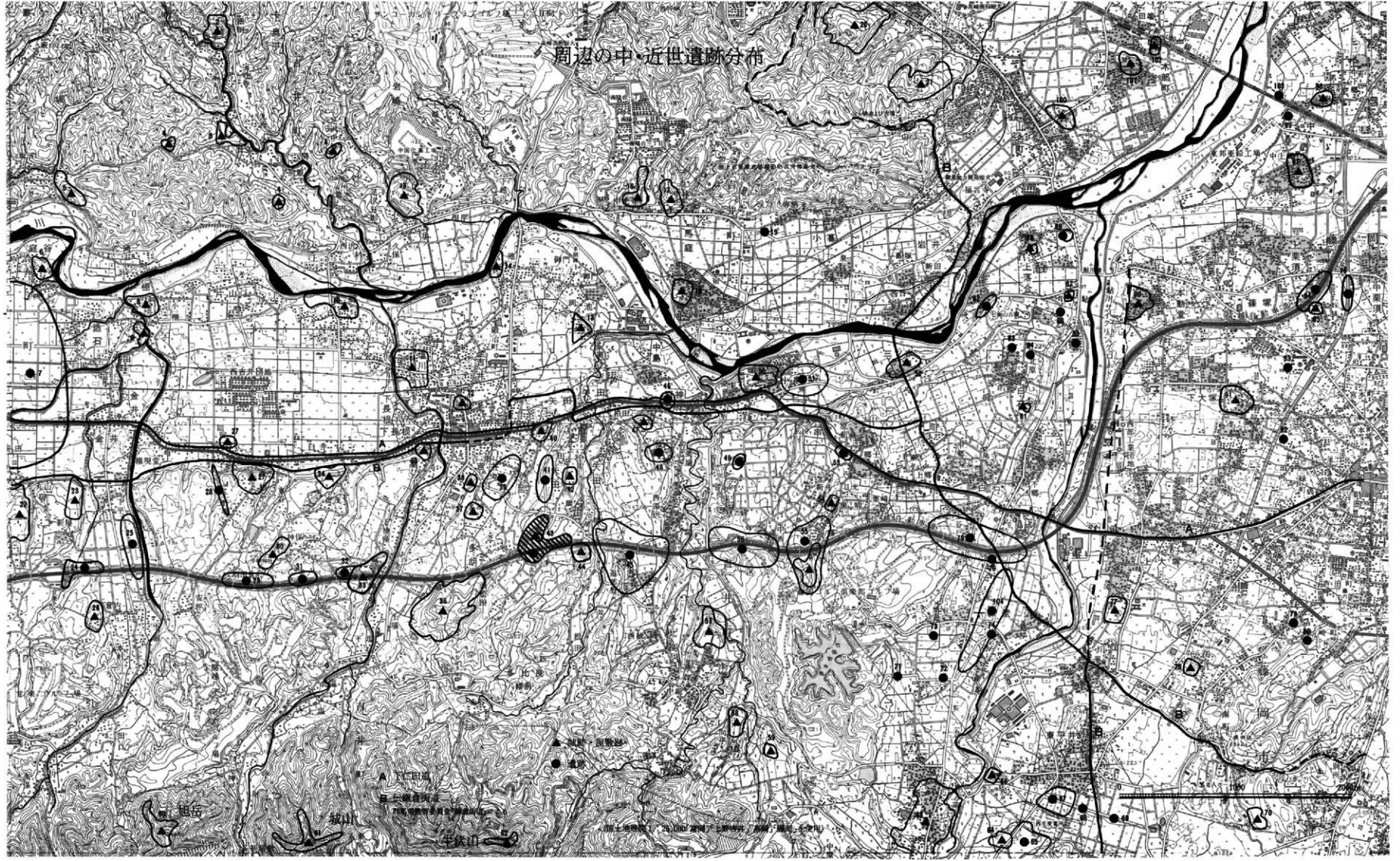
東側地区　　丘陵直下の急傾斜地　矢田川に入る２本の開析谷源流部

南西側地区　　丘陵裾の緩傾斜地　多胡川谷に面する

【検出遺構総数】

以上の各地区で検出した遺構は、次のように分かれる。

	北西側	東側	南西側
近世・近代	溝　14 土坑　8 畠　5 道路　8 墓坑　1	溝　20 土坑　29 畠　6 道路　2 建物　1 石積土坑 1	溝　15 土坑　16 畠　7 道路　1 柱穴列　1 掘立　1
中世	井戸　3 掘立　7 墓坑　2 溝　1 道路　1 小鍛冶　1 柱穴列　5 方形竪穴 1 館跡堀　1	井戸　1	井戸　3 掘立　4 墓坑　1 採掘坑　2 土坑　2
古代	溝　5 土器集積 1 土坑　17 掘立　1 小鍛冶　1	溝　1 土器集積 2 土坑　8	溝　1 土器集積 1 土坑　27 掘立　8 井戸　3 柱穴列　2
古墳	溝　1	土坑　1	柱穴列　3 旧河川　2
縄文（晩期）		土坑　1	
不明	土坑　3 溝　1 井戸　1 掘立　2 建物　1 風倒木　1 不明遺構 1	土坑　1 溝　5 集石　1 採掘坑　1	土坑　17 溝　4 井戸　1


周辺の中・近世遺跡分布
城山
牛伏山
旭岳

2　遺物概要と大型遺構

ア　北西側地区

この地区は、大字矢田の字天王原の6割以上をしめる。ただし、インターチェンジのゲート用地であるため不規則な形状となり、調査範囲中には3箇所の非調査地が島状に残る。

前述のように、検出遺構は多彩な様相を示し、出土遺物から初期的に判断した時代区分は、古墳～近代と幅広い。単純な数では古代の土坑が最大である。同時に時期不明のものの、種類・数量もかなり多い。

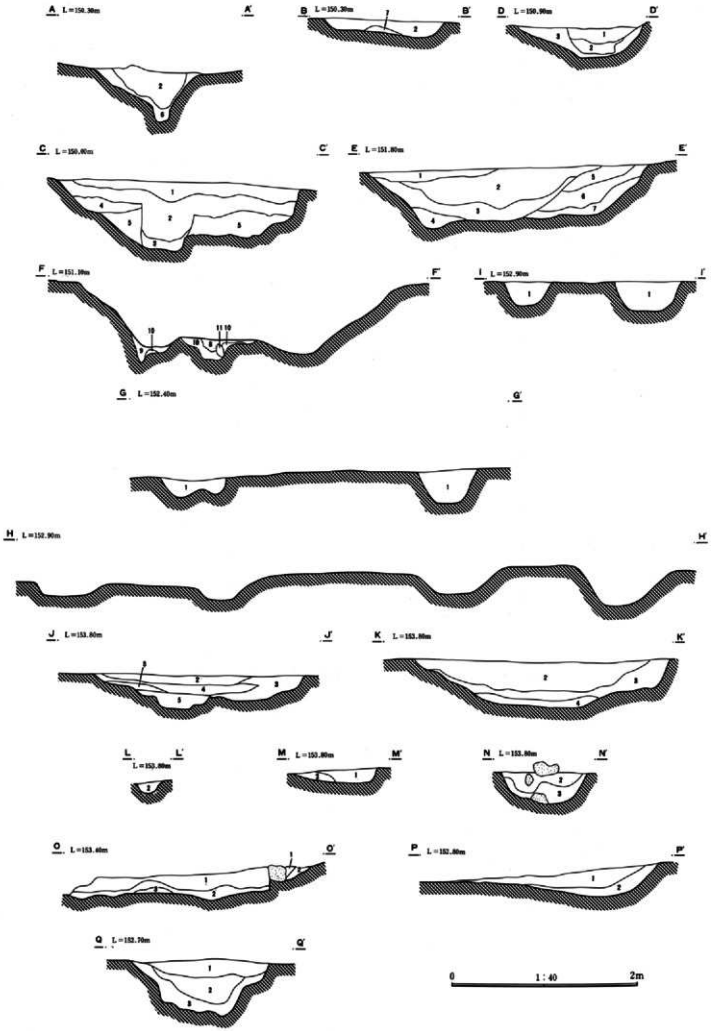
ここで報告する北西側地区出土全遺物の種類・時代は、次の通りである。

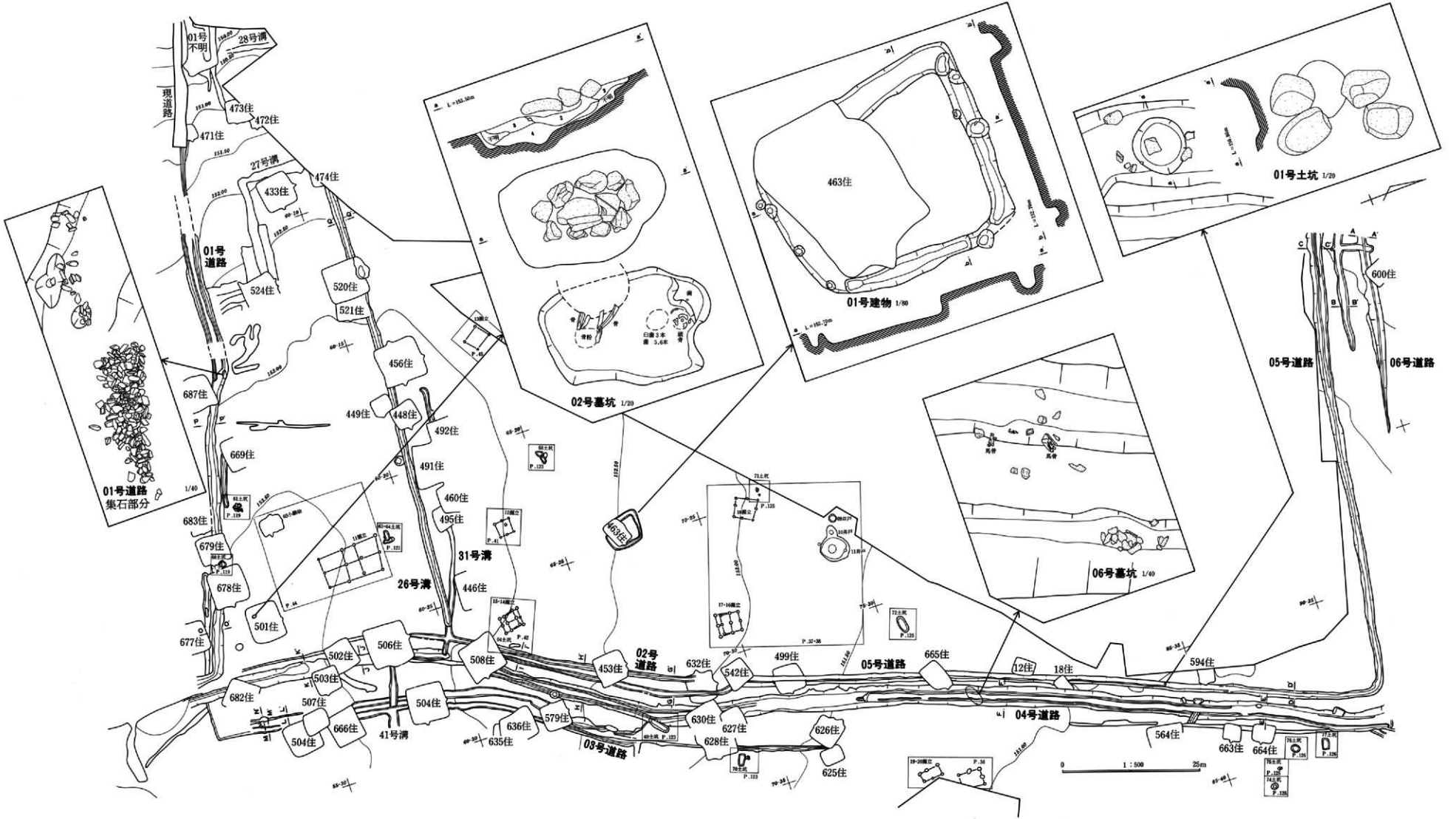
	土器類		石製品類		金属製品		その他	
近代	国産磁器	1						
近世	国産磁器	3	砥石	1	鉛製品	1	牛骨	1
	国産陶器	4			銅製品	1		
	土師質土器	1			鉄製品	5		
中世	舶載陶磁	4	臼	3	鉄製品	4		
	国産陶器	4	砥石	1	銭貨	12		
	瓦質土器	7						
	土師質土器	10						
古代	国産陶器	5	紡錘車	4				
	須恵器	135	砥石	2				
	土師器	19						
	土錘・鞴	7						
	瓦	14						
古墳	須恵器	7	玉類	4				
	土師器	8	その他	1				
不明					鉄製品	3	人骨	1
					鉄滓	5	馬骨	3

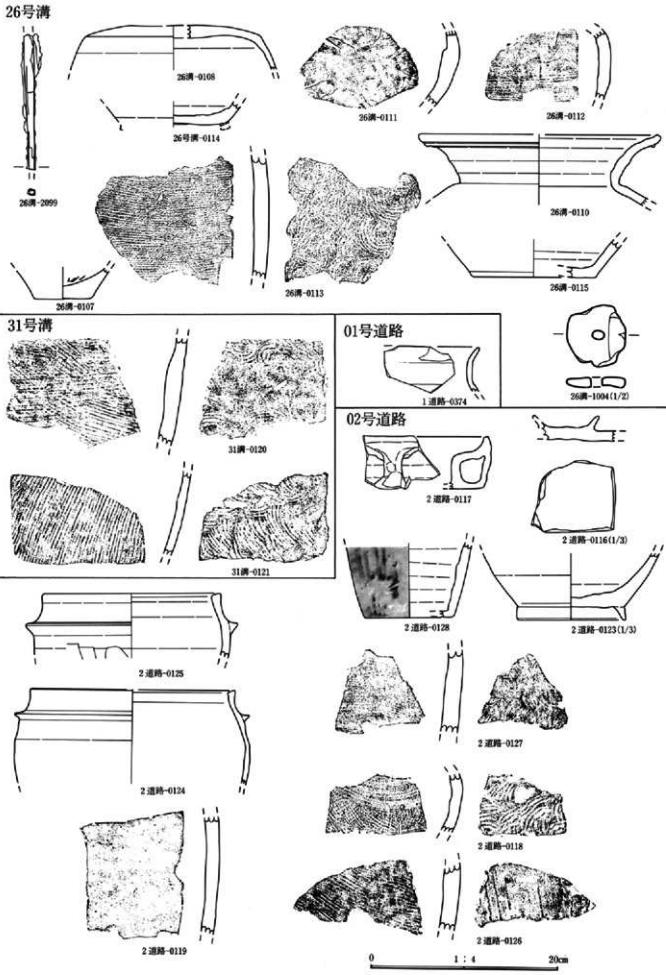
以上のように、報告遺物の中で最も多いのは古代の須恵器だが、その内訳は次の通りである。

食器	碗	20（転用硯1）
	小型碗	3
	坏	20
	蓋	3（転用硯1）
	皿	4
	盤	2
調度具	硯	2
貯蔵具	瓶	5
	長頸瓶	2
	甕	64
調理具	羽釜	10

既述のように本報告は古代の竪穴住居を対象にしていないが、以上の非竪穴住居出土の古代須恵器は一般に古代竪穴住居から出土するものに構成が似ている。


A L=150.30m A'
B L=150.30m B'
D L=150.90m D'
C L=150.80m C'
E L=151.80m E'
F L=151.10m F'
I L=152.90m I'
G L=152.40m G'
H L=152.90m H'
J L=153.80m J'
K L=153.80m K'
L L'
L=152.80m
M L=153.80m M'
N L=153.80m N'
O L=153.40m O'
P L=152.80m P'
Q L=152.70m Q'
0 1:40 2m


01号道路
集石部分
1/40
02号墓坑 1/20
01号建物 1/80
01号土坑 1/20
06号墓坑 1/40
01号道路
02号道路
03号道路
04号道路
05号道路
06号道路
26号溝
27号溝
28号溝
31号溝
41号溝
現道路
01号不明
473住
472住
471住
474住
433住
524住
520住
521住
456住
449住
448住
492住
491住
460住
495住
687住
669住
683住
679住
678住
677住
501住
446住
508住
506住
502住
503住
507住
504住
682住
666住
504住
636住
635住
579住
453住
632住
542住
499住
665住
12住
18住
594住
630住
627住
628住
626住
625住
564住
663住
664住
600住
463住
0 1:500 25m


26号溝
26溝-0108
26溝-0111
26溝-0112
26号溝-0114
26溝-2099
26溝-0110
26溝-0113
26溝-0115
26溝-0107
31号溝
31溝-0120
31溝-0121
01号道路
1道路-0374
26溝-1004(1/2)
02号道路
2道路-0117
2道路-0116(1/3)
2道路-0128
2道路-0123(1/3)
2道路-0125
2道路-0127
2道路-0124
2道路-0118
2道路-0119
2道路-0126
0
1：4
20cm

02号道路

2道路-0122(1/3)

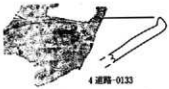
2道路-1005(1/3)

03号道路

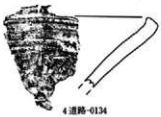
3道路-0640(1/3)

04号道路

4道路-1006(1/3)



4道路-0133



4道路-0134

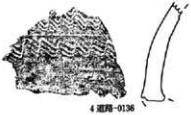
4道路-2050(1/1)

4道路-2059(1/1)

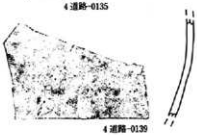
4道路-0135

4道路-0666(1/3)

4道路-0132(1/3)



4道路-0136

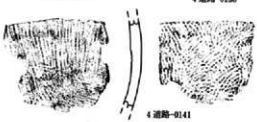


4道路-0139

4道路-0137

4道路-0138

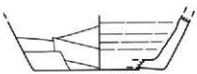
4道路-0140



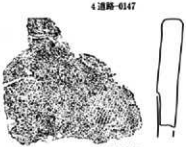
4道路-0141

4道路-0145

4道路-0147



4道路-0175



4道路-0142

4道路-0143

0　1：4　20cm

04号道路

4道路-0144

4道路-0174(1/3)

4道路-0131(1/3)

5道路-2109(1/2)

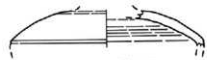
05号道路

5道路-0675(1/3)

5道路-0676(1/3)

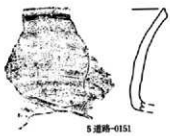
5道路-0677(1/3)

5道路-0148(1/3)

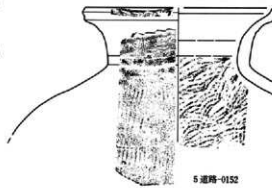


5道路-0170

5道路-0150

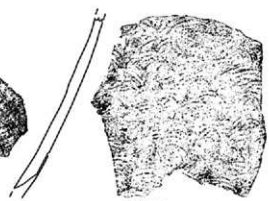


5道路-0151



5道路-0152

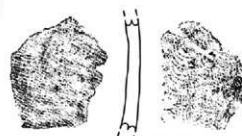
5道路-0153



5道路-0154

5道路-0156

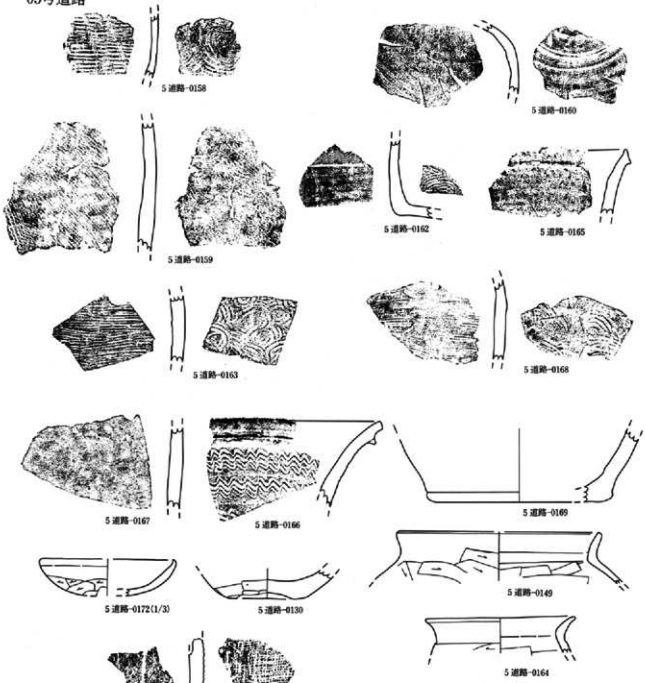
5道路-0155



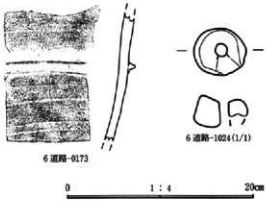
5道路-0157

1：4　20cm

05号道路


5道路-0158
5道路-0160
5道路-0159
5道路-0162
5道路-0165
5道路-0163
5道路-0168
5道路-0167
5道路-0166
5道路-0169
5道路-0172(1/3)
5道路-0130
5道路-0149
5道路-0164
5道路-0171
5道路-0161

06号道路


6道路-0173
6道路-1024(1/1)
0
1：4
20cm

01～06号道路、26・31号溝、01号建物、02・06号墓坑、01号土坑【図P.26～32 PL.16～25】

本地区北西側際で検出した遺構群。

01号道路【埋土】断面OP 1黒褐色土白色軽石多含 2暗褐色土1 ＋ローム 3地山【重複】東端で02号道路と合流。関係不明。【形態】東西方向に走り（道幅約1m）途切れながら両側溝を持つ。中央部の路面に集石が見られたが、性格不明。東端の合流点で南東方向に曲がる。【遺物】土師器甕(*0374*)が見られた。【備考】調査前現道と重なるため、近世後期～近代の遺構と考えられる。

02号道路【埋土】断面G～K 1黒褐色土盛ローム白色軽石含 2暗褐色土白色軽石多含混（細粒 3黒褐色土ローム塊多含混（細まる 4暗青灰褐色分細混混（細まる 5暗黄褐ローム地山混（細まる【重複】01、05号道路・31号溝と重複するが関係不明。【形態】両側溝をもってややカーブしながら南北方向に走る（道幅0.5～1.8m）。南側では溝状掘り込みの路面構築層が見られる。【遺物】土師質焙烙片(*0117*)が見られた。【備考】路面構築層は天明の浅間山軽石降下復旧の措置と思われる。近世後期。

03号道路【埋土】断面LMN 1黒色土ローム非含 2黒褐色土ローム塊含 3暗褐色土ローム粒含【重複】41号溝と重なる。【形態】両側溝をもってややカーブしながら南北方向に走る（道幅0.7～1.4m）。北側は西側溝不明瞭。【遺物】1650年代の肥前染付皿片(*0640*)が出土。【備考】調査前現道と重なるため、近世前期～近代の道構と考えられる。

04号道路【埋土】断面EF 1暗褐色土細石含混（細 2黒褐細石ローム塊少量細 3黒褐色土ローム塊多含細 4 暗黄褐色土ローム塊細石混 5暗褐色土ローム塊細石混 6黒褐ローム塊多量 7暗黄褐色土ローム塊多細細 8灰色砂混（細細 9黒色土 10地山 11焼土【重複】南側で02号道路と重なる。中央部で06号墓坑に切られる。【形態】掘状で部分的に底に両側溝を持つ路面がある（上幅3.5m底幅1.9m道幅0.9m）。南北方向にほぼ直線状に走る。【遺物】推定近世の砥沢石砥石(*1006*)もあるが、竜泉窯青磁碗片(*0666*)・瓦質土器コネ鉢片(*0133,34*)・北宋銭(*2050,59*)など中世遺物がやや多い。【備考】調査前現道と平行。中世に築かれ、近世後期には完全に埋没し上面が路面になった可能性がある。

05号道路【埋土】断面D 1暗褐色土細石多量含や中細 2黒褐ローム塊混や中細 3暗褐色土ローム塊混や中細【重複】南側で02号道路、北側で06号道路と重なる。北側底に01号土坑がある。【形態】直線状に南北走向の西側溝（上幅1.2～1.8m底幅0.4～0.9m）のみ。北端で直角に西折し06号道路となる。【遺物】推定近世の鉄釘片(*2109*)と中世の土師質土器小皿(*0675～77*)が出土。【備考】調査前現道と平行。04号道路の埋没途中で西側側溝として掘られたと推定。

06号道路【埋土】断面ABC 1暗褐色土細細 2暗褐色土ローム塊混 3黒褐色土ローム塊多 4暗黄褐色土ローム塊多含や中細 7地山【重複】東端で05号道路と合流。【形態】東西方向に走る3本の側溝が並び（道幅2.0～2.5m）、東端のものは05号道路西側溝と合流。【遺物】古代以前の遺物のみ出土。【備考】調査前現道と平行。2回の路面変更。近世か。

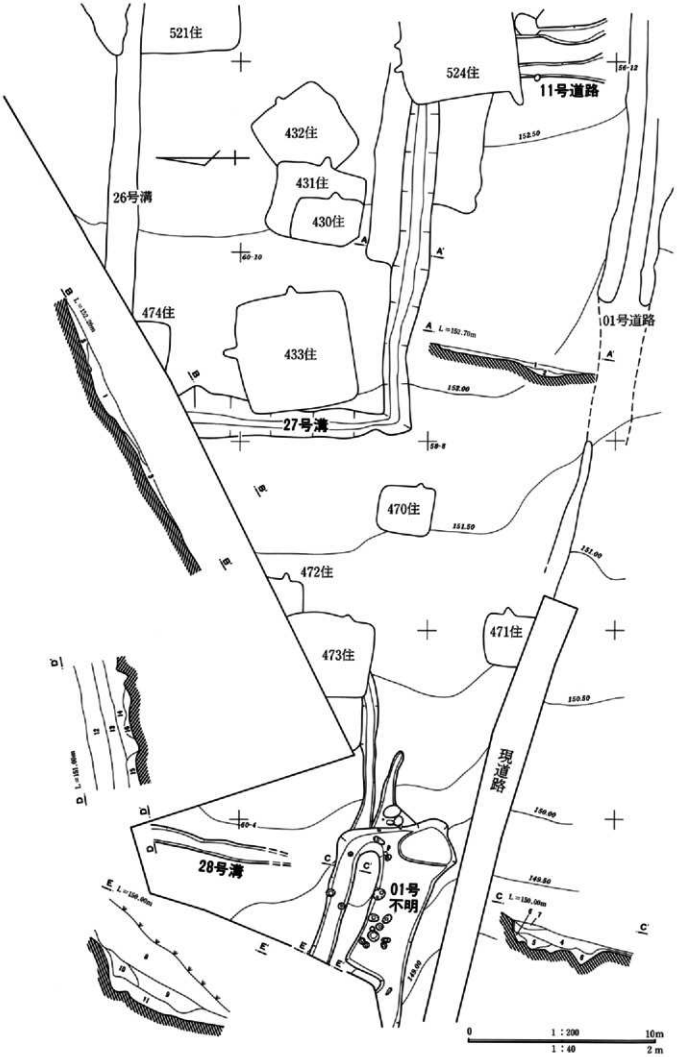
26号溝【埋土】断面Q 1黒褐色土ローム小塊多含 2黒色土 3黒褐色土ローム塊含【重複】31号溝と重複。【形態】断面箱形（上幅1.2m底幅0.6m）で東西方向に直線状に走る。【遺物】中世推定遺物は鉄鏃？(*2099*)のみで、大部分が古墳時代土器。【備考】他の遺構と走向が異なり、古墳時代の遺構と考えられる。

31号溝【埋土】不明。【重複】26号溝・02号道路と重なる。【形態】緩くカーブしながら東西方向に走る。【遺物】古代の須恵器出土。【備考】現地境とも完全に一致せず、古代の何らかの境界と推定。

01号建物【埋土】不明。【重複】竪穴463号住と重なる。【形態】台形状（長辺6.6m短辺6.0m）平面形で周囲に溝（上幅0.5～1.0m）が巡り、溝中に不均一にピットがある。【遺物】なし。【備考】性格・時代を特定しがたいが、形態から何らかの平地建物跡とするのが妥当。

02号墓坑【埋土】1黒褐色土 2暗褐色土ローム塊含 3黒褐色土ローム粒含 4同細ローム粒少【重複】竪穴501号住と重なる。【形態】楕円形皿状（1.1×0.8×0.2m）で、埋土上面に12個の自然礫を並べる。【遺物】礫下で屈葬状態の人骨片(*3008*)を検出。【備考】一次埋葬であり、掘り込みは本来さらに深かっただろう。遺物はないが、中世の土坑墓に似ている。

（P.35に続く）


521住
524住
11号道路
432住
431住
430住
26号溝
474住
433住
27号溝
01号道路
470住
472住
471住
473住
現道路
28号溝
01号不明
0
1：200
10m
1：40
2m

(P.33より)

06号墓坑【埋土】不明。【重複】04号道路より新しい。【形態】掘り込み形態不明。【遺物】馬上下顎骨(*3001,02*)を検出。【備考】残存状況は悪いが、掘り込みを持った一次埋葬だろう。近世か。

01号土坑【埋土】不明。【重複】05号道路西側溝底で検出。【形態】平面円形（0.45×0.4m）で上面周囲に自然礫が並ぶ。【遺物】なし。【備考】墓坑として調査時に判断されたが、証拠はない。近世か。

27・28号溝、11号道路、01号不明遺構【図P.34 PL.26,27】

本地区西端で検出した遺構群。

27号溝【埋土】1暗黄黒褐色土細強粘石少 2黄褐色土細含ローム塊少 3同細細ローム主体【重複】竪穴433・524号住と重複。【形態】鍵の手状に直線状屈曲走向（東西走向部 長20m）で、掘り込みは極めて浅い。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

28号溝【埋土】12、13 耕作土 14 黒褐色土A粗石少炭化粒少 15 黒褐色土ローム塊少 16暗褐色土ローム塊多【重複】不明。【形態】断面浅い皿状で南北方向に直線状に走る。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

11号道路【埋土】不明。【重複】南側で01号道路と合流。【形態】両側溝をもって南北方向に走る（道幅1.0～1.5m）。【遺物】なし。【備考】調査前現道と重なる。近代の道路だろう。

01号不明遺構【埋土】1 黒褐色土細砂ローム粒少 5暗褐色土ローム塊主体 6 褐色ローム土 7 灰白色焼成A粗石 8 耕作土 9 黒褐色土A粗石少炭化粒少 10 灰白色焼成A粗石 11 黒褐色土ローム粒多【形態】台形状平面形（南北5m東西10m以上）の浅い掘り込み（深さ0.2m）だが、内部には鍵の手状に掘り残し部分（幅1.0m）がある。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは一致しない。調査時には近世建物を想定した方形区画溝として捉えたが、本遺構は明確な根拠がない。

19・20号掘立、02・03号土坑、01号風倒木【図P.36 PL.27】

本地区北側部分で検出した遺構群。

19号掘立【埋土】不明。【重複】なし。【形態】2×2間（3.0×3.9m）の南北棟。南東端は範囲外で不明。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通（径0.4～0.6m）。【遺物】なし。【備考】時期不明。

20号掘立【埋土】不明。【重複】なし。【形態】1×2間（1.9×3.7m）の南北棟。柱穴掘り方は19号掘立に比べやや小さい（径0.4m）。【遺物】なし。【備考】19号とは接近（約2.5m）しており、同一の時期だろう。

02号土坑【埋土】11 黄褐色土細砂二次堆積ローム 14暗褐色土粗石少 15 同細粗石多 16 褐色土茶褐色土塊含有微物細 17 暗褐色土細強粗石多 18 茶褐色土有機物風【重複】なし。【形態】楕円形状擂り鉢形（1.8×1.2×0.6m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。19号掘立との間に礫が数個組まれた小ピットがある。

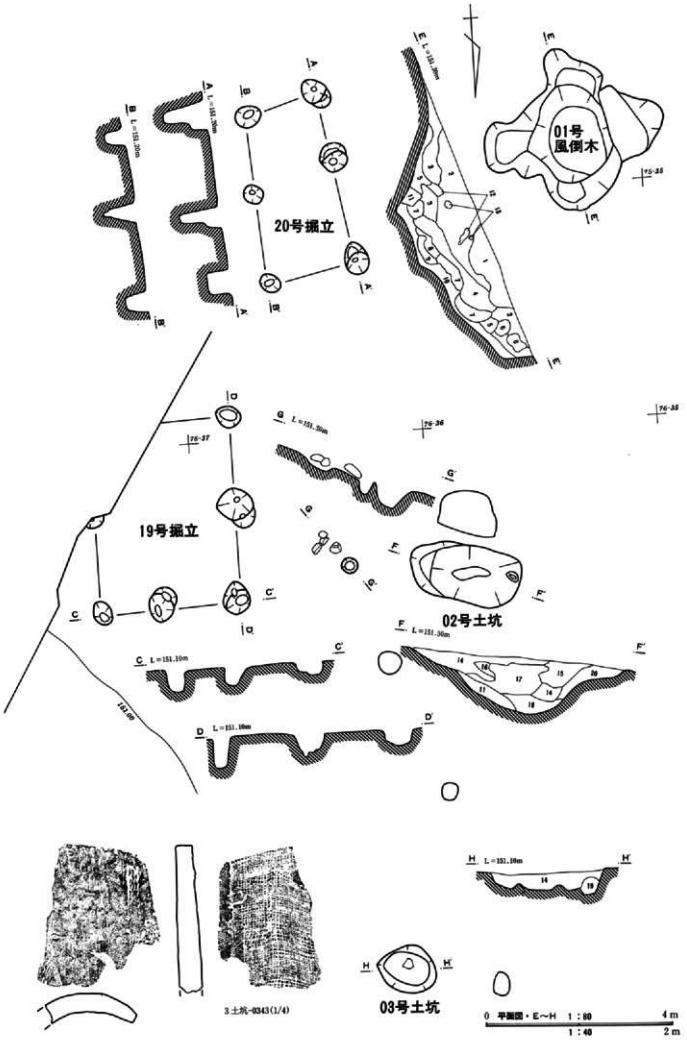
03号土坑【埋土】14暗褐色土粗石少 19黄褐色土ローム主体【重複】なし。【形態】楕円形で浅い皿状（1.2×1.0×0.2m）。【遺物】丸瓦片(*0343*)出土。【備考】性格不明だが、遺物より古代とする。

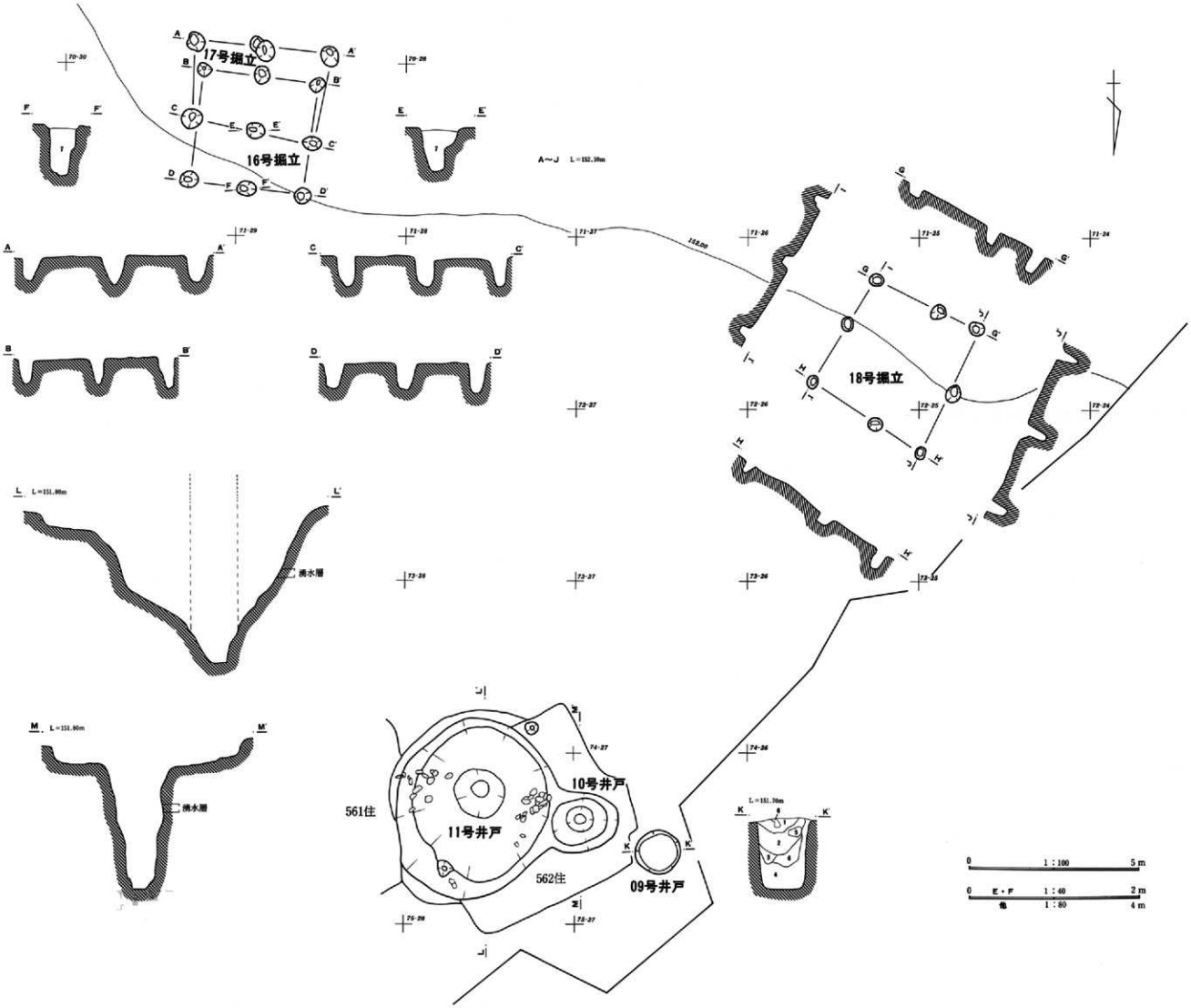
01号風倒木【埋土】1暗褐色土粗石ローム粒少 2暗茶褐色土粗石少 3暗褐色土粗石多 4同細細粗石少 5暗黄褐色土ローム主体 6 褐色土TP粗石多 7 陽土 8 陽土 9 陽土 10 陽土 11 黄褐色土細砂二次堆積ローム 12 茶褐色土細砂 13暗褐色土細砂【重複】なし。【遺物】なし。【備考】時代不明。

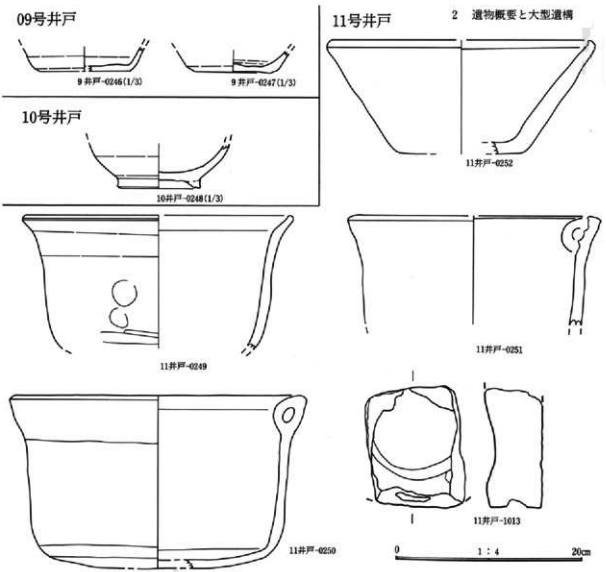
16～18号掘立、09～11号井戸【図P.37～39 PL.28】

本地区北西側部分で検出した遺構群。

16・17号掘立【埋土】1暗褐色土ローム塊含や中礫【重複】両者の関係不明。【形態】16号：1×2間（3.2×3.3m）の東西


20号掘立
01号
風倒木
19号掘立
02号土坑
03号土坑
3土坑-0343(1/4)
平面図・E～H 1：80
1：40
4m
2m


17号掘立
16号掘立
18号掘立
A～J L=152.10m
L L=151.90m
M L=151.90m
携水層
561住
562住
11号井戸
10号井戸
09号井戸
L=151.70m
1:100 5m
E・F 1:40 2m
他 1:80 4m



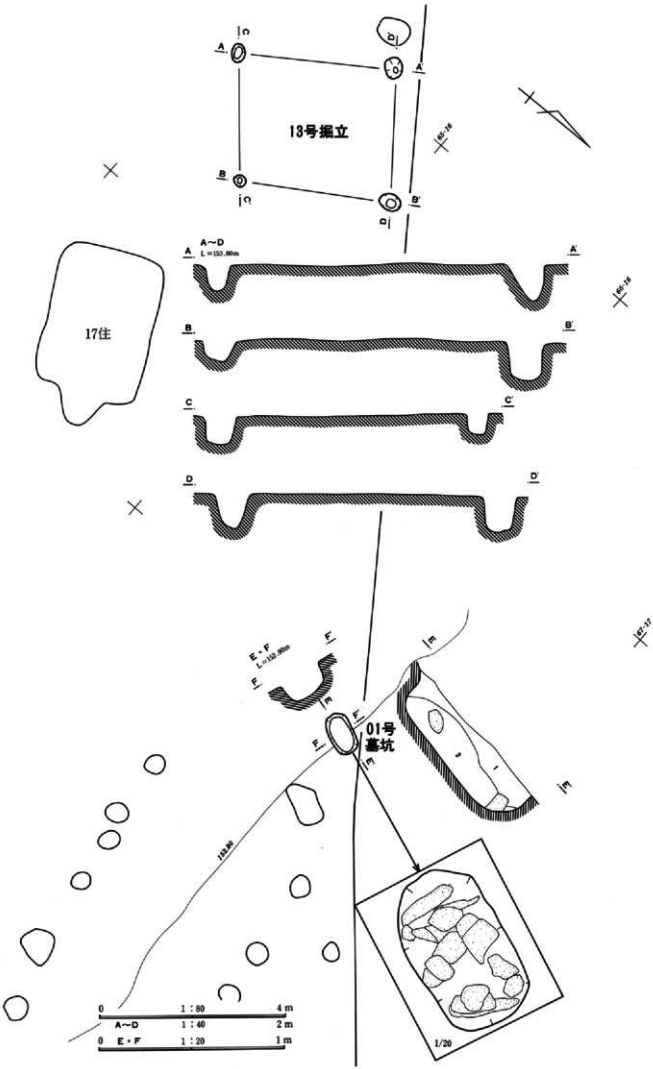
棟。17号：１×２間（2.6×3.9m）の東西棟。共に柱痕に比べ柱穴掘り方はやや小さい（径0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】中世の建物と推定。

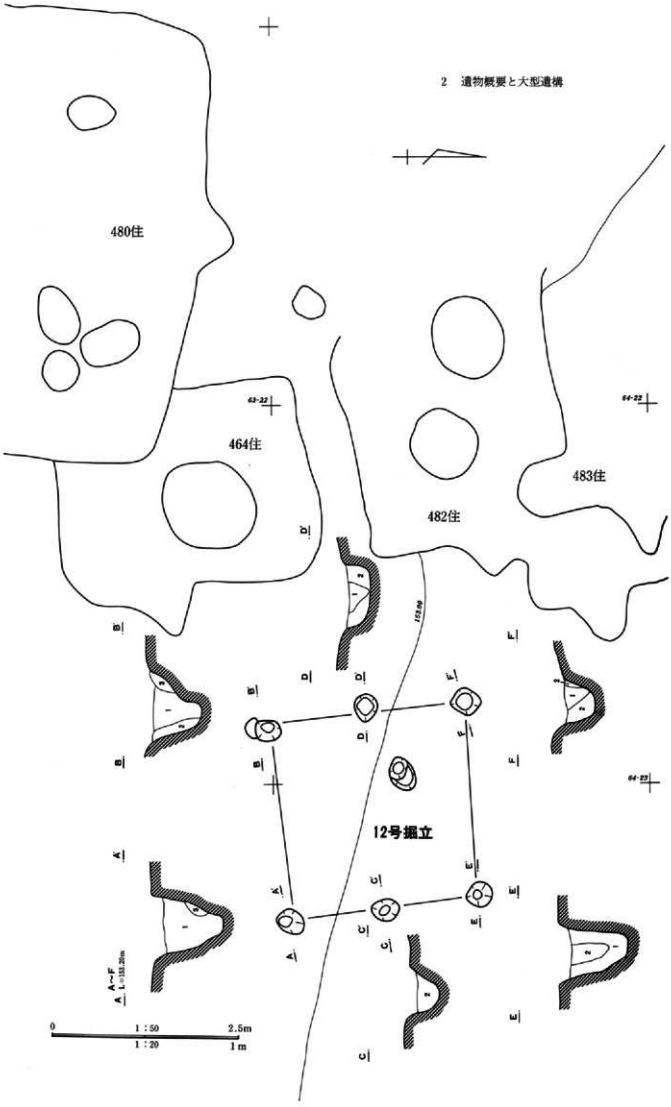
18号掘立【埋土】不明。【重複】なし。【形態】２×２間（3.7×4.0m）の南北棟。柱穴掘り方は小さい（径約0.3m）。【遺物】なし。【備考】柱穴の状態や柱間は他の掘立と異なる。中世か。

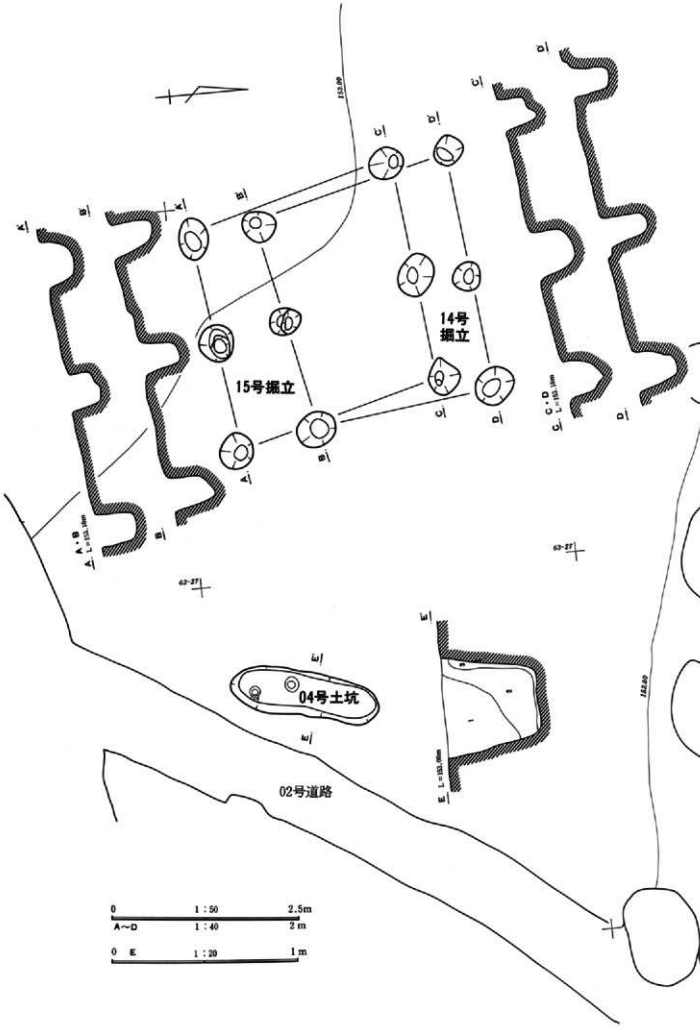
09号井戸【埋土】1 暗褐色土粒土ローム塊砂岩細粒混　2 同細褐褐色土主粘土多含　3 同上　4 暗褐色土粘土ローム塊砂岩細粒含　5 砂岩　6 粘土【重複】10号井戸との関係不明。【形態】円筒形（径1.3深さ1.6m）。顕著な崩壊痕なし。【遺物】古代須恵器出土。【備考】井戸としては短期間の使用か。

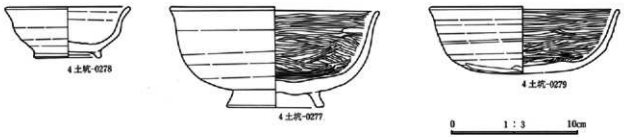
10号井戸【埋土】1 黒色砂質土（～2.1m）　2 黒褐色土ローム粒含（～3.0m）　3 黒灰色粘土（～3.5m）【重複】11号井戸より新しい。【形態】地山井筒円筒形（径1.6m）。湧水層は赤褐色粘性土（－1.5～1.7m）。井戸枠があった可能性あり。【遺物】1層中より須恵器碗（*0248*）を含む古代土器片５片出土。【備考】11号井戸とは時期的に近く、遺物にかかわらず中世と考えられる。

11号井戸【埋土】中央と周囲が異なる。中央: 1 褐色土　2 灰色粘土　3 ローム塊　4 黒褐色土　5 砂質火山灰土（10号井戸掘削土で確認）　周囲: 黒褐色火山灰土版築状で固い【重複】10号井戸より古い。【形態】地山井筒朝顔形（掘り方上径3.7m中央径1.2m深さ3.7m）。井戸枠があった可能性あり。掘り方外側に１対のピットがある。【遺物】下層（－3.3～3.5m）より土師質鍋（*0249～51*）・瓦質土器コネ鉢（*0252*）・牛伏砂岩砥石（*1013*）など出土。【備考】中世の井戸。屋根または釣瓶支柱を持つ。


13号掘立
17住
A～D
L＝153.8km
E・F
L＝152.8km
01号
墓坑
1/20
0 1：80 4m
A～D 1：40 2m
0 E・F 1：20 1m


480住
464住
482住
483住
12号掘立
A A'～F F'
L=133.20m
0
1 : 50
2.5m
1 : 20
1 m


15号掘立
14号
掘立
04号土坑
02号道路
A・B
C・D
E
153.00
153.60
0
1:50
2.5m
A～D
1:40
2m
0
E
1:20
1m



13号掘立、01号墓坑【図P.40 PL.29】

本地区西側部分で検出した遺構群。

13号掘立【埋土】不明。【重複】なし。【形態】1×1間（2.8×3.4m）で正方位とは45度程度ずれた軸方向。柱穴掘り方は小さい（径約0.2～0.4m）。【遺物】なし。【備考】軸方向が異常であり、柱穴形状も不均一であり、掘立建物ではない可能性も残る。古代か。

01号墓坑【埋土】1 暗黄褐色土ローム粒少やや硬　2 暗黄褐色土ローム塊混硬質【重複】なし。【形態】楕円形皿状（1.8×0.8×0.3m）で、下層に自然石14個が並べられる。【遺物】なし。【備考】形状や石の使い方は02号墓坑に似る。中世か。

12号掘立【図P.41 PL.29】

本地区中央部分で検出した遺構群。

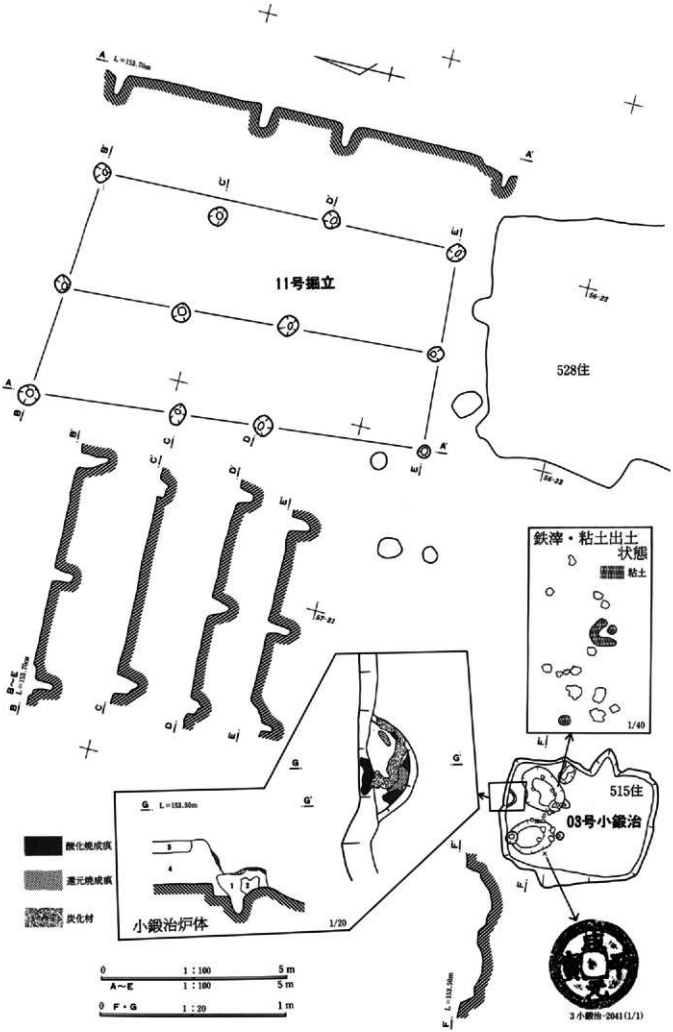
12号掘立【埋土】1 暗褐色土ローム粒少硬質　2 暗黄褐色土ローム粒多含硬有　3 地山【重複】なし。【形態】1×2間（2.5×2.6m）の南北棟。柱穴掘り方は小さい（径約0.3～0.4m）。【遺物】なし。【備考】中世か。内部に形態の異なる柱穴（深さ0.5m）があるが、この掘立のものではないだろう。

14・15号掘立、04号土坑【図P.42 PL.29,30】

本地区中央部分で検出した遺構群。

14・15号掘立【埋土】不明。【重複】両者の関係不明。【形態】14号：1×2間（2.6×3.1m）の東西棟。平面やや不整形。柱穴掘り方は小さい（径約0.2～0.4m）。15号：1×2間（2.8×2.9m）の東西棟。柱穴掘り方は普通（径約0.4m）。【遺物】なし。【備考】中世か。

04号土坑【埋土】1 暗褐色土ローム塊含上面軽石混有　2 暗黄褐色土ローム粒多含硬有　3 地山【重複】なし。【形態】楕円形平面で底平坦（2.0×0.6×0.5m）。【遺物】南側で須恵器小型椀（*0278*）・黒色土器椀・坏（*0277,79*）出土。【備考】調査時には墓坑と考えたが、大きさ以外に明確な根拠はないため土坑とする。古代。


11号掘立
528住
515住
03号小鍛冶
鉄滓・粘土出土状態
粘土
1/40
小鍛治炉体
1/20
酸化焼成痕
還元焼成痕
炭化材
0 1：100 5 m
A～E 1：100 5 m
0 F・G 1：20 1 m
3小鍛治-2041(1/1)

11号掘立、03号小鍛冶【図P.44　PL.30,31】

本地区中央部分で検出した遺構群。

11号掘立【埋土】不明。【重複】直接はなし。【形態】2×4間（6.2×10.6m）の総柱南北棟。平面やや不整形。柱穴掘り方は普通（径約0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】柱穴の位置はかなり不揃いであり、調査時に想定したこのような柱間については、やや疑問もある。中世か。

03号小鍛冶【埋土】　1黒褐色土ローム焼土粒少含　2暗褐色土ローム塊多含　3黒褐色土ローム粒含　4地山【重複】古代竪穴515号住より新。【形態】515号住北壁に半円形の炉台（0.4×0.2m高さ0.15m）を築き、その南側の住居内には2基の楕円形掘り込み（1.1×0.8×0.2m）を設け、周辺には鉄滓が広く散布。【遺物】西側掘り込み外側で咸平元宝*(2041)*出土。【備考】調査時には515号住の廃絶後に「空間転用」された遺構とされている（『矢田遺跡Ⅲ』1992）。しかし、竪穴形態に通常のものと大きな相違は見られない。そのため10世紀前半とされる竪穴本体との関係については注意を要する。ただし、上記北宋銭（999年初鋳）より、少なくともこの小鍛冶が11世紀以降の所産であることは間違いない。

41・46～50・52・53・59号溝、05～07・127号土坑【図P.46～48　PL.33～35】

本地区東側部分で検出した遺構群。

41号溝【埋土】不明。【重複】西側で近代の03号道路とほぼ直交する。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（長30m）、断面皿状で浅い（上幅約2m深さ0.2m）。底にはやや深い（0.4～5m）ピットが並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。形状より近世の木柵跡と考えられる。

46号溝【埋土】5黒色土ローム粒少含　6暗褐色土ローム塊多含　7褐色土ローム塊主【重複】竪穴505号住と重複。【形態】鍵の手状に直線状屈曲走向（南北走向部　長22m）で、断面皿状（上幅1.8m深さ0.5m）。【遺物】古代須恵器甕*(0178)*・丸瓦*(0179)*出土。【備考】調査前現地境と重なる。やや深いが近代の地境だろう。

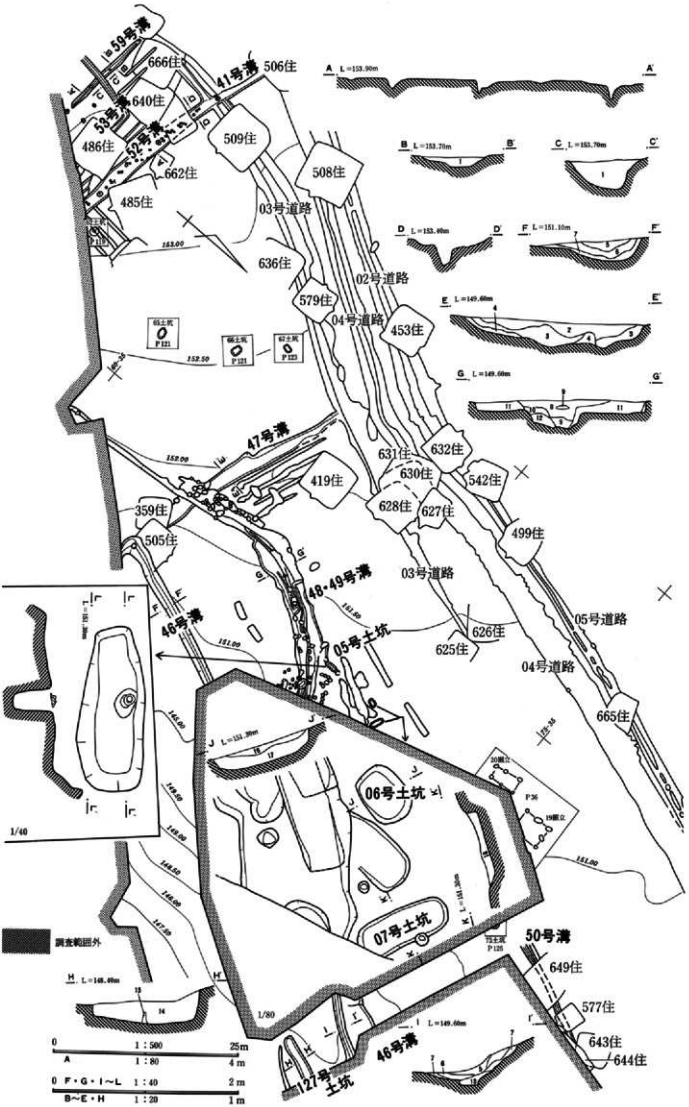
47号溝【埋土】2黒褐色土白色粘石含　3黒褐色土ローム粒含　4褐色土ローム主体【重複】03号道路、48・49号溝、竪穴359号住と重なる。【形態】東西方向に直線状に走り（長28m）、断面皿状（上幅最大1.7m深さ0.2m）。【遺物】古代須恵器甕*(0180,81)*出土。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

48・49号溝【埋土】8　灰褐色砂質土　9灰褐色砂土塊含含　10灰褐色砂質土ローム粒少含　11黒褐色土　12褐色土ローム主　13黄褐色土粘土塊多含【重複】47号溝と重なる。【形態】南から北に直線状（約30m）走った後に、弧状に北東方向に緩く曲がる。島状調査範囲外の先で延長部分を検出。断面V字形に近い（上幅1.2m深さ0.6m）が湾曲部分には溝本体の周囲に洗い段（上幅3m）が見られる。【遺物】古代須恵器碗・坏・盤・瓶・羽釜・甕多数と瓦片そして蛇紋岩紡錘車未製品*(1007)*・鉄滓*(2124)*出土。【備考】調査前現地境と一致せず。水流痕が明瞭である。南側の01号溝及び北側の57号溝と同一か。古代。

50号溝【埋土】不明。【重複】竪穴577・644・649号住と重なる。【形態】南北方向に走る（検出長15m上幅0.6下幅0.3m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と平行。近代の地境だろう。

52号溝【埋土】不明。【重複】竪穴486・640号住と重複。【形態】東西方向に直線状に走る（長12m上幅0.7m底幅0.2m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。近世か。

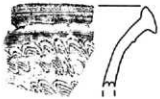
53号溝【埋土】1暗褐色土白黄色細石少【重複】竪穴486号住・59号溝と重なる。【形態】断面椀状で鍵の手に直角に曲がる（延長20m上幅0.6m深さ0.3m）。【遺物】鉄鋸片*(2110)*出土。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。近世の地境か。（P.48に続く）


59号溝
666住
41号溝
506住
53号溝
640住
52号溝
486住
509住
662住
485住
508住
03号道路
636住
02号道路
579住
04号道路
453住
47号溝
631住
632住
630住
542住
419住
628住
627住
359住
499住
505住
03号道路
48・49号溝
05号土坑
626住
05号道路
625住
46号溝
04号道路
665住
06号土坑
07号土坑
50号溝
649住
577住
643住
644住
46号溝
21号土坑
調査範囲外
1/40
1/80
0 1：500 25m
A 1：80 4m
0 F・G・I～L 1：40 2m
B～E・H 1：20 1m

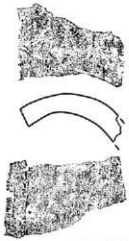
05号土坑

5土坑-0504

46号溝

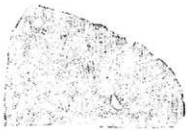


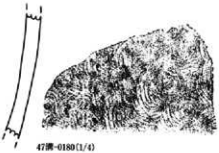
46溝-0178(1/4)



46溝-0179(1/4)

47号溝





47溝-0180(1/4)

47溝-0181(1/4)

48・49号溝

48溝-0185

48・49溝-0194

48溝-0182

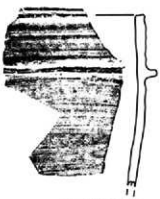
48溝-0183

48溝-0184

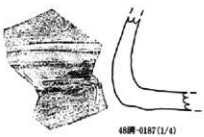
48溝-0190

48・49溝-0193

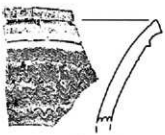
48溝-0186(1/4)



48・49溝-0197(1/4)

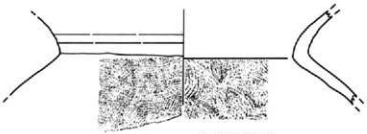


48溝-0187(1/4)



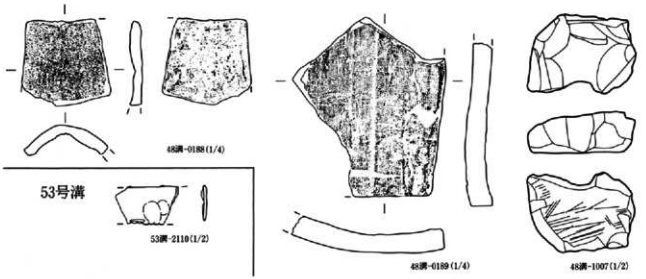
48・49溝-0196(1/4)

0　1：3　10cm



48・49溝-0195(1/6)

48号溝



(P.45より)

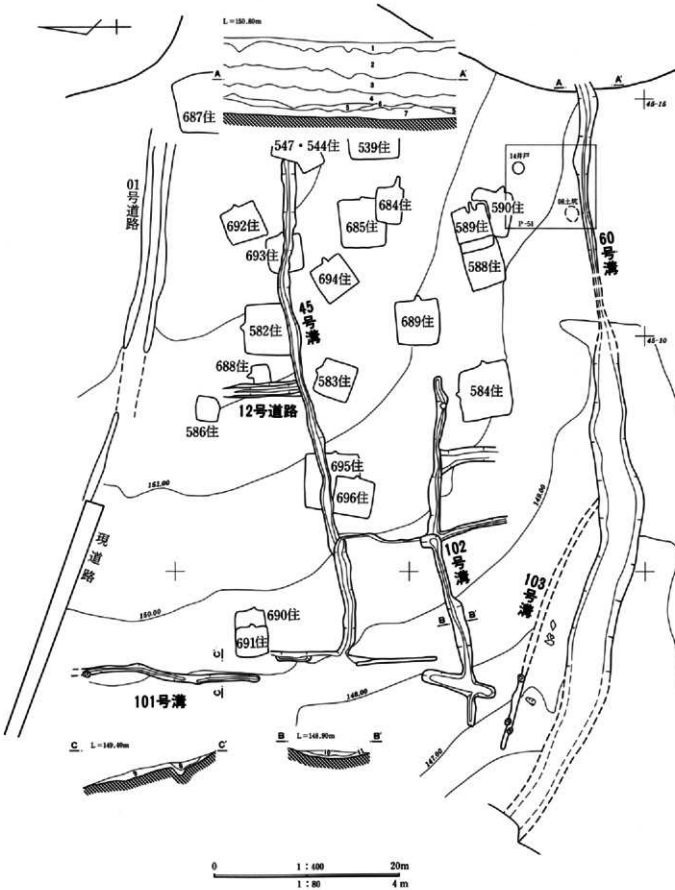
59号溝【埋土】1暗褐色土白黄色粘石少【重複】53号溝と重複。【形態】断面皿状で東西方向に直線状に走る（長13m上幅0.7m底幅0.4m深さ0.1m)。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

127号土坑【埋土】14暗黄褐色土ローム塊多混在　15暗灰白色粘土【重複】なし。【形態】短冊形（1.2×6.2以上×0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と一致せず。典型的な近世の土坑。

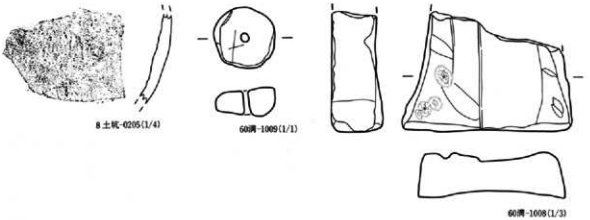
05号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】楕円形平面で底ほぼ平坦（1.7×0.7×0.3m）。中央にピット(径0.2m深さ0.4m)がある。【遺物】ピット埋土直上で須恵器小型碗(*0504*)出土。【備考】調査時には墓坑と考えたが、大きさ以外に明確な根拠はないため土坑とする。古代。

06号土坑【埋土】16暗褐色土白黄色粘石ローム塊少含　17茶褐色土地山【重複】東側に近世の未命名短冊形土坑群が近接。【形態】楕円形平面で浅い（1.2×0.9×0.3m)。【遺物】なし。【備考】性格不明。古代か。

07号土坑【埋土】18暗褐色土ローム塊少含【重複】なし。【形態】楕円形平面で底ほぼ平坦（2.0×0.8×0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査時には墓坑と考えたが、大きさ以外に明確な根拠はないため土坑とする。古代か。


L=150.80m
687住
547・544住
539住
01号道路
692住
684住
685住
693住
694住
589住
590住
588住
14井戸
P-54
60号溝
45号溝
582住
689住
688住
583住
584住
12号道路
586住
695住
696住
161.00
150.00
現道路
102号溝
103号溝
690住
691住
101号溝
148.00
147.00
C　L=149.40m　C'
B　L=148.90m　B'
0　1:400　20m
1:80　4m

08号土坑　　60号溝



12号道路、45・60・101～103号溝、14号井戸、08号土坑【図P.49～51 PL.36,37】

本地区南西端部分で検出した遺構群。

12号道路【埋土】不明。【重複】南側で45号溝と重なる。竪穴688号住を壊す。【形態】ほぼ直線状に南北方向に走り（長８ｍ）、断面皿状で浅い（上幅約1.5m深さ0.1m）。掘り返されている。【遺物】なし。【備考】調査前現道と一致。近代の道路側溝だろう。路面不明。

45号溝【埋土】不明。【重複】中央で12号道路と重なる。竪穴544,582,693,695,696号住と重なる。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（長54ｍ）、西端で北に向かう。断面緩いＶ字形で浅い（上幅最大1.4ｍ深さ0.3ｍ）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と一致。近代の地境だろう。

60号溝【埋土】1耕作土　2暗褐色土白色粒石多含炭化粒混　3黒褐色土含有物間層　4暗褐色土鉄分薄　5同褐鉄分多土器片含　6暗褐色砂黄分含　7黒褐色土固結【重複】東側で08号土坑が上にのる。103号溝との関係不明。【形態】蛇行し幅を変えながら（上幅0.5～4.5m深さ0.1～0.5m）直線状に東西方向に走る（長80m）。【遺物】牛伏砂岩砥石（*1008*）・滑石白玉（*1009*）出土。【備考】調査前現地境とは重ならないが、矢田と多胡を分ける低地に一致。08号土坑との関係で、古代と推定。

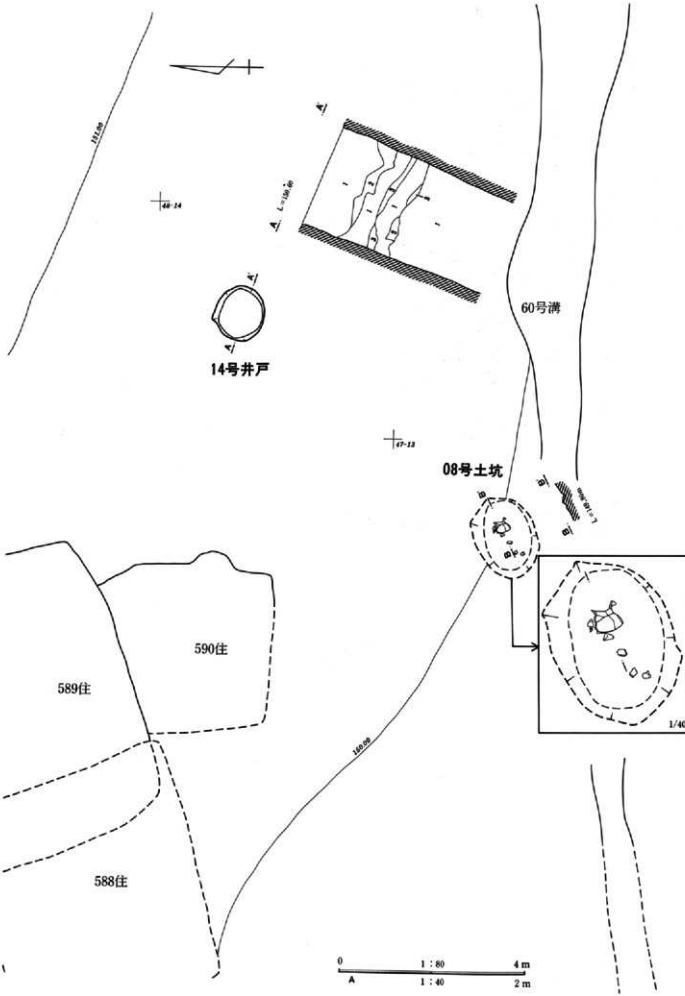
101号溝【埋土】8暗褐色土ローム塊多含細砂　9同前ローム粒少含細砂【重複】北側01号道路と直交して接する可能性。【形態】やや蛇行しながら南北方向に走り（長20m）、断面Ｖ字形に近いが西側は地形に沿って下がる（上幅約0.5m最大深さ0.2m）。北側には小ピットがある。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。近世の地境だろう。

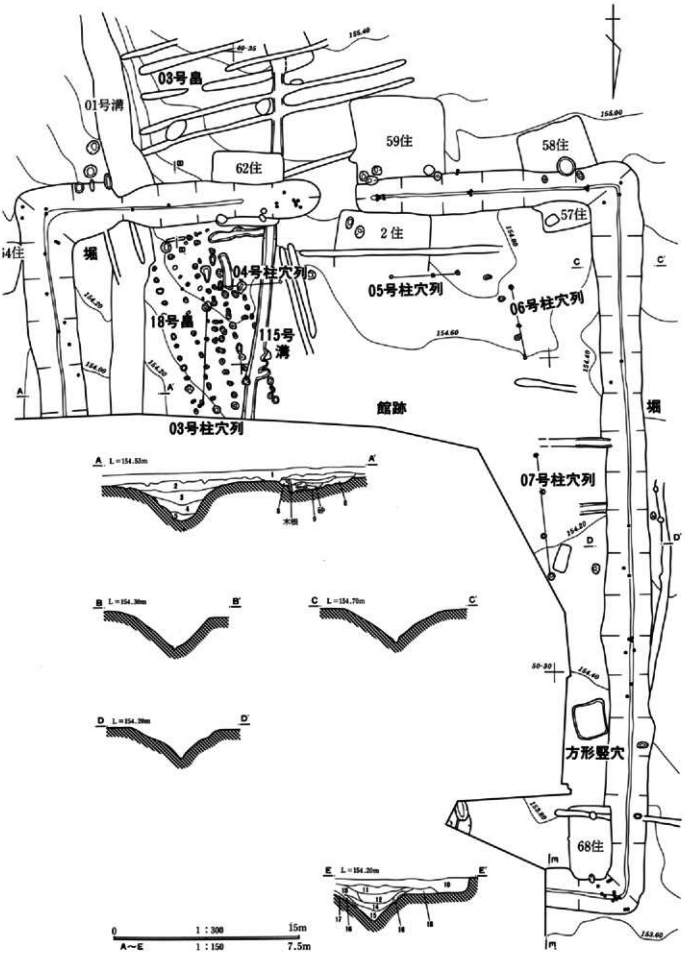
102号溝【埋土】10暗褐色土ローム粒混在細砂　11暗黒褐色土ローム主体細砂【重複】南北走向の未命名溝３本が合流。【形態】45号溝とほぼ平行して（間隔10～14m）少し蛇行しながら東西方向に走り（長37m）、断面皿状で浅い（上幅1.6m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。直交する溝も含めて近世以降の地境だろう。

103号溝【埋土】不明。【重複】東側で60号溝と重なる可能性がある。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（確認長7m推定長25m）、断面緩いＶ字形（上幅0.7m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは重ならず。時期不明。

14号井戸【埋土】1灰白色土粘土ローム塊暗褐色土混在　2暗褐色土粘土ローム塊含　3茶褐色土ローム主体【重複】なし。【形態】円筒形（径1.1m深さ2.4m以上）。【遺物】なし。【備考】時期不明。

08号土坑【埋土】不明。【重複】下に60号溝。【形態】推定楕円形平面で浅い（推定1.8×1.2m）。【遺物】古代須恵器甕（*0205*）出土。【備考】性格不明。古代。


60号溝
14号井戸
08号土坑
590住
589住
588住
1/40
0
1 : 80
4 m
A
1 : 40
2 m


03号畠
01号溝
62住
59住
58住
57住
2住
堀
04号柱穴列
05号柱穴列
06号柱穴列
18号畠
115号溝
館跡
03号柱穴列
07号柱穴列
方形竪穴
68住
A L=154.53m A'
木柵
B L=154.30m B'
C L=154.70m C'
D L=154.20m D'
E L=154.20m E'
0 1:300 15m
A～E 1:150 7.5m
• 遺物

館跡、18号畠、115号溝【図P.52,54～56 PL.37～39】

本地区南東側部分で検出した遺構群。

館跡

【埋土】1耕作土　2黒褐色土　3茶褐色土ローム塊混　4同前ローム塊シルト塊含　5赤色シルト土茶褐色土斑駁　6黒褐色土粗石含　7茶褐色土ローム粒混　8同前ローム塊混　9暗シルト土混在　10耕作土　11暗褐色土白色粗石ローム粒少　12同前白色粗石ローム粒散　13同前ローム塊混　14同前2、13中間的　15暗黄褐色土ローム塊褐色土混　16同前ローム塊少　17同前ローム主暗褐色土混　18地山

【重複】南東側で01・115号溝・18号畠が重なる。

【外部構造】**堀**：断面V字形（最大上幅3.8m底幅0.2m深さ1.5m）で長方形区画（東西50m南北59m）を形成する。南辺中央に開口部（戸口　幅3.0m）がある。

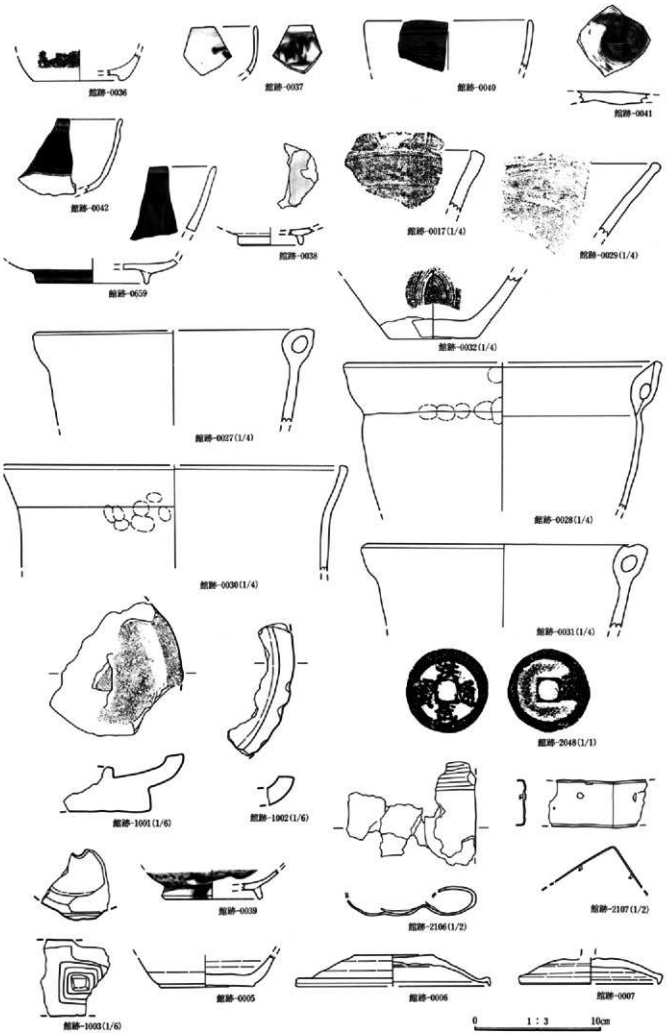
【内部施設】5カ所の柱穴列が方形（東西25m南北25m以上）に配置される。**03号柱穴列**（長7.3m深さ0.4～0.5m）・**04号柱穴列**（長5.4m深さ0.15～0.25m）・**05号柱穴列**（長5.3m深さ0.15～0.25m）・**06号柱穴列**（長5.7m深さ0.2m）・**07号柱穴列**（長9.7m深さ0.1～0.3m）。西辺の堀北側に沿って竪穴（67号住2.7×3.1×0.2m）があり、かつて古墳時代の遺構と報告されたが（『矢田遺跡V』1994）、本遺構に伴う**方形竪穴**の可能性が高い。

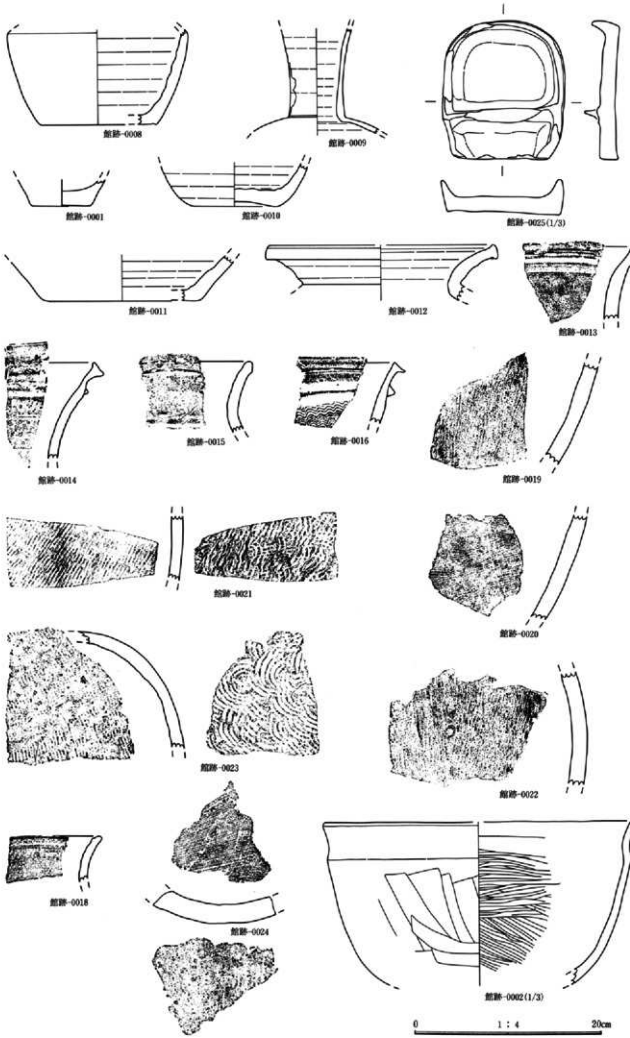
【遺物】近世・近代の陶磁器類（*0036～38,40～42*）が見られるが、重複遺構のものだろう。中世のものは、竜泉窯青磁鉢片（*0659*）があり、また瓦質土器コネ鉢（*0017,29*）・同擂り鉢（*0032*）、土師質土器鳴（*0027,28,30,31*）、粗粒輝石安山岩茶臼（*1001,02*）・同臼（*1003*）、洪武通宝（*2048*）、鞘金具状鉄製品（*2106,07*）が出土した。臼類は、堀開口部東側の底で見られた。他に古代・古墳時代の土器片なども多い。

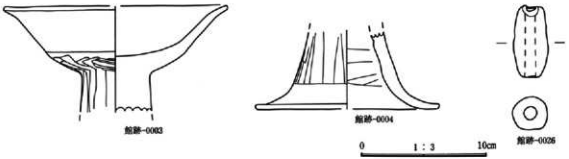
【備考】形態としては単純な方形単郭で、南側中央の戸口には顕著な特定の施設痕は見られない。堀埋土状況と柱穴列の位置より、堀の内側には土塁（推定下幅2mほど）があったと考えられる。柱穴列は木柵痕であり、東辺のみ堀との間が広い（10m）。木柵の北外側には方形竪穴が恐らく複数存在し、中心的な建物は、調査範囲外である木柵内部北側と推定できる。全体に防衛的要素は弱い。青磁鉢・土師質鳴・洪武通宝より13～15世紀の時期と考えられる。

18号畠【埋土】不明。【重複】03・04号柱穴列、115号溝と重なる。【形態】南北に長い長方形区画（7.5×15m）で5列の作物痕が並ぶ。3.5m西側にさらに2条のサク跡がある。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

115号溝【埋土】耕作土に近いローム塊混在土【重複】堀・04号柱穴列、03・18号畠と重なる。【形態】ほぼ直線状に南北方向に走り（長30m）、断面皿状で浅い（上幅1.0m下幅0.7m深さ0.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境とは一致せず。近世の地境か。


館跡-0036
館跡-0037
館跡-0040
館跡-0041
館跡-0042
館跡-0659
館跡-0038
館跡-0017(1/4)
館跡-0029(1/4)
館跡-0032(1/4)
館跡-0027(1/4)
館跡-0028(1/4)
館跡-0030(1/4)
館跡-0031(1/4)
館跡-2048(1/1)
館跡-1001(1/6)
館跡-1002(1/6)
館跡-0039
館跡-2106(1/2)
館跡-2107(1/2)
館跡-1003(1/6)
館跡-0005
館跡-0006
館跡-0007
0
1 : 3
10cm


館跡-0008
館跡-0009
館跡-0001
館跡-0010
館跡-0025(1/3)
館跡-0011
館跡-0012
館跡-0013
館跡-0014
館跡-0015
館跡-0016
館跡-0019
館跡-0021
館跡-0020
館跡-0023
館跡-0022
館跡-0018
館跡-0024
館跡-0002(1/3)
0
1：4
20cm



08・09号道路、01～03号畠、01・02・100号溝【図P.57～59 PL.38】

本地区南東端で検出した遺構群。

08号道路【埋土】不明。【重複】西側で09号道路と合流か。09～13号土坑及び路面中央の走向の似た未命名溝と重なる。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（長17m）、両側に側溝を持つ（路面幅2.6m側溝幅0.5～1.0m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境とは一致しない。近世の道路跡か。

09号道路【埋土】不明。【重複】08号道路・100号溝・01号畠と合流。南端で13・16・17号土坑が重なる。【形態】ややカーブしながら南北方向に走り（約長55m）、両側に路面より幅広い側溝を持つ（側溝の検出は部分的。路面幅0.8m側溝幅1.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前現道（字天王原・谷頭の境）と一致。近代の道路跡だろう。

01号畠【埋土】不明。【重複】09号道路・100号溝と合流。【形態】南北に長い変形長方形区画（5.2×10.8m）に東西方向で９列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

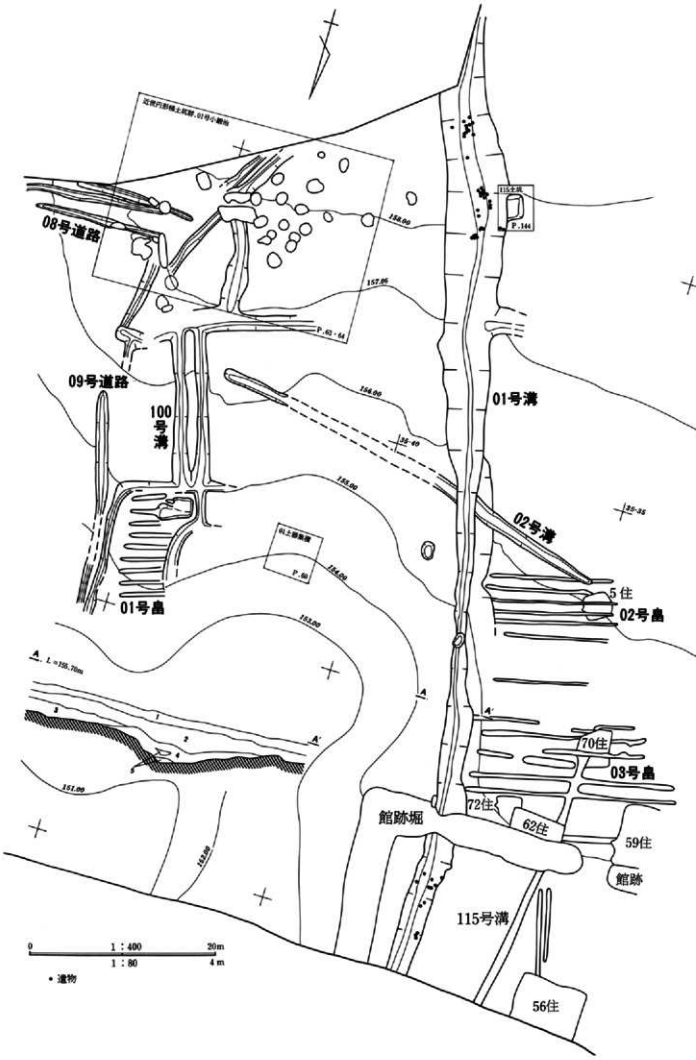
02号畠【埋土】不明。【重複】01・02号溝・竪穴05号住と重なる。【形態】南北にやや長い正方形状区画（18×16m）で東西方向に８列の作物痕を検出（本来11列か）。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

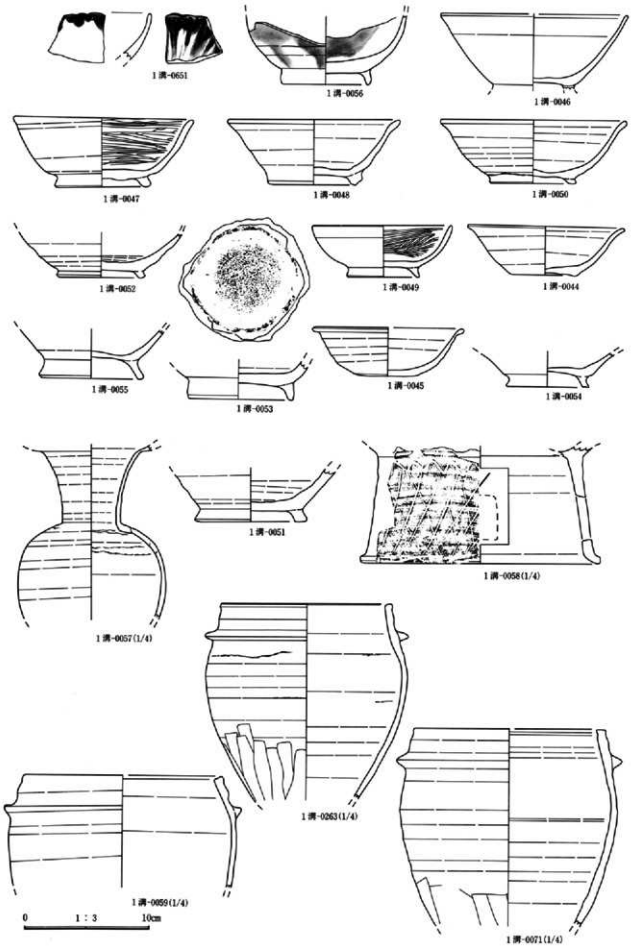
03号畠【埋土】不明。【重複】館跡堀、01・115号溝、竪穴59・62・70・72号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（23×12m）で５列のサク痕を検出。一部少し走向のずれたサク跡が重なる。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

01号溝【埋土】水底部あり　1灰黒色土白色粘石多含　2明褐白色粘石少　3黄褐ローム粒少　4黒褐色土ローム粒多白色粘石土器多　5灰色砂黒褐色土土器多含（P.53－6～9層）【重複】館跡堀、02・100号溝、02・03号畠、110・115号土坑と重なる。【形態】ほぼ直線状に南北方向に走り（長100m）、平面は一定せず断面皿状（上幅0.5～6.0m下幅0.2～0.6m最大深さ0.7m）。【遺物】南北両端で猿投灰釉碗(*0056*)及び古代須恵器碗・坏・皿・瓶・硯・羽釜・甕、土師器坏、丸・平瓦片がまとまって出土。平瓦片(*0067*)には刻書がある。【備考】調査前地境とは不一致。古代の中心的な水流溝の一つだろう。字稲荷久保に向かう低地の方向とはずれて西側に流れている。北側の48・49号溝及び57号溝と同一か。

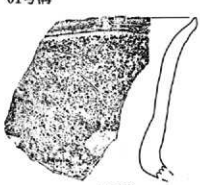
02号溝【埋土】不明。【重複】01号溝、02号畠と重なる。【形態】やや弧状で東西方向近くに走る（長58m上幅1.5m下幅0.8m）。断面形不明。【遺物】竜泉窯青磁鉢片(*0665*)出土。【備考】調査前地境とは一致せず。中世か。

100号溝【埋土】不明。【重複】09号道路、01号畠と重なる。【形態】南北方向に４条（10～16m）、東西方向に２条（12～20m）走り、09号道路側溝や01号畠外郭を兼ねる。断面形不明。【遺物】不明。【備考】調査前地境と離れて平行。09号道路・01号畠と同一時期の近代地境だろう。

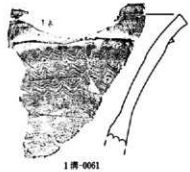

08号道路
09号道路
100
号溝
01号溝
02号溝
01号畠
02号畠
03号畠
5住
70住
72住
62住
59住
館跡
館跡堀
115号溝
56住
A
A'
0
1：400
20m
1：80
4m
・遺物


1溝-0651
1溝-0056
1溝-0046
1溝-0047
1溝-0048
1溝-0050
1溝-0052
1溝-0049
1溝-0044
1溝-0055
1溝-0053
1溝-0045
1溝-0054
1溝-0051
1溝-0058(1/4)
1溝-0057(1/4)
1溝-0263(1/4)
1溝-0059(1/4)
1溝-0071(1/4)
0
1：3
10cm

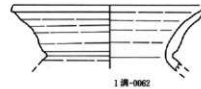
01号溝



1溝-0060



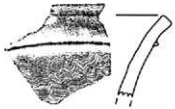
1溝-0061



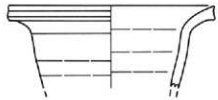
1溝-0062

1溝-0066

1溝-0065



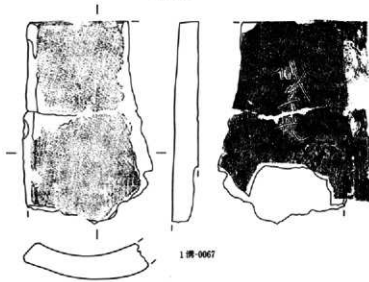
1溝-0064



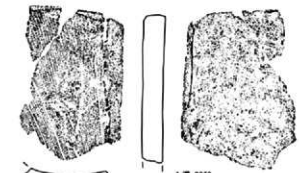
1溝-0063

1溝-0043(1/3)

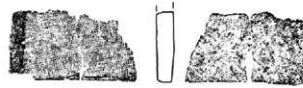
1溝-0070



1溝-0067

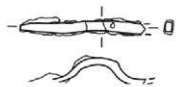


1溝-0068



1溝-0069

0　1：4　20cm



1溝-2098(1/2)

02号溝

2溝-0665(1/3)

01号土器集積【図P.60 PL.41】

本地区南東端で検出した遺構群。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】字稲荷久保への低地源流部右岸に楕円形状（主軸北西南東方向約4.2×5.0m）に土器片が集中分布。

【遺物】古代須恵器と土師器片計275片の分布が見られたが、遺憾ながら大部分が所在不明となり、土師器小型甕(0375)のみを報告。

【備考】取り上げ時に種類が判明したもの（計172片）は土師器片が多い(101片)。全体として、破片が広く散布する北西側部分と比較的飛散が少ない南西側部分に分かれる。前者は大型容器が５，６個体以上、後者は小型容器が４個体程度まとまっている。調査時に掘り込みは確認していないが、土器を露地に放置していただけとは考えにくい。何らかの付帯的施設の存在は、十分に推定できる。

1 土集-0375(1/4)

01号土器集積

0　1:20　1m

01号小鍛冶【図P.63,64 PL.42】

本地区南東端で検出した遺構群。

【埋土】1黒褐色土ローム塊含鞴羽量　2同褐ローム粒多含　3褐色土ローム粒主黒色土少量【重複】17号土坑と重なる。【形態】全体は主軸を東北東・西南西に向ける楕円形土坑状（1.3×0.6×0.2m）で、内部は大小二つの掘り込みに分かれる。【遺物】大型掘り込み内で鞴片(*0636～39*)・鉄滓及び須恵器椀(*0635*)・坏(*0634*)が出土。小型掘り込みではそれらは見られず、代わりに大小２個の自然石（大長0.4m）があった。【備考】残存形態は中世の03号小鍛冶とは異なった状態である。遺物より本小鍛冶が古代のものであることは間違いないが、周辺に同時代の遺構は東側に30m離れた01号溝しかない。

09～34号土坑【図P.63,64 PL.42】

本地区南東端で検出した遺構群。

09号土坑【埋土】不明。【重複】08号道路と重なる。【形態】短冊形平面（推定2.8×1.0×0.3m）。【遺物】なし。【備考】近世。

10号土坑【埋土】不明。【重複】08号道路と重なる。【形態】箱形平面（1.0×0.8×0.4m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

11号土坑【埋土】不明。【重複】08号道路と重なる。【形態】桶形に似た楕円形平面（1.2×1.0×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

12号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】不定形平面（2.4×2.2×0.6m）、底３カ所。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

13号土坑【埋土】3褐色土ローム土焼土炭化粒少含　4地山【重複】08・09号道路と重なる。南端でピットを切る。【形態】短冊形平面（3.6×0.6×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世。

14号土坑【埋土】2黄褐色土シルト焼土炭化ローム塊含　【重複】なし。【形態】桶形平面（1.2×1.1×0.1m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

15号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】箱形平面（1.6×1.2×0.3m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

16号土坑【埋土】不明。【重複】09号道路と重なる。【形態】桶形平面（1.4×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

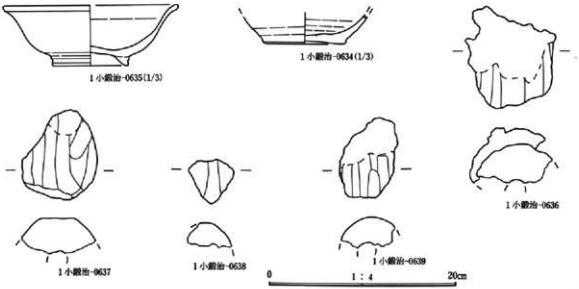
17号土坑【埋土】不明。【重複】01号小鍛冶と重なる。【形態】桶形平面（1.2×1.2×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

18号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】09号道路に近接。【形態】桶形平面（1.2×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

19号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】09号道路に近接。【形態】楕円形平面（1.2×1.2×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

20号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】未命名土坑と重なる。【形態】箱形平面（1.2×1.0×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

21号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面（1.2×1.0×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。



22号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.4×1.2×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。

23号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.2×1.0×0.1m)。【遺物】なし。【備考】近世か。

24号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】未命名小土坑と重なる。【形態】桶形平面(1.0×1.0×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。

25号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】桶形平面(1.0×1.0×0.3m)。【遺物】なし。【備考】近世か。

26号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.2×1.2×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。

27号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】28号土坑と重なる。【形態】桶形平面（0.8×0.8×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

28号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】27号土坑と重なる。【形態】桶形平面（0.8×0.8×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

29号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】30号土坑より古い。【形態】楕円形平面（1.2×1.0×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

30号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含2.9号より暗色【重複】29号より新しい。【形態】楕円形平面（1.2×1.0×0.3m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

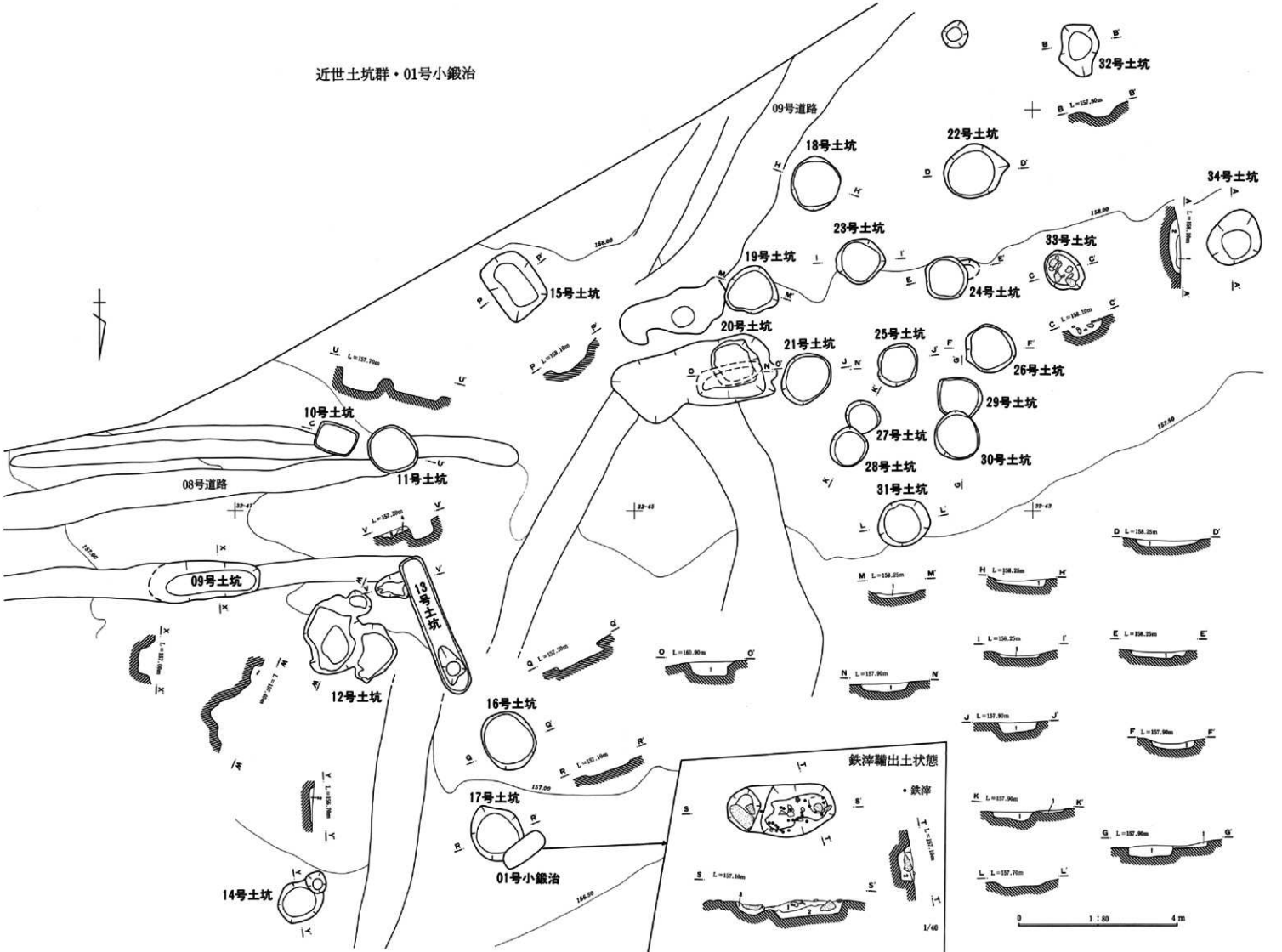
31号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】桶形平面（1.2×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

32号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】不定形平面（1.2×0.8×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

33号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】楕円形平面（1.2×0.8×0.2m）。【遺物】自然礫多く含有。【備考】近世か。

34号土坑【埋土】5黒褐色土白色凝石ローム粒少含　6同明ローム粒多含【重複】なし。【形態】不定形平面（1.4×1.0×0.3m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

近世土坑群・01号小鍛治



イ　東側地区

この地区は、大字矢田の字稲荷久保・谷頭（やつがしら）・杉之久保・車地蔵・天久沢（あまくぼ）、そして大字多比良（たいら）の字観音山よりなる。稲荷久保部分は、インターチェンジへの進入路と本線の２カ所の調査になったが、その他の各字部分はいづれも東西方向に走る本線部分のみである。ここは大小４カ所の低地が南から北に向かっている。

上述のように、他の地区と同様に検出遺構は多彩な様相を示し、出土遺物から初期的に判断した時代区分は、弥生～近代と幅広い。単純な数では近世の土坑が最大である。また時期不明のものも種類・数量も変わらず多い。

ここで報告する東側地区出土全遺物の種類・時代は、次の通りである。

	土器類		石製品類		金属製品		その他	
近代								
近世	国産陶磁	3	砥石	1	鉄製品	1		
	国産陶器	3			銭貨	1		
中世	舶載陶磁	1			鉄製品	2		
	瓦質土器	3			銭貨	27		
	土師質土器	1						
	瓦	1						
古代	須恵器	28	紡錘車	2				
	土師器	7	砥石	2				
	瓦	6						
古墳	土師器	3						
縄文	晩期土器	1						
不明			砥石	4	鉄製品	2	馬歯	1
					鉄滓	1		

以上のように、報告遺物の中で最も多いのは一括出土した中世の銭貨で、ついで古代須恵器となる。それらの内訳は次の通りである。

中世銭貨	唐銭２	北宋銭23	南宋銭１	明銭１
須恵器	食器	碗	5	
		坏	5	
		蓋	4	
	貯蔵具	瓶	1	
		長頸瓶	2	
		大甕	2	
		甕	8	
	調理具	羽釜	1	

中世銭貨は、後述するように稲荷久保地区での一括出土だが、遺構に伴っていない。本地区は古代の竪穴住居が他地区に比べ少なく、それにつれるように古代須恵器の出土は多くない。ただし、大甕が２点見られる。また本遺跡唯一の縄文晩期土器の出土がある。

07号道路、55～58号溝【図P.66,67 PL 43,44】

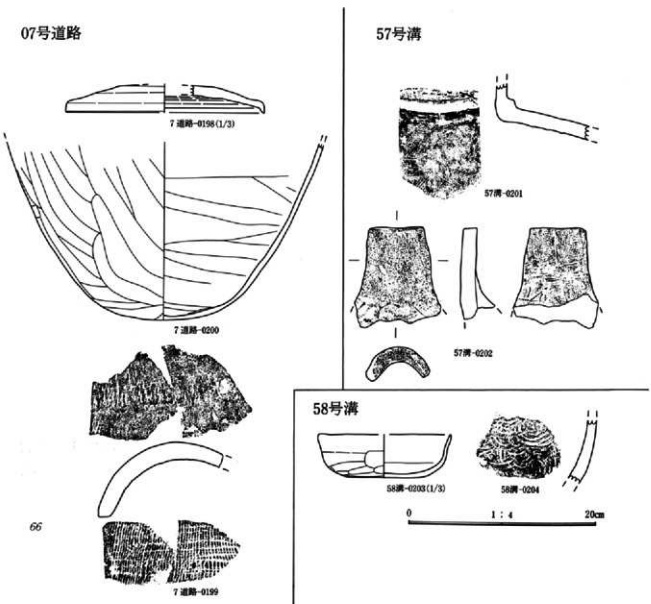
字稲荷久保北側で検出した遺構群。

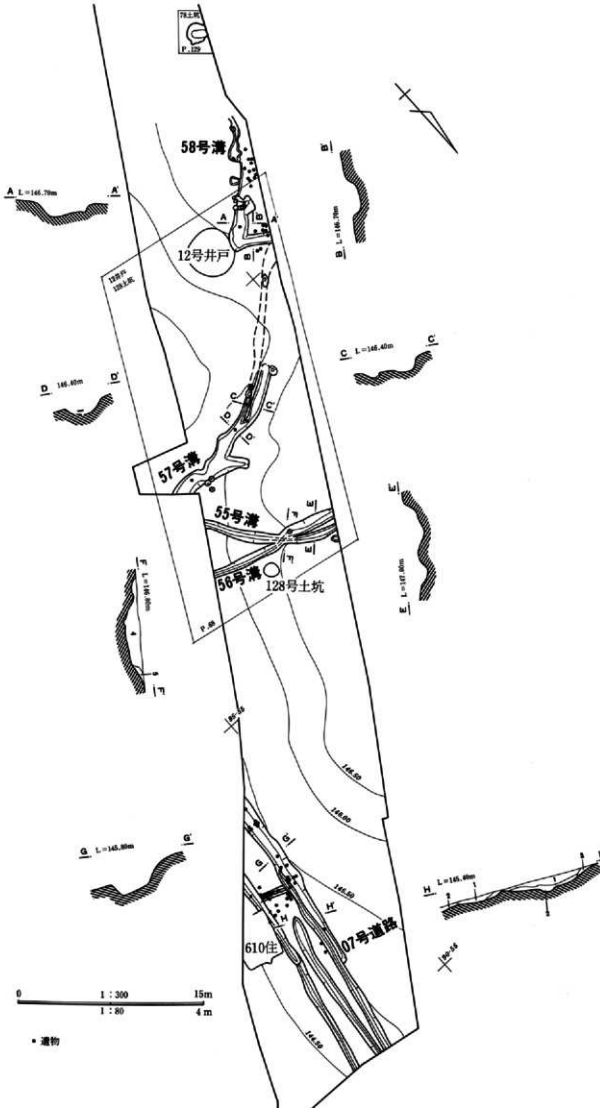
07号道路【埋土】1 暗褐色土ローム亀裂石含　2 暗黄褐色土ローム亀裂含　3 地山【重複】路面中を2条の未命名溝が、東側溝と竪穴610号住が重なる。【形態】直線状に両側溝をもって南北方向に走る（長23m路面幅2.3m側溝幅0.8～1.2m）。【遺物】古代須恵器坏蓋(*0198*)・土師器甕(*0200*)・丸瓦(*0199*)が重複竪穴周辺で出土。【備考】調査前地境とは直接は一致しないが、北側のほぼ同一位置の字椿谷戸と兼宮道の境界の道路の延長線に当たる。そのため、近世の道路跡だろう。

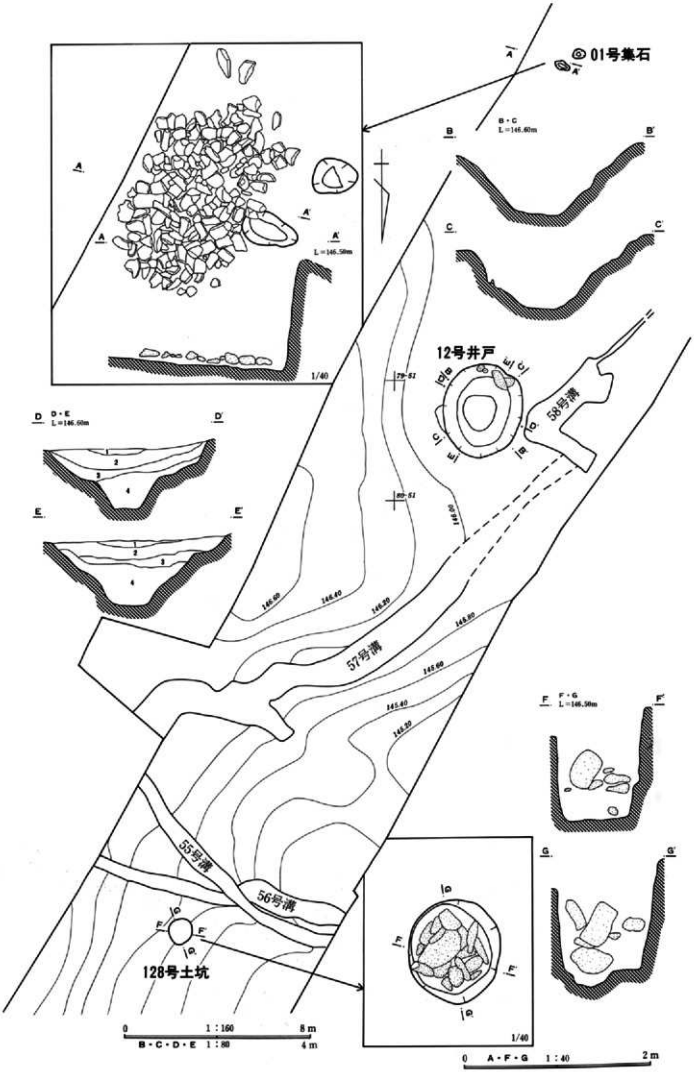
55号溝【埋土】不明。【重複】56号溝より古い。【形態】やや蛇行しながら等高線に直交して走り（長11m）、断面皿状で浅い(上幅0.8m下幅0.2m深さ0.1m)。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致せず。時期不明。

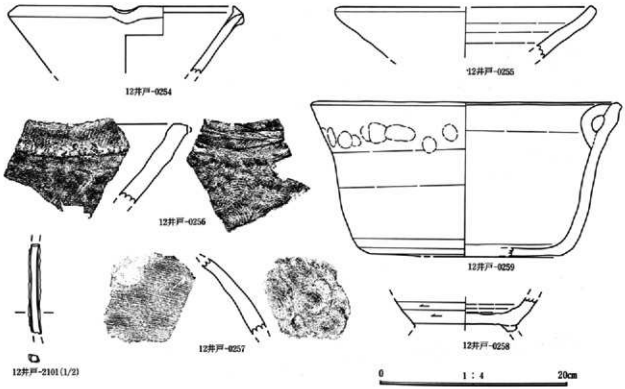
56号溝【埋土】1 黒褐色土上面鍛冶土下面ローム亀裂　5 地山【重複】55号溝より新しい。128号土坑が北側で近接。【形態】ほぼ直線状に東西方向に近く走り（長10m）、平面は一定せず断面皿状（上幅0.5m下幅0.2m最大深さ0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と離れて平行。近世の地境か。

57号溝【埋土】不明。【重複】58号溝と重なる可能性。【形態】蛇行して南西から東方向に走るが（長約20m）、平面はかなり不安定（上幅0.8～1.3m下幅0.4～1.0m最大深さ0.3m）。【遺物】古代土師器甕(*0201*)、特殊瓦片(*0202*)が出土。【備考】調査前地境とは一致せず。北西側地区の01号及び48・49号溝と同一か。(P.69へ続く)




58号溝
12号井戸
57号溝
55号溝
56号溝
128号土坑
07号道路
610住
A L=146.70m
B L=146.70m
C L=146.40m
D 146.40m
E L=147.1
F L=146.40m
G L=146.80m
H L=146.40m
146.50
146.60
146.50
146.55
0 1:300 15m
1:80 4m
遺物


01号集石
A
A'
A
A'
L=146.50m
1/40
B
B・C
L=146.60m
B'
C
C'
12号井戸
58号溝
D
D・E
L=146.60m
D'
E
E'
57号溝
55号溝
56号溝
128号土坑
F
F・G
L=146.30m
F'
G
G'
1/40
0
1:160
8m
B・C・D・E 1:80
4m
0
A・F・G 1:40
2m



（P.66より）**58号溝**【埋土】不明。【重複】北東側で12号井戸と近接、南西側で未命名落ち込みと重複。57号溝と重なる可能性。【形態】ほぼ直線状に南西から北東方向に走った後、北西方向に屈曲（延長6m）。平面は一定せず断面皿状（最大上幅1.0m同下幅0.6m最大深さ0.35m）。未命名落ち込みからもやや深い（0.2m）。【遺物】未命名落ち込みより古墳時代須恵器甕（*0204*）・土師器坏（*0203*）出土。【備考】調査前地域とは一致せず。未命名落ち込みとの関係は不明であり、時期性格も判然としない。

12号井戸、128号土坑、01号集石【図P.68,69 PL.44,45】

字稲荷久保北側で検出した遺構群。

12号井戸【埋土】1 暗褐色土ローム粒混在　2 黒褐色土黄色細粒含　3 黒褐色土ローム塊多含下面白色粘土　4 暗茶褐色土ローム主体【重複】58号溝と近接。【形態】朝顔形（径3.6m深さ1.6m）。【遺物】瓦質土器コネ鉢（*0254～56*）・土師質鍋（*0259*）・鉄鏃？（*2101*）及び古代須恵器甕類出土。【備考】湧水層の位置不明であまり出水跡が顕著でない。中世。

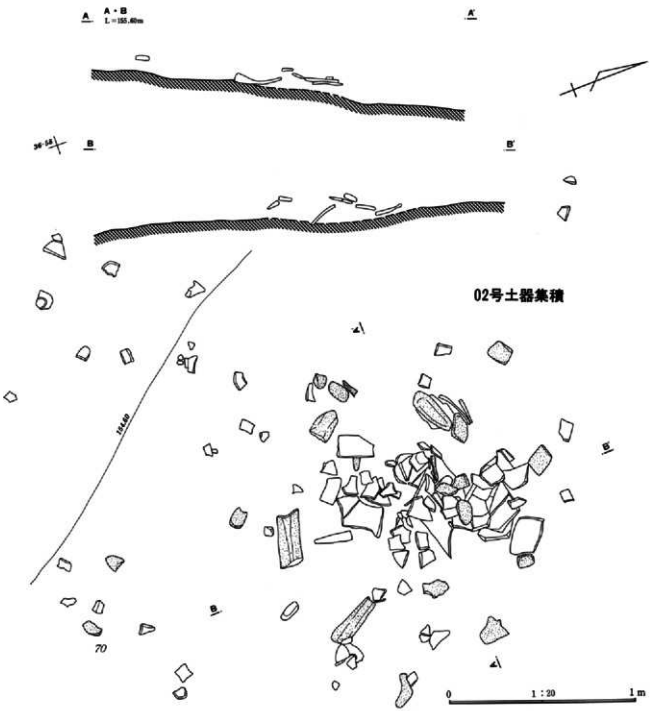
128号土坑【埋土】不明。【重複】56号溝近接。【形態】円筒形（径1.1m深さ1.4m）で底に小ピット（0.6×0.4×0.15m）がある。【遺物】大小17個の自然石（長0.2～0.5m）が全体に入っていた。【備考】時期不明。調査時に井戸として考えられたが、浅く12号井戸以上に積極的な証拠がない。

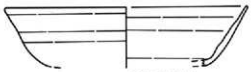
01号集石【埋土】不明。【重複】なし。【形態】長方形状（2.8×1.6m）に自然石189個（長0.1～0.2m）を敷き詰める。上面はほぼ平坦。西側に2個のピット（径0.5～6m深さ0.3m）があり、北側のものは一部石の下になる。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

02号土器集積【図P.70,71 PL.45】

字谷頭中央で字稲荷久保に向かう低地右岸で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】字稲荷久保に向かう低地源流部右岸に楕円形状（主軸北東南西方向約3.5×2.5m）範囲で土器片が集中分布。【遺物】古代須恵器と土師器片計73片の破片の分布が見られた。須恵器碗(*0351,52*)・坏(*0350*)・坏蓋(*0353*)・瓶(*0356*)・甕(*0354,55*)そして大甕(*0357*)があり、また古墳時代土師器甕(*0349*)も出土した。【備考】取り上げ時に種類が判明したもの（計65片）は須恵器片が多く(51片)、その6割以上は大甕(*0357*)の破片(32片)。分布もこの大甕が単純に割れた状態が中心のため、低地近くの屋外であるこの場所で、何らかの事情で割れた大甕がそのまま放置されたものとするのが自然だろう。

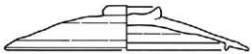




2土集-0351(1/3)

2土集-0352(1/3)

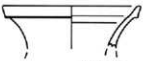
2土集-0350(1/3)



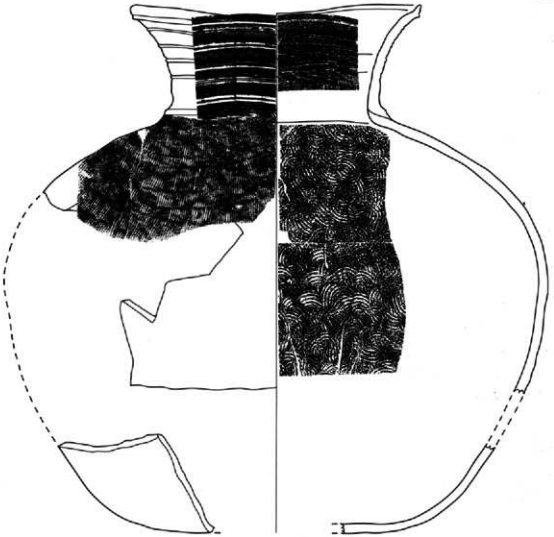
2土集-0353(1/3)

2土集-0356

2土集-0354



2土集-0355



2土集-0357(1/6)

2土集-0349

0 1:4 20cm

04～09号畠、40・61・104～110号溝、01号採掘坑、35号土坑【図P.72.73 PL.46】

本地区中央の字稲荷久保・谷頭・杉之久保の境界で検出した遺構群。

04号畠【埋土】不明。【重複】竪穴21号住と重なる。【形態】正方形に近い区画（9×9m）に北北西・南南東方向で7列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

05号畠【埋土】不明。【重複】09号畠、竪穴15～18・22・31号住と重なる。【形態】東西に長い長方形状区画（32×16m）で南北方向に22列の作物痕を検出。東西に分かれていた可能性があり、東側は重複している。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

06号畠【埋土】不明。【重複】北側は07号畠と重なる。【形態】東西に長い台形状区画（23×14m）で南北方向に16列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

07号畠【埋土】不明。【重複】06号畠及び竪穴24号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（30×8m）で東西方向に8列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

08号畠【埋土】不明。【重複】09号畠と、また竪穴14・24・26号住と重なる。【形態】五角形状区画（25×15m）で南北方向に11列のサク痕検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

09号畠【埋土】不明。【重複】05・08号畠、竪穴14号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（18×2m）で東西方向に2列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

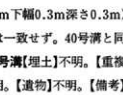
40号溝【埋土】1 濁黒八幡石　2 黒褐粒子粗　3 黒褐粒分含　4 灰褐色粘土粒分含　5 地山灰白色粘土【重複】01号採掘坑、61・105号溝と合流か。【形態】等高線に平行してやや蛇行しながら南北方向に走り（長約35m）、断面箱形（上幅0.9m下幅0.3m最大深さ0.3m）。【遺物】肥前染付雪輪梅文碗（*0654*）・瀬戸美濃飴釉小杯（*0656*）・同？ 透明釉鉢（*0658*）が出土。【備考】調査前現道と一部一致。近世中期の地境だろう。

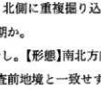
61号溝【埋土】7 暗褐色土ローム粒含雑物【重複】40号溝と合流か。【形態】弧状に等高線に直交して走る（長10m溝上幅0.7m下幅0.3m深さ0.3m）。北側に重複掘り込みがあるが断面では不明。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致せず。40号溝と同時期か。

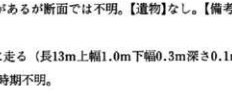
104号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】南北方向に走る（長13m上幅1.0m下幅0.3m深さ0.1m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

105号溝【埋土】不明。【重複】40号溝に合流。06・08号畠に近接。竪穴27・28号住と重複。【形態】東西方向に大きく蛇行して走る（長約60m上幅1.0m下幅0.5m深さ0.2m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】字稲荷久保・谷頭の境界に一致。近代地境である。（P.75に続く）

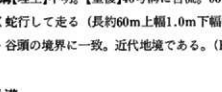
40号溝

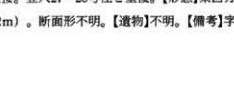




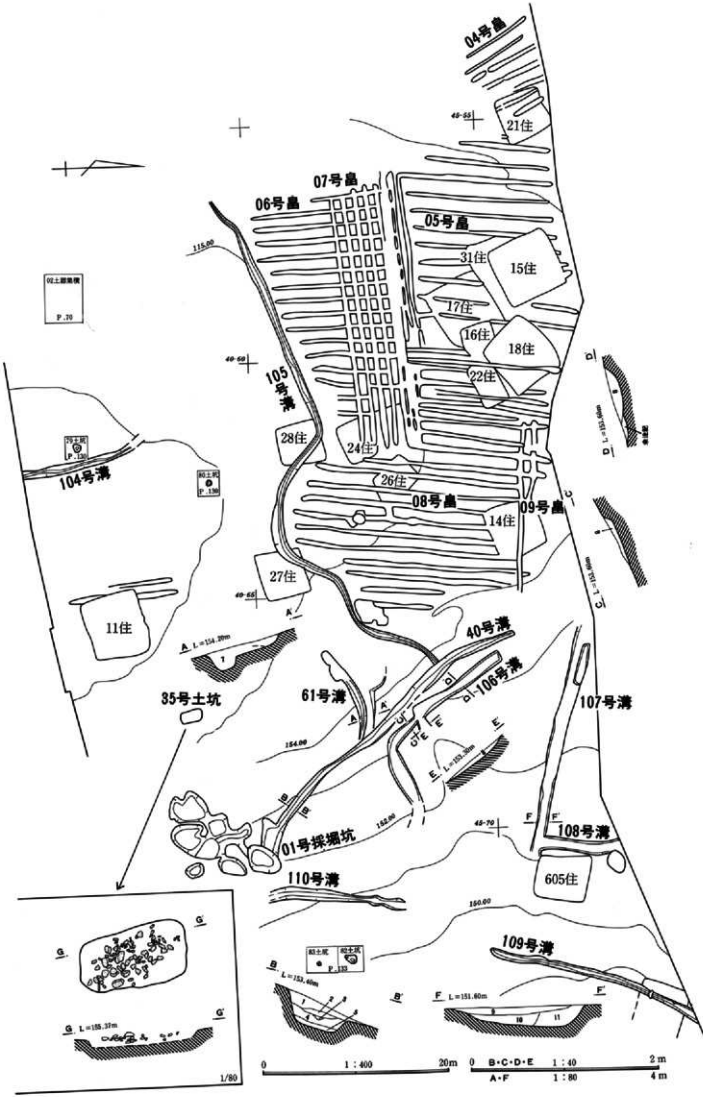


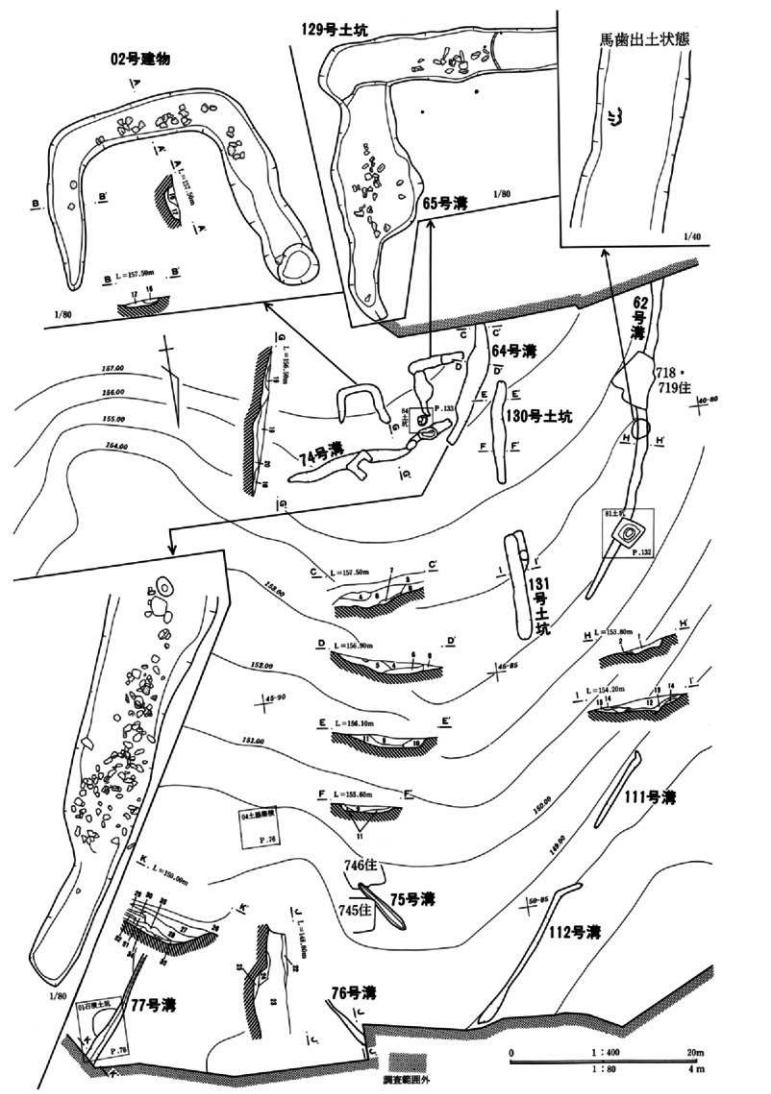
35号土坑

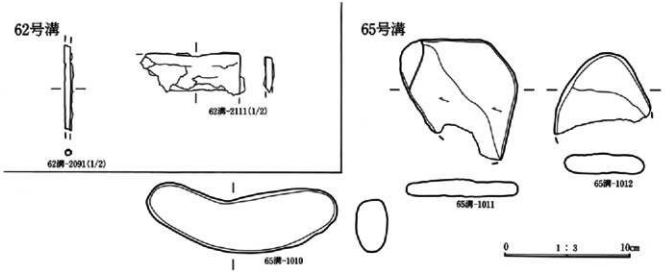




0　1：4　20cm


04号畠
21住
07号畠
06号畠
05号畠
31住
15住
17住
16住
18住
22住
105号溝
28住
24住
26住
08号畠
09号畠
14住
104号溝
27住
11住
40号溝
106号溝
107号溝
35号土坑
61号溝
01号採掘坑
108号溝
605住
110号溝
109号溝
1:400
20m
B・C・D・E 1:40
A・F 1:80
2m
4m
1/80


02号建物
129号土坑
馬歯出土状態
65号溝
1/80
1/40
62号溝
64号溝
130号土坑
74号溝
718・719住
131号土坑
111号溝
746住
745住
75号溝
112号溝
76号溝
77号溝
調査範囲外
0
1：400
20m
1：80
4m



（P.72より）**106号溝**【埋土】8 暗黄褐色土粘石多含細粒【重複】40号溝と一部平行。【形態】南北方向から東西方向に曲がるが一部他の掘り込みも重複している様子（長約21m上幅1.8m下幅1.4m深さ0.15m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】字谷頭・杉之久保の境界及び調査前現道と一致。近代の地境だろう。

107号溝【埋土】9 暗褐色土粘石ローム塊含 10 暗黄褐色土ローム塊多含 11 同細ローム粒多含細粒【重複】東側で108号溝と合流。西側では未命名短冊形土坑が重複。【形態】東西方向に直線状に延び断面皿形（長26m上幅1.4m下幅0.9m深さ0.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

108号溝【埋土】不明。【重複】107号溝と合流。【形態】南北方向に直線状に延びる（長８ｍ）。断面形は107号溝とほぼ同様。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

109号溝【埋土】不明。【重複】竪穴606号住と重なる。【形態】南北方向に直線状に走る（長23m上幅0.8m下幅0.4m深さ0.2m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

110号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】南北方向に直線状に走る（長15m上幅1.0m下幅0.4m深さ0.3m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】字谷頭・杉之久保の境界と一致。近代地境である。

01号採掘坑【埋土】不明。【重複】40・110号溝と重複か。【形態】大小９個の不定形掘り込み（最大深さ0.6m）が楕円形範囲（約15×9m）に集中。【遺物】不明。【備考】時期不明。調査時に粘土採掘跡とのみ記録されるが、時期と詳細性格不明。

35号土坑【埋土】 上層に砂岩片岩自然礫（長径1～0.3m）を大量に含む 【重複】なし。【形態】長方形に近い（2.3×1.3×0.3m）。【遺物】古代須恵器甕片（*0264,65*）が上層で見られた。【備考】古代以後の廃棄坑か。

02号建物、62・64・65・74～77・111・112号溝、129～31号土坑【図P.74,75 PL.47～50】

本地区東側の字谷頭・車地蔵の境界で検出した遺構群。

02号建物【埋土】1 6 暗褐色土粘石含細粒 1 7 褐色土粘石少【重複】なし。【形態】谷側に開くコの字状溝（内部約3.5×3.7m溝上幅0.8m深さ0.3m）。【遺物】山側溝に礫多い。【備考】内部に地形建物があった可能性が高い。近世か。

62号溝【埋土】1 暗黄褐色土ローム塊混粘細 2 茶黄褐色土地山【重複】81号土坑より新。718・719号住と重複。【形態】南北方向にやや湾曲して延びる（長34m上幅1.0m下幅0.7m深さ0.2m）。【遺物】鉄鏃？*(2091)*・不明鉄片*(2111)*・馬歯*(3006)*出土。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

64号溝【埋土】3 表作土 4 暗黄褐色土白色粘石含細粒 5 同細やや暗色 6 同黄ローム粒黄色粘石少 7 茶褐色土ローム土主 8 明黄褐色土ローム主白黄色粘石少【重複】なし。【形態】南北方向に湾曲して延び（長13m上幅1.8m下幅0.9m深さ0.5m）、上幅不均一。【遺物】鉄滓*(2114)*出土。礫多数含。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

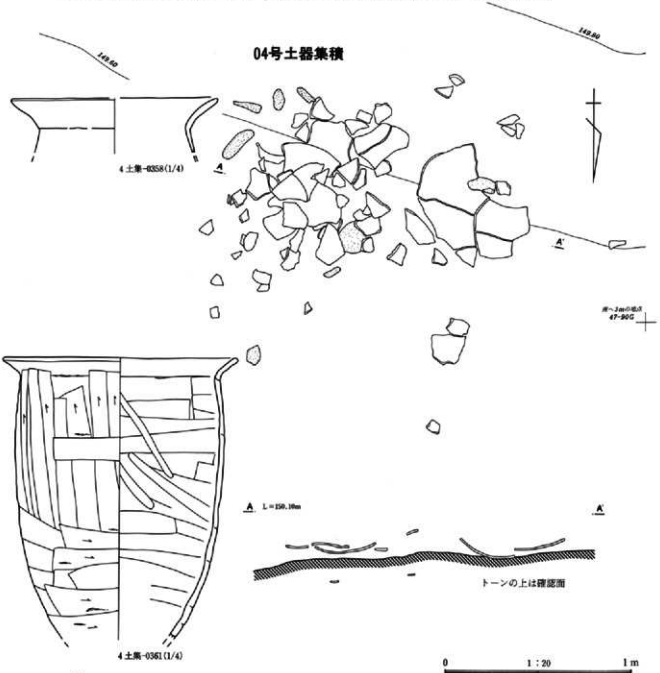
65号溝【埋土】不明。【重複】129号土坑と重複。【形態】南北方向に延びる（長５m上幅1.9m下幅1.5m深さ0.3m）が形状不安定。【遺物】砂岩系砥石？（*1010～12*）出土。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

74号溝【埋土】18明黄褐色土ローム土白色粒石多　19暗褐色土白黄色粒石少　20暗黄褐色土ローム土白黄色粒石多　21明黄褐色土白黄色粒石多【重複】風倒木状掘り込み重複。【形態】東西方向に不均一に延びる（長18m上幅1.4m下幅0.5m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。

75号溝【埋土】不明。【重複】745・746号住と重複。【形態】南東北西方向に直線状に延びる（長6.5m上幅1.1m下幅0.5m深さ0.15m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と平行。近世地境か。

76号溝【埋土】22耕作土　23灰褐色土浅間A軽石主　24暗褐色土A軽石多含　25岡部A軽石少【重複】なし。【形態】南東北西方向に直線状に延びる（長5.5m上幅0.6m下幅0.2m深さ0.4m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近世地境。

77号溝【埋土】26耕作土　27黒色土白色粒石多　28黄褐色土ローム土白色粒石多　29同部粘土主混い　30黄褐色土ローム土　31黒褐色土白色粒石主　32黄褐色土ローム土粒混　33暗褐色土軽石多量　34暗灰白色土鉄分粒石多　35暗黄灰白色土鉄分多【重複】01号石積土坑と近接。【形態】北東南西方向に直線状に延びる（長12m上幅1.3m下幅0.3m深さ0.6m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近世地境。



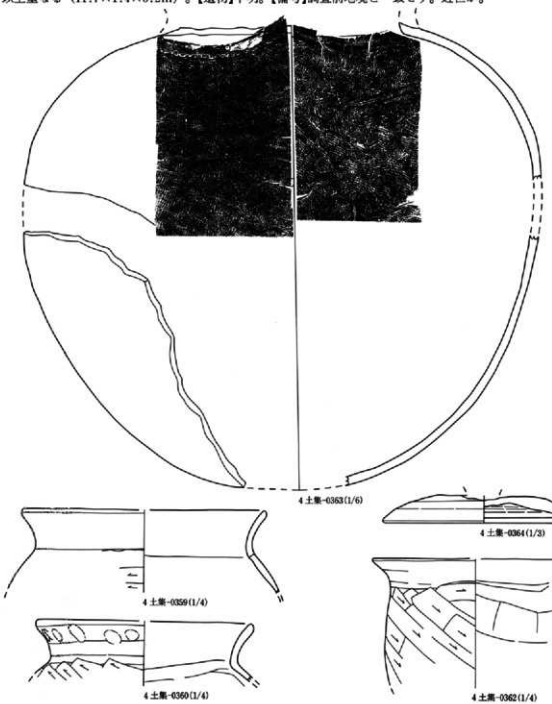
111号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】等高線に平行して北東南西方向に直線状に延びる（長９ｍ上幅0.6m下幅0.1m深さ0.5m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境に近い。近世か。

112号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】等高線に平行して直線状に延び（長16m上幅0.5m下幅0.1m深さ0.4m）、南西端は西に３ｍ曲がる。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代地境か。

129号土坑【埋土】不明。【重複】65号溝と合流。【形態】東西方向に短冊形２基が重なる（6.2×1.0×0.2m）。断面形は107号溝とほぼ同様。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。

130号土坑【埋土】９暗褐色土粗砂石多含　10黒色土ローム塊含　11暗黄褐色土ローム主【重複】なし。【形態】南北方向に短冊形２基以上重なる（10.8×1.2×0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。

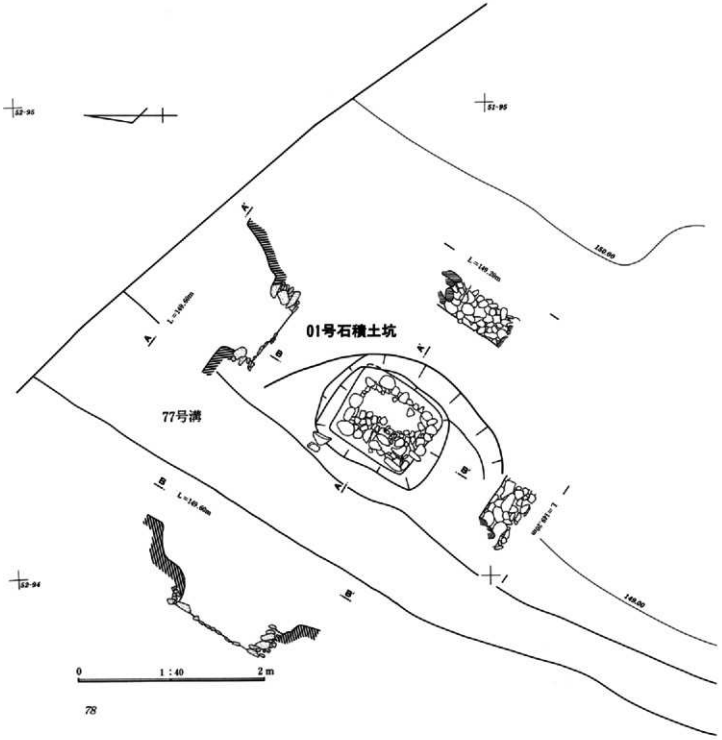
131号土坑【埋土】12暗褐色土ローム塊多細粒　13暗黄褐色土ローム塊少　14褐細粒有　15明黄褐色土地山【重複】なし。【形態】南北方向に短冊形２基以上重なる（11.7×1.4×0.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。



04号土器集積【図P.76,77 PL.50】

字杉之久保の低地左岸で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】字杉之久保の低地源流部左岸に長方形状（主軸東西方向約2.0×1.5m）範囲で土器片が集中分布。【遺物】古代須恵器と土師器片計31片の破片の分布が見られた。須恵器坏蓋（*0364*）・大甕（*0363*）があり、また土師器甕（*0358～62*）も出土した。【備考】取り上げ時の記録では、土師器は2片のみのため、ここで土師器甕は01号土器集積の遺物が混入した可能性もある。02号土器集積と同様に、大甕が単純に割れた状態が中心である。同じく、低地近くの屋外であるこの場所で何らかの事情で割れた大甕がそのまま放置されたものだろう。



01号石積土坑【図P.78 PL.51】

本地区東側の字車地蔵の低地右岸で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】77号溝と近接。【形態】山側を半円形（2.7×1.5m最大深さ0.6m）に削って平場を造成し、そこに平面長方形（底幅1.0×8.5m深さ0.4m）の土坑を掘削。この土坑内部の底面に自然石を敷き、また四方側面にも積み上げる。山側半分近くは敷石が残っていない。【遺物】なし。【備考】調査前地境と主軸ほぼ一致。何らかの貯蔵用施設と考えられるが、詳細不明。近世か。

69～72号溝【図P.80 PL.52】

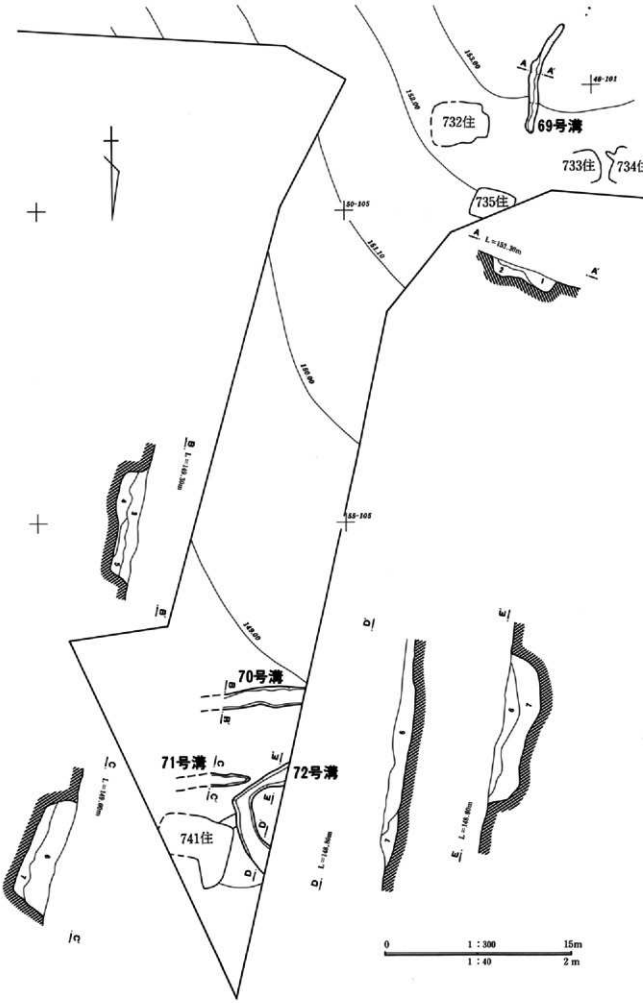
本地区東端の字車地蔵・天久沢の境界で検出した遺構群。

69号溝【埋土】1 暗黄褐色土ローム塊少鉄錆　2 明黄褐色土ローム主鉄錆【重複】なし。【形態】南北方向にやや湾曲して延びる（長9m上幅0.6m下幅0.4m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と平行。近世地境だろう。

70号溝【埋土】3 明褐色土粒石少　4 黄褐ローム多　5 黄褐ローム塊多【重複】なし。【形態】東西方向に直線状に延びる（長5.5m上幅1.7m下幅1.3m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代地境。

71号溝【埋土】6 明褐色土粒石少　7 黄褐ローム塊少【重複】なし。【形態】東西方向に直線状に延びる（長3m上幅1.0m下幅0.8m深さ0.4m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と平行。近世地境だろう。

72号溝【埋土】6 明褐色土粒石少　7 黄褐ローム塊少【重複】なし。【形態】方位に無関係に鍵の手に延びる（全長9m上幅1.5m下幅1.1m深さ0.4m）。溝幅は不均一で、内側は楕円形状。【遺物】なし。【備考】埋土は71号溝と同一だが、方向は合わない。02号建物のような可能性もあるが、詳細不明。近世か。


732住
69号溝
733住
734住
735住
70号溝
71号溝
72号溝
741住
0
1 : 300
15m
1 : 40
2 m

ウ　南西側地区

この地区は、多胡川右岸にある大字多胡の最北端部にあたり、字小蓋林の8割程度の面積をしめる。インターチェンジのランプウェイ用地にあたり、南側の丘陵の裾際までのまとまった緩斜面である。北側の矢田大字矢田との境には、多胡川へ流れる緩い沢がある。

前述のように、ここでも検出遺構は多彩な様相を示し、出土遺物から初期的に判断した時代区分は、古墳～近代と幅広い。単純な数では、北西側地区と同様に、古代の土坑が最大である。また時期不明の土坑の数量もかなり多い。ここで報告する南西側地区出土全遺物の種類・時代は、次の通りである。

	土器類		石製品類		金属製品		その他	
近代	国産磁器	1			銭貨	1		
	土師質土器	1						
近世	国産磁器	4			鉄製品	6	牛歯	1
	国産陶器	4			銅製品	2	馬歯	1
					銭貨	1		
中世	舶載陶磁	4			鉄製品	2		
	国産陶器	2			銅製品	1		
	土師質土器	8			銭貨	6		
古代	国産陶器	5	紡錘車	4	鉄製品	1		
	須恵器	184	玉類	1				
	土師器	39						
	土錘	18						
	瓦	2						
古墳	須恵器	2			銅製品	1		
	土師器	30						
不明					鉄製品	6		
					鉄滓	8		

以上のように、報告遺物の中で最も多いのは古代の須恵器だが、その内訳は次の通りである。

食器	碗	15
	小型碗	1
	坏	86
	蓋	20（転用硯1）
	皿	3
	盤	3
調度具	転用硯	1
貯蔵具	長頸瓶	1
	瓶	2
	大甕	2
	甕	37
	短頸甕	1
	小型甕	3
調理具	羽釜	9

北西側地区以上に、これらの非竪穴住居出土の古代須恵器は古代竪穴住居から出土するものに構成が似ており、種類も最も多い。

10・11号畠、21・23～25・113・114号溝、132～134号土坑、11号墓坑【図P.83,84　PL.53,54】

本地区西側で検出した遺構群。

10号畠【埋土】不明。【重複】なし。【形態】長方形状区画（20×4m）に南北方向で隙間を含み３列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

11号畠【埋土】不明。【重複】21号溝と重なる。【形態】長方形状区画（14×21m）に南北方向で隙間を含み８列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

21号溝【埋土】17暗褐色粘質土ローム粒多　18暗褐色砂質土白色礫粒多【重複】23号溝・11号畠と重複し、24号溝と合流。321号住と重なる。【形態】かなり蛇行しながら東西方向に延びる（長45m上幅0.5m下幅0.4m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代の地境だろう。

23号溝【埋土】1黒褐色土ローム軽石微土粒少　2同前ローム粒多【重複】21号溝、竪穴253・321・365・371・391・392号住と重複。【形態】途中未確認部分を含んで南北方向に長大に延びる（長175m上幅0.6m下幅0.4m深さ0.1m）。北側40mほどは少し東側に走向を変える。未確認部分の両側では、人為的に敷かれたような自然礫が多数見られた。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。等高線の走向とは関係なく延びているため、区画的要素が強い。大字矢田側には延びていないため、近世と推定。

24号溝【埋土】3黒褐色土浅間A軽石多含　4同前軽石少ローム粒多　5同前軽石多　6暗褐色土ローム粒土白色軽石微【重複】21号溝と合流。123号土坑・竪穴357号住と重複。【形態】中間でクランク状に曲がりながら東西方向に延びる（長約50m上幅1.8m下幅0.4m深さ0.5m）。断面Ｖ字状。【遺物】古代土師器甕*(0106)*出土。【備考】調査前現道と一致。近世地境。

25号溝【埋土】不明。【重複】08号井戸、竪穴353号住と重複。【形態】南北方向にやや湾曲して延びる（長10m上幅1.8m下幅0.8m深さ0.2m）。断面皿状。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

113号溝【埋土】7黒褐色土白色軽石少　8同前ローム塊含微土少　9暗褐色土ローム塊多【重複】竪穴354・425号住と重複。【形態】西側の低地に向いてコの字状に浅く延びる（長９m上幅0.9m下幅0.4m深さ0.1m）。南側には重複する竪穴の柱穴が混在。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。建物の雨落ち溝の可能性もあるが、不明瞭。時期不明。

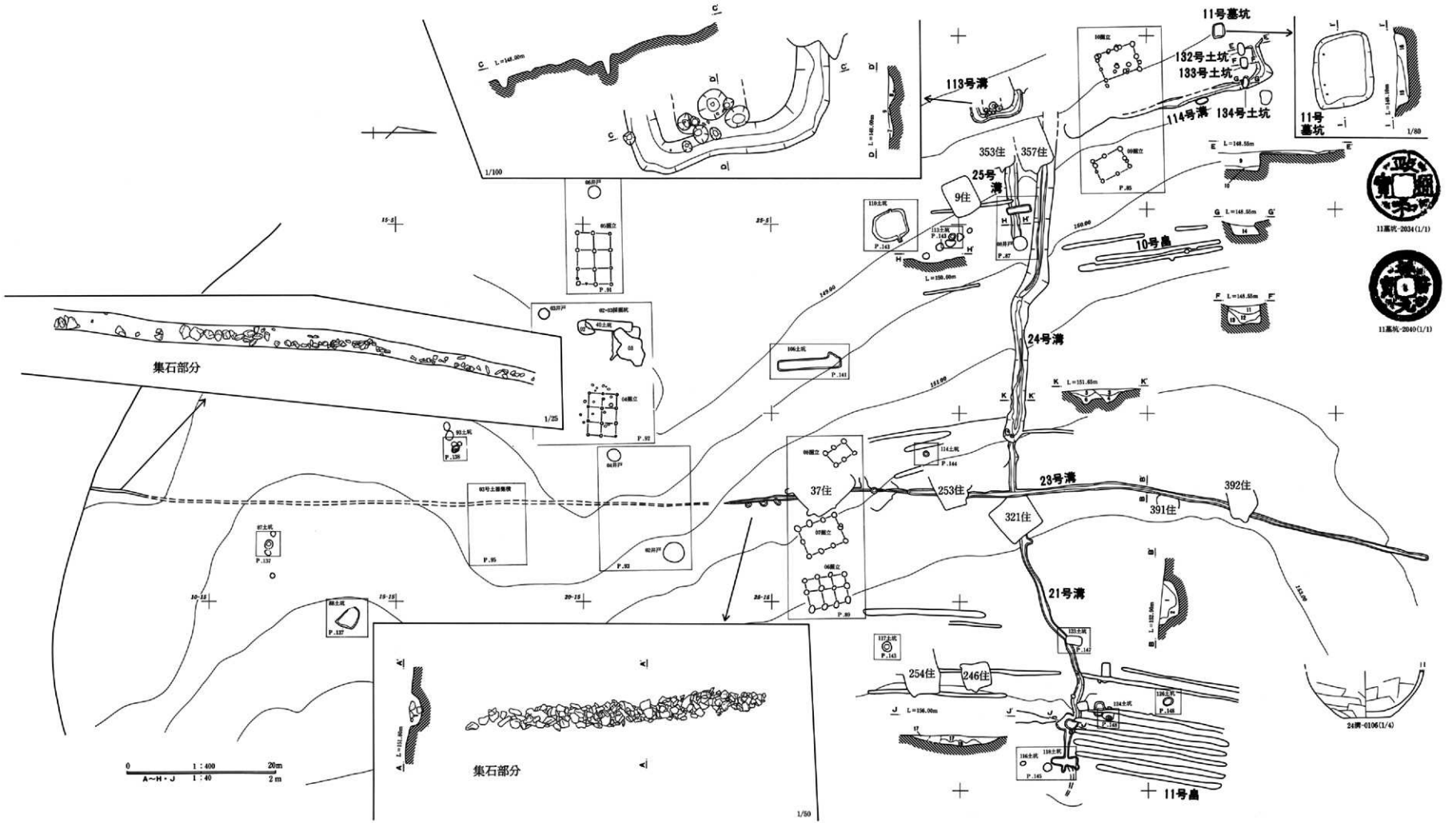
114号溝【埋土】不明。【重複】134号土坑と重複。【形態】等高線に平行して南北方向に延び、北端で西に曲がる（南北28m　東西4m以上　上幅1.3m下幅0.6m深さ0.3m）。南側は不明瞭だが北側と同様に西に向かっている。【遺物】なし。【備考】調査前地境とほぼ一致。西側の10号掘立と長軸があっており、この掘立の屋敷地の区画溝の可能性がある。

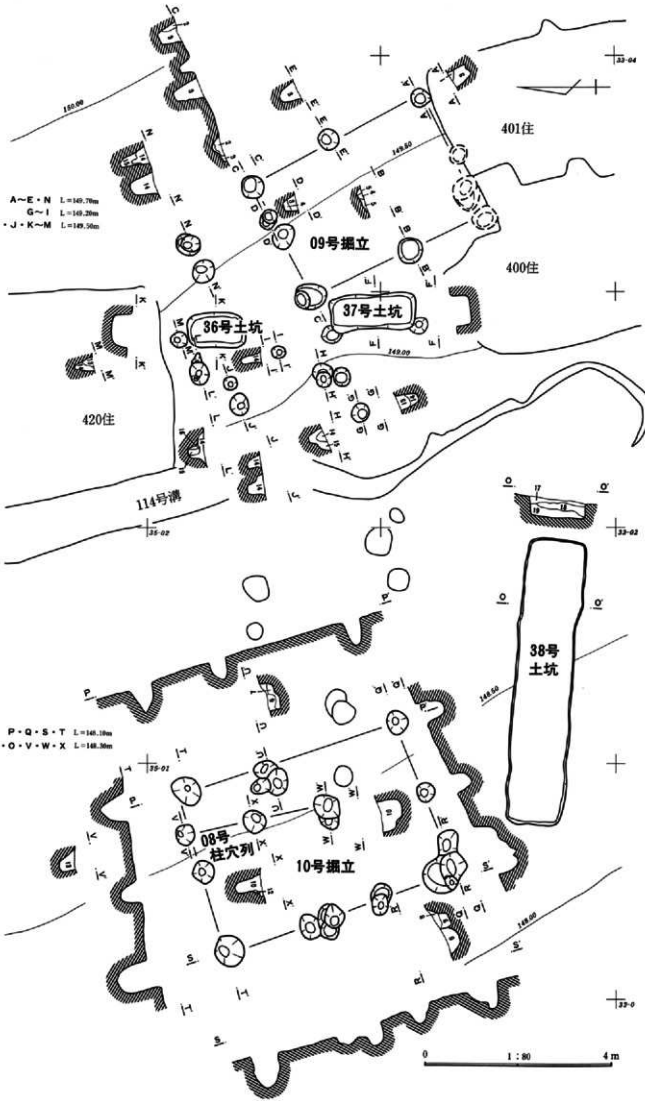
132号土坑【埋土】9褐色土ローム塊混在　10地山【重複】なし。【形態】楕円形でオーバーハング状断面（1.5×0.9×0.4m）。【遺物】不明。【備考】近代か。

133号土坑【埋土】11暗褐色土ローム軽石多　12同前軽石多　13同前黒褐色土塊含【重複】なし。【形態】楕円形でオーバーハング状断面（1.4×0.9×0.5m）。【遺物】不明。【備考】近代か。

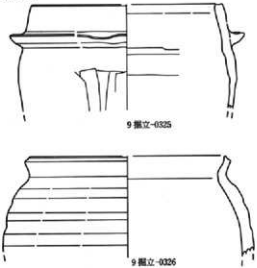
134号土坑【埋土】14暗褐色土ローム褐色軽石多【重複】114号溝と重複。【形態】楕円形でオーバーハング状断面（1.5×0.9×0.5m）。【遺物】不明。【備考】近代か。

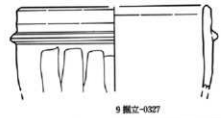
11号墓坑【埋土】15暗黄褐色土ローム主褐色土塊微細粒　16暗褐色土ローム塊含細有【重複】なし。【形態】長軸東西方向の箱形で底平坦（1.9×1.6×0.4m）。【遺物】北宋銭２枚出土*(2034,40)*。【備考】人骨類は残っていなかったが、形状及び銅銭より中世の墓坑と考えられる。


11号墓坑
132号土坑
133号土坑
134号土坑
114号溝
113号溝
353住
357住
25号溝
9住
10号畠
24号溝
23号溝
392住
391住
321住
253住
37住
21号溝
254住
246住
11号畠
集石部分
集石部分
11号墓坑
11墓坑-2034(1/1)
11墓坑-2040(1/1)
24溝-0106(1/4)
1/100
1/25
1/50
1/80
0
1:400
20m
A~H・J
1:40
2m

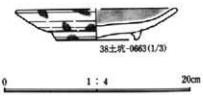

401住
400住
420住
09号掘立
37号土坑
36号土坑
114号溝
38号土坑
08号柱穴列
10号掘立
A～E・N L=149.70m
G～I L=149.20m
F・J・K～M L=149.50m
P・Q・S・T L=148.10m
R・O・V・W・X L=148.30m
1:80
4m

09号掘立





38号土坑



09・10号掘立、08号柱穴列、36～38号土坑【図P.85.86 PL.54】

本地区北西側部分で検出した遺構群。

09号掘立【埋土】1 黄褐色土ローム塊 2 暗黄褐色土ローム塊多細粉 3 暗褐色土ローム塊多細有 4 暗黄褐色土ローム塊多細粉 5 地山【重複】竪穴400・401号住と重複。【形態】2×2間（2.7×4.0m）の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通（径0.4～0.5m）。【遺物】古代須恵器羽釜*(0325,27)*・短頸壺*(0326)*出土。【備考】古代の建物。

10号掘立【埋土】6 暗褐色ローム塊少細粉 7 暗黄褐色土ローム塊多細有 8 暗褐色土ローム塊多細粉 9 黒褐色土ローム粒細粉【重複】08号柱穴列と重複。【形態】2×3間（3.6×5.0m）の南北棟（東辺1側未検出）。柱穴掘り方は普通（径0.5～0.6m）。【遺物】なし。【備考】114号溝と平行近接（約6m）しており、同一時期の可能性がある。

08号柱穴列【埋土】10 暗黄褐色土ローム塊多細粉 11 黄褐色土軟質ローム細粒 12 地山【重複】10号掘立と重複。【形態】南北方向に柱穴3個（3.2m）並ぶ。柱穴掘り方は普通（径0.5m）。【遺物】なし。【備考】10号との関係で、別の組み合わせの可能性も否定できない。

ピット群【埋土】13 暗褐色土ローム粒多細有 14 暗黄褐色土ローム塊多細有 15 暗褐色土ローム塊多細粉有 16 地山【重複】36・37号土坑・09号掘立と重複。【形態】09号掘立の北西側に散在。柱穴掘り方はやや似ている（径0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】09号掘立と関係する別の建物があった可能性が高い。

36号土坑【埋土】不明。【重複】ピット群と重複。【形態】長方形で底はやや不均一（1.2×0.7×0.4m）。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

37号土坑【埋土】不明。【重複】ピット群と重複。【形態】短冊形で底平坦（1.8×0.7×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世。

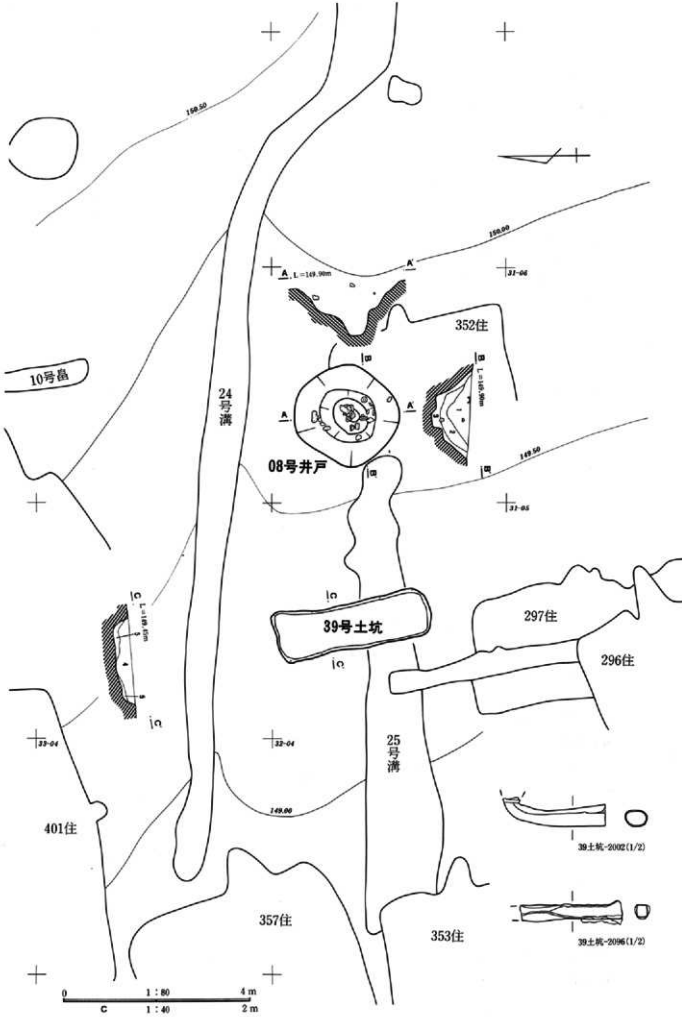
38号土坑【埋土】17 暗褐色土ローム粒白色軽石黒褐色土多 18 黒褐色土ローム塊白色軽石少 19 暗褐色土ローム塊黒褐色土少【重複】なし。【形態】短冊形で底平坦（6.0×1.3×0.5m）。【遺物】瀬戸美濃灰釉皿*(0663)*出土。【備考】近世。

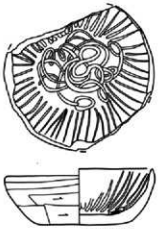
08号井戸、39号土坑【図P.87.88 PL.55】

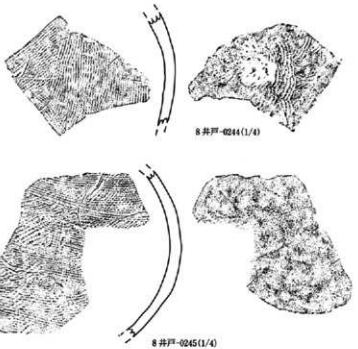
本地区北西側部分で検出した遺構群。

08号井戸【埋土】1 黒褐色土ローム粒少 2 褐灰ローム塊多 3 灰褐色土ローム塊多黒褐色土少【重複】25号溝と重複し、24号溝と近接。【形態】朝顔形（径2.5m深さ1.2m）。【遺物】1層中より古代須恵器坏*(0243)*・甕*(0244,45)*・土師器坏*(0242)*出土。【備考】湧水層の位置不明であまり出水跡が顕著でない。古代か。

39号土坑【埋土】1 黒褐色土浅間A軽石多 5 暗褐色土ローム塊多【重複】25号溝と重複。【形態】短冊形で底平坦（3.3×1.0×0.2m）。【遺物】キセル雁首*(2002)*・火打金状鉄製品*(2096)*出土。【備考】近世後期。


150.50
150.00
A L=149.90m
A'
31-06
352住
10号畠
24号溝
A
A'
08号井戸
149.50
31-05
39号土坑
297住
296住
33-04
32-04
25号溝
149.00
401住
357住
353住
39土坑-2002(1/2)
39土坑-2096(1/2)
0
1：80
4 m
C
1：40
2 m





0　1：3　10cm

06～08・21号掘立、135号土坑【図P.89,90 PL.55】

本地区中央部分で検出した遺構群。

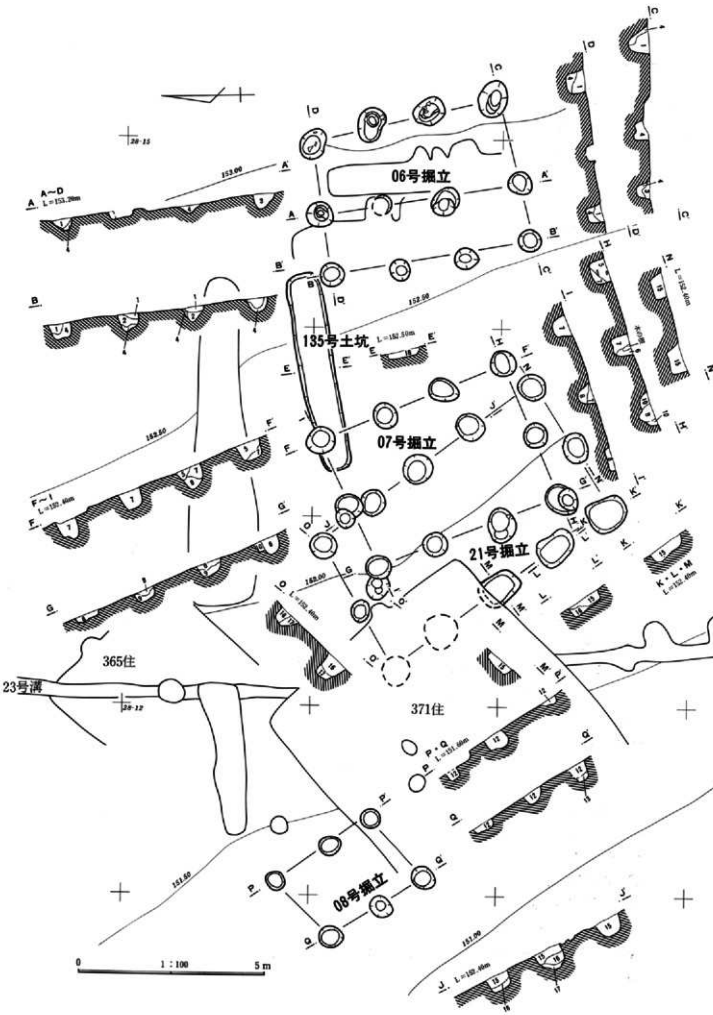
06号掘立【埋土】1暗褐色土焼土粒やや多ローム粒少 2同前焼土ローム粒少 3同前ローム粒少 4同前ローム粒多【重複】竪穴368号住・135号土坑と重複。【形態】2×3間総柱（5.3×3.9m）の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい（径0.6～0.9m）。【遺物】古代須恵器甕*(0216,17)*、土師器坏*(0214,15)*・甕*(0213)*出土。【備考】古代の倉庫状建物。

07号掘立【埋土】5暗褐色土ローム焼土粒含 6同前ローム粒少縞状 7同前ローム焼多 8同前ローム焼少 9同前ローム焼多 10暗茶褐色土ローム粒含 11地山【重複】135号土坑・21号掘立と重複。371号住と近接。【形態】2×4間（4.0×5.2m）の南北棟。柱穴掘り方は大きい（径0.6～0.9m）。【遺物】古代須恵器坏蓋*(0218)*出土。【備考】古代の建物。

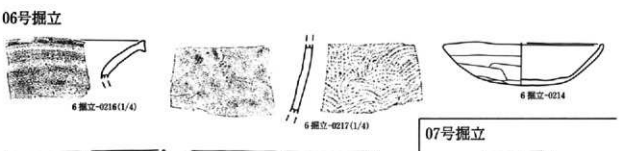
08号掘立【埋土】12暗褐色土ローム粒含 13同前ローム粒多 14地山【重複】371号住と重複。【形態】1×2間（2.1×3.0m）の北西・南東棟。柱穴掘り方は普通（径0.4～0.6m）。【遺物】なし。【備考】東側の掘立建物と同様に古代の可能性が高いが、規模は小さく走向もやや異なる。

21号掘立【埋土】15暗褐色土ローム粒多 16同前褐色ローム焼多 17同前ローム粒多【重複】07号掘立・371号住と重複。【形態】2×4間（3.8×6.8m）の南北棟（北西辺2個未検出）。柱穴掘り方は大きい（径0.7～1.0m）。【遺物】なし。【備考】調査時には認識していない大型の古代建物。

135号土坑【埋土】18暗褐色土ローム粒極石多【重複】06・07号掘立と重複。【形態】短冊形で底平坦（5.3×1.0×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世。


06号掘立
135号土坑
07号掘立
21号掘立
365住
23号溝
371住
08号掘立
A～D
F～I
K・L・M
P・Q
J
0
1：100
5m

06号掘立



05号掘立、06号井戸【図P.91 PL.56】

本地区南西部分で検出した遺構群。

05号掘立【埋土】不明。【重複】なし。【形態】2×3間総柱（4.4×6.8m）の東西棟。柱痕に比べ柱穴掘り方はやや小さい（径0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】倉庫状建物。位置的に06号井戸と関係があるだろう。同様の形態の04号掘立は東9mの位置で並ぶ。中世か。

06号井戸【埋土】1 灰黄色灰白色粗石多 2 同固粗石無 3 灰白色粘土塊 4 黒褐色粘質土黄色土ローム塊崩壊 5 同固黒色土多 6 灰白色粘土ローム粒少【重複】なし。【形態】円筒形（径1.5m深さ1.9m）。湧水痕あり（－1.2m）。【遺物】なし。【備考】位置的に05号掘立と関係があるだろう。中世か。

04号掘立、03号井戸、02・03号採掘坑、40号土坑【図P.92 PL.56,57】

本地区南西部分で検出した遺構群。

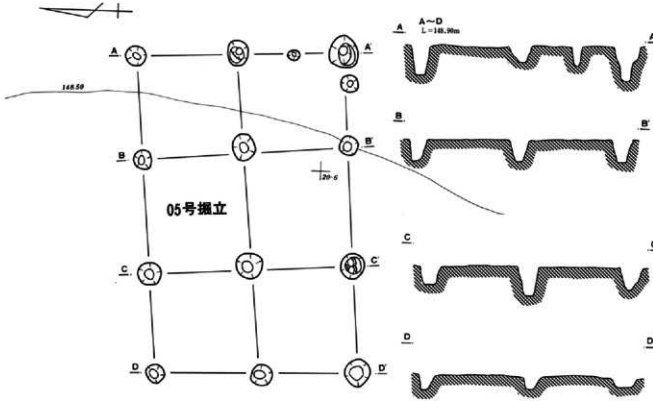
04号掘立【埋土】不明。【重複】周辺にはピットが多く、他にも掘立があった可能性がある。【形態】2×3間総柱（3.7×5.6m）の東西棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は小さい（径0.2～0.3m）。【遺物】なし。【備考】同様の形態の05号掘立は西9mを隔てて並ぶ。03・04号井戸とも関係あるだろう。中世か。

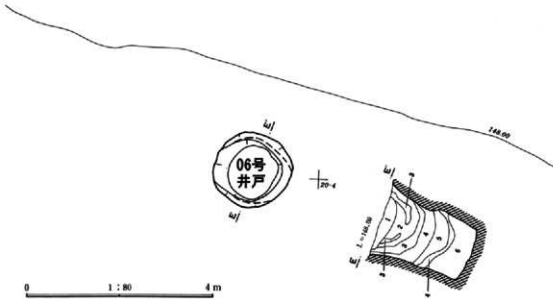
03号井戸【埋土】1 黒褐色砂質土灰白色粗石ローム粒黒土炭化粒少 2 暗褐色砂質土灰白色粗石ローム粒黄白色粒土含 3 同前含有物少4 黒褐色粘質土黄灰色粘土塊崩壊 5 同固粘土多 6 同固粘土少 7 粘土塊 8 暗茶褐色粘質土粘土少 9 同前粘土多 10 黄褐色粘土暗褐色粘質土混【重複】なし。【形態】円筒形（径1.4m深さ1.5m）。【遺物】なし。【備考】湧水層の位置不明であまり出水跡が顕著でない。人為的に埋没。中世か。

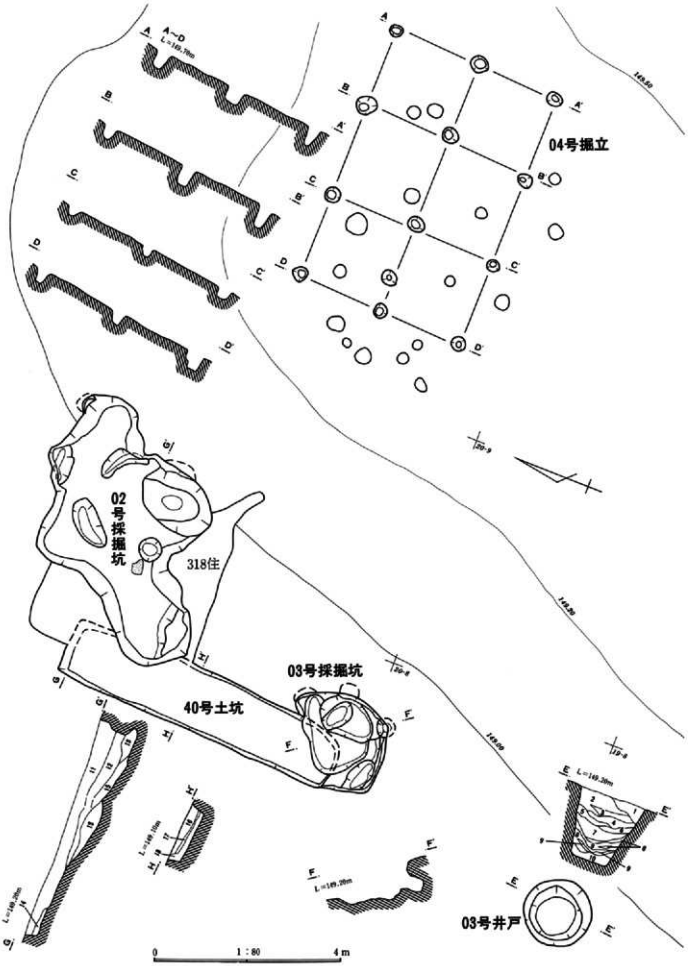
02号採掘坑【埋土】11 黒色土白色粗石多 12 茶褐色土ローム塊多 13 同前ローム塊少 14 地山 15 茶褐色土ローム塊崩多【重複】竪穴318号住・40号土坑と重複。【形態】平面不定形（5.9×3.6×0.9m）で3カ所にオーバーハングの掘削部がある。【遺物】なし。【備考】粘土層の採掘は行っていなく、ローム土を取った状態。古代以後だが、近い04号掘立と同時期か。

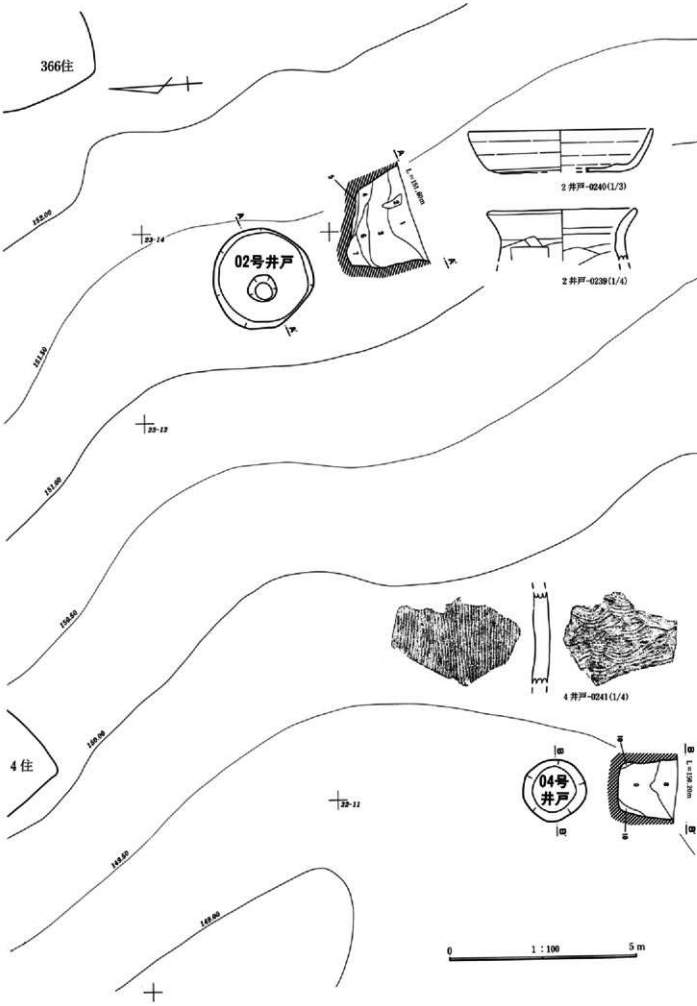
03号採掘坑【埋土】不明。【重複】40号土坑と重複。【形態】平面不定形（2.5×1.7×0.8m）で3カ所にオーバーハングの掘削部がある。【遺物】なし。【備考】02号採掘坑と同様。

40号土坑【埋土】16 黒褐色土ローム塊白色粗石多 17 同前白色粗石無色土含 18 同前白色粗石多【重複】02・03号採掘坑、竪穴318号住と重複。【形態】短冊形で底平坦（5.9×1.3×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世後期。


A～D
L=148.90m
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
148.50
20-6
05号掘立


148.00
06号
井戸
20-4
L=148.00
0
1:80
4m


04号掘立
02号採掘坑
318住
03号採掘坑
40号土坑
03号井戸
0
1:80
4m


366住
152.00
151.50
151.00
150.50
150.00
149.50
149.00
23-14
23-13
23-11
02号井戸
L=135.80m
2井戸-0240(1/3)
2井戸-0239(1/4)
4井戸-0241(1/4)
4住
04号井戸
L=138.30m
0
1:100
5m

02・04号井戸【図P.93 PL.57】

本地区南西側で検出した遺構群。

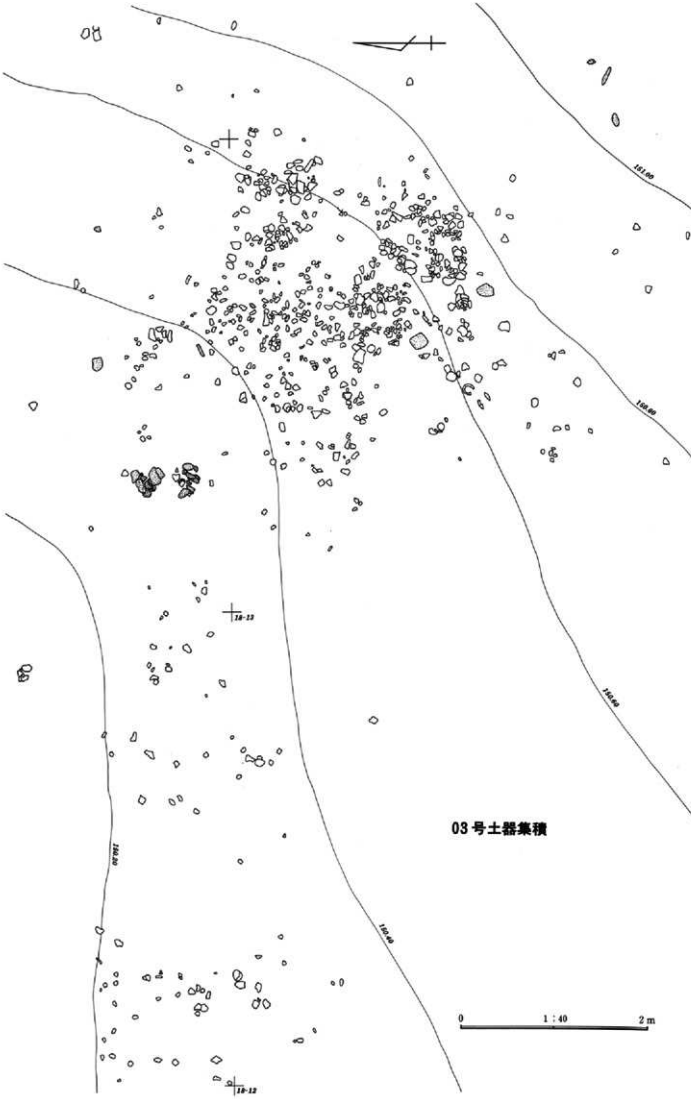
02号井戸【埋土】1 黒色土灰白色軽石少 2 褐色土ローム塊主 3 黒色土ローム塊少 4 褐色土ローム粒主 5 灰白色粘土 6 黒色土ローム塊多 7 黒褐色土ローム塊灰白色粘土黒褐色土混在【重複】なし。【形態】朝顔形（上径3.0m底径0.5m深さ2.1m）。【遺物】古代須恵器坏*(0240)*・土師器甕*(0239)*出土。【備考】底径の大きさが本来の形状だろう。湧水層の位置不明であまり出水跡が顕著でない。古代。

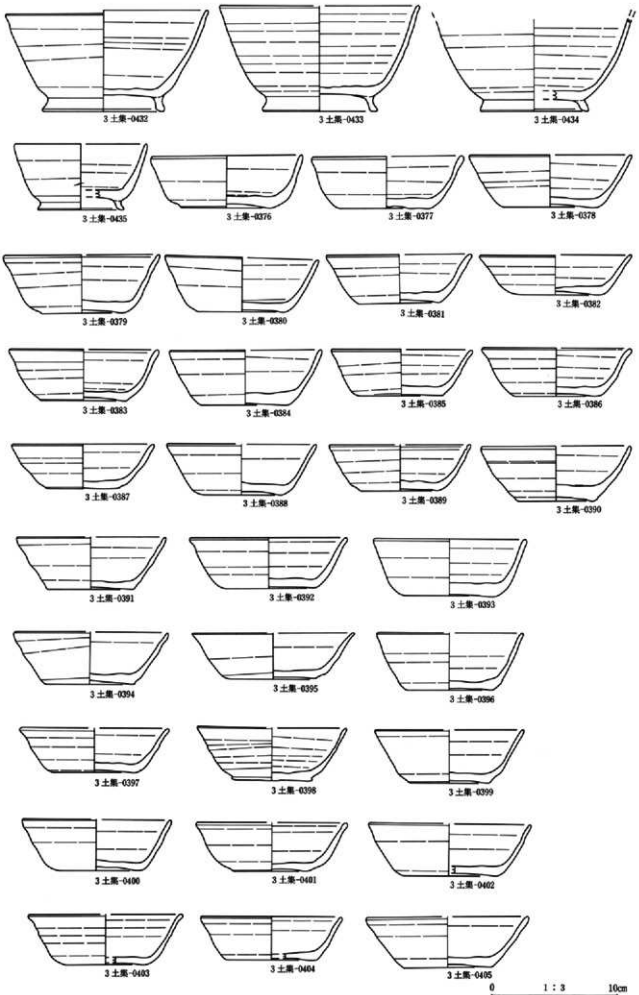
04号井戸【埋土】8 灰褐色土黒色土灰褐色粘土斑在 9 黒色土灰褐色粘土塊 10 茶褐色土ローム主黒色土混在【重複】なし。【形態】円筒形（径1.5m深さ1.8m）。【遺物】古代須恵器甕片*(0241)*出土。【備考】湧水層の位置不明であまり出水跡が顕著でない。時期不明だが、距離的には西に6m離れた04号掘立が最も近い。04・03・06号井戸で囲まれた部分（東西40m南北15m）の範囲に04・05号掘立と02・03号採掘坑が位置し、配置状況から同一時期と考えられる。だが、この範囲の遺物は僅少で、本井戸の小片以外は、遺構外遺物として04号掘立南東(20-10G)で中世土師器小皿*(0536)*そして本井戸東側(21-12G)で袋状鉄斧*(2080)*を確認した程度である。全体としては中世の可能性を想定したい。

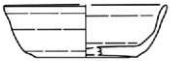
03号土器集積【図P.95～99 PL.58～61】

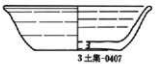
本地区南西側で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】北西に向かう緩い傾斜地に長方形状（主軸東西方向約10.2×6.0m）範囲で土器片が集中分布。北西端には2カ所の自然石が組まれた部分がある。【遺物】古代須恵器と土師器片計723片の破片の分布が見られた。須恵器碗類*(0432～35)*・坏*(0376～0431,0462,67,68)*・坏蓋*(0436～49)*・盤類*(0450～52)*・瓶*(0454)*・大甕*(0470,71)*・甕*(0456～61)*・小型甕*(0453,55)*、土師器坏*(0367～73,0469)*、土錘*(0463～66)*などが出土した。その他に遺構外遺物として後述した須恵器坏*(0552,54)*そして土錘*(0292,0582～84,86～90,92,93,95)*もこの集積の遺物と考えられる。【備考】全体としては、須恵器坏と坏蓋が圧倒的に多く、また土錘も数がまとまっている。石組の存在そして直線状に見える中心部分の土器片の散布状況から、この場所に意図的に配置した可能性は高い。ここに何らかの構造物があったかは不明だが、単なる廃棄場所のようなものではないと思われる。この周辺は、竪穴の空白地帯で、最も近い東の319号住まで10mの距離がある。

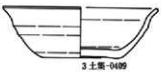

03号土器集積
0
1:40
2m

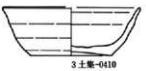

3土集-0432
3土集-0433
3土集-0434
3土集-0435
3土集-0376
3土集-0377
3土集-0378
3土集-0379
3土集-0380
3土集-0381
3土集-0382
3土集-0383
3土集-0384
3土集-0385
3土集-0386
3土集-0387
3土集-0388
3土集-0389
3土集-0390
3土集-0391
3土集-0392
3土集-0393
3土集-0394
3土集-0395
3土集-0396
3土集-0397
3土集-0398
3土集-0399
3土集-0400
3土集-0401
3土集-0402
3土集-0403
3土集-0404
3土集-0405
0
1∶3
10cm


3土集-0406


3土集-0407

3土集-0408


3土集-0409


3土集-0410

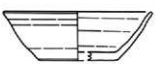
3土集-0411

3土集-0412

3土集-0413

3土集-0414

3土集-0415


3土集-0416

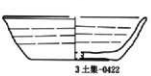
3土集-0417

3土集-0418

3土集-0419

3土集-0420

3土集-0421


3土集-0422

3土集-0423

3土集-0424

3土集-0425

3土集-0426

3土集-0427

3土集-0428

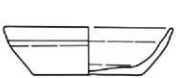
3土集-0429

3土集-0430

3土集-0431

3土集-0462

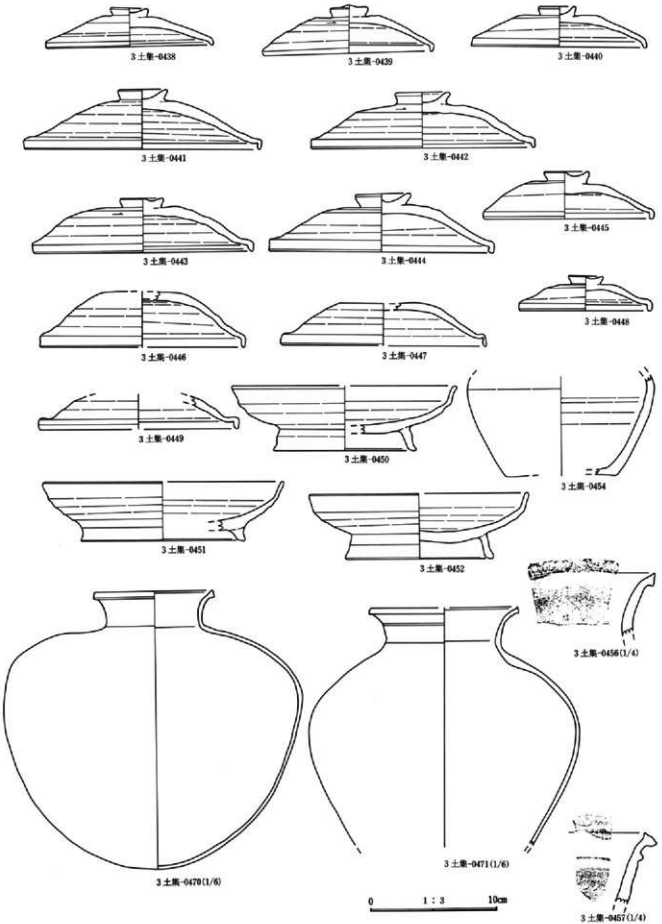
3土集-0467

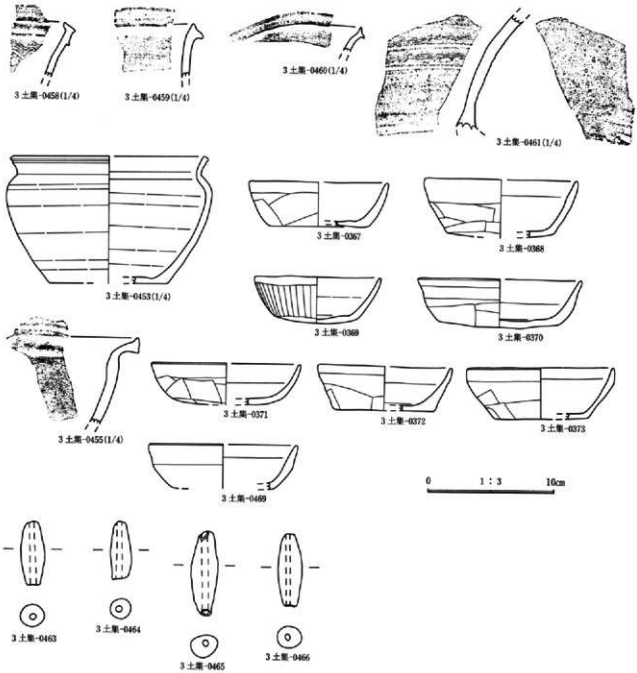

3土集-0468

3土集-0436

3土集-0437

0 1：3 10cm


3土集-0438
3土集-0439
3土集-0440
3土集-0441
3土集-0442
3土集-0445
3土集-0443
3土集-0444
3土集-0448
3土集-0446
3土集-0447
3土集-0449
3土集-0450
3土集-0454
3土集-0451
3土集-0452
3土集-0456(1/4)
3土集-0470(1/6)
3土集-0471(1/6)
0
1：3
10cm
3土集-0457(1/4)


3土集-0458(1/4)
3土集-0459(1/4)
3土集-0460(1/4)
3土集-0461(1/4)
3土集-0453(1/4)
3土集-0367
3土集-0368
3土集-0369
3土集-0370
3土集-0455(1/4)
3土集-0371
3土集-0372
3土集-0373
3土集-0469
0
1：3
10cm
3土集-0463
3土集-0464
3土集-0465
3土集-0466

07～09・12・17～20号溝、41～46号土坑【図P.101,102 PL.61～63】

本地区中央南側で検出した遺構群。

07号溝【埋土】1黒褐色土ローム粒微　2同層ローム灰白色粘土塊多　3暗褐色土ローム粒軽石少【重複】未命名土坑（1,2層）に切られる。【形態】直線状に南北方向に延びる（長10.5m上幅1.0m下幅0.8m深さ0.2m）。【遺物】中世土師器埴*(0092)*出土。また自然礫が多い。【備考】調査前地境とは一致しない。中世の地境か。

08号溝【埋土】4暗褐色土焼関A軽石多　5同層ローム小塊含【重複】09号溝、01号掘立と近接。【形態】直線状に南北方向に延びる（長20m上幅0.5m下幅0.2m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致しない。近世地境。

09号溝【埋土】不明。【重複】08号溝近接。【形態】直線状東西方向に延び、途中北北東方向分岐（長19.6m上幅0.3m下幅0.1m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前現道延長に類似。近世地境か。

12号溝【埋土】6黒褐色土ローム塊多灰白色粘土炭化粒微【重複】22・23号掘立より旧か。【形態】北東・南西方向に直線状（長30m上幅1.0m下幅0.8m深さ0.1～3m）。ピット（径0.5m深さ0.2m）不等間隔で並ぶ。【遺物】古代須恵器転用硯*(0096)*・甕？*(0097)*、土師器坏*(0093)*・盤？*(0094)*出土。【備考】調査前地境と不一致。古代。

17号溝【埋土】7黒褐色土ローム粒少　8同前ローム塊小石含　9黄褐色砂質土ローム粒　10褐色土ローム土黒褐色土少【重複】未命名土坑２基（近世か）と重複。【形態】やや湾曲して西から東に走った（長23m）後、南に曲がって（長６m）さらに南西方向（長２m）に向かう（上幅2.0m下幅0.8m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致しない。時期不明の自然流路。

18号溝【埋土】11耕作土　12暗褐色土焼関A軽石多混い　13明茶褐色土A軽石ローム粒含　14同前砂質土　15同前細砂互層　16暗茶褐色土A軽石ローム粒含【重複】未命名土坑（近世？）・竪穴145・282・208号住と重複。【形態】東西方向に直線状に延びる（長14m上幅1.8m下幅1.4m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近世～近代の地境。水流痕あり。

19号溝【埋土】17盛土　18黒褐色土焼関A軽石多混ローム粒少　19同前黒褐色粘質土互層　20同前軽石ローム粒多　21同前比較色　22同前軽石量多混　23同前比較石少　24暗茶褐色土ローム粒混　25黒褐色土ローム粒軽石少　26暗茶褐色土ローム粒混【重複】04・13号溝重複。【形態】東西方向に直線状（長24m上幅2.2m下幅2.0m深さ0.3m）。【遺物】近代東北磁器肥前*(0102)*、近世肥前染付碗*(0103)*、古代須恵器坏*(0099)*・甕*(0100,01)*・鉄滓*(2117)*出土。【備考】調査前現道と一致。近世近代地境。有水流痕。

20号溝【埋土】27暗褐色土ローム塊多【重複】04号溝、45号土坑、竪穴209・379号住と重複。【形態】東北東・西南西方向に直線状に延びる（長25m上幅1.7m下幅1.0m深さ0.2m）。段差（0.1m）が２カ所あり、西側ではピット（径約0.7m深さ約0.2m）が重なる。【遺物】西側のピット付近で古代須恵器蓋*(0104)*・甕*(0105)*、鉄滓*(2121)*出土。【備考】調査前地境とは一致しないが、古代道構とは断定しがたく、時期不明。

41号土坑【埋土】28暗褐色砂質土白色粘粒多【重複】なし。【形態】円形（1.3×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

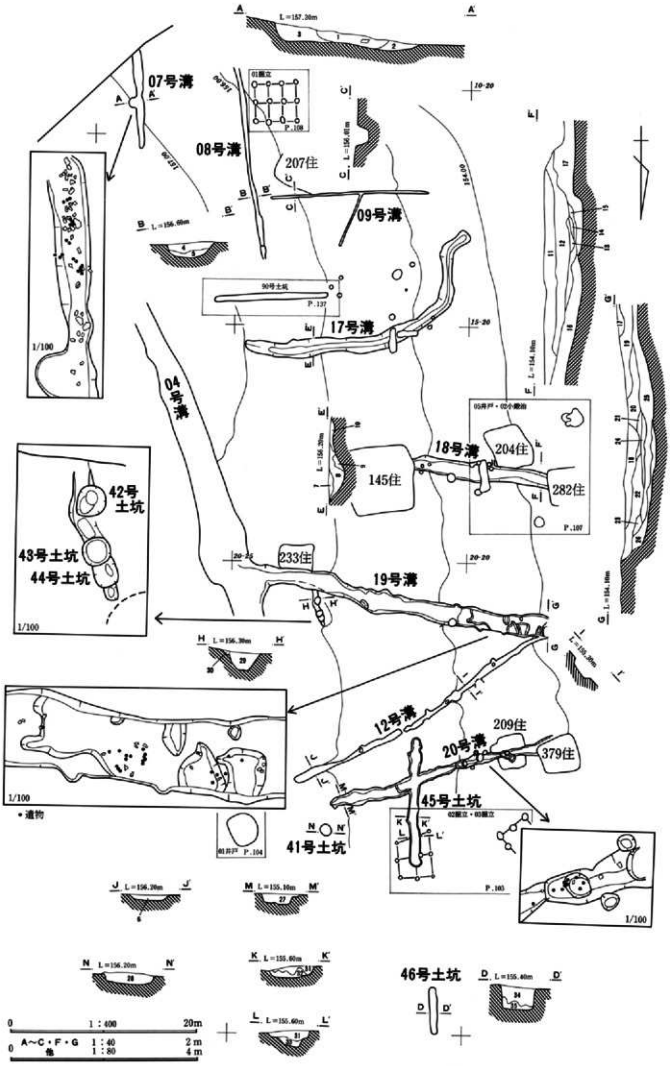
42号土坑【埋土】29黒褐色土焼土炭化粒多ローム塊微　30暗褐色土焼土炭化粒少【重複】溝状掘り込みと重なるが詳細不明。【形態】楕円形（0.9×0.7×0.4m）。【遺物】確実なもの不明。【備考】調査時には溝とした。時期性格不明。

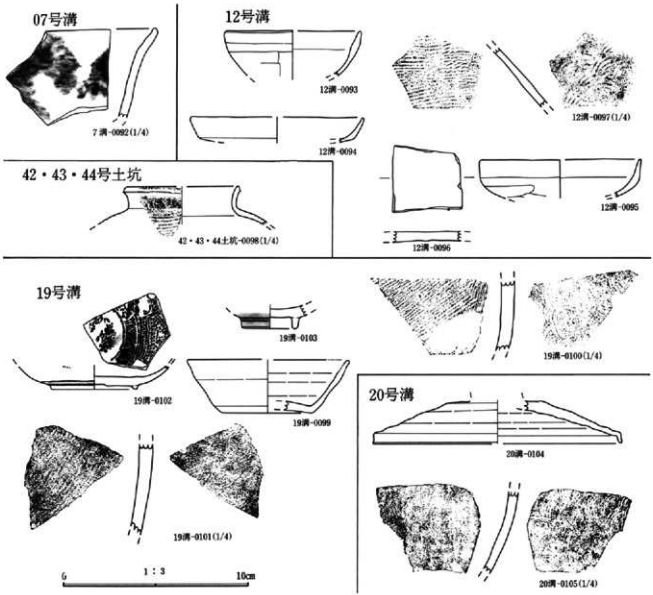
43号土坑【埋土】42号土坑と同様【重複】44号土坑・溝状掘り込みと重なるが詳細不明。【形態】隅丸方形（0.8×0.7×0.3m）。【遺物】確実なもの不明。【備考】調査時には溝とした。時期性格不明。

44号土坑【埋土】不明。【重複】43号土坑・溝状掘り込みと重なるが詳細不明。【形態】楕円形（約0.8×0.7×0.2m）。【遺物】確実なもの不明。【備考】調査時には溝とした。時期性格不明。

45号土坑【埋土】31暗褐色土ローム塊微　32黄褐色土　33、02号掘立柱穴【重複】02号掘立より新。20号溝と重複。【形態】南北方向に短冊形が３基程度重なる（13.7×1.1×0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代。

46号土坑【埋土】34暗褐色土白色細粒多　35同前砂質土ローム塊多【重複】なし。【形態】南北方向の短冊形（4.8×0.8×0.5m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境の延長方向。近代。


07号溝
08号溝
09号溝
17号溝
04号溝
18号溝
19号溝
12号溝
20号溝
207住
145住
204住
282住
233住
209住
379住
42号土坑
43号土坑
44号土坑
41号土坑
45号土坑
46号土坑
90号土坑
01周辺
02周辺
03周辺・02小畝群
02周辺・03周辺
01周辺 P.104
P.100
P.107
P.105
1/100
・遺物
0 1:600 20m
A～C・F・G 1:40 2m
0 他 1:80 4m



02・03号掘立【図P.103 PL.63】

本地区南西部分で検出した遺構群。

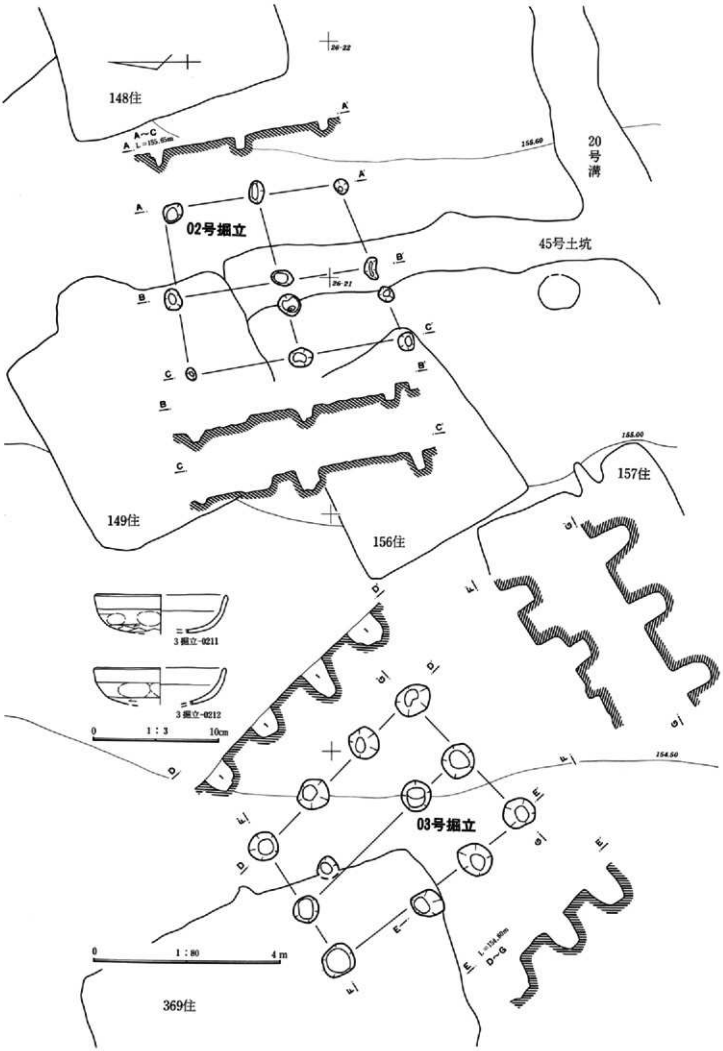
02号掘立【埋土】暗褐色土ローム粒含【重複】45号土坑、149・156号住と重複。【形態】歪んだ2×3間総柱（3.5×4.7m）の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方はやや小さい（径0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】この状態での建物かは断定できない。中世か。

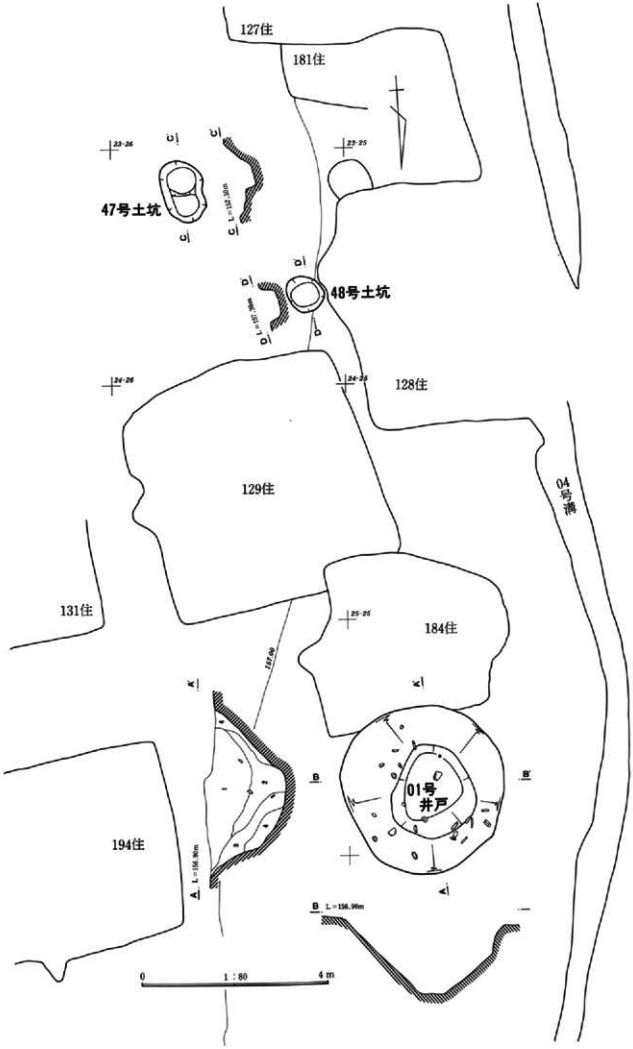
03号掘立【埋土】1 暗褐色土ローム粒多炭化粒少【重複】369号住と重複。【形態】やや歪んだ2×3間総柱（3.4×5.0m）の東西棟（北西側内部柱穴不明）。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい（径0.6～0.8m）。【遺物】古代土師器坏*(0211,12)*出土。【備考】古代の倉庫状建物か。

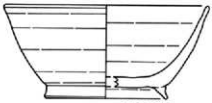
01号井戸、47・48号土坑【図P.104,105 PL.64】

本地区東部分で検出した遺構群。

01号井戸【埋土】1 暗褐色砂質土炭黄白色軽石少粒 2 同前軽石少 3 暗茶褐色粘質土ローム粒多軽石少 4 同前ローム粒最多灰白色粒土塊【重複】竪穴184号住と重複。【形態】朝顔形（上径3.6m底径0.6m深さ1.7m）。【遺物】古代須恵器碗*(0227～29)*・坏*(0219～26)*・坏蓋*(0230,31)*・甕*(0232～37)*、刻書平瓦片*(0238)*出土。【備考】底径の大きさが本来の形状だろう。湧水層の位置不明で、あまり出水跡が顕著でない。古代。（P.106に続く）


148住
20号溝
02号掘立
45号土坑
149住
156住
157住
3掘立-0211
3掘立-0212
1 : 3
10cm
03号掘立
1 : 80
4m
369住


127住
181住
23-26
23-25
47号土坑
48号土坑
24-26
24-25
128住
129住
04号溝
131住
25-25
184住
194住
01号
井戸
B
B'
A
A'
B L=154.90m
0
1:80
4m

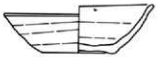

1井戸-0227

1井戸-0228

1井戸-0229

1井戸-0219

1井戸-0220

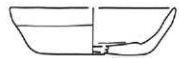

1井戸-0221

1井戸-0222

1井戸-0223

1井戸-0224

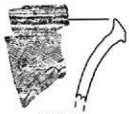
1井戸-0225


1井戸-0226

1井戸-0230

1井戸-0231

0　1：3　10cm


1井戸-0232

1井戸-0233

1井戸-0234

1井戸-0235

1井戸-0237

1井戸-0236

1井戸-0238

0　1：4　20cm

（P.102より）**47号土坑**【埋土】不明。【重複】なし。【形態】主軸南北方向の８字形で南側が深い（1.3×0.9×0.5m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

48号土坑【埋土】不明。【重複】竪穴128号住重複。【形態】円形で底平坦（0.8×0.8×0.3m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

05号井戸、02号小鍛冶、49～53号土坑【図P.107 PL.64,65】

本地区南部分で検出した遺構群。

05号井戸【埋土】1 灰白色粘土 2 黒褐色ローム粒含 3 同褐粘土塊ローム塊含 4 同褐ローム粒土粒少 5 同褐粘土塊斑紋【重複】竪穴283号住近接。【形態】円筒形（上径1.2m底径1.0m深さ1.6m）。【遺物】なし。【備考】５層中に大小53個の自然礫があり、人為的に埋められている。湧水層の位置不明で、あまり出水跡が顕著でない。時期不明。

02号小鍛冶【埋土】6 黒褐色炭化顆区焼土の輪で有機【重複】竪穴280号住内で検出。281・284号住近接。【形態】不定形（2.0×1.8×0.4m）で上下２段に分かれる。上段に炉跡が残る。【遺物】なし。【備考】不定形であるにも関わらず、280号住の平面形と大きく食い違いがない。280号住との関係は同時期の可能性もありうるが、調査者は竪穴廃棄後の「空間転用」としている（1990『矢田遺跡』P.231参照）。古代か。

49号土坑【埋土】7 赤色土焼土塊多黒褐色土混 8 黒褐色土焼土塊少 9 同前ローム粒多【重複】竪穴283号住内で検出。【形態】楕円形状（0.7×0.5×0.2m）。【遺物】なし。【備考】焼土はむしろ西外側に散布しており、283号住の内部施設と考えた方が自然である。古代か。

50号土坑【埋土】10 暗茶褐色土焼土炭化粒多 11 同前ローム粒多【重複】なし。【形態】楕円形（0.7×0.6×0.3m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

51号土坑【埋土】12 暗褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】ピット状（上径0.4m底径0.3m深さ0.3m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

52号土坑【埋土】不明。【重複】18号溝、53号土坑と重複。【形態】主軸南北方向の短冊形（3.4×0.9×0.3m）。【遺物】なし。【備考】近世。

53号土坑【埋土】不明。【重複】52号土坑と重複。【形態】楕円形平面で浅い（約0.8×0.8×0.1m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

01号掘立、01号柱穴列、54・55号土坑【図P.108 PL.65】

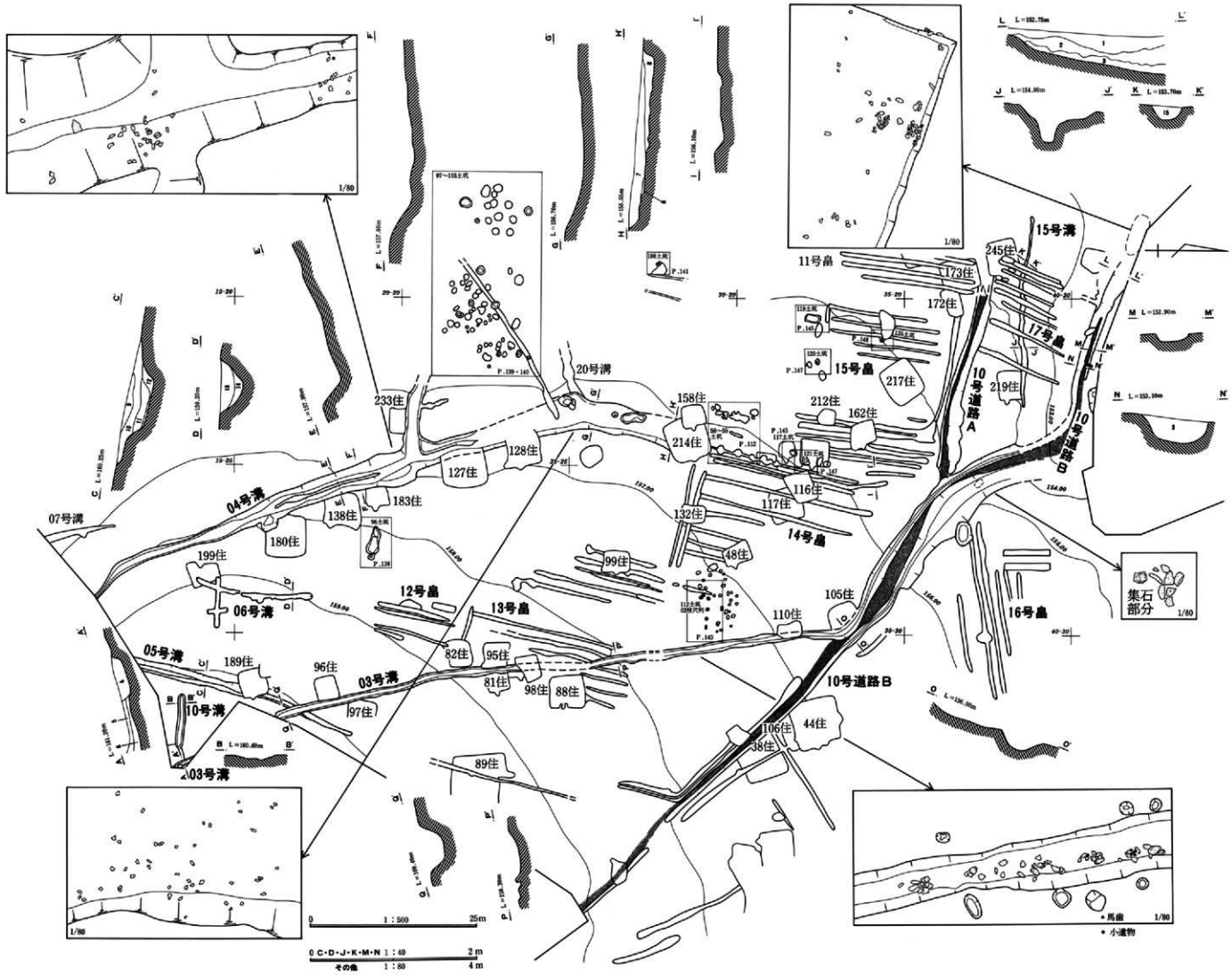
本地区南端で検出した遺構群。

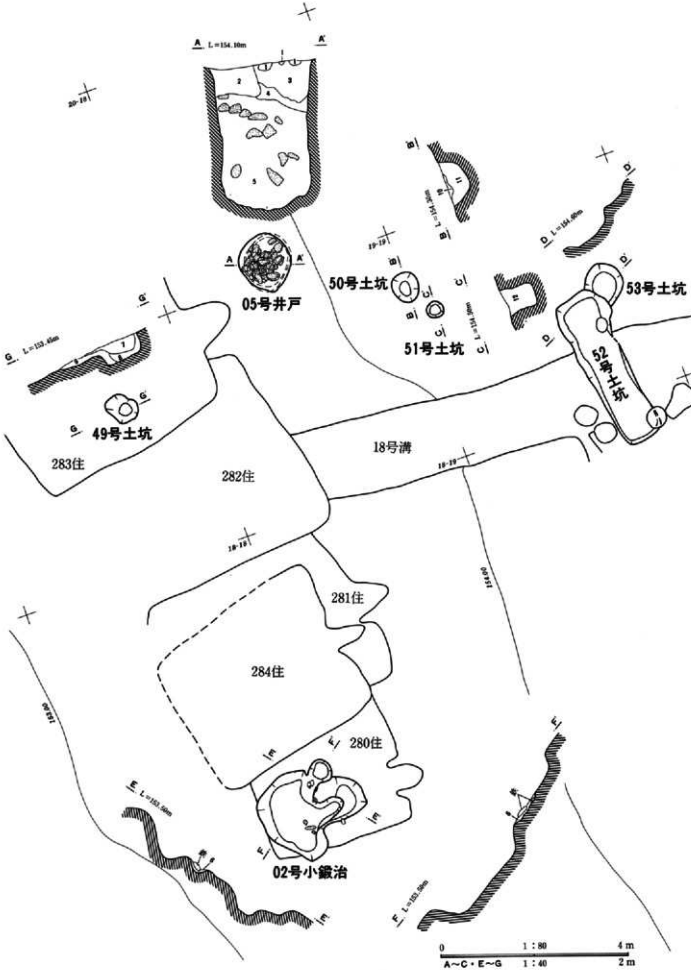
01号掘立【埋土】1 暗灰褐色土焼土炭化粒含 2 地山【重複】竪穴222号住と重複。08号溝近接。【形態】２×３間総柱（4.0×4.3m　南西側の１個は浅いためか検出できず）の東西棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通（径0.4～0.5m）。【遺物】なし。【備考】中世か。

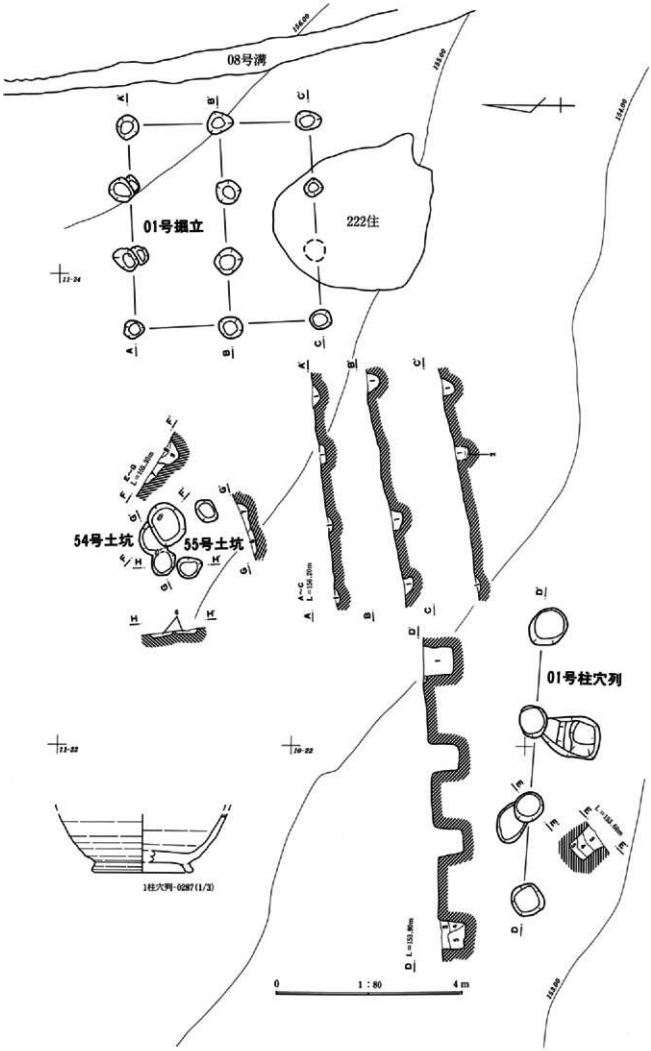
01号柱穴列【埋土】3 暗茶褐色土灰白色粘土塊多焼土粒少 4 同前粘土塊最多 5 同前粘土塊多焼土炭化粒含【重複】未命名土坑重複。【形態】東西方向の４個の列（長5.8m）。柱穴掘り方は大きい（径0.7～0.9m）。【遺物】古代須恵器碗(0287)出土。【備考】形状からは建物の柱穴と考えるのが自然だが、調査時には他の柱穴は検出していない。古代。

54号土坑【埋土】6 暗褐色土炭化焼土粒含 7 同前焼土粒少【重複】55号土坑より旧。【形態】東西方向主軸の８字形（1.3×0.5×0.2m）。【遺物】なし。【備考】２個の楕円形土坑重複の可能性もある。時期不明。

55号土坑【埋土】8 暗褐色土ローム粒微 9 同前ローム粒多【重複】54号土坑より新。【形態】楕円形平面でやや深い（0.9×0.7×0.4m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。


15号溝
245住
11号畠
173住
172住
17号畠
15号畠
217住
10号道路A
219住
10号道路B
20号溝
233住
158住
212住
162住
214住
128住
127住
116住
117住
132住
14号畠
183住
138住
04号溝
07号溝
180住
199住
99住
48住
12号畠
13号畠
06号溝
105住
110住
16号畠
05号溝
189住
96住
82住
95住
03号溝
81住
98住
88住
97住
10号溝
10号道路B
106住
44住
38住
03号溝
89住
集石部分
1/80
1:500
25m
0 C・D・J・K・M・N 1:40 2m
その他 1:80 4m
馬歯
小遺物


05号井戸
50号土坑
51号土坑
52号土坑
53号土坑
49号土坑
283住
282住
281住
284住
280住
18号溝
02号小鍛冶
0
1:80
4m
A~C・E~G
1:40
2m


08号溝
01号掘立
222住
54号土坑
55号土坑
01号柱穴列
1柱穴列-0287(1/3)
0
1：80
4m

12～17号畠、10号道路、03～06・10・15号溝【図P.109～114 PL.66～68】

本地区南東側で検出した遺構群。

12号畠【埋土】不明。【重複】なし。【形態】長方形状区画（5×13m）に南北方向で隙間を含み4列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

13号畠【埋土】不明。【重複】03号溝と重なる。【形態】長方形状区画（37×28m）に南北方向で隙間を含み12列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

14号畠【埋土】不明。【重複】西側で56～59号土坑などと重なる。【形態】長方形状区画（27×16m）に南北方向で隙間を含み10列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

15号畠【埋土】不明。【重複】10号道路Aと接する。【形態】長方形状区画（23×22m）に南北方向で中央に隙間を含み10列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

16号畠【埋土】不明。【重複】03号溝と接する。【形態】長方形状区画（27×10m）に東西方向で隙間を含み6列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画とは一致しない。近世の畠跡か。

17号畠【埋土】不明。【重複】15号溝と重なる。【形態】長方形状区画（15×13m）に南北方向で隙間を含み8列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

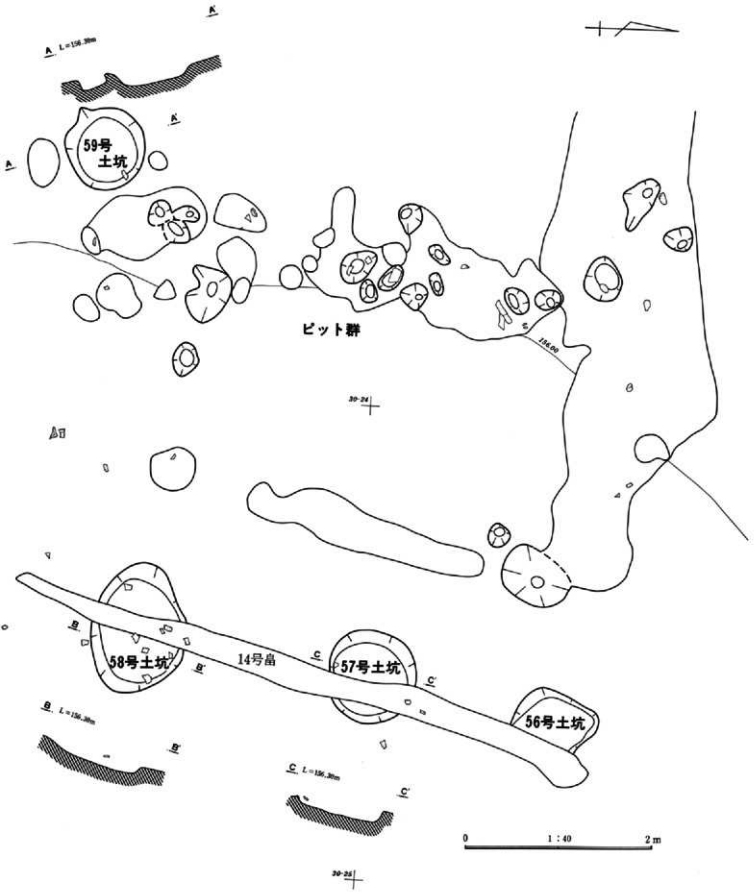
10号道路【埋土】1 暗褐色砂質土締作土多　2 茶褐色粘質土黒褐色土塊多　3 黒褐色土上白色細粒多軟下茶褐色土塊少硬【重複】03号溝と合流。【形態】南東から北西へ34-30G付近まで直線状に走り（長65m路面幅最大2m）、そこから西北西方向へ曲がる（道筋A長50m）。また36-25G付近から北北東方向へ曲がって20mほど進み、さらに西北西方向へ向かう道筋（道筋B）もある。側溝は基本的に北東側のもの（最大幅6m）が続くため、後者の道筋が古い。南西側側溝は、北側では03号溝の延長部分が果たす。【遺物】道筋B側溝で鉄滓*(2118)*出土。【備考】道筋Bは大字多胡・矢田の境界に、またAは調査前現道に一致。Bが古い道筋と考えられる。03号溝遺物よりBは近世中期。

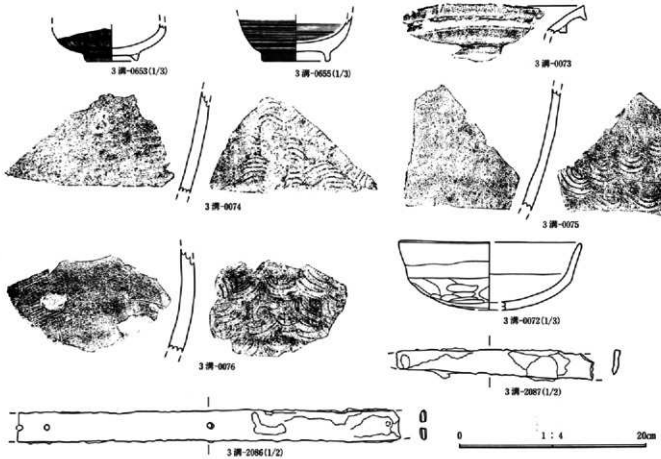
03号溝【埋土】4 黒褐色土ローム粒双白色粘石少　5 暗褐色土ローム粒多　6 黄褐ローム塊混（5、6は壁内埋土）【重複】05号溝より旧。13号畠と重複し、10号道路と合流。【形態】直線状に南南東・北北西へ延びる（長105m上幅1.3m下幅0.7m深さ0.4m）。北で10号道路側溝となる。【遺物】13号畠重複部北側で瀬戸美濃腰銹碗*(0653)*・肥前刷毛目碗*(0655)*・馬歯*(3007)*・鉄製締金具*(2086)*・同刀子*(2087)*・鉄滓*(2119)*、古代須恵器類出土。【備考】近世中期以前の地境か。

04号溝【埋土】7 耕作土　8 暗褐色粘質土ローム塊多【重複】14号畠・12号溝と重複。19・20号溝と合流か。【形態】やや湾曲しながら南南東から北北西方向へ延びる（長100m上幅2.3m下幅1.7m深さ0.6m）が、西側の立ち上がりは削平されている部分が多い。【遺物】中世土師器小皿*(0077)*、古代須恵器碗*(0078)*・瓶*(0079)*・甕*(0080～85)*出土。【備考】北側は調査前地境と一致しているため、近世地境と考えられる。

05号溝【埋土】9 黒褐色砂質土茂間入粗石多　10 同細粒石少細砂　11 暗褐色土ローム粒粗石少　12 明褐色土ローム粒多【重複】03号溝より新。【形態】南南西・北北東方向へ延びる（長35m上幅2.2m下幅0.7m深さ0.4m）。【遺物】新寛永通宝銭鉄*(2088)*、古代須恵器甕*(0086)*・軒丸瓦*(0087)*出土。【備考】調査前道路と一致するが、近世中期の開削と考えられる。

06号溝【埋土】13 暗褐色砂質土茂間入粗石後土粒含　14 暗褐色粘質土ローム塊混【重複】未命名短冊形土坑が南側で直交方向に重複。【形態】やや湾曲しながら南北方向に延びる（長18m上幅0.8m下幅0.5m深さ0.3m）。【遺物】古代須恵器坏*(0091)*・土師器坏*(0088～90)*出土。【備考】調査前地境と平行。近世の地境か。


K
A L=156.30m
K
A
59号
土坑
ピット群
154.00
30-24
B
58号土坑
B'
14号畠
C
57号土坑
C'
56号土坑
B L=156.30m
B'
C L=156.30m
C'
0
1:40
2m
30-26



10号溝【埋土】不明。【重複】竪穴202号住と重複。【形態】東西方向に延びる（長７ｍ上幅1.3ｍ下幅0.6ｍ深さ0.2ｍ）。【遺物】なし。【備考】調査前道路と一致。近代の地境。

15号溝【埋土】15暗褐色砂質土上白色細粒多下ローム塊多【重複】17号畠と重複。【形態】東西方向に延びる（長29ｍ上幅0.8ｍ下幅0.3ｍ深さ0.2ｍ）。東側では不等間隔でピット（径0.3ｍ深さ0.2ｍ）が底にある。【遺物】鉄滓*(2112)*出土。【備考】調査前地境と一致せず。近世の地境か。

56～59号土坑【図P.112 PL.66】

本地区中央東側で検出した遺構群。

56号土坑【埋土】不明。【重複】14号畠より旧か。【形態】楕円形平面（0.9×0.8×0.1ｍ）。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

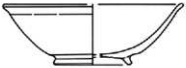
57号土坑【埋土】不明。【重複】14号畠より旧か。【形態】円形平面で底平坦（1.0×0.9×0.1ｍ）。【遺物】なし。【備考】近世の桶埋設土坑か。

58号土坑【埋土】不明。【重複】14号畠より旧か。【形態】東西に長い楕円形（1.4×1.0×0.1ｍ）。【遺物】報告遺物なし。【備考】時期性格不明。

59号土坑【埋土】不明。【重複】未命名ピット群近接。【形態】円形平面で底平坦（0.9×0.9×0.2ｍ）。【遺物】なし。【備考】近世の桶埋設土坑か。

04号溝

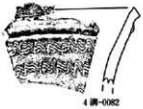
4溝-0077(1/3)

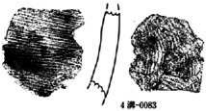

4溝-0078(1/3)

4溝-0079

4溝-0080

4溝-0081


4溝-0082


4溝-0083

4溝-0084

4溝-0085

05号溝

5溝-0086

5溝-0087

5溝-2088(1/1)

06号溝

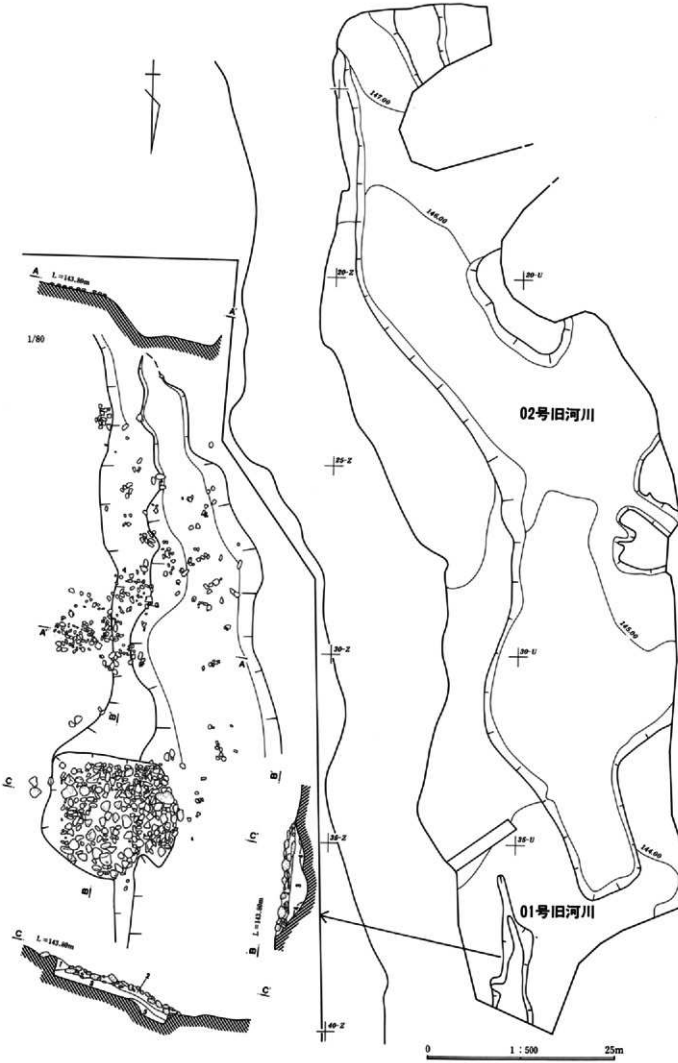
6溝-0088(1/3)

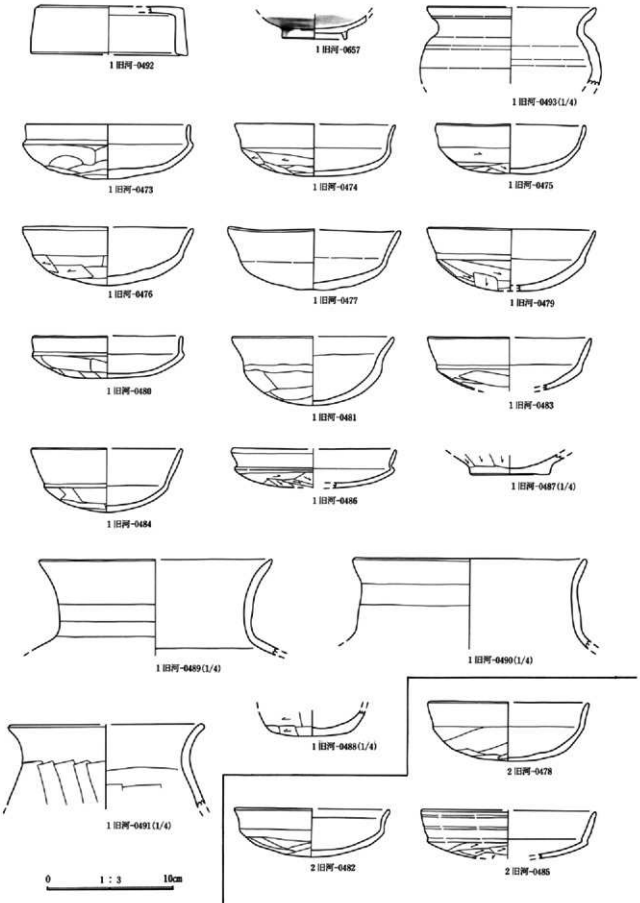
6溝-0089(1/3)

6溝-0090(1/3)

6溝-0091(1/3)

0　1：4　20cm


02号旧河川
01号旧河川
1/80
0
1 : 500
25m


1 旧河-0492
1 旧河-0657
1 旧河-0493(1/4)
1 旧河-0473
1 旧河-0474
1 旧河-0475
1 旧河-0476
1 旧河-0477
1 旧河-0479
1 旧河-0480
1 旧河-0481
1 旧河-0483
1 旧河-0484
1 旧河-0486
1 旧河-0487(1/4)
1 旧河-0489(1/4)
1 旧河-0490(1/4)
1 旧河-0488(1/4)
2 旧河-0478
1 旧河-0491(1/4)
2 旧河-0482
2 旧河-0485
0　1：3　10cm

01・02号旧河川【図P.115,116 PL.69,70】

本地区西端で検出した遺構群。

01号旧河川【埋土】1 黄褐色土粘土流礫多 2 灰色粘土礫土器多 3 褐黒色土少 4 灰白色砂褐色粘土多 5 灰色粘土地山【重複】不明。【形態】台地際をほぼ南北に流れる（検出長19.2m上幅約4m）。右岸（東岸）に正方形に近い状態（2.5×2.5m）で自然礫を使った石敷がある。またその上流側でも右岸を中心に礫の分布が広がる。【遺物】近代・近世・古代の敷片を除くと、大量の古墳時代土器片が石敷中に見られた。土師器坏*(0473～77,79～81,83,84,86)*・甕*(0487～91)*が出土。【備考】古墳時代後期の流路で、この部分は従属的な流れと思われる。そこに築かれた人為的遺構である石敷の性格は、残念ながら特定する資料に乏しい。

02号旧河川【埋土】不明。【重複】不明。【形態】やや蛇行しながら南北に流れる（検出長120m上幅22m以上）。【遺物】古墳時代土師器坏*(0478,82,85)*出土。【備考】古墳時代後期の流路で、これが本流だろう。

3　小型遺構と遺構外遺物

ア　北西側地区

60号土坑（図P.119 PL.71）

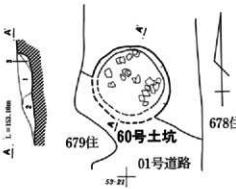
【位置】54-22G【埋土】1 暗褐色土ローム小塊焼土炭少 2 同前ローム塊炭生 3 暗黄褐色土ローム主【重複】南西側を01号道路に壊される。東側で竪穴678号住、西側で679号住近接。【形態】円形平面で底平坦（1.0×0.8×0.15m）。【遺物】古代須恵器坏*(0270)*・土師器甕*(0268,71)*出土。【備考】性格不明だが、両竪穴とは同時存在ではない。古代。

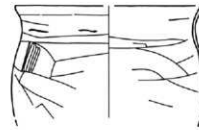
61号土坑（図P.119 PL.71）

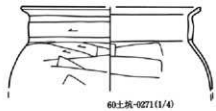
【位置】55-20G【埋土】1 黒褐色土白色粗石ローム塊炭多 2 同前ローム塊多 3 暗褐色土ローム塊多【重複】未命名小ピット重複。【形態】長方形平面中に柱穴状掘り込み（上長1.4m柱穴径0.5m深さ0.8m）。【遺物】鉄滓*(2115)*出土。【備考】時期性格不明。東側に少し離れて11号掘立がある。

62号土坑（図P.119 PL.71）

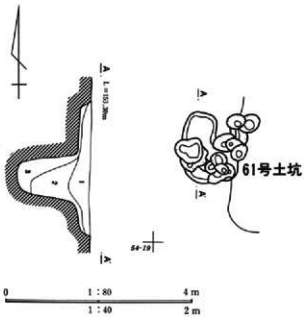
【位置】58-33G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】円形平面で擂り鉢形（上径0.6m底径0.2m深さ0.3m）。【遺物】古代須恵器碗*(0272)*・羽釜*(0273)*・土師器甕*(0274)*出土。【備考】性格不明。古代。

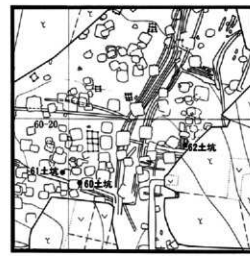

679住
60号土坑
678住
01号道路
0
1：50
2.5m
1：40
2m

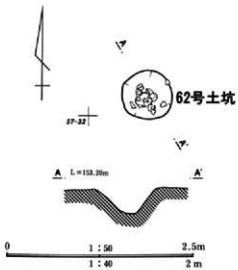

60土坑-0270(1/3)


60土坑-0271(1/4)

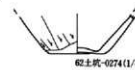
60土坑-0268(1/4)

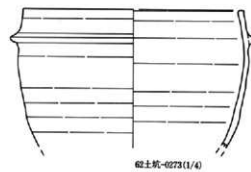

61号土坑
0
1：80
4m
1：40
2m


60-20
62土坑
61土坑
60土坑


62号土坑
L=153.30m
0
1：50
2.5m
1：40
2m

62土坑-0272(1/3)


62土坑-0274(1/4)


62土坑-0273(1/4)

63号土坑（図P.121 PL.72）

【位置】60-23G【埋土】1黒褐色土ローム塊混【重複】64号土坑より新。南側で小ピット重複。【形態】楕円形平面（1.9×0.7×0.3m）。【遺物】64号土坑と区分できない状態で銅製有孔円盤*(2005)*出土。【備考】近世の短冊形土坑か。

64号土坑（図P.121 PL.72）

【位置】61-34G【埋土】2黒褐色土ローム塊多【重複】63号土坑より旧。【形態】長方形平面で北側に段がある（2.0×0.8×0.2m）。【遺物】同上。【備考】近世の短冊形土坑か。

65号土坑（図P.121 PL.72）

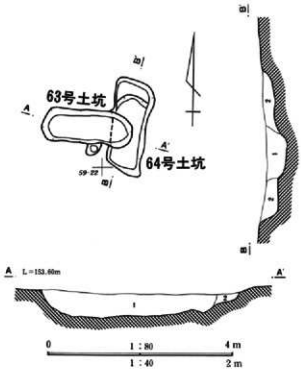
【位置】61-34G【埋土】1暗褐色土ローム焼土粒少 2茶褐色土ローム土【重複】西側で竪穴655号住床下土坑を壊す。【形態】楕円形（1.2×0.8×0.3m）。【遺物】牛歯*(3004)*出土。【備考】性格不明。近世か。

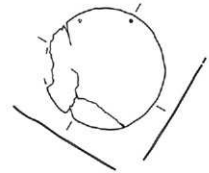
66号土坑（図P.121 写真なし）

【位置】63-33G【埋土】1暗褐色土白色軽石多ローム粒少 2岡崎浅化物多 3茶褐色土白色軽石ローム粒岡崎軽【重複】なし。【形態】箱形（1.3×0.9×0.2m）。【遺物】古代須恵器羽釜*(0336)*出土。【備考】屋外燃焼施設か。古代。

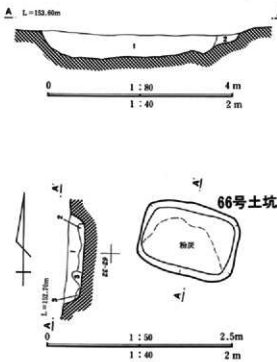
表面採集土器（P.121 PL.75）

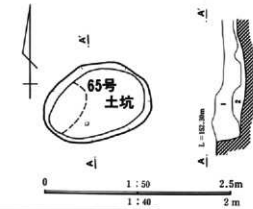
【位置】63-35G【状態】古代須恵器甕片*(0337)*が単独出土。【備考】調査時には遺構とされたが、掘り込みなどは不明。

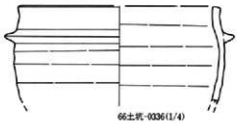




63・64土坑-2005(1/2)







66土坑-0336(1/4)

63-35G-0337(1/6)

67号土坑（図P.123 PL.72）

【位置】64-32G【埋土】不明。【重複】竪穴633号住より新か。【形態】楕円形状平面のもの３基が近接（A1.0×1.0×0.4m，B1.1×1.2×0.2m，C1.1×0.8×0.4m）。【遺物】ＡＢＣを特定できない状態で古代須恵器碗*(0281,83)*・甕*(0282)*出土。【備考】古代。

68号土坑（図P.123 PL.73）

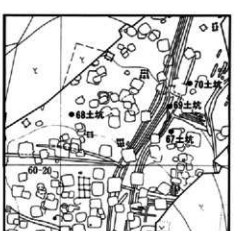
【位置】66-22G【埋土】1暗褐色土ローム粒少細砂　2暗黄褐色土ローム塊多【重複】東側の未命名土坑との関係不明。【形態】楕円形平面（1.2×1.0×0.5m）。【遺物】古代須恵器碗*(0276,80)*・土師器坏*(0275)*出土。【備考】古代。

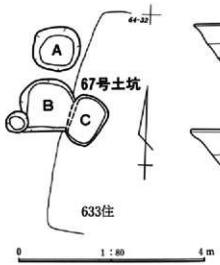
69号土坑（図P.123 PL.73）

【位置】67-32G【埋土】不明。【重複】04号道路東側溝を壊す。【形態】短冊形（4.0×1.2×0.3m）。【遺物】古代須恵器甕片*(0284)*及び自然礫多く検出。【備考】近世の短冊形土坑。

70号土坑（図P.123 PL.73）

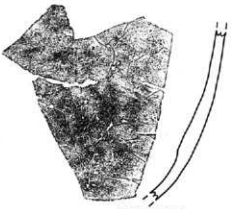
【位置】69-34G【埋土】1暗褐色土ローム塊顆石多混　2同黄褐色土鍋炭含　3同粗砂含　4暗褐色砂ローム塊多【重複】箱形土坑Ａと小ピットＢが接近。【形態】箱形土坑（A2.1×1.0×0.5m）と柱穴状ピット（B上径0.4m深さ0.5m）。【遺物】Ｂより石製紡錘車*(1015)*出土。【備考】Ａは人為的埋没で近代か。Ｂは古代か。




64-32
A
B
C
67号土坑
633住
0
1 : 80
4 m

67土坑-0283(1/3)

67土坑-0281(1/3)

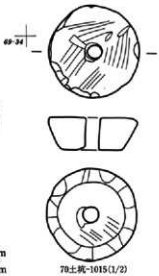

67土坑-0282(1/4)

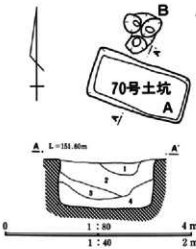
66-22
68号土坑
A
A'
A. L=153.00m
0
1 : 80
4 m
1 : 40
2 m

68土坑-0276(1/3)

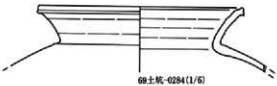
68土坑-0280(1/3)

68土坑-0275(1/3)


69-34
70土坑-1015(1/2)


B
70号土坑
A
A. L=151.80m
A'
0
1 : 80
4 m
1 : 40
2 m

04号道路
69号土坑
66-31
66-32
A
A'
A. L=152.10m
0
1 : 80
4 m
1 : 40
2 m


69土坑-0284(1/6)

71号土坑（図P.125 PL.73）

【位置】73-25G【埋土】1暗褐色ローム塊含細砂 2暗黄褐色土ローム主 3同細ローム塊含細砂【重複】なし。【形態】2基の柱穴状ピット（A上径0.4m深さ0.3m，B0.7×0.5×0.4m）。【遺物】Aより古墳時代土師器小型甕*(0340)*出土。【備考】古墳時代。

72号土坑（図P.125 PL.73,74）

【位置】76-32G【埋土】1黒褐色土白色粗石ローム粒少焼土粒微 2暗褐色土ローム塊多粗【重複】東側で小ピットと重複。【形態】楕円形平面で底平坦（3.0×1.4×0.4m）。【遺物】古代須恵器坏*(0341,42,48)*・盤*(0347)*出土。【備考】古代。

73号土坑（図P.125 PL.74）

【位置】78-40G【埋土】1耕作土 2暗褐色土ローム小塊白色粗石少 3同前ローム小塊白焼土炭化粒少 4同前軟質 5暗黄褐色土ローム塊暗褐色土混在細間 6茶褐色土ローム主 7地山【重複】なし。【形態】柱穴状（径0.3m深さ0.4m）。【遺物】古代土師器坏*(0286)*出土。【備考】古代。

74号土坑（図P.125 PL.73）

【位置】87-41G【埋土】上暗褐色土焼土粒ローム塊含細砂 下ローム塊多【重複】なし。【形態】平面円形（上径1.0m底径0.6m深さ0.3m）。【遺物】なし。【備考】時期不明。

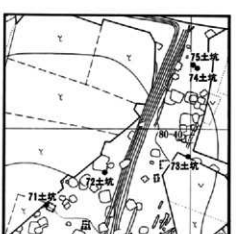
75号土坑（図P.125 PL.73）

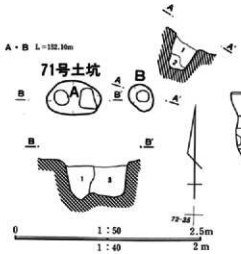
【位置】87-41G【埋土】1暗褐色土ローム粒粗石多有細 2黒褐色土ローム塊含細砂 3暗褐色土ローム塊多【重複】なし。【形態】柱穴状（上径0.6m深さ0.5m）。【遺物】古代土師器坏*(0344)*出土。【備考】古代。

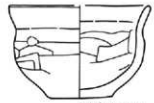
表面採集土器（図P.125 PL.73,74）

【位置】72-29G【状態】古墳時代土師器高坏片*(0339)*が単独出土。【備考】調査時には遺構とされたが、掘り込みなどは不明。

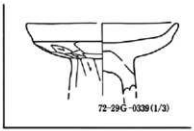
【位置】79-36G【状態】古墳時代土師器甕片*(0346)*が単独出土。【備考】同上。

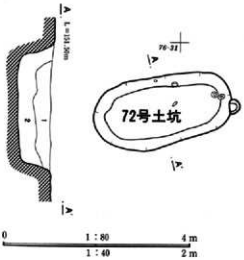


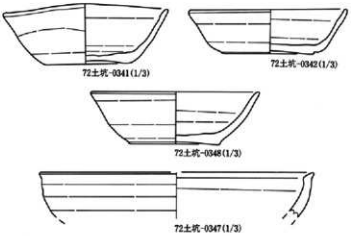


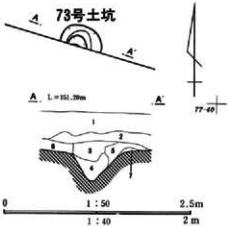


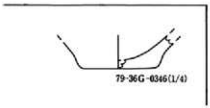
3　小型遺構と遺構外遺物

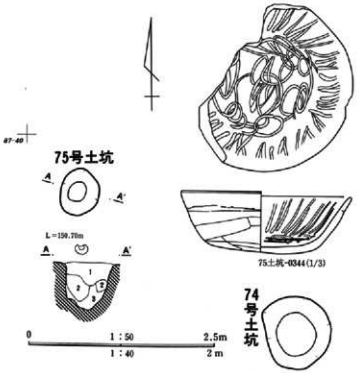


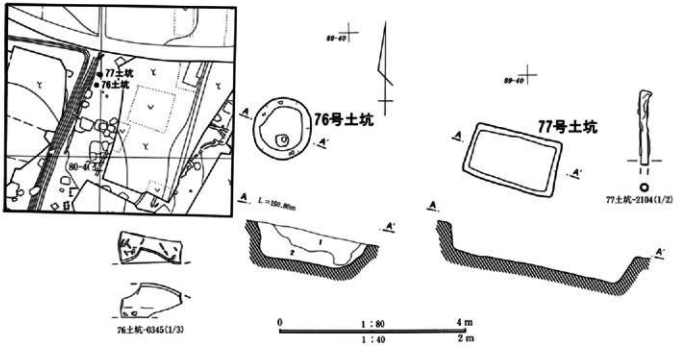












76号土坑（図P.126 PL.74）

【位置】88-40G【埋土】1 暗褐色土 鉄石ローム 焼赤 有鉛 2 黄褐ローム 焼多 鉄銅【重複】なし。【形態】楕円形状平面で底平坦（1.3×1.2×0.2m）で底に小ピット（径0.3m深さ0.4m）。【遺物】猿投灰釉耳皿*(0345)*出土。【備考】古代。

77号土坑（図P.126 PL.75）

【位置】89-40G【埋土】黒褐色土ローム 焼多量【重複】なし。【形態】箱形で底平坦（2.0×1.2×0.3m）。【遺物】鉄製小角釘*(2104)*出土。【備考】人為的埋没。近世。

遺構外遺物（図P.125,127,128 PL.73～77,94）

A　近世

39-40G鉄角釘？*(2097)*　45-31G瀬戸美濃志野釉小皿*(0616)* 49-05G鉄角釘*(2103)* 53-10G鉛銃弾*(2007)*
53-22G肥前磁器染付小杯*(0648)*　75-45G砥沢石砥石*(1029)*　93-34G馬歯*(3005)*

B　中世

52-25G元豊通宝*(2043)*　54-12G竜泉窯青磁蓮弁文碗*(0660)*　54-22G元祐通宝*(2039)*　54-28G瀬戸美濃灰釉小皿*(0615)*　56-22G元豊通宝*(2044)*　57-12G元豊通宝*(2045,47)*・至道元宝*(2046)*　57-16G瀬戸美濃灰釉皿*(0680)*　60-26G瓦質土器コネ鉢*(0579)*　65-14G瀬戸美濃灰釉皿*(0671)*　67-33G鉄鏃？*(2100)*
76-27G淳祐元宝*(2035)*　82-39G永楽通宝*(2042)*

C　古代

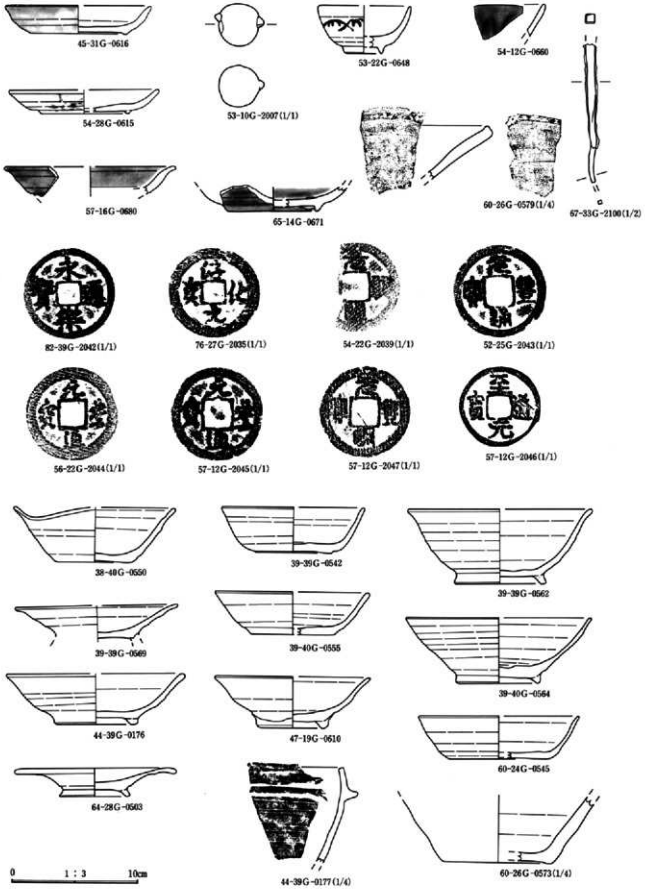
38-40G須恵器坏*(0550)* 39-39G須恵器碗*(0562)*・坏*(0542)*・皿*(0569)* 39-40G須恵器碗*(0564)*・坏*(0555)*
44-39G須恵器碗*(0176)*・羽釜*(0177)*　46-31G石製紡錘車*(1025)*　47-19G須恵器碗*(0610)*　60-24G須恵器坏*(0545)*　60-26G須恵器甕*(0573)*　60-31G土錘*(0618)*　60-32G土錘*(0617)*　63-35G須恵器甕*(0337)*
64-28G須恵器皿*(0503)*・土師器坏*(0528)*

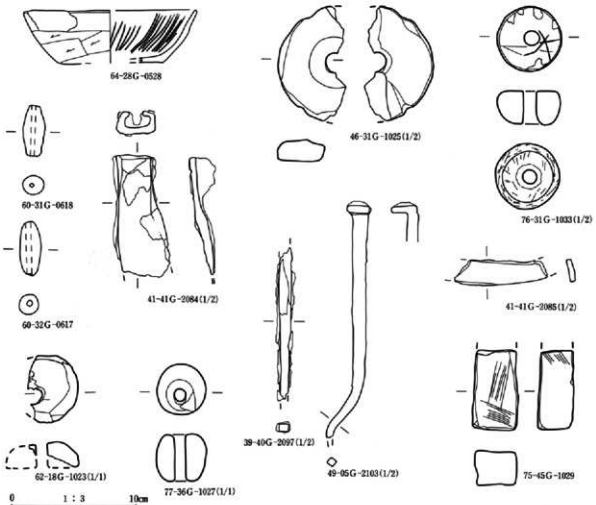
D　古墳時代

62-18G滑石白玉*(1023)*　72-29G土師器高坏*(0339)* 77-36G滑石白玉*(1027)* 79-36G土師器甕*(0346)*

E　時期不明

41-41G袋状鉄斧*(2084)*・鉄製刀子？*(2085)*　65-13G鉄滓*(2123)*


45-31G-0616
53-10G-2007(1/1)
53-22G-0648
54-12G-0660
54-28G-0615
57-16G-0680
65-14G-0671
60-26G-0579(1/4)
67-33G-2100(1/2)
82-39G-2042(1/1)
76-27G-2035(1/1)
54-22G-2039(1/1)
52-25G-2043(1/1)
56-22G-2044(1/1)
57-12G-2045(1/1)
57-12G-2047(1/1)
57-12G-2046(1/1)
38-40G-0550
39-39G-0542
39-39G-0562
39-39G-0569
39-40G-0555
39-40G-0564
44-39G-0176
47-19G-0610
60-24G-0545
64-28G-0503
44-39G-0177(1/4)
60-26G-0573(1/4)
0　1：3　10cm



イ　東側地区

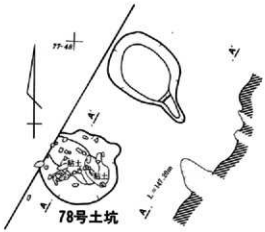
A　矢田稲荷久保

78号土坑（図P.129,PL.76）

【位置】77-49G【埋土】不明。【重複 】なし。【形態】平面楕円形（1.8×1.6×0.2m）。【遺物】古代須恵器甕*(0285)*出土。他に自然礫多い。【備考】古代。

遺構外遺物（図P.129,30 PL.5,6,76,94）

A	近世	67-43G肥前磁器染付手塩皿*(0672)*
B	中世	67-43G竜泉窯青磁蓮弁文碗*(0668)* 79-49G永楽通宝*(2036)* 81-53G淳熙元宝*(2033)*・聖宋元宝*(2032)*・元祐通宝*(2030,31)*・元豊通宝*(2026～29)*・熙寧元宝*(2022～25)*・嘉祐通宝*(2020,21)*・皇宋通宝*(2015～19)*・天聖元宝・*(2014)*・天禧通宝*(2013)*・祥符元宝*(2012)*・祥符通宝*(2011)*太平通宝*(2010)*・開元通宝*(2008,09)*
C	古代	44-72G須恵器碗*(0561)* 46-43G須恵器坏*(0553)* 77-49G軒丸瓦*(0622)* 88-57G須恵器坏*(0607)*
D	時期不明	88-56G鉄製刀子？*(2078)*



78土坑-0285(1/4)

67-43G-0672(1/3)

67-43G-0668(1/3)

79-49G-2036

(表)　81-53G-2033　(裏)

81-53G-2032

81-53G-2030

81-53G-2031

81-53G-2026

81-53G-2027

81-53G-2028

81-53G-2029

81-53G-2022

81-53G-2023

81-53G-2024

81-53G-2025

81-53G-2020

81-53G-2021

81-53G-2015

81-53G-2016

81-53G-2017

81-53G-2018

81-53G-2019

81-53G-2014

81-53G-2013

81-53G-2012

81-53G-2011

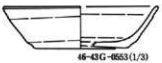
81-53G-2010

(表)　81-53G-2008　(裏)

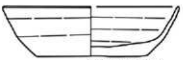
81-53G-2009

0　1：1　5 cm

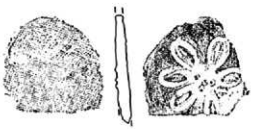
44-72G-0561(1/3)



46-43G-0553(1/3)

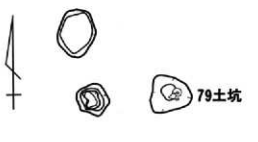


68-57G-0607(1/3)



77-49G-0622(1/4)

88-56G-2078(1/2)



79土坑-0570(1/3)

80土坑-0332(1/3)

B　矢田谷頭

79号土坑（図P.130 PL.76）

【位置】37-62G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】平面不定形（0.9×0.8×0.3m）。【遺物】古代須恵器坏蓋*(0570)*出土。【備考】古代。

80号土坑（図P.130 PL.76）

【位置】40-63G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】柱穴状（径0.3m深さ0.5m）。【遺物】古墳時代土師器坏*(0332)*出土。【備考】周辺に同様のピットがいくつか存在。古墳時代。

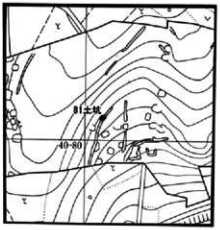
81号土坑（図P.132 PL.76）

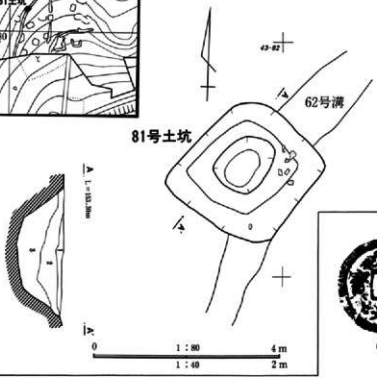
【位置】43-83G【埋土】1 暗褐色土細粉（紀号課埋土）　2 暗黄褐色土ローム土黄橙色粗石少　3 暗褐色土ローム土　【重複】62号溝より旧。【形態】方形碗形（2.7×2.5×1.6m）。【遺物】2層より縄文晩期甕*(0267)*が自然礫と共に出土。【備考】縄文晩期か。

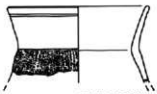
遺構外遺物（図P.132 PL.78,94）

A　近世　40-68G砥沢石砥石*(1030)*　46-84G新寛永通宝*(2037)*

B　古代　43-83G線刻平瓦*(0599)*　43-63G石製紡錘車*(1035)*　46-63G須恵器坏*(0546)*

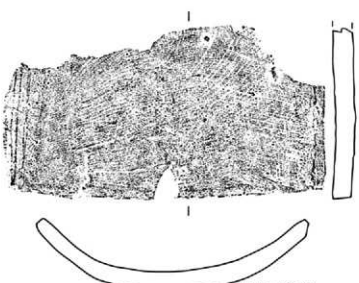






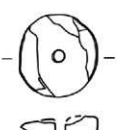
81土坑-0287(1/4)

(表) 46-84G-2037(1/1) (裏)



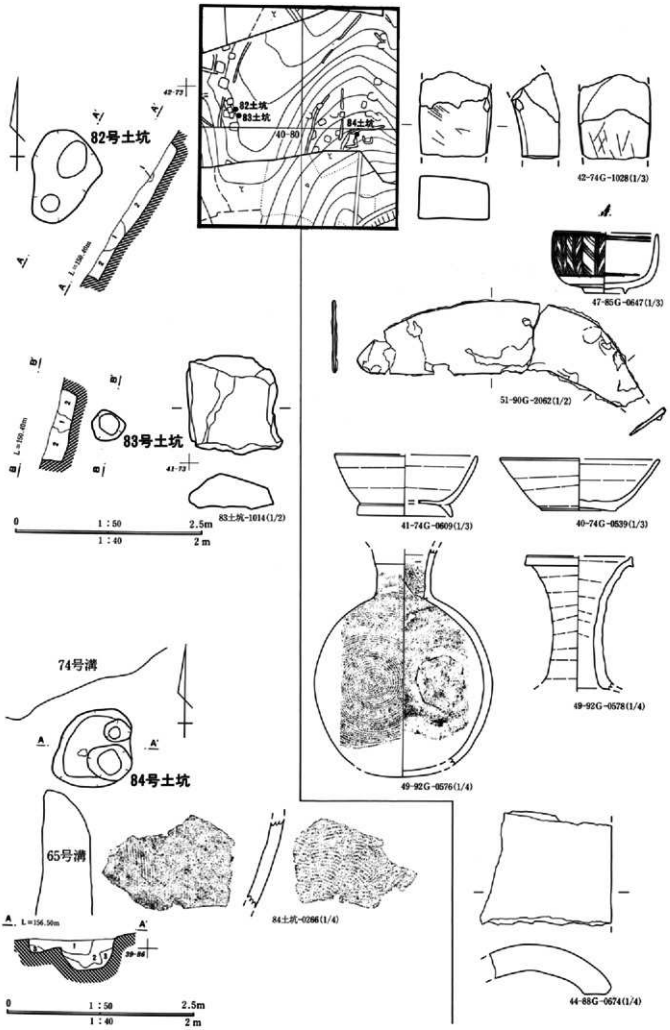
43-83G-0599(1/4)

46-63G-0546(1/3)



43-63G-1035(1/2)

40-68G-1030(1/3)


82号土坑
83号土坑
84号土坑
40-80
42-73
L=158.40m
83号土坑
L=158.00m
83土坑-1014(1/2)
0
1:50
2.5m
1:40
2m
74号溝
84号土坑
65号溝
A
A'
L=156.50m
39-84
84土坑-0266(1/4)
42-74G-1028(1/3)
47-85G-0647(1/3)
51-90G-2062(1/2)
41-74G-0609(1/3)
40-74G-0539(1/3)
49-92G-0578(1/4)
49-92G-0576(1/4)
44-88G-0674(1/4)

C　矢田杉之久保

82号土坑（図P.133 PL.78）

【位置】42-73G【埋土】1赤色土焼土 2黒色土焼土微少【重複】なし。【形態】楕円形平面で浅い（1.2×0.9×0.1m）。【遺物】なし。【備考】古代か。

83号土坑（図P.133 PL.78）

【位置】42-73G【埋土】1赤色土焼土 2黒色土焼土微少【重複】なし。【形態】円形平面で浅い（径0.4m深さ0.2m）。【遺物】石製紡錘車未製品*(1014)*出土。【備考】古代。

遺構外遺物（図P.133 PL.6,78）

A　近世　　42-74G砥沢石砥石*(1028)*　47-85G肥前磁器染付丸碗*(0647)*　51-90G鉄鎌*(2062)*

B　古代　　40-74G須恵器坏*(0539)*　41-74G須恵器碗*(0609)*　49-92G須恵器長頸瓶*(0576,78)*

D　矢田車地蔵

84号土坑（図P.133 PL.78）

【位置】40-86G【埋土】1暗黄褐色土混炭TP 軽石黄色細粒多細粒 2暗褐色土ローム塊少細粒 3茶褐色土ローム土地山に近い【重複】64・75号溝近接。【形態】不定形ピット状（1.2×1.0×0.4m）。【遺物】古代須恵器羽釜*(0266)*出土。【備考】古代か。

遺構外遺物

A　中世　　44-88G平瓦*(0674)*

E　矢田天久沢

85号土坑（図P.135 PL.79）

【位置】42-97G【埋土】1暗褐色土ローム粒 2黒褐色土炭化物多【重複】なし。【形態】浅い皿状掘り込み（1.0×0.8×0.2m）の中央に楕円形ピット（0.6×0.3×0.5m）がある。【遺物】古代須恵器甕*(0334)*出土。【備考】古代。

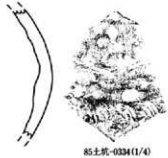
86号土坑（図P.135 PL.79）

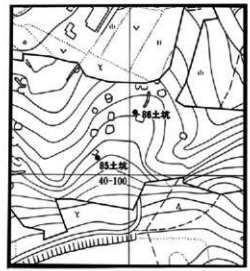
【位置】47-101G【埋土】1明褐色土微細石少【重複】竪穴727号住近接。【形態】柱穴状（0.6×0.5×0.5m）。【遺物】古代須恵器碗*(0335)*出土。【備考】周辺に5個以上同様のピットがあり、柱穴列の可能性もある。古代。

遺構外遺物（図P.135 PL.79）

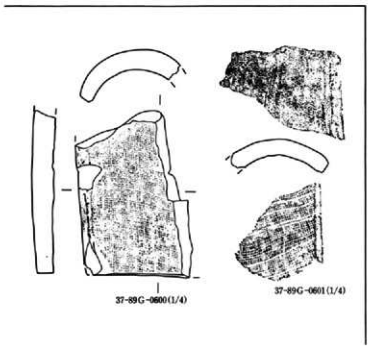
A　古代　　37-89G丸瓦*(0600,01)*

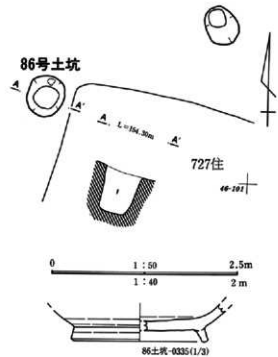
A
L=156.40m
42-97
A'
85号土坑
A
A'


85土坑-0334(1/4)


86号土坑
85土坑
40-100

0
1:50
2.5m
1:40
2m


37-89G-0600(1/4)
37-89G-0601(1/4)


86号土坑
A
A'
L=154.30m
A
A'
727住
46-101
0
1:50
2.5m
1:40
2m
86土坑-0335(1/3)

ウ　南西側地区

87号土坑（図P.137 PL.79）

【位置】12-14G【埋土】1黒褐色土極土粒多ローム粒石粒少 2同前灰黄褐色粘質土含 3焼土【重複】東側の掘り込みと同一遺構。【形態】8字形平面（長2.0m幅1.0・0.8m深さ0.3・0.4m）。【遺物】古代須恵器坏蓋*(0288)* 出土。【備考】古代。

88号土坑（図P.137 PL.79）

【位置】14-16G【埋土】1暗褐色土ローム塊混 2焼土【重複】北西側に未命名土坑近接。【形態】浅い不定形（3.3×2.2×0.1m）。【遺物】古代須恵器碗*(0366)*・坏*(0365)* 出土。【備考】古代。

89号土坑（図なし PL.80）

【位置】15-08G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】平面楕円形。【遺物】鉄滓*(2116)* 出土。【備考】時期不明。

90号土坑（図P.137 PL.80）

【位置】15-26G【埋土】1黒褐色土ローム塊散在【重複】なし。【形態】東西方向に延びる短冊形（12.1×0.7×0.3m）。【遺物】銅製キセル雁首*(2003)* 出土。【備考】調査前地境と一致。近世後期掘削か。

91号土坑（図なし PL.80）

【位置】16-29G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】浅い皿状掘り込み。【遺物】古代土師器甕*(0290,91)* 出土。【備考】古代。

92号土坑（図なし PL.80）

【位置】16-29G【埋土】不明。【重複】不明。【形態】平面方形で底平坦、竪穴状。【遺物】古代土師器甕*(0289)* 出土。【備考】古代。

93号土坑（図P.138 PL.81）

【位置】17-12G【埋土】不明。【重複】複数の遺構の重複か。【形態】浅い皿状掘り込みの中にピット（1.6×1.0×0.6m）。【遺物】一銭銅貨*(2038)* 出土。【備考】近代。

94号土坑（図P.138 PL.81）

【位置】17-11G【埋土】不明。【重複】竪穴727号住近接。【形態】平面楕円形で底平坦（1.3×0.9×0.3m）。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

95号土坑（図P.138 PL.81）

【位置】17-11G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】浅い楕円形状掘り込み（1.1×0.8×0.1m）。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

96号土坑（図P.138 PL.81）

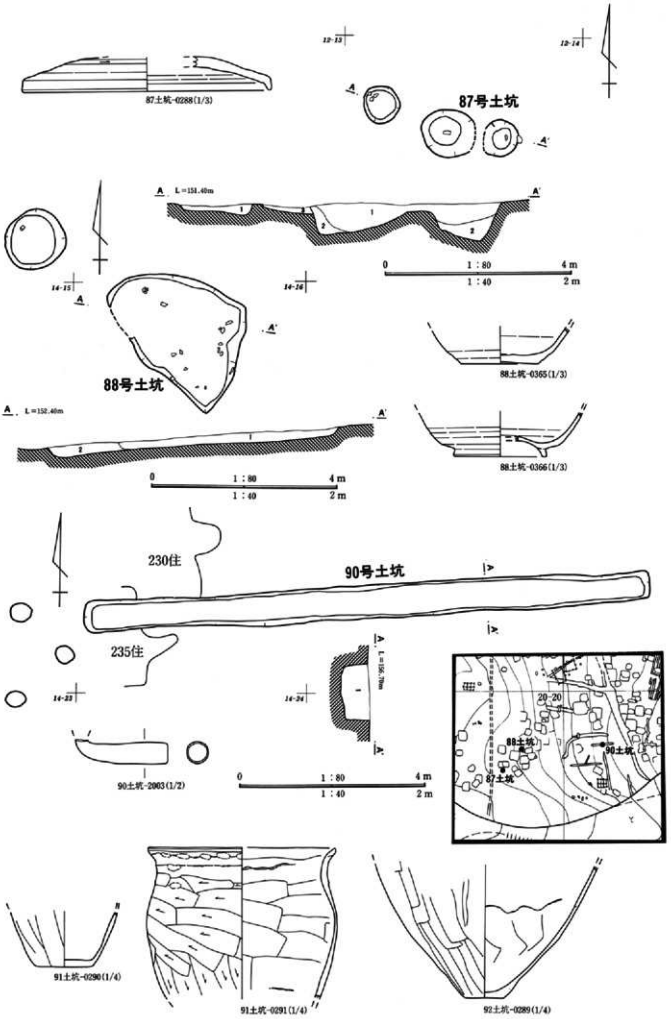
【位置】20-28G【埋土】1黒褐色土白色細石多ローム粒少 2黒色土ローム塊主黒褐色粘質土混 3同前ローム主【重複】なし。【形態】不定形（4.8×1.6×0.3m）。【遺物】鉄滓*(2113)* 出土。【備考】時期不明。

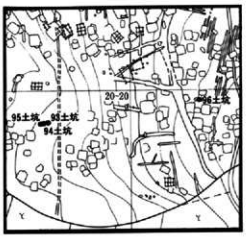
未命名遺構出土遺物

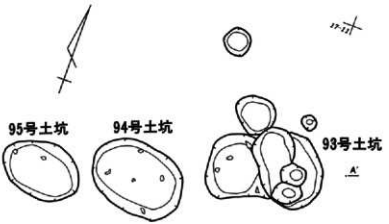
【位置】17-33G【状態】鉄刀子*(2067)*が小型遺構より出土。【備考】出土遺構の記録がないため、遺構の性格は不明。（図P.138 PL.81）

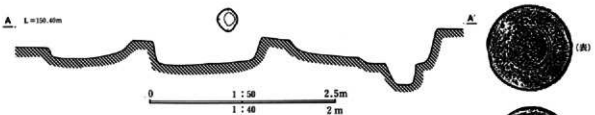
【位置】25-35G【状態】須恵器坏*(0303)* が小型遺構より出土。【備考】出土遺構の記録がないため、遺構の性格は不明。（図P.138 PL.83）

【位置】24-16G【状態】土師器坏*(0300)* が小型遺構より出土。【備考】出土遺構の記録がないため、遺構の性格は不明。（図P.138 PL.83）

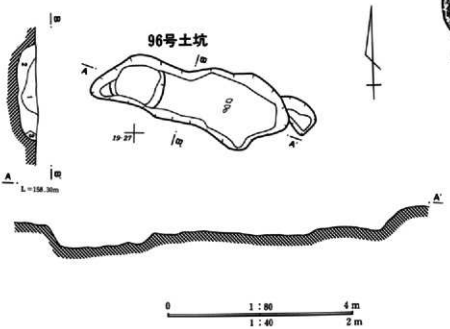

87土坑-0288(1/3)
87号土坑
88号土坑
88土坑-0365(1/3)
88土坑-0366(1/3)
90号土坑
230住
235住
90土坑-2003(1/2)
91土坑-0290(1/4)
91土坑-0291(1/4)
92土坑-0289(1/4)
1:80
1:40
4 m
2 m



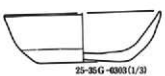




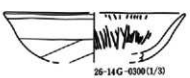
93土坑-2038(1/1)



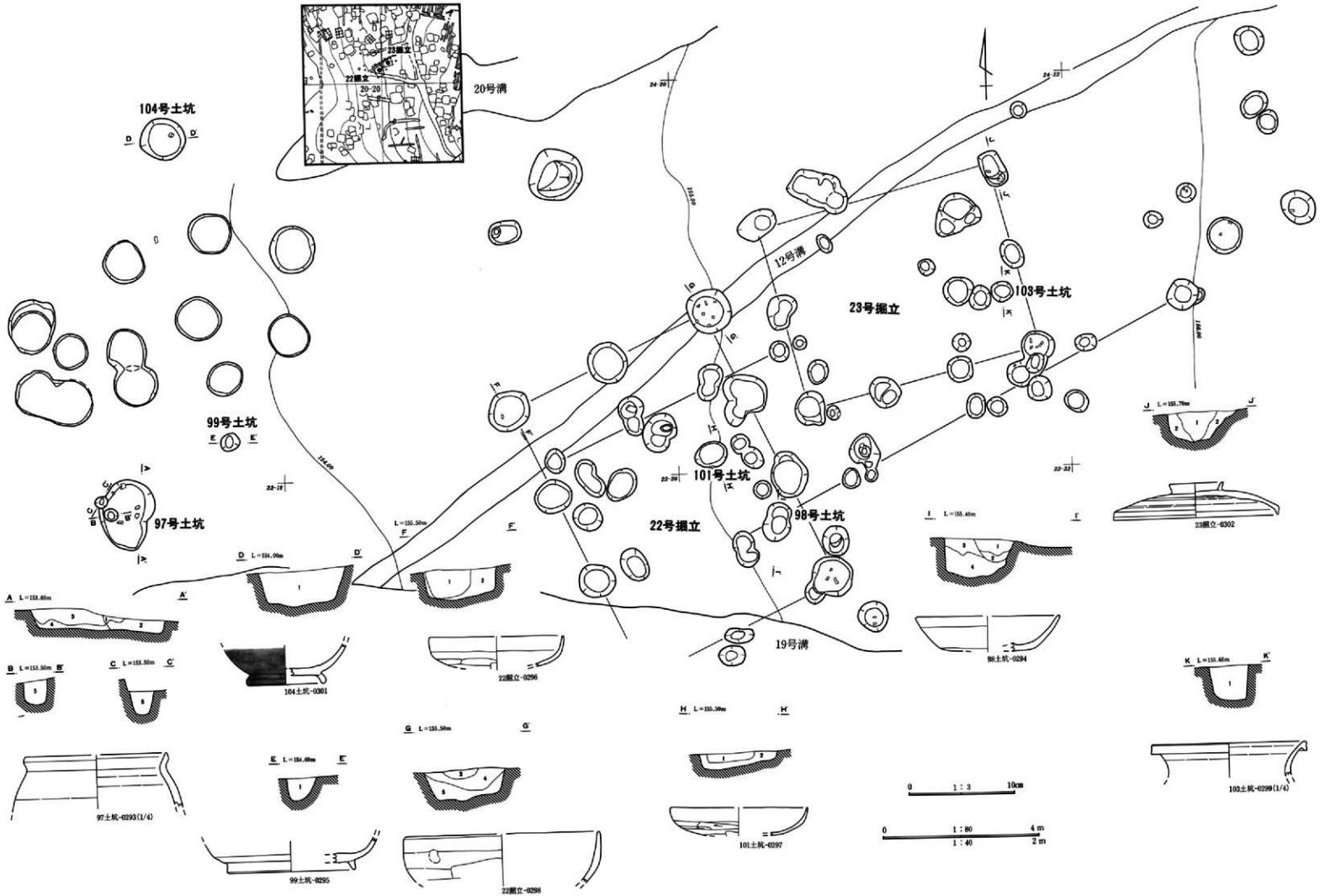
17-33G-2067(1/2)

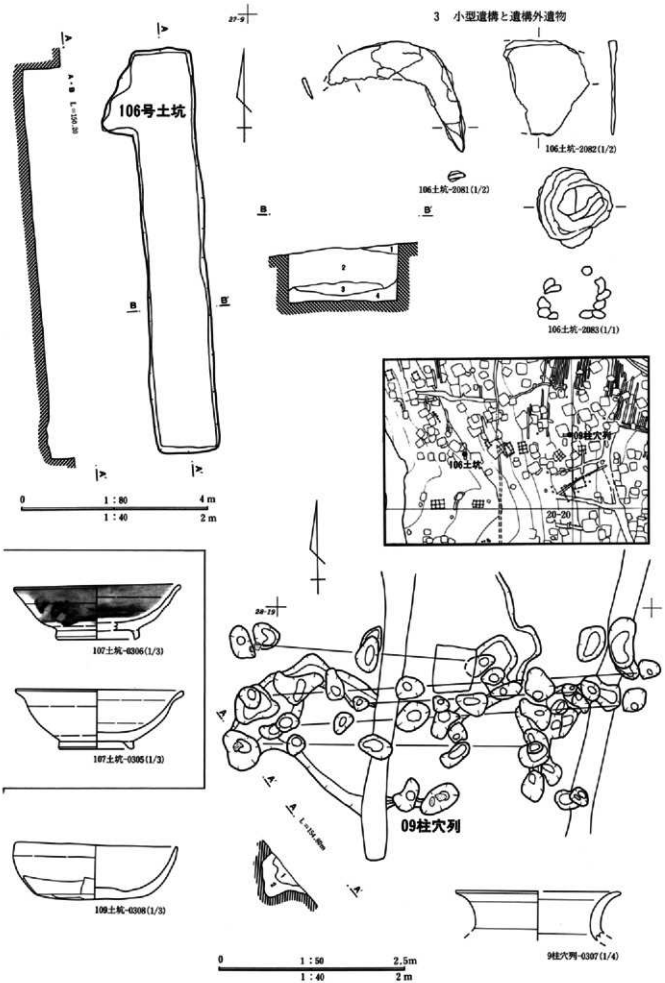


25-35G-6303(1/3)



26-14G-6300(1/3)


104号土坑
20号溝
12号溝
23号掘立
103号土坑
99号土坑
97号土坑
101号土坑
98号土坑
22号掘立
19号溝
23掘立-0302
98土坑-0294
104土坑-0301
22掘立-0296
97土坑-0293(1/4)
99土坑-0295
22掘立-0298
101土坑-0297
103土坑-0299(1/4)
1 : 3
10cm
1 : 80
1 : 40
4 m
2 m


106号土坑
A'=B L=150.30
B
B'
A
A'
27-9
0
1:80
4m
1:40
2m
106土坑-2081(1/2)
106土坑-2082(1/2)
106土坑-2083(1/1)
09柱穴列
106土坑
20-20
20-19
107土坑-0306(1/3)
107土坑-0305(1/3)
109土坑-0308(1/3)
L=154.80m
0
1:50
2.5m
1:40
2m
9柱穴列-0307(1/4)

22号掘立（図P.139 PL.81）

【埋土】1黒褐色土炭化粒多焼土ローム粒含 2暗褐色土ローム粒多焼土炭化粒多ローム粒含 4同前焼土炭化粒多 5暗茶褐色土ローム粒多細粘性【重複】12号溝より新か。19号溝と重複。内部にも98号土坑としたものを含めて重複掘立があった可能性。【形態】2×3間（5.6×7.5m）の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい（径0.8～1.2m）。【遺物】古代土師器坏*(0296)*・鉢*(0298)*出土。【備考】同様主軸の03号掘立は北西20mを隔てている。調査時には土坑とした。古代。

23号掘立（図P.139 PL.81）

【埋土】1暗茶褐色土ローム小礫含 2同前ローム塊多【重複】12号溝と重複。【形態】2×3間（5.0×6.0m）東西棟。柱穴掘り方はやや大きい（径0.6～0.7m）。【遺物】古代須恵器坏蓋*(0302)*出土。【備考】調査時には土坑とする。古代。

97号土坑（図P.139 PL.81）

【位置】22-18G【埋土】1褐灰 2暗褐色土ローム粒選 3同前ローム焼土炭化粒含 4同前ローム粒多 5同前粘質土ローム粒含【重複】なし。【形態】浅い不定形掘り込み（1.8×1.2×0.3m）に柱穴状ピット（径0.3m深さ0.3m）がある。【遺物】古代土師器土釜*(0293)*出土。【備考】古代。異なった遺構の重複か。

98号土坑（図P.139 PL.81）

【位置】22-21G【埋土】1暗褐色土ローム粒少 2暗茶褐色粘質土ローム粒多 3暗褐色土ローム粒含 4暗茶褐色土ローム粒多焼土炭化粒含【重複】22号掘立重複。【形態】2個の柱穴状ピット（0.9×0.7×0.5m）。【遺物】古代土師器坏*(0294)*出土。【備考】柱穴列の一部？

99号土坑（図P.139 PL.81）

【位置】23-18G【埋土】1暗褐色土ローム焼土炭化粒含【重複】なし。【形態】柱穴状（径0.35m深さ0.3m）。【遺物】古代須恵器碗*(0295)*出土。【備考】古代。

101号土坑（図P.139 PL.81）

【位置】23-21G【埋土】1暗褐色土ローム粒多炭化焼土粒含 2黒褐色土ローム塊【重複】22号掘立と重複。【形態】楕円形平面（1.0×0.6×0.2m）。【遺物】古代土師器坏*(0297)*出土。【備考】掘立の可能性ある柱穴群近接。古代。

103号土坑（図P.139 PL.83）

【位置】23-22G【埋土】1暗茶褐色土ローム塊多焼土炭化粒少粘性弱【重複】23号掘立と重複。【形態】柱穴状（径0.5m深さ0.5m）。【遺物】古代須恵器甕*(0299)*出土。【備考】古代。

104号土坑（図P.139 PL.83）

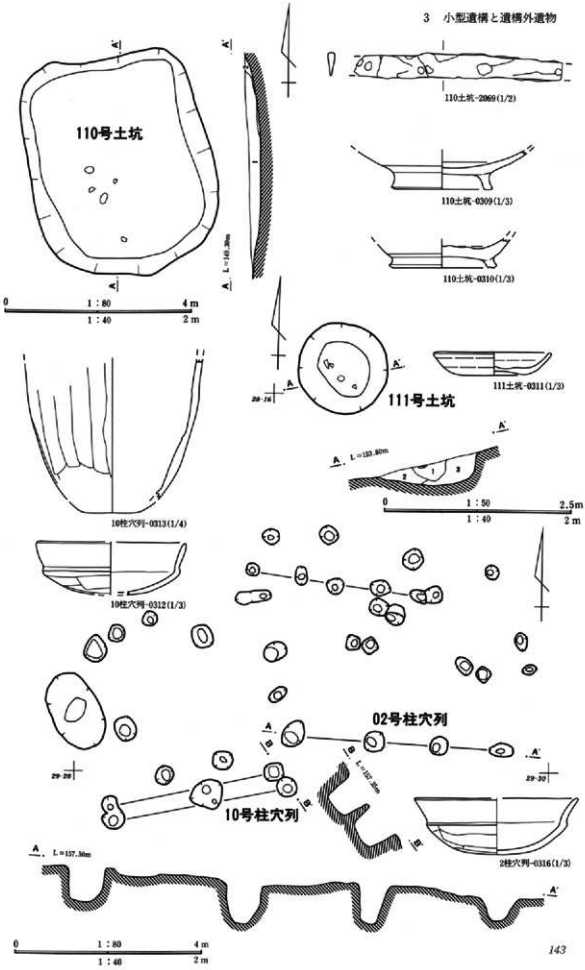
【位置】24-18G【埋土】1暗褐色土ローム炭化焼土粒細石少【重複】竪穴379号住近接。【形態】円形平面（径1.1m深さ0.5m）。【遺物】須投灰釉碗*(0301)*出土。【備考】同様形態の未命名土坑が南側に多く、掘立の可能性もある。古代。

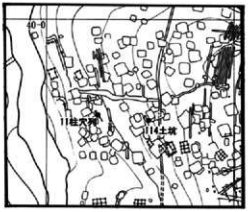
106号土坑（図P.141 PL.83）

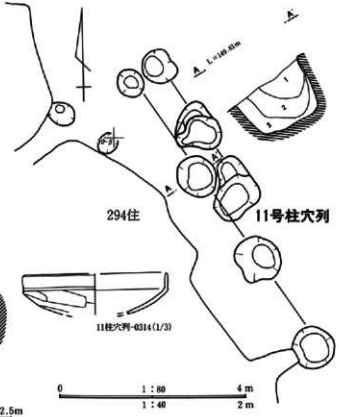
【位置】27-09G【埋土】1黒褐色土ローム粒多 2褐色土ローム塊多 3黒褐色土焼土粒微 4黒色土ローム粒微【重複】竪穴342号住と重複。北側の張り出しは未命名重複遺構。【形態】底平坦の短冊形（8.4×1.2×0.6m）。【遺物】鉄小鎌*(2081)*・包丁？*(2082)*・バネ*(2083)*出土。【備考】調査前地境と平行。近代の短冊形土坑。人為埋没。

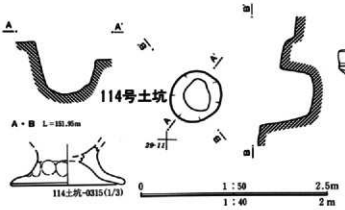
107号土坑（図P.141 PL.84）

【位置】27-24G【埋土】不明。【重複】不明。【形態】円形皿状か。【遺物】須投灰釉碗*(0306)*・古代須恵器碗*(0305)*出土。【備考】古代。

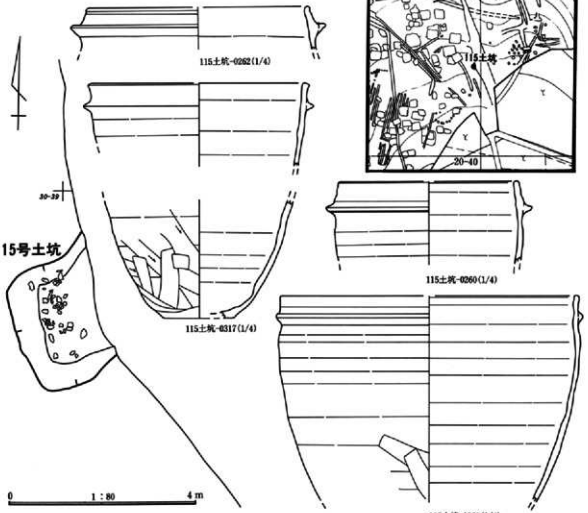

110号土坑
A. L=142.30m
0　1：80　4m
1：40　2m
110土坑-2069(1/2)
110土坑-0309(1/3)
110土坑-0310(1/3)
111号土坑
111土坑-0311(1/3)
A. L=133.40m
0　1：50　2.5m
1：40　2m
10柱穴列-0313(1/4)
10柱穴列-0312(1/3)
02号柱穴列
10号柱穴列
A. L=137.50m
2柱穴列-0316(1/3)
0　1：80　4m
1：40　2m

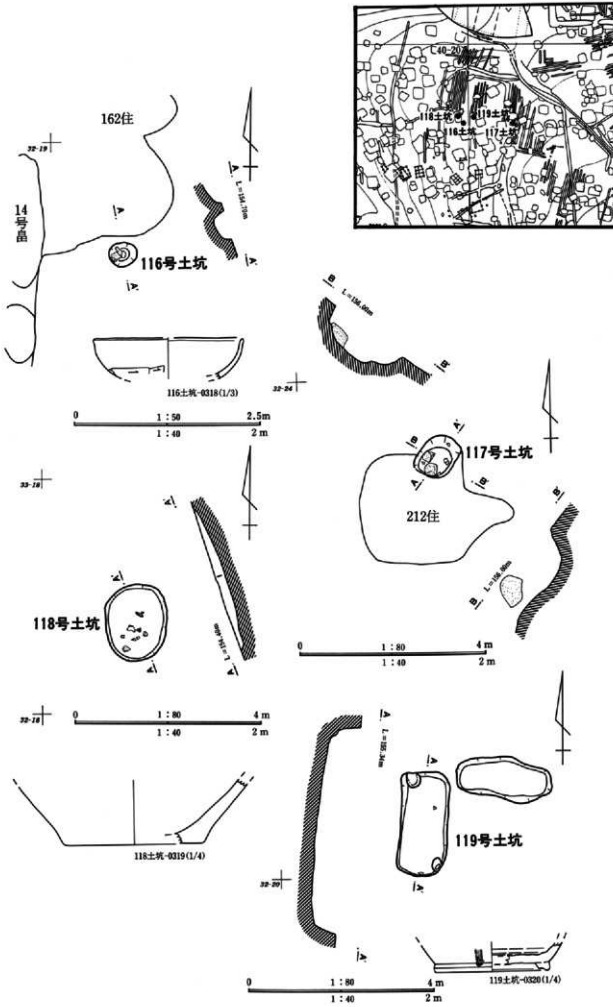

40-0
11柱穴列
114土坑
294住


A
A'
L=148.45m
294住
11号柱穴列
11柱穴列-0314(1/3)
0
1:80
4m
1:40
2m


A
A'
114号土坑
A・B L=151.35m
114土坑-0315(1/3)
29-11
0
1:50
2.5m
1:40
2m

115土坑
20-40


115土坑-0262(1/4)
30-39
115号土坑
115土坑-0317(1/4)
115土坑-0260(1/4)
115土坑-0261(1/4)
0
1:80
4m


162住
14号畠
116号土坑
116土坑-0318(1/3)
0 1:50 2.5m
1:40 2m
117号土坑
212住
118号土坑
0 1:80 4m
1:40 2m
118土坑-0319(1/4)
119号土坑
119土坑-0320(1/4)

09号柱穴列（図P.141 PL.83,84）

【位置】28-20G【埋土】1暗褐色土ローム粒多 2同前ローム塊少【重複】未命名畠と重なる。【形態】東西方向に柱穴5個並ぶ（長3.9m）。柱痕に比べ柱穴掘り方はやや大きい（径0.3～0.6m）。【遺物】古代須恵器甕*(0307)*出土。【備考】調査時には土坑とする。北側に同一方向の柱穴列が4列（長3.2～5.3m）ある。古代。

109号土坑（図P.141 PL.84）

【位置】28-38G【埋土】不明。【重複】不明。【形態】円形皿状か。【遺物】古代土師器坏*(0308)* 出土。【備考】古代。

110号土坑（図P.143 PL.84）

【位置】29-05G【埋土】1黒褐色土浅間B軽石多 2暗褐色土ローム粒多【重複】なし。【形態】平面隅丸方形で断面レンズ状（4.5×3.8×0.2m）。【遺物】古代須恵器鞍*(0309,10)*・鉄刀子*(2069)* 出土。【備考】古代。

111号土坑（図P.143 PL.84）

【位置】28-38G【埋土】1暗褐色土軽石ローム粒少 2同前ローム塊浅間軽石少 3同前ローム粒軽石少【重複】竪穴255,324,361号住近接。【形態】円形皿状（径1.2m深さ0.2m）。【遺物】中世土師器小皿*(0311)* 出土。【備考】中世か。

02号柱穴列（図P.143 PL.68,85）

【位置】30-30G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】東西方向に柱穴4個並ぶ（長4.4m）。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通（径0.3～0.5m）。【遺物】古墳時代土師器坏*(0316)* 出土。【備考】北側に同一方向の柱穴列（長3.6m）があり、柱穴状ピットが多い。古墳時代。

10号柱穴列（図P.143 PL.84）

【位置】29-05G【埋土】不明。【重複】同一方向の建て替えあり。【形態】東西方向に柱穴3個並ぶ（長3.7m）。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通（径0.3～0.5m）。【遺物】古墳時代土師器坏*(0312)*・甕*(0313)* 出土。【備考】周辺に柱穴状ピット多い。古墳時代。

11号柱穴列（図P.144 PL.85）

【位置】31-06G【埋土】1黒褐色土ローム粒含 2暗褐色土ローム塊多 3暗色土ローム土黒褐色土少【重複】南東側に同一方向の未命名列重複。竪穴294号住近接。【形態】西南西・東北東方向に柱穴4個並ぶ（長6.8m）。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい（径0.6～0.9m）。【遺物】古墳時代土師器坏*(0314)* 出土。【備考】古墳時代か。

114号土坑（図P.144 PL.85）

【位置】30-12G【埋土】不明。【重複】竪穴259号住と重複。252号住近接。【形態】柱穴状（径0.7m深さ0.6m）【遺物】古代土師器甕*(0315)* 出土。【備考】古代。

115号土坑（図P.144 PL.86）

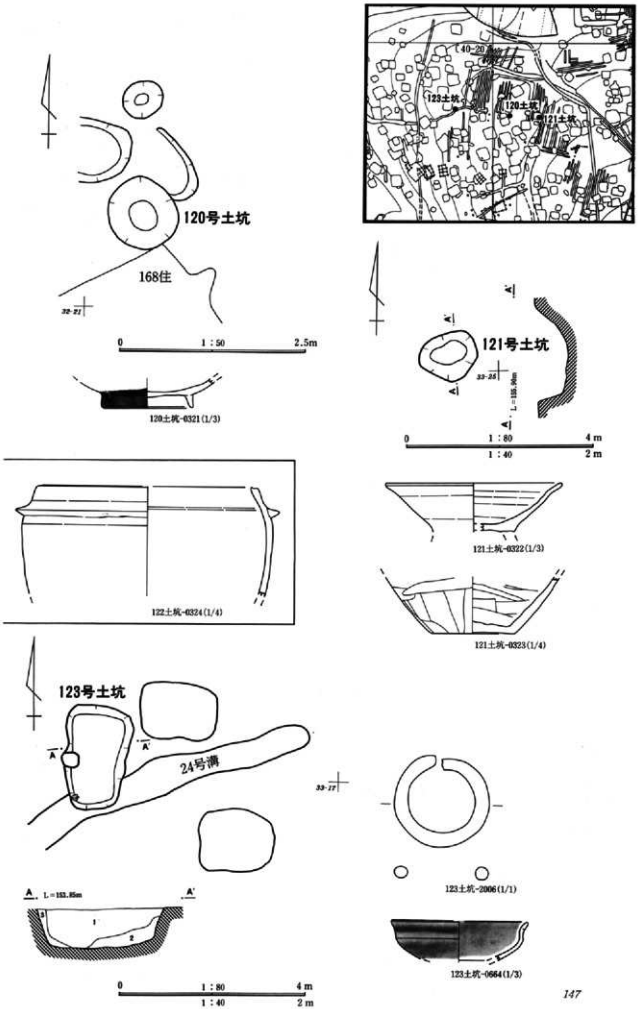
【位置】30-40G【埋土】不明。【重複】01号溝と重複。【形態】平面隅丸方形（2.6×2.0以上m）。断面皿状か。【遺物】古代須恵器羽釜*(0260～62,0317)* 出土。【備考】古代。

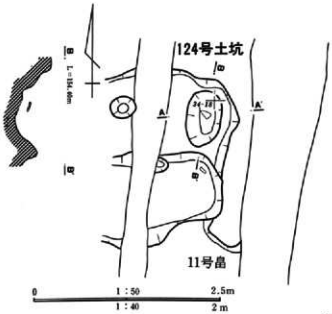
116号土坑（図P.145 PL.85）

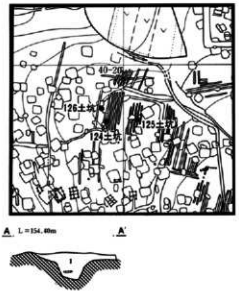
【位置】32-20G【埋土】不明。【重複】竪穴116号住近接。【形態】柱穴状（径0.6m深さ0.1m）。【遺物】古代土師器坏*(0318)* 出土。【備考】古代。

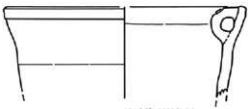
117号土坑（図P.145 PL.86）

【位置】32-25G【埋土】不明。【重複】竪穴212号住より新。【形態】楕円形（1.0×0.7×0.4m）。【遺物】鉄滓*(2120)* 出土。自然礫2個が内部にあった。【備考】小鍛冶の可能性もあるか。時期不明。

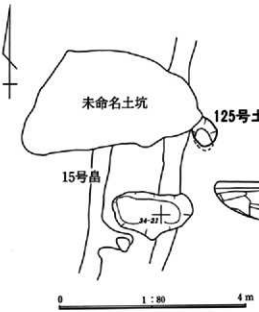

40-29
123土坑
120土坑
121土坑
120号土坑
168住
32-27
0
1：50
2.5m
120土坑-0321(1/3)
121号土坑
33-25
L=115.96m
0
1：80
4 m
1：40
2 m
121土坑-0322(1/3)
121土坑-0323(1/4)
122土坑-0324(1/4)
123号土坑
A
A'
24号溝
33-27
123土坑-2906(1/1)
A
L=112.85m
A'
1
2
0
1：80
4 m
1：40
2 m
123土坑-0664(1/3)



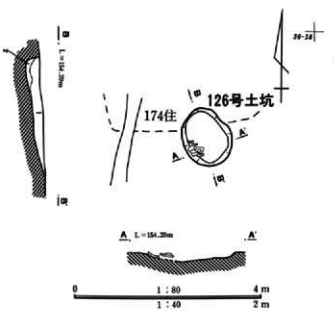


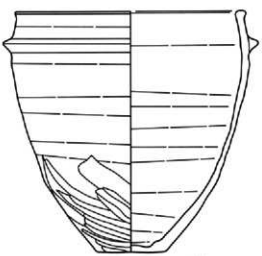


124土坑-0328(1/4)



125土坑-0329(1/3)





126土坑-0330(1/4)

118号土坑（図P.145 PL.86）

【位置】33-19G【埋土】1暗褐色土ローム塊多【重複】なし。【形態】平面楕円形で断面レンズ状（1.6×1.3×0.1m）。【遺物】古代須恵器甕*(0319)*出土。【備考】古代。

119号土坑（図P.145 PL.86）

【位置】33-21G【埋土】不明。【重複】両端に小ピット重複。【形態】平面短冊形で底平坦（2.2×1.0×0.3m）。【遺物】美濃灰釉瓶*(0320)*出土。【備考】近世。

120号土坑（図P.147 PL.86）

【位置】33-22G【埋土】不明。【重複】竪穴168号住と重複。【形態】平面楕円形（0.9×0.9m）で断面皿状か。【遺物】猿投灰釉碗*(0321)*出土。【備考】古代。

121号土坑（図P.147 PL.86）

【位置】34-25G【埋土】不明。【重複】竪穴211号住と重複。【形態】平面楕円形で断面皿状（1.3×1.1×0.4m）。【遺物】古代須恵器碗*(0322)*・土師器甕*(0323)*出土。【備考】古代。

122号土坑（図P.147 PL.87）

【位置】34-04G【埋土】不明。【重複】竪穴と重複か。【形態】平面円形で底平坦か。【遺物】古代須恵器羽釜*(0324)*出土。【備考】古代。

123号土坑（図P.147 PL.86）

【位置】34-17G【埋土】1暗褐色土ローム粒多 2同質ローム粒最多 3黒土【重複】小ピット・24号溝と重複。【形態】箱形で底平坦（2.2×1.2×0.4m）。【遺物】竜泉窯青磁天目碗*(0664)*・銅製耳環*(2006)*出土。【備考】周辺に同様の未命名土坑が4基ほど見られる。中世か。

124号土坑（図P.148 PL.87）

【位置】34-18G【埋土】1暗灰色粘質土ローム粒多【重複】11号畠・未命名土坑と重複。【形態】平面楕円形でやや柱穴状（0.8×0.5×0.3m）。【遺物】中世土師器鍋*(0328)*出土。【備考】123号土坑は西10mの位置。周辺に中世建物が存在した可能性がある。中世。

125号土坑（図P.148 PL.88）

【位置】35-22G【埋土】不明。【重複】15号畠・未命名土坑と重複。【形態】平面楕円形で傾いた柱穴状（0.7×0.5×0.5m）。【遺物】古代土師器坏*(0329)*出土。【備考】古代。

126号土坑（図P.148 PL.88）

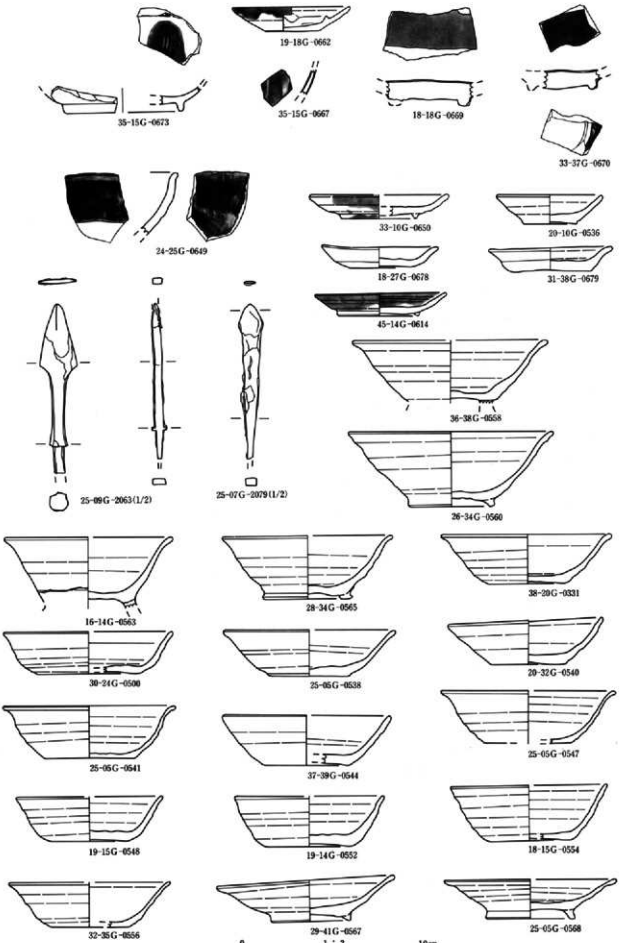
【位置】36-18G【埋土】1暗褐色土ローム塊多 2暗灰色土ローム粒多【重複】竪穴174号住より新。【形態】平面楕円形で底浅い（1.2×1.0×0.1m）。【遺物】古代須恵器羽釜*(0330)*出土。【備考】古代。

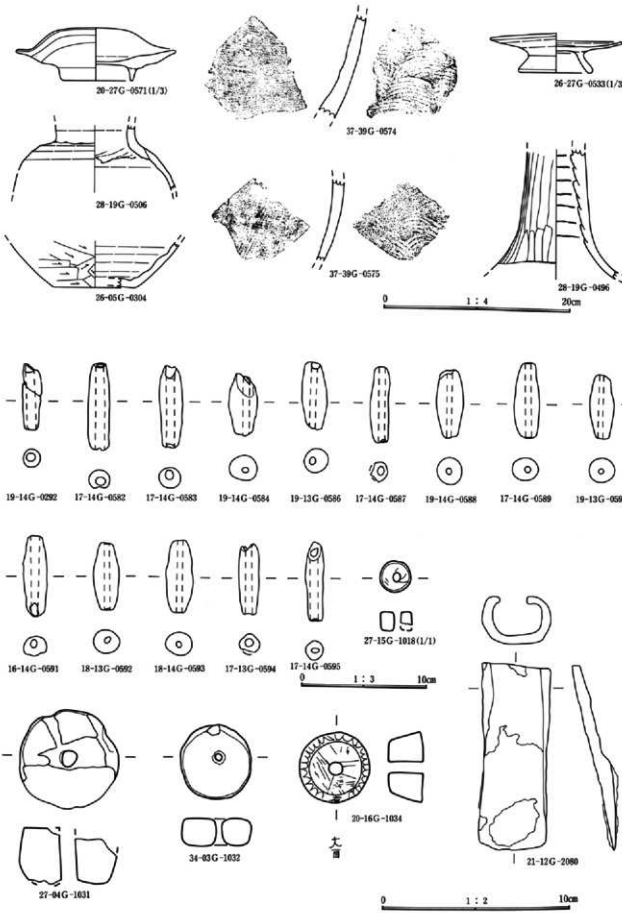
遺構外遺物（図P.150～52 PL.88～90）

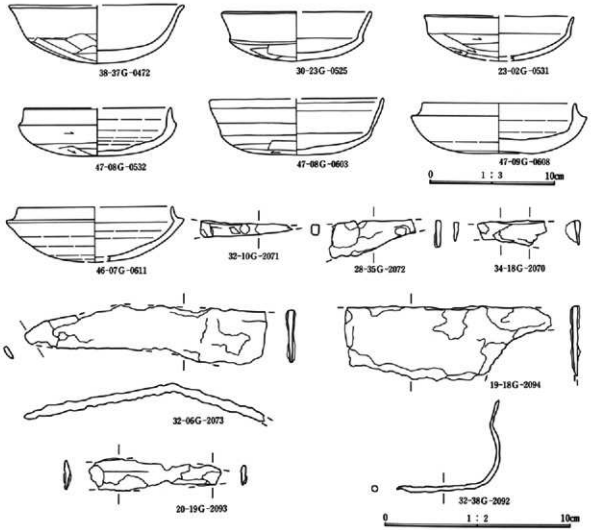
A　近世　19-18G志戸呂錆釉灯明皿*(0662)*　27-18G牛歯*(3003)*　35-15G肥前染付皿*(0673)*

B　中世　18-18G竜泉窯青磁鉢*(0669)*　18-27G中世土師器小皿*(0678)*　20-10G中世土師器小皿*(0536)*
24-25G瀬戸美濃天目釉碗*(0649)*　25-07G鉄鏃*(2079)*　25-09G鉄鏃*(2063)*
31-38G中世土師器小皿*(0679)*　33-10G瀬戸美濃灰釉小皿*(0650)*
33-37G竜泉窯青磁碗*(0670)*　35-15G竜泉窯青磁蓮弁文碗*(0667)*

C　古代　16-14G須恵器碗*(0563)*・土錘*(0591)*　17-13G土錘*(0594)*　17-14G土錘*(0582,83,87,89,95)*
18-13G土錘*(0592)*　18-14G土錘*(0593)*　18-15G須恵器坏*(0554)*　19-13G土錘*(0586,90)*
19-14G須恵器坏*(0552)*・土錘*(0292,0584,88)*　19-15G須恵器坏*(0548)*


19-18G-0662
35-15G-0673
35-15G-0667
18-18G-0669
33-37G-0670
24-25G-0649
33-10G-0650
29-10G-0536
18-27G-0678
31-38G-0679
45-14G-0614
36-38G-0658
25-09G-2063(1/2)
25-07G-2079(1/2)
26-34G-0560
16-14G-0563
28-34G-0565
38-29G-0331
38-24G-0508
25-05G-0538
29-32G-0540
25-05G-0541
37-39G-0544
25-05G-0547
19-15G-0548
19-14G-0552
18-15G-0554
32-35G-0556
29-41G-0567
25-05G-0568
0
1：3
10cm


20-27G-0571(1/3)
37-39G-0574
26-27G-0533(1/3)
28-19G-0506
37-39G-0575
28-19G-0496
26-05G-0304
0
1：4
20cm
19-14G-0292
17-14G-0582
17-14G-0583
19-14G-0584
19-13G-0586
17-14G-0587
19-14G-0588
17-14G-0589
19-13G-0590
16-14G-0591
18-13G-0592
18-14G-0593
17-13G-0594
17-14G-0595
27-15G-1018(1/1)
0
1：3
10cm
20-16G-1034
34-03G-1032
27-04G-1031
21-12G-2080
0
1：2
10cm



20-16G線刻滑石片岩紡錘車*(1034)*　20-27G須恵器耳皿*(0571)*　20-32G須恵器坏*(0540)*
25-05G須恵器坏*(0538,41,47)*・皿*(0568)*　26-05G須恵器羽釜*(0304)*
26-27G土師器台付小皿*(0533)*　26-34G須恵器碗*(0560)*　27-04G砂岩紡錘車*(1031)*
28-19G須恵器長頸瓶*(0506)*・土師器高坏*(0496)*　28-34G須恵器碗*(0565)*
29-41G須恵器皿*(0567)*　30-24G須恵器坏*(0500)*　32-35G須恵器坏*(0556)*
34-03G砂岩紡錘車*(1032)*　36-38G須恵器碗*(0558)*　37-39須恵器坏*(0544)*・甕*(0574,75)*
38-20G須恵器坏*(0331)*　45-14G猿投灰釉小皿*(0614)*

D　古墳時代　23-02G土師器坏*(0531)*　27-15G滑石白玉*(1018)*　30-23G土師器坏*(0525)*
38-37G土師器坏*(0472)*　46-07G須恵器坏*(0611)*　47-08G土師器坏*(0532,603)*
47-09G須恵器坏*(0608)*

E　時期不明　19-18G鉄製包丁？*(2094)*　20-19G鉄製ヤスリ？*(2093)*　21-12G袋状鉄斧*(2080)*
28-35G刀子*(2072)*　32-06G小刀*(2073)*　32-10G刀子*(2071)*　32-38G針金？*(2092)*
34-18G刀子？*(2070)*

4　表面採集遺物

出土位置不明として報告する遺物は、次の通りである。

	土器類		石製品類		金属製品		その他
近代	国産磁器	1			鉄製品	1	
					銭貨	1	
近世	国産磁器	1			鉄製品	2	
	国産陶器	4			銅製品	2	
					銭貨	3	
中世	瓦質土器	1			鉄製品	3	
	土師質土器	1			銭貨	5	
古代	国産陶器	1	紡錘車	7			
	須恵器	13	玉類	1			
	土師器	8	その他	1			
	瓦	2					
古墳	須恵器	2					
	土師器	14					
不明					銅製品	1	
					鉄製品	3	

以上の中で、顕著なものは次の通りである。

近世　銀象嵌銅製矢立蓋*(2001)*

古代　須恵器円面硯*(0581)*

土師器暗紋坏*(0526)*

刻字平瓦*(0512,13)*

線刻有孔石製品*(1026)*

なお、次のものは出土地区のみ判明している。

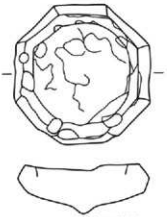
東側　多比良観音山　瀬戸美濃鉄絵皿*(0643)*

南西側　多胡小蓋林　瀬戸美濃二彩鉢*(0644)*

中世土師器塙*(0507)*・元豊通宝*(2056)*・皇宋通宝？*(2049)*・不明銅銭*(2057)*

須恵器坏*(0498)*・流紋岩紡錘車*(1020)*

表採-0661(1/3)


表採-2090(1/1)

表採-2055(1/1)

表採-0645(1/3)

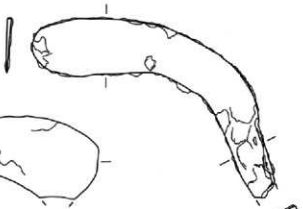
表採-0641(1/3)

表採-0646(1/3)

表採-0644(1/4)

表採-0642(1/3)

表採-0652(1/3)


表採-2064(1/2)

表採-0643(1/3)

表採-2077(1/2)

表採-2004(1/2)

表採-2076(1/2)

表採-2001(1/2)

表採-2052(1/1)

表採-2053(1/1)

表採-2054(1/1)

表採-0580(1/4)

表採-0557(1/3)

表採-0507(1/4)

表採-2065

表採-2061(1/1)

表採-2056(1/1)

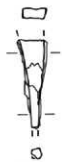
表採-2051(1/1)

表採-2049(1/1)

表採-2060(1/1)

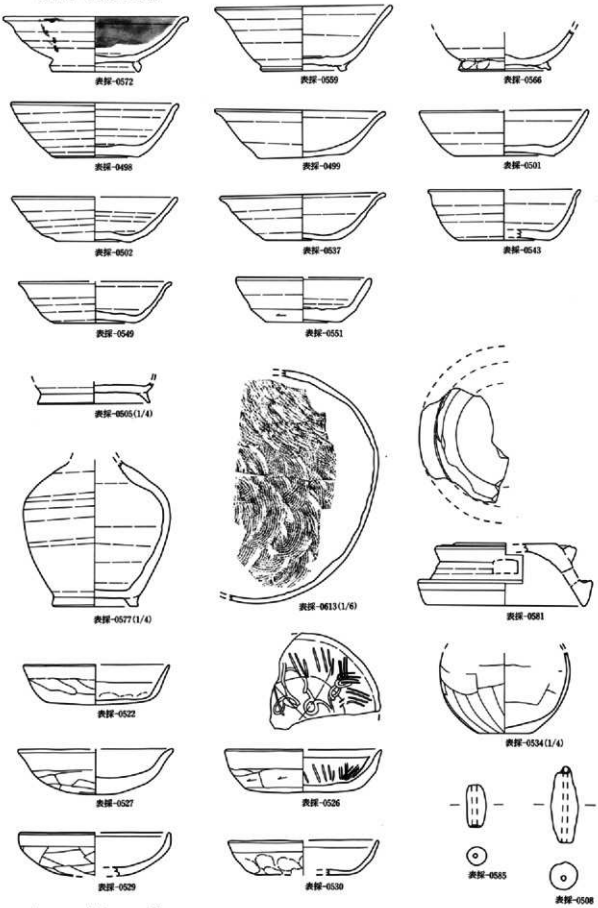
表採-2058(1/1)

表採-2095

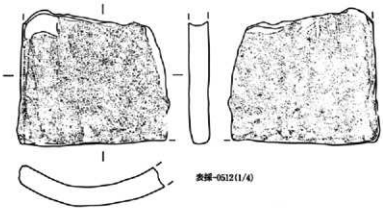

表採-2102

表採-2108

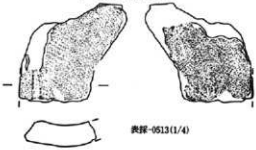
表採-2105


表採-0572
表採-0559
表採-0566
表採-0498
表採-0499
表採-0501
表採-0502
表採-0537
表採-0543
表採-0549
表採-0551
表採-0505(1/4)
表採-0577(1/4)
表採-0613(1/6)
表採-0581
表採-0522
表採-0534(1/4)
表採-0527
表採-0526
表採-0529
表採-0530
表採-0585
表採-0508
0
1：3
10cm

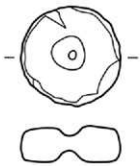
4　表面採集遺物



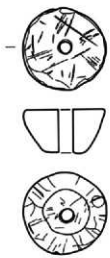
表採-0512(1/4)



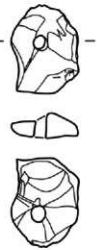
表採-0513(1/4)



表採-1016



表採-1019



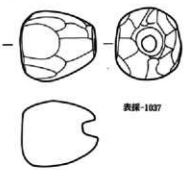
表採-1021

表採-1038

表採-1036

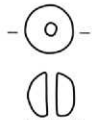
表採-1020

表採-1022



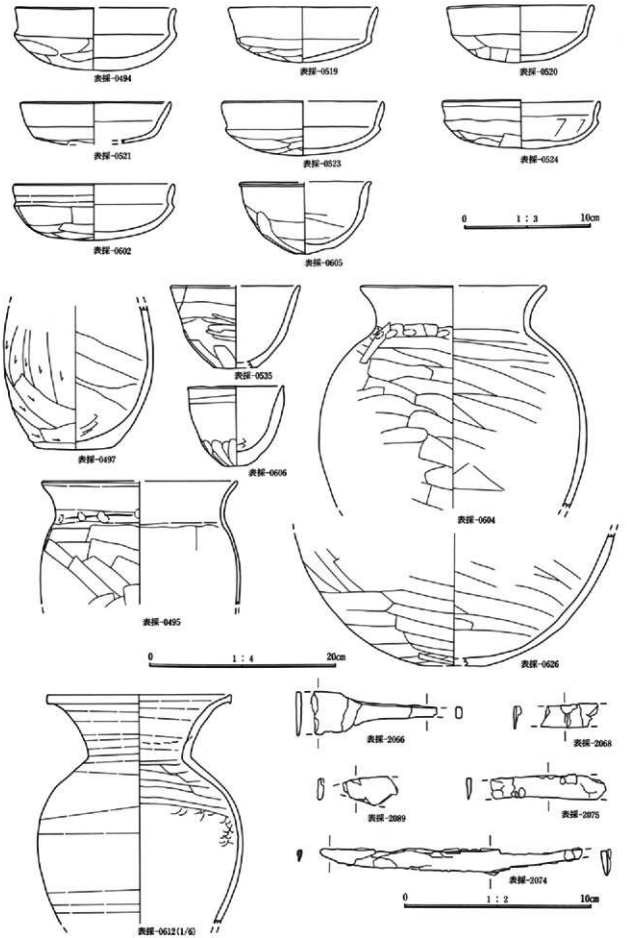
表採-1037

表採-1026



表採-1017(1/1)

0　1：2　10cm


表採-0494
表採-0519
表採-0520
表採-0521
表採-0523
表採-0524
表採-0602
表採-0605
0　1：3　10cm
表採-0535
表採-0497
表採-0606
表採-0604
表採-0495
表採-0626
0　1：4　20cm
表採-0612(1/6)
表採-2066
表採-2068
表採-2089
表採-2075
表採-2074
0　1：2　10cm

第Ⅲ章　遺物の特徴

1　陶磁器

本報告では総数45点の中近世陶磁器を掲載した。これは、中世舶載陶磁については全点であり、その他の近世以後の国産陶磁は代表的なものを抽出した。その内容は、下記の通りである（他に11点の古代陶器を報告したが、これはあくまでも竪穴住居以外の出土だけであり、本報告では全体像を把握しえないことを付記する）。

近代磁器　瀬戸美濃染付碗１　東北系染付小鉢？１・皿１
近世磁器　肥前染付碗３・皿２・手塩皿１・小杯１・瓶１
近世陶器　肥前染付碗３・二彩刷毛目碗１・京焼風鉄絵皿１
瀬戸美濃飴釉碗１・二彩膠錆碗１・鉄絵皿１・灰釉皿２・志野釉皿１・志野釉小皿１・飴釉小杯１・透明釉鉢１・二彩鉢１・飴釉香炉？１・灰釉仏飯器１
志戸呂錆釉灯明皿１
中世磁器　竜泉窯系青磁碗５・天目碗１・鉢３
中世陶器　瀬戸美濃天目碗１・灰釉皿２・飴釉菊皿１・灰釉小皿２

近世近代の磁器については、それほど顕著な特徴を示さない。見込に花卉文を描いた1650年代の肥前染付皿*(0640)* そして17世紀末～18世紀初頭頃の印判染付の同手塩皿*(0672)* が特筆される程度である。18世紀中葉以後爆発的に増大する粗製くらわんか手の染付碗も、数がかなり少ない。

近世陶器も、瀬戸美濃産のものが大半をしめる状況は、他の遺跡に比べて特に大きな相違点はない。絶対量が少ないことと、17世紀代のものが比較的多い点が見られる程度である。

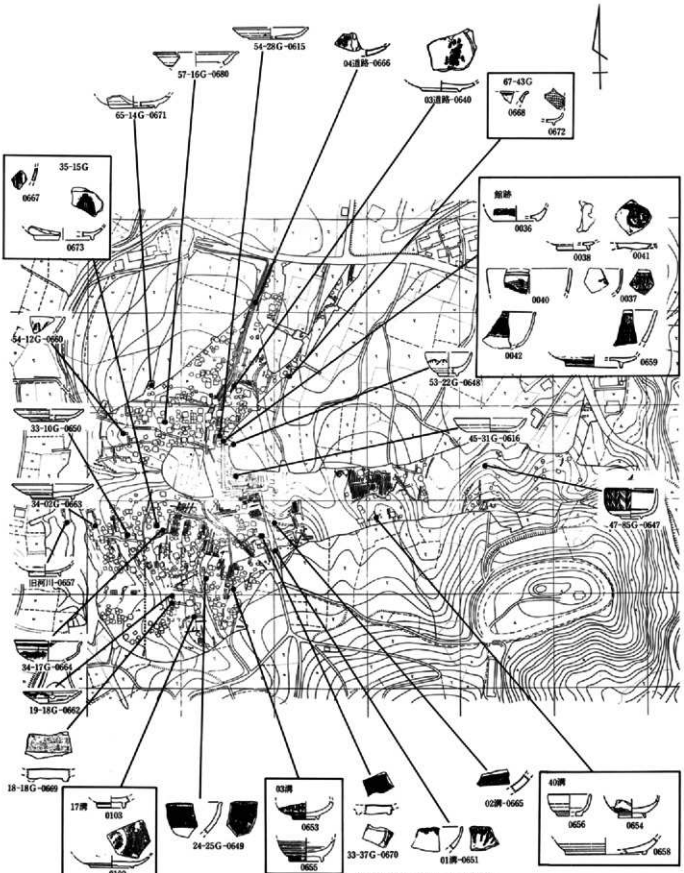
舶載の中世磁器については、黄褐色系の発色をし高台内無釉で見込に印花などのあるＡ類と、光沢のある淡青色系の発色で外面に蓮弁文があり高台内を全面施釉するＢ類に大きく区分できる。２点のみ*(0669,70)* のＡ類は他地域の出土状況より13世紀代と考えられ、その他のＢ類は韓国新安沖沈没船引き揚げ品に類例が多く、14世紀前半代を中心としている。中世陶器は、量が少ないことと、日常食器が大半である点が特徴であり、舶載磁器に並行する時代のものは見られない。

出土遺構の分布は、次の通りである。

北西側地区　*館跡堀*　東北系染付小鉢？・産地不明染付碗・肥前陶胎染付碗・瀬戸美濃飴釉碗・同灰釉皿・同飴釉香炉？・竜泉窯系青磁鉢　*03号道路*　肥前染付皿　*04号道路*　竜泉窯青磁碗　*01号溝*　瀬戸美濃飴釉菊皿　*02号溝*　竜泉窯青磁鉢
東側地区　*40号溝*　肥前染付碗・瀬戸美濃飴釉小杯・同？透明釉鉢
南西側地区　*03号溝*　瀬戸美濃膠錆碗・肥前刷毛目碗　*17号溝*　東北系染付皿・肥前陶胎染付碗
38号土坑　瀬戸美濃灰釉皿　*123号土坑*　竜泉窯青磁天目碗　*01号旧河川*　肥前京焼風皿

館跡堀は、他遺跡でも一般的なように中世以降の各時代のものが出土しているが、近世後期に始まる爆発的な磁器流入は見られない。この居館の形成は14世紀代とするのが妥当である。北西側地区での竜泉窯青磁を出土した遺構も同時期の成立だろう。ただし、調査時には中世の遺構の認識がなかった南西側地区で、14世紀代の123号土坑があり、さらに上述のＡ類の青磁が共にここの遺構外から出土したことは注意を要する。

東側地区の40号溝は、18世紀中葉のものが見られる。この溝は字界現道に一致する溝であり、現字界の成立時期の下限を示している。南西側地区の03号溝は、大字界現道成立後に形成されているが、ここでもこの溝の成立下限が18世紀後半であることが分かる。


54-28G-0615
57-16G-0680
04道路-0666
03道路-0640
65-14G-0671
67-43G
0668
0672
35-15G
0667
0673
館跡
0036
0038
0041
0040
0037
0042
0659
54-12G-0660
53-22G-0648
33-10G-0650
45-31G-0616
34-02G-0663
47-05G-0647
田尻川-0657
34-17G-0664
19-18G-0662
18-18G-0669
17溝
0103
0102
24-25G-0649
03溝
0653
0655
33-37G-0670
01溝-0651
02溝-0665
40溝
0656
0654
0658

陶磁器の出土分布

2　中近世土器

次のようなもの34点の出土を報告した。

近代土師器　甕蓋？（南西：01号旧河川１）

近世土師器　焙烙（北西：02号道路１）

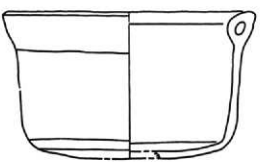
中世瓦質土器　コネ鉢（北西：11号井戸１・館跡堀２・04号道路２・遺構外１、東：12号井戸３、出土位置不明１）・擂り鉢（北西：館跡堀１）

中世土師器　小皿（北西：05号道路３、南西：04号溝・111号土坑・遺構外３、出土位置不明１）・塙（北西：11号井戸３・館跡堀４、東：12号井戸１、南西：07号溝１・124号土坑１・出土位置不明１）

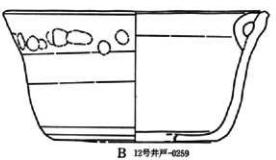
中世瓦　東側遺構外１

全体としては、近世以降のものが極めて少ない。それに対し、中世のものは比較的豊富である。特に基本的な調理具である瓦質土器コネ鉢と土師器塙は、前者が北西側を中心として分布し、後者は南西側も含めて広く見られた。

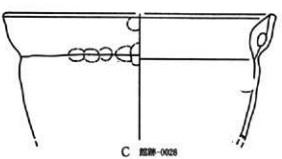
まとまって出土した11号井戸と12号井戸の塙を比較すると、器形的には次の差が見られる。前者は耳が小さく口縁が僅かに外反して内面に稜があり、丸底ぎみである（A種）。後者はやや耳が大きく、口縁は体部からそのまま外傾する形で、平底ぎみである（B種）。残念ながら、両井戸共に年代を確定する共伴遺物はない。一方、館跡堀で４点の塙が出土しているが、両者と共に、さらに耳が大きく内外面に明確な稜があって大きく口縁が広がる器形のもの（C種）も見られる。これらは、14世紀代を上限として、A→B→Cの順で変化したと想定されるが、本遺跡では確実な共伴資料は見られなかった。これは調理方法内容の変化に伴って、蓋構造が変わったことに起因するだろう。なお中ノ原城跡（南東2.5km）では、C種が出土している（吉井町教委，1989『中ノ原城跡』）。



A　11号井戸-0250



B　12号井戸-0259



C　館跡-0028

3　銭貨

総数55枚の銭貨の出土を確認した。開元通宝から大正の一銭銅貨まで種類は多様だが、その分布は以下のように偏っている。

	唐銭	北宋銭	南宋銭	明銭	古寛永通宝	新寛永通宝	近代銭	不明銭	計
北西側地区	0	9	1	2	0	0	0	0	12
東側地区	2	23	1	1	0	1	0	0	28
南西側地区	0	4	0	0	0	1	1	1	7
不　明	0	3	0	1	3	0	1	0	8
合　計	2	39	2	4	3	2	2	1	55

東側地区の北宋銭そして北西側地区の北宋銭が、中心をなしている。北宋銭39枚の中で最多は、元豊通宝の９枚、そして皇宋通宝が７枚と熙寧元宝が６枚、さらに元祐通宝が３枚である。この銭種の傾向は、他遺跡と大きく変化はない。明銭は、永楽通宝３枚と洪武通宝が１枚である。

次に出土遺構ごとの組み合わせは次の通りである。

北西側地区　*館跡*　明銭１枚　*03号小鍛冶*　北宋銭１枚　*04号道路*　北宋銭２枚
57-12G　北宋銭３枚

東側地区　*81-53G*　唐銭２枚・北宋銭23枚・南宋銭１枚

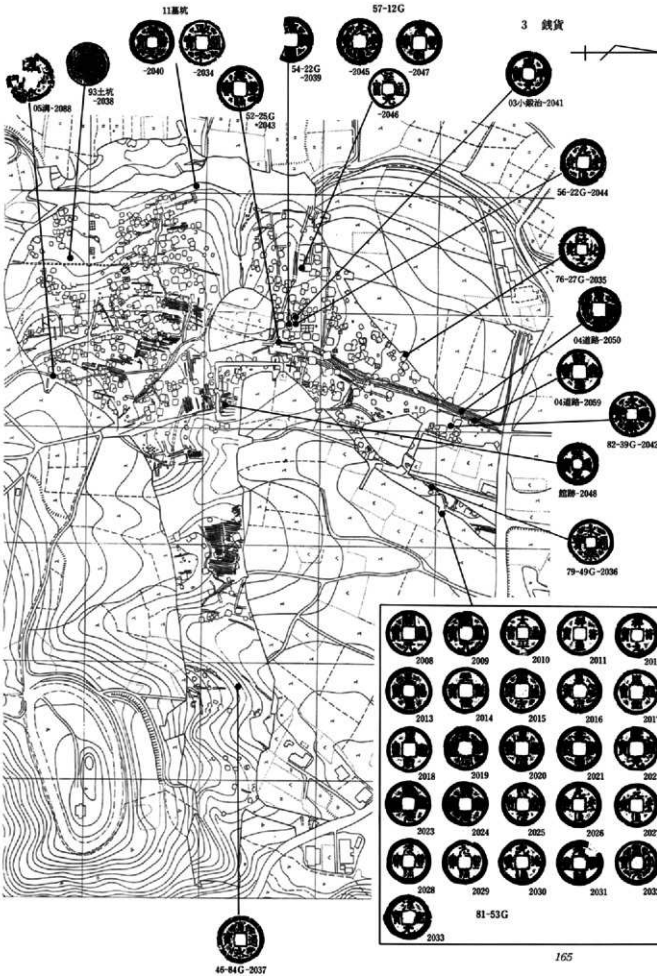
南西側地区　*93号土坑*　近代銭１枚　*11号墓坑*　北宋銭２枚　*05号溝*　新寛永通宝１枚

ここで最も注目されるのが、東側地区81-53Gでの26枚の出土である。遺憾ながら、調査時においてこのグリッドでの出土については、あまり十分には精査されていない。数量的には埋納と考えるのが自然だが、容器も含めて具体的な検出状況が記録されていない。最新初鋳銭種は淳熙元宝（1174年）であり、埋納であれば13～14世紀頃になされたものだろう。北西側地区の57-12Gでは、至道元宝１枚と元豊通宝２枚の組み合わせだった。この場合の状況も不明だが、数が少ないため埋納とは言えない。

最も明確な埋納例は、11号墓坑の２枚である。祥符元宝と政和通宝の組み合わせである。ただし、この遺構からはまだ他にも出土したと記録されているため、出土位置不明とされているものの中にここから出た銭が含まれているだろう。いわゆる六道銭である。

また04号道路では側溝から、熙寧元宝が２枚異なった場所から出土した。中世の道路遺構からは比較的銭貨の出土は多く、この道路が一定度の流通路となっていたことを暗示している。館跡の堀からは、洪武通宝が出土した。この館の下限が14世紀末よりは古くならないことを示している。なお、05号溝の新寛永通宝は鉄銭である。

以上にようにに、本遺跡で確認された銭貨は、決して多くはない。ただし、出土傾向はかなり偏っており、本遺跡地で中世において、経済活動が一定度盛んであったことを反映している。


11墓坑
57-12G
3 銭貨
-2040
-2034
54-22G
-2039
-2045
-2047
-2046
93土坑
-2038
05溝-2068
32-25G
+2043
03小穴群-2041
56-22G-2044
76-27G-2035
04道路-2050
04道路-2059
82-39G-2042
館跡-2048
79-49G-2036
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
81-53G
46-84G-2037

4　金属製品

銭貨を除く金属製品は、次のようなものの出土を確認した。

鉄製品	刃物	刀子13点・包丁２点
	武器	小刀１点・鞘金具？２点・鏃10点
	調度具	火打金２点・締金具２点・釘類４点・パネ１点・ベーゴマ１点
	農具	袋状鉄斧２点・鎌４点・鋤１点・ヤスリ１点
	その他	２点
鉄滓	計14点（北西側５点・東側１点・南西側８点）	
鉛製品	武器	銃弾１点
銅製品	調度具	矢立端部１点・キセル雁首３点
	装身具	耳環１点
	その他	２点

以上のように、数量的には刀子と鏃そして鉄滓が多い。ただし、それぞれ単品で時代を特定できるものは、鉄製品では少なく、僅かにベーゴマやヤスリ程度である。

その中で遺構からの出土は、次のとおりである。

北西側地区　*館跡堀*　鞘金具？２点・鉄滓　*11号井戸*　鉄滓　*05号道路*　釘片　*26号溝*　鏃？　*49号溝*　鉄滓　*53号溝*　鋤片　*61号土坑*　鉄滓　*63号土坑*　銅製有孔円盤　*77号土坑*　小角釘

東側地区　*12号井戸*　鏃？　*62号溝*　鏃？・不明鉄片　*64号溝*　鉄滓

南西側地区　*10号道路*　鉄滓　*01号溝*　締金具？　*03号溝*　刀子・締金具・鉄滓　*15号溝*　鉄滓　*19号溝*　鉄滓　*20号溝*　鉄滓　*39号土坑*　火打金？・キセル　*89号土坑*　鉄滓　*90号土坑*　キセル　*96号土坑*　鉄滓　*106号土坑*　包丁？・パネ・小鏃　*110号土坑*　刀子　*117号土坑*　鉄滓　*123号土坑*　銅製耳環　*不明遺構*　刀子

全体としては、南西側地区の土坑での出土の傾向が高い。同一種類のものの出土は、館跡堀の鞘金具？２点、そして39号土坑の火打金とキセルの組み合わせがあるが、他はあまり明瞭ではない。

鉄滓の出土が多いことが一つの特徴だが、小鍛冶遺構は次の通りである。

北西側地区（中世１・古代１）　　南西側地区（古代？１）

これらの小鍛冶の数に比べ出土鉄滓は広範囲に分布しており、他にも小鍛冶遺構が存在した可能性がある。

出土状態が全く記録されていないことが惜やまれるが、銀象嵌矢立蓋の存在は特筆できる。

5　石製品類

総数38点の石製品を報告した。その内訳は次の通りである。

石臼類　　石臼（粗粒輝石安山岩１点）・茶臼（粗粒輝石安山岩２点）

砥石類　　砥沢石製４点・牛伏砂岩製４点・砂岩製２点（可能性のあるもの含む）

紡錘車類　　製品（滑石片岩３点、砂岩２点、流紋岩１点、蛇紋岩１点、安山岩１点、不明３点）・未製品（滑石片岩３点、蛇紋岩１点、牛伏砂岩１点、不明１点）

玉類　　臼玉（滑石４点）・丸玉（蛇紋岩１点）・小玉（滑石１点）

その他　　有孔円盤（滑石１点）・有孔石製品（蛇紋岩１点）

報告数は、紡錘車類が17点と最も多いが、これは石製品全体の出土量を反映したものではないと思われる。遺構ごとの、出土遺物は次の通りである。

北西側地区　*館跡堀*　石臼１・茶臼２　　*11号井戸*　牛伏砂岩砥石　　*02号道路*　砂岩有孔砥石

04号道路　砥沢石砥石　　*06号道路*　臼玉　　*26号溝*　滑石有孔円盤

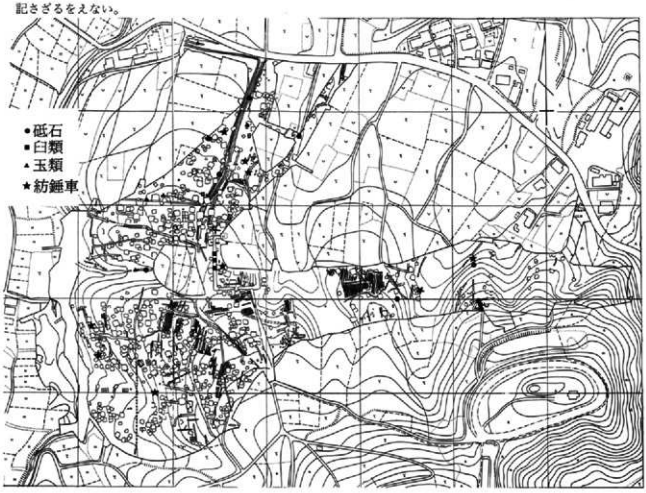
48号溝　紡錘車未製品　　*60号溝*　牛伏砂岩砥石・臼玉　　*70号土坑*　紡錘車

東側地区　*65号溝*　牛伏砂岩砥石？２・砂岩砥石？　　*83号土坑*　紡錘車未製品

南西側地区　なし

以上のように圧倒的に北西側地区の遺構例が多い。しかし、全体に遺構量が少ない東側地区はともかく、遺構密度の濃い南西側地区で全くない点は、あまりにも不自然である。調査時の記録漏れが、かなり含まれていることが感じられる。

なお、38点の中で10点は、出土状態不明の表面採集遺物である。特に紡錘車類総数17点の内の８点が、その大部分を占めている。また、紡錘車類全体の中で４点は本報告作成時には、所在不明となってしまった。遺憾ながら、石製品類の取り扱いは、調査時より整理初段階までの間、十分な配慮が払われなかったことを記さざるをえない。



6　獣人骨

宮崎重雄（群馬県立大間々高等学校）

A　馬骨

3007　**南西側地区03号溝　30-31G（近世か）出土**

左上顎の前臼歯３本、左後臼歯１本および歯種不明の右上顎臼歯数本が検出されている。

前臼歯列長は約88.7㎜で、西中川・松本.(1991)の現生在来種の計測値に照合すると、中型在来馬相当であることがわかる。また、性別は不明で、年齢は６～７歳と推定される。第３前臼歯と第４前臼歯の歯根は未完成で、歯髄腔は開いている。

3001,02　**北西側地区06号墓坑（近世か）出土**

ウマの下顎臼歯が６本と第２または第３前臼歯と思われる上顎臼歯１本および下顎骨片、肢骨片など多数が出土している。

全臼歯列長は150.0㎜で、西中川・松本.(1991)の現生在来種の計測値に照合すれば、小型在来馬相当である。ただし、本標本は咬耗のかなり進んだ老齢馬であり、全臼歯列長が壮齢馬の頃より小さくなっていることが考えられ、中型在来馬相当である可能性もある。

前臼歯列長は78.0㎜、後臼歯列長は72.5㎜であるが、これも老齢馬であるため、壮齢馬の頃よりも小さくなっていると思われる。

この他の下顎骨片・肢骨片は保存がきわめて不良で、形態的特徴や計測値などを得ることはできない。

3006　**東側地区62号溝（時代不明）出土**

上顎臼歯・下顎臼歯８本ほどが検出される。保存がきわめて悪く、正確な歯種同定は不可能で、計測値も得られない。

B　牛骨

3003　**南西側地区27-18G（近世か）出土**　*3004*　**北西側地区65号土坑（近世か）出土**

ウシの右下顎臼歯６本*(3003)*と数本の左下顎臼歯および上顎臼歯４本*(3004)*が確認されている。

歯にはセメント質が残存していて保存は良く、あまり古い時代のものとは思われない。下顎全臼歯列長は145.0㎜、上顎全臼歯列長136.7㎜であり、西中川・松本.(1991)の現生在来種の計測値に照合すると、口之島牛・見島牛など日本の在来牛相当である。年齢は11～13歳程度である。

C　人骨

3008　**北西側地区02号墓坑（中世か）出土**

頭蓋片・大腿骨骨体部片・脛骨骨体部片・腓骨骨体部片などの人骨と歯が数本検出されている。歯種とその計測値は表に示してある。第３大臼歯には近心に、ごく小さい咬耗による象牙質の露出があり、第２大臼歯にも３つの咬頭に象牙質が露出していて、熟年～老年期に至った個体であることを示している。性別は不明である。

文　献

西中川駿・松本光春.(1991)「遺跡出土骨同定のための基礎的研究～特に在来種および現代種の骨・歯の計測値の比較～」「古代遺跡出土骨からみた我が国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究」、平成２年度文部省科学研究費補助金（一般研究Ｂ）研究成果報告書、164-188

馬　骨　(単位mm)

3007　左上顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯
歯冠長	咬合面	31.3+	29.6	27.8	24.4
歯冠幅	咬合面	22.8	23.9	24.0	23.3
	中央	22.2	25.1	26.1	24.3
原錐幅	咬合面		13.3	13.7	12.0
	中央		10.6	11.6	12.0
歯冠高	頬側	63.6	76.3+	69.0+	63.0
	舌側	56.8	63.3+	60.4+	55.3

第2前臼歯～第4前臼歯：88.7mm
右上顎臼歯も幾本か確認される

3002　下顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠長		29.0	25.7	24.7	22.5	24.2	30.9
歯冠幅	前葉	13.8	14.5	15.0	15.5	13.3	12.3
歯冠高	頬側	11.5	22.2				
	舌側	8.6	21.3				
下後錐谷長			8.1	7.9	6.3	7.0	7.5
下内錐谷長		13.2	11.3	9.3	7.0	7.5	9.2
下内錐幅		6.2	6.6	6.1	5.1	5.0	

全歯列長：150.0mm
第2前臼歯～第4前臼歯：78.0mm
第1後臼歯～第3後臼歯：72.5mm
下顎骨片・肢骨片など破片多数あり

3001　上顎臼歯

	第2又は第3前臼歯
歯冠長	27.0+
歯冠高	49.0

牛　骨　(単位mm)

3003　右下顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠長		13.5	20.6	24.7	22.3	25.8	38.0
歯冠幅	最大	9.4	12.0	13.3	15.5	16.3	16.5
歯冠高	頬側		18.0	14.2	12.8	18.5	23.5
	舌側	16.2	15.0	16.7	15.2	21.3	25.6
下顎骨体幅			20.1	23.4	27.0	28.4	27.8

左下顎臼歯も何本か確認されている

3004　上顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
左　右		右	右	左	右
歯冠長		19.2	16.9	22.5	30.2
歯冠幅	最大	19.7	20.4	21.0	23.6
歯冠高	頬側	20.3	21.6	14.8	21.2
	舌側	15.9	20.9	13.9	19.3

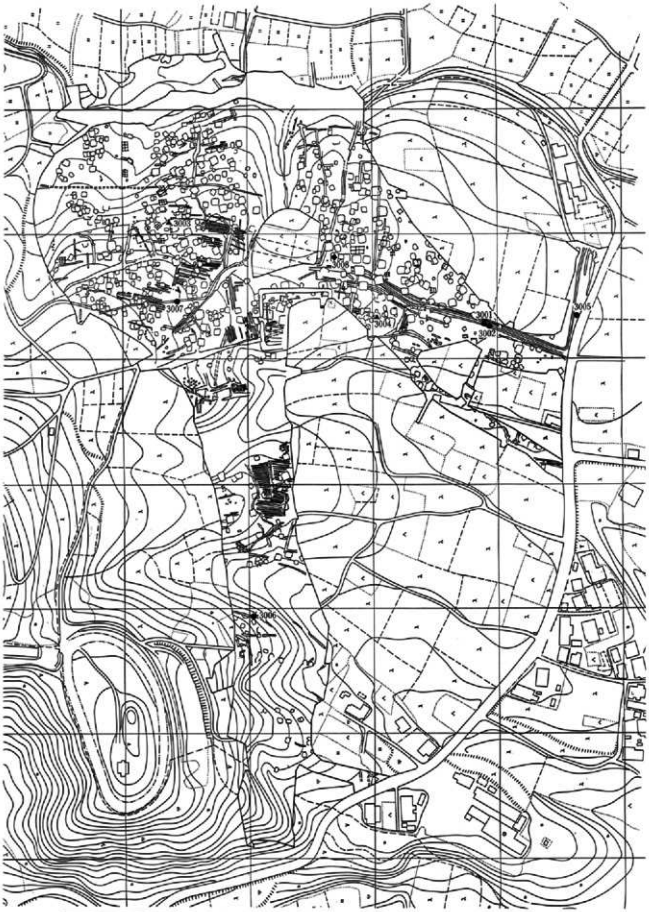
全歯列長：136.7mm
歯にセメント質残存

人　骨　(単位mm)

3008　歯

	側切歯	犬歯	第1小臼歯	第1小臼歯	第2大臼歯	第3大臼歯
上　下	上	下	下	下	下	下
左　右	左	左	左	右	右	?
歯冠近遠心径	7.4	6.7	6.7	6.8	12.2	12.0
歯冠頬舌径	6.5	7.9	7.8	7.8	11.6	10.8
歯冠高	8.7	9.8	7.6		4.9	5.5
象牙質の露出	切縁に面状	頸に紡錘形	咬頭に面状	咬頭に面状	咬頭に面状	心に極小

この他頭蓋片・大腿骨骨体部・脛骨骨体部・肋骨骨体部あり
大腿骨骨体中央幅：28.3mm
　　中央径：22.5mm



人骨・歯	◆
馬　歯	●
牛　歯	▲

獣人骨の出土分布

第Ⅳ章　遺構の特徴

1　中世居館と道路

ア　周辺の城館と字界

これまで判明している周辺の城館は、次のものがある（群馬県教委.1988.『群馬県の中世城館跡』他）。

大字矢田

1　*天久沢陣城*（図P.175）

【立地】丘上【存続期間】不明【在城者】不明【文献】なし【字】天久沢【遺構】堀・帯郭

2　*矢田城*（図P.175）

【立地】段丘端【存続期間】17世紀か【在城者】小林氏【文献】依田文書【字】前畑【遺構】堀・土塁・戸口

3　*矢田代官所*（図P.175）

【立地】段丘端【存続期間】17～19世紀【在城者】伊奈氏・長谷川氏・小林氏【文献】なし【字】前畑【遺構】堀・土塁・石塁

大字多胡

4　*多胡下の城*（*金沢城*　一部　図P.175）

【立地】丘上【存続期間】不明【在城者】多胡氏【文献】なし【字】下城【遺構】堀・帯郭・戸口・井戸

5　*多胡城*（図P.175）

【立地】段丘端【存続期間】不明【在城者】不明【文献】なし【字】城【遺構】不明

6　*多胡館*（図P.175）

【立地】平坦面【存続期間】12世紀【在城者】（源義賢）【文献】吾妻鏡【字】元郷【遺構】堀・土塁

大字多比良

7　*一郷山城*

【立地】牛伏山頂【存続期間】不明【在城者】多比良氏【文献】なし【字】一郷・見銘寺他【遺構】竪堀・土塁・戸口・堀切・腰郭【備考】新堀城の要害城　近年破壊

8　*新堀城（多比良城）*

【立地】段丘端【存続期間】不明【在城者】多比良氏・高山泰重【文献】生島足島神社起請文・関東幕注文他4文書【字】中城・新堀・土合川【遺構】堀・竪堀・土塁・戸口・堀切・腰郭・井戸【備考】平井城の副城

9　*瀬戸の城（向平城）*

【立地】丘上【存続期間】不明【在城者】岡部氏・望月氏【文献】なし【字】向平【遺構】堀跡・土塁

10　*中ノ原城*

【立地】段丘端【存続期間】15、16世紀間の短期間【存城者】不明【文献】なし【字】中ノ原【遺構】堀跡・土塁・櫓台・掘立柱建物【備考】1987･88年発掘調査　吉井町教委.1989『中ノ原城跡』

大字川内

11　*川内の砦*

【立地】段丘端【存続期間】不明【在城者】牧野英一【文献】なし【遺構】なし

大字石神

12　*峰山城*

【立地】段丘端【存続期間】16世紀【在城者】富田氏【文献】富田文書【字】城・馬場【遺構】堀・土塁・戸口・堀切・腰郭【備考】近年破壊

大字下神保

13　*神保城（植松城）*

【立地】段丘端【存続期間】16世紀【在城者】神保氏【文献】なし【字】植松【遺構】堀・石垣・竪堀・土塁・戸口・堀切【備考】1988年発掘調査　群埋文1996.『神保植松遺跡』

大字長根

14　*長根城*

【立地】段丘端【存続期間】16世紀【在城者】長根（小幡）氏・小林左馬助【文献】生島足島神社起請文他５文書【字】上の場【遺構】堀・竪堀・土塁・戸口・堀切他

以上の中で、７のみが完全な山頂立地であり、西の城山・旭岳山頂にも続く要害山城である。その他は、１・４・９は丘上ではあるが、丘そのものが段丘端に立地しており、基本的には６を除いてほぼ同様の自然地形を要害としている。今回の調査で検出した館跡（天王原居館）が、６に似た立地の２も含めた単純な方形区画に近い点は、立地条件によっているのだろう。

方形単郭の規模を比較すると２（東西100m南北120m土塁高2.5m）、３（東西120m南北100m）、６（一辺110m西北側は角なし）、７（東西84～90m南北90～93m）とほぼ似ている。

伝承では、６が木曽義仲の父義賢の居住地となっている。その他は、大部分が16世紀中葉の武田信玄の上杉・長野氏攻撃に関わる伝承が『箕輪軍記』などに記されている。１は、信玄の陣城との伝えがある。確実な文書によれば、14は武田方であり、８は上杉・長野方の後に武田方に在城者が変わっている。７は平井城の外堡とされる。矢田村は、近世において天領や吉井藩領などの支配の変化を繰り返すが、２は吉井藩陣屋跡で３は天領期の代官所と言われている。

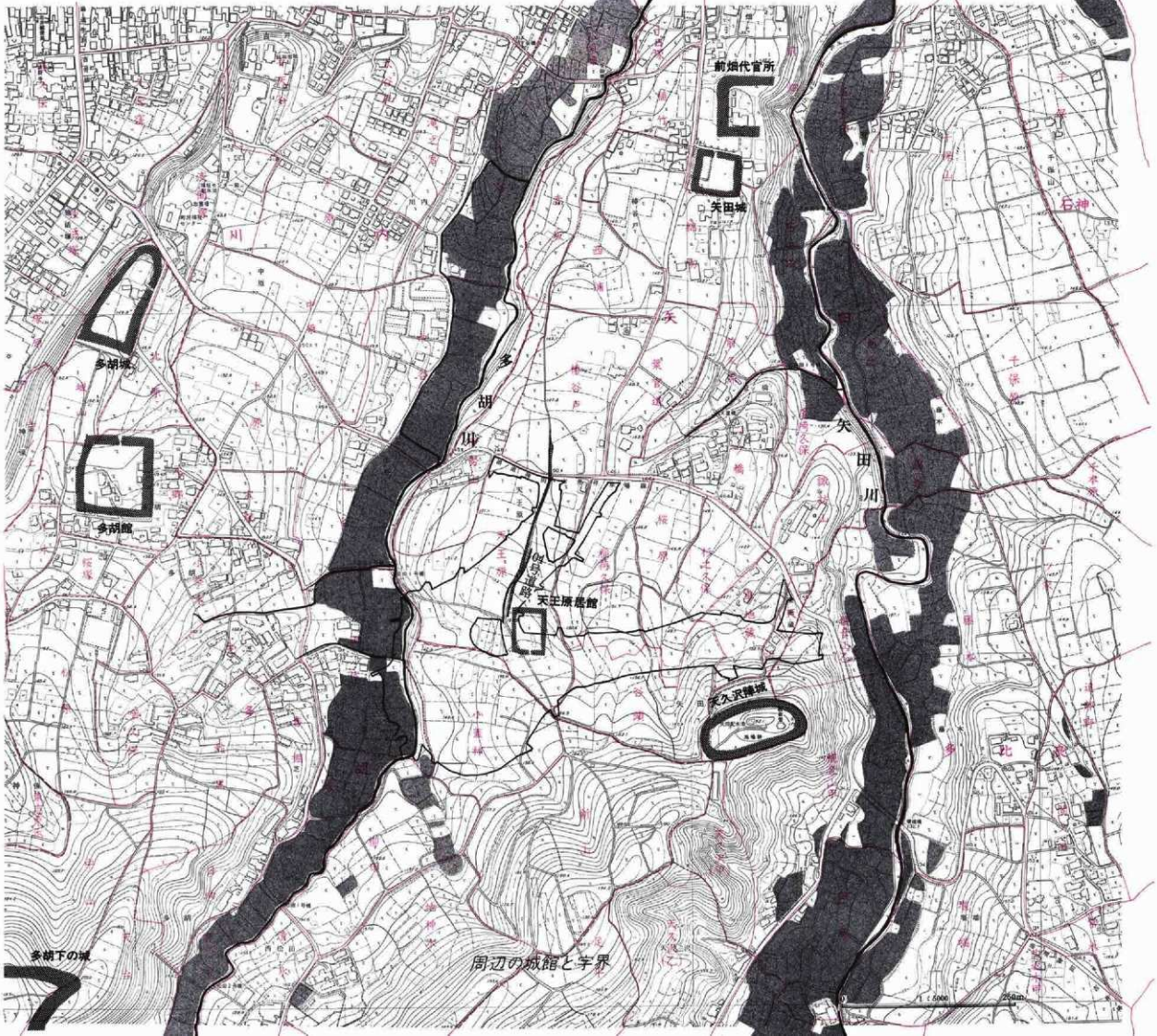
なお、本遺跡地が近世にそれぞれ支配の異なった矢田・多胡・多比良・川内の４大字の境界に位置しており、その結節点の一つが１のある天久山である点は、重要である。

イ　天王原居館とその周囲

本調査で検出した天王原居館は、単純な長方形の単郭（東西50m南北59m）であることは間違いない。中心部分は調査範囲外であったが、塀・柵跡である柱穴列が東側に少し空間を設けながら堀・土塁内に巡っており、単純な構造の戸口が南面に見られる。土塁と塀・柵の間には、北西側に方形竪穴がある。

このようなあり方は、あまり堅固な防衛構造がない点に特徴があり、舶載青磁・土器鍋・茶臼など一定度の経済力を持つ居住者が日常的に生活を過ごしたことが明らかである。遺物より考えた13～15世紀の存続期間において確実に並行して存続していた単郭城館は、Ｃ種鳩の出ている中ノ原城を除いて周辺には存在しない。上述のように近隣に見られる方形単郭の多胡館・中ノ原城・矢田城・矢田代官所は、それぞれ規模はこの天王原居館に比べ約２倍程度の大きさがある。しかし、中ノ原城以外の各城館の伝承による存続期間は、天王原居館とは異なっている。実際に伝承が事実であるかは、現段階では確証がないが、規模にはっきりと差が認められる点は注目して良い。

ほぼ全面調査された中ノ原城の場合、土橋・柱穴列・方形竪穴はなく、僅かに南東隅近くに掘立建物が１棟確認されただけだった。天王原居館より規模は大きいが、生活痕跡は薄い。（Ｐ.177に続く）


前畑代官所
矢田城
多胡城
多胡館
多胡川
矢田川
天王原屋館
天久沢陣城
多胡下の城
周辺の城館と宇界

（P.174より）

天王原居館で注意すべきは、東にわずか250mの距離しか離れていない天久沢陣城との関係である。近世の軍記物『箕輪軍記』に、信玄の愛馬天久がここで死亡したという伝説が記されている以外に、明確な資料がない。楕円形の堀・腰郭跡が、恐らく近世後期に建立された馬頭観音の境内を取り巻いて見られる。

この天久山の場所が、南西側の丘続き方向を除いた各方向に広い展望があることは、第Ⅰ章で記した通りである。そのために、信玄軍が東方の新堀城などを攻撃する際の陣となった可能性はもちろん否定できない。ただし、それ以前においてこの場所が全く空間であったかを考えると、本天王原屠館の居住者がここを簡単な要害として利用していた可能性は、決して小さくはないと思われる。

今回の調査で検出した中世の遺構を見ると、居館の西面にそって北に向かう04号道路が大きな意味を持っている。恐らくこの道路の延長として意識された近世の04号溝を含めて、やや弧を描きながら南北方向に走る大きな境界の存在を見ることができる。この境界の東側には居館以外には、北に離れて12号井戸がある程度なのに対し、西側では堀を持たない状態での井戸を伴う掘立柱建物群（次節で詳述）が、多胡川に流れる低地を境にして南北に２群認められる。さらにそこに墓や小鍛冶などが点在している。

04号道路はそのまま北に延びて、北の段丘崖下を東西に走る伝鎌倉街道との居館をつなぐ重要な道であったことは間違いない。

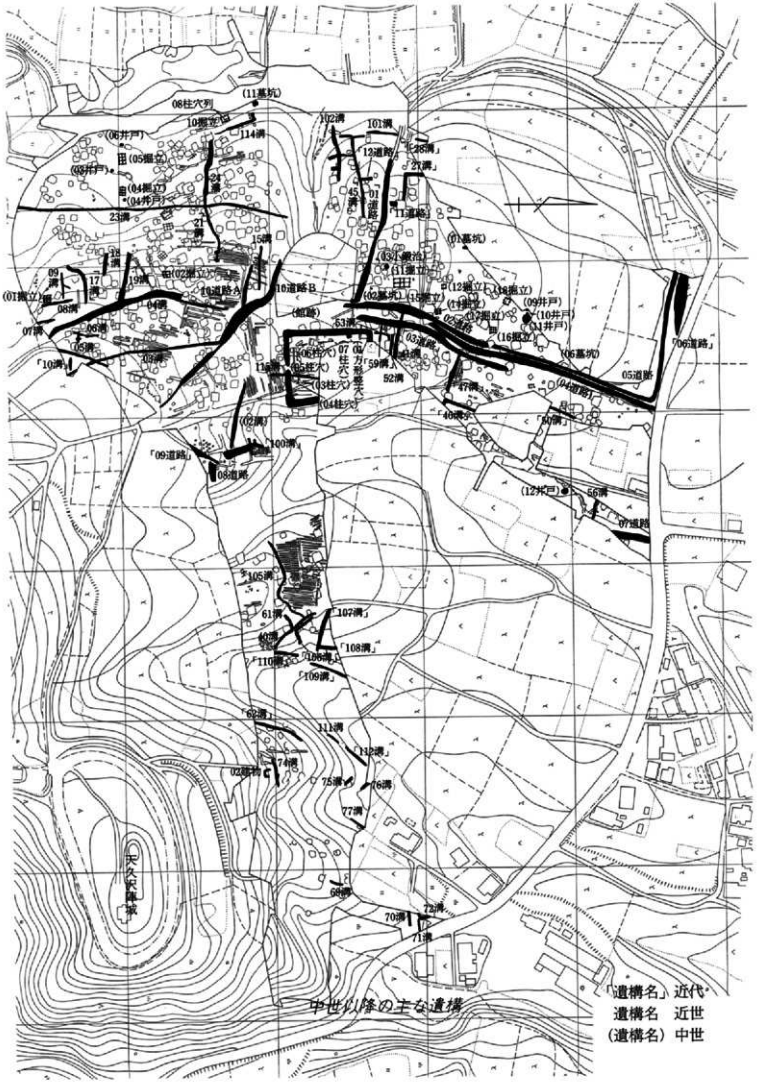
道路の東側は、少なくとも北に120mほど離れた12号井戸の周辺までは建物が存在しない可能性が高く、居館居住者が直接に管轄する領域であったと考えられる。それに対し、西側は防衛施設に囲われない住宅がまとまる領域であり、そこは居住者たちの生業（鍛治がその一つ）そして埋葬が同時になされた空間と見ることができる。このような空間分離は、出土遺物の状態から見る限り、全く異なった時代のことではなく、同時並行した可能性が極めて高い。そうであるならば、この分離状況から見る限り、居館居住者と西側の集落居住者の関係は、相互に混在のできない身分差のようなものであったかもしれない。

また、西側の南北二つのグループは、建物の主軸が明らかに異なっており、相互に別の集団を形成していた感じがある。この区分意識が近世まで何らかの状態で引き継がれ、大字矢田と多胡の境界がその間に残されたことになったように思われる。

とするなら、ではなぜ重要な境であった04号道路は、近世以降に大字境にならなかったのか。それを合理的に解釈するためには、居館が西側の集落よりも先に廃絶したことしか考えられない。実際に今回判明しただけでも、南西側の多胡川端の10号掘立のように近世の建物と推定されるものがあり、完全な集落の存続はないだろうが、居館の廃絶よりもかなり後まで集落が続いた可能性が高い。

もう一つの問題として、指呼の距離にある多胡館の存続期間がある。仮に天王原居館と並行する期間があるなら、南西側の集落の帰属・支配については、多胡館居住者が関わってくる可能性がある。その場合、天王原居館と多胡館の両居住者は、複雑な関係を持っていたことになる。

中世文献に登場するこの地域の武士団は、多胡氏と多比良氏である。多胡館は、地上に残る遺構からは中世初期のものと考えられている。そのため、「多胡先生（せんじょう）」の異名を持つ源義賢との関係が想定されてはいるが、多胡氏・多比良氏は共に吾妻鏡に登場しており、特に多胡氏の登場は12世紀末まで遡る。そのため、多胡館の居住者は多胡氏であった可能性もある。矢田川を越えた東側の多比良氏の本拠地側との関係は、今回の調査でも中世に関しては希薄である。従って、本天王原居館の居住者は、その多胡氏の一族であったと考えるのが自然であろう。


中世以降の主な遺構
「遺構名」近代
遺構名　近世
(遺構名) 中世

2　掘立柱建物

本報告の執筆時までに確認した掘立柱建物と柱穴列は、次の通りである。

	近世		中世		古代		古墳		時期不明		合　計	
	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列
北西側	1	0	7	5	1	0	0	0	2	0	11	5
東側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南西側	0	1	4	0	8	2	0	3	0	0	12	6
計	1	1	11	5	9	2	0	3	2	0	23	11

単純な分布は、東側地区では全く見られず、北西側と南西側のみに分かれていることになる。時期別では、中近世と古代に大きく分かれ、掘立・柱穴列共に中世が多い。時期別の地域差は、共に完全に偏っているわけではないが、中世の主体が北西側にあるのに対し、古代以前は南西側が中心となっている。

構造別では、掘立の場合に次のような特徴が見られる。

近世　主軸：南北　間数：2×3間　柱穴掘り方：普通

中世　主軸：東西7・南北3・北東南西1

間数：1×2間5・2×2間1・2×2間総柱1・2×3間総柱4

柱穴掘り方：普通6　小5

古代　主軸：南北1・東西1・北西南東7

間数：1×1間1・1×2間1・2×2間1・2×3間3・2×3間総柱3・2×4間1

柱穴掘り方：大6　普通2　小1

即ち、中世は東西方向を主軸に持つものが多く、小型（1×2間）と大型（2×3間総柱）にほぼ分かれる。小型は北西側に多く、大型は南西側が中心である。柱穴掘り方は大体あまり大きくない。これに対し、古代は北西・南東方向を主軸に持つものが圧倒的に多く、全体としては大型(2×3間)が中心だが、総柱のものとそうでないものに分かれる。掘り方は、大部分が大きい。中ノ原域では東西主軸の2×3間（4.1×7.3m）の建物が見られ、掘り方はやや大きい。

柱穴列は、単純には比較できない。中世のものは、館跡内に設置された同一の遺構であり、確認した間数は2～3間程度かつ間隔は不揃いであり、掘り方は小さい。当然、主軸は館跡堀に平行して各方向に走っている。これは、文字通り塀や柵の主柱の跡であろう。古代の場合、検出した2基は、いづれも東西走向だが、特に09号は同一方向に5回の並び替えがある。柱穴掘り方は大きい。これらは、掘立建物の一部である可能性を否定できない。一方、古墳時代のものは、東西方向が2、北西・南東方向が1である。後者の11号は掘り方も大きく、遺物から古墳時代としたが、上記古代の掘立の傾向に似ている。

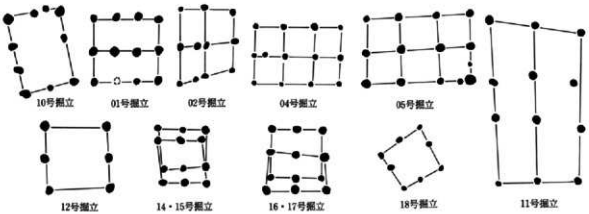
ここで検討した掘立と柱穴列は出土遺物が多くはないため、細部に至っては厳密には時期判別が妥当でない可能性も残すが、全体としては中世と古代で傾向が大きく異なる状況は指摘することができる。

だが、調査上の問題として、竪穴住居以外の遺構が全て「ピット」という呼称により単独で処理されてきたことがある。それらの「ピット」の中で列をなすことが整理中に分かったものは、21～23号掘立と全ての柱穴列である。しかし、それはあくまで顕著な遺物の見られた「ピット」のみを検討した結果であり、実際には子細に注意を払えば、まだかなり多くの掘立や柱穴列を確認できる可能性は極めて大きい。

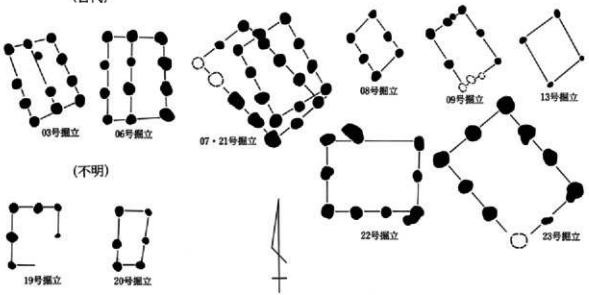
「竪穴住居の集落」として調査されたことで、少なからず見落とされた事実の存在を感じざるを得ない。

掘立柱建物

（近世・中世）



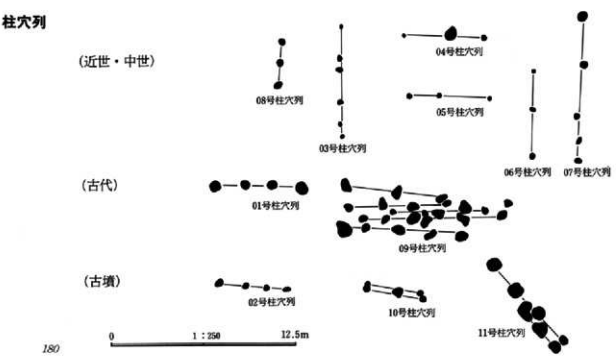
（古代）



（不明）

柱穴列

（近世・中世）



（古代）

（古墳）

3　景観復元

本報告の目的の一つは、主な対象である溝などの長大な遺構の理解であった。そのために、特に重点的に周辺の地形がどのようであり、それが過去の生活とどのような関係があったかを検討しようとした。

その目的に近づくために、ここでは二つの方法で接近を試みた。一つが、コンピューターグラフィックによる鳥瞰周辺地形復元図の作成であり、もう一つがイラストレーション図による景観復元である。それらの概要は次の通りである。

ア　鳥瞰周辺地形復元図（PL.3,4）

ここでは、調査地を中心にした範囲（東西1.1km南北0.9km）の鳥瞰図を4方向から作成した。その要点の一つは、多胡川と矢田川の両河川と段丘との関係、南側の天久山丘陵と段丘平坦面の関係という両重要地形要素を立体的に理解することである。もう一つは、調査で検出した溝や道路が地形とどのような関係で存在したかを明らかにすることであった。

実際には、その二つの目的を同時に達成することは簡単ではない。自然地形は広い範囲の大きな変化を捉えることが重要であり、俯角を上げ、高度を強調し、縮小率は大きくした方が理解しやすい。しかし、道路はもちろん溝でさえ、遺構として検出したものは自然地形に比べ変化の率は極めて小さい。そのため、遺構理解には、範囲を狭くて縮小率を下げ、俯角を下げて高度を強調しない方が実際の感じに近い。

そのような二律背反的な要件を同時に満たすような形で、今回の復元図を試みに作成した。

結果的には、次のことが少なくとも理解できる。

1　南側の天久山丘陵の存在が極めて大きい。

2　多くの遺構はあまり微地形に関わりなく形成されている。

つまり、南側にかなり意識される丘があるため、居住者の生活視点は、常に北に向かっているとすることが分かり、またその大きな視点の意識の中では、多少の細かい地形変化はそれほど注意を払われない、と想定することができた。

イ　景観復元イラストレーション（図P.182）

上記の鳥瞰図による結果を踏まえて、実際の生活の様子を人間のアイレベルでどのように映っていたかを想定して描いた。当然、その設定時代は、本報告の中心となった中世である。

本調査地のある矢田段丘は中央の道路を境にして、東西に大きく分かれている。東側には堀で囲まれた居館のみがあり、西側は防衛施設を持たない集落である。

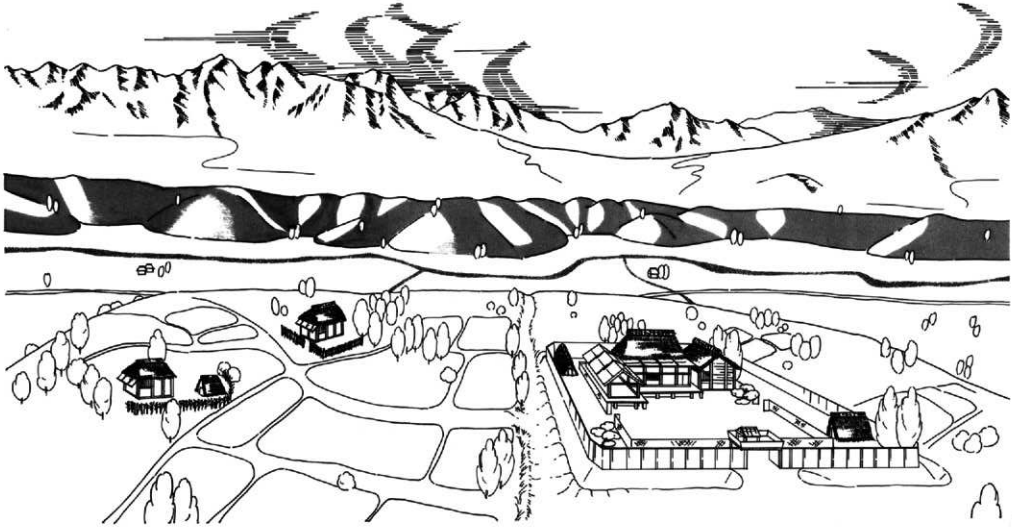
これらに居住する人々が天久山丘陵の中腹くらいに登れば、まず眼前には段丘端の向こうに広く東西に延びる鏑川低地（甘楽回廊）が見渡せる。そこにはいわゆる鎌倉街道が段丘の下を走っている。

鏑川の背後には低い岩野谷丘陵（観音山丘陵）があまり高度に変化のない状態で横に延びている。この丘陵は決して通過にそれほど困難を伴うわけではないが、途切れることなく連なっていることで、この地域の居住者にとって精神的には大きな境となっている。

そのような丘陵の背後の遠くに、榛名・子持・武尊・赤城の上野北部の連山が屹立して見渡せる。これらの山並みは、岩野谷丘陵に比べ、あまりにも荒々しい姿であり、甘楽回廊一帯の穏やかな生活とは一変する生活があることを連想させる姿である。

視野の中に岩野谷丘陵を越えた世界は常に見ることができるが、そこに存在するものはかなり異なった世界であることも感じざるをえないような景観でもある。

中世の景観想定図



第Ⅴ章　調査成果まとめ

1　近世以降

すでに述べたように、本遺跡の調査は古代以前の竪穴住居を対象として実施された。そのため、近代はもちろん近世についてさえ、積極的な意味で調査されてはいない。その最も顕著な例は、本報告で畠としたものが、耕作痕としてのみ記され結果的には掘り込みが実測されてはいるものの、それぞれを遺構単位として認識は全くされていなかったことに見られる。

本報告では、すでにこれまでに各箇所で報告したように、それらを多数の畠遺構とした。その大部分は天明年間の浅間山爆発以後に作られたもので、その地割りは調査前の地境にほとんど一致している。つまり、18世紀末以降の近世後期から近代そして現代に至る景観は、少なくとも地境に関する限り、ほとんど変化していないと考えることができる。

そのような中で最も興味深いのは、当然のことかもしれないが、天明の大災害以前に形成された道路や地境は、特に重要な中世の04号道路以来の部分を除いて、そのままの形で復旧していない点である。

また、全体として、畠での農耕生産に関する遺構と遺物が大部分であって、出土位置不明の銀象嵌矢立のような少数の例外を除いて、居住生活に関係するものは多くない点が上げられる。

各地域ごとの遺構分布の特徴は、次の通りである。

【北西側地区】

ここでの最も中心は、道路である。特に中世の04号道路の部分は何回も改修されている。この道路も含めて、調査時には主体的に取り上げられた遺物は古代の須恵器類であるが、竪穴住居集落を壊して形成された道路の側溝であれば、そのような遺物が混入しているのは当然である。道路の側溝を単独の溝として捉え、しかも量的に多い須恵器類を中心に考え、中世はもちろん近世・近代の遺物を「攪乱」のような形で意識してしまえば、これらは性格不明の溝が平行して出てきたことにのみなってしまう。

残念ながらそのような状態であったため、路面の確認や改修などの資料が抽出できなかったことは、極めて遺憾である。

【東側地区】

ここでは、土坑類の検出が中心である。近世から近代にかけて上野地方では普遍的に畠地の縁辺あるいは屋敷構えの外郭にそって短冊形の土坑が見られる。これは、いわゆるイモ穴などと呼ばれる貯蔵用を中心とする畠地農耕に伴った遺構と考えられる。

本地区で検出された土坑の多くは、そのような短冊形の土坑である。これも調査時には、長いものについては溝として捉えられたため、重複する単位などが不明確になってしまったものも多い。

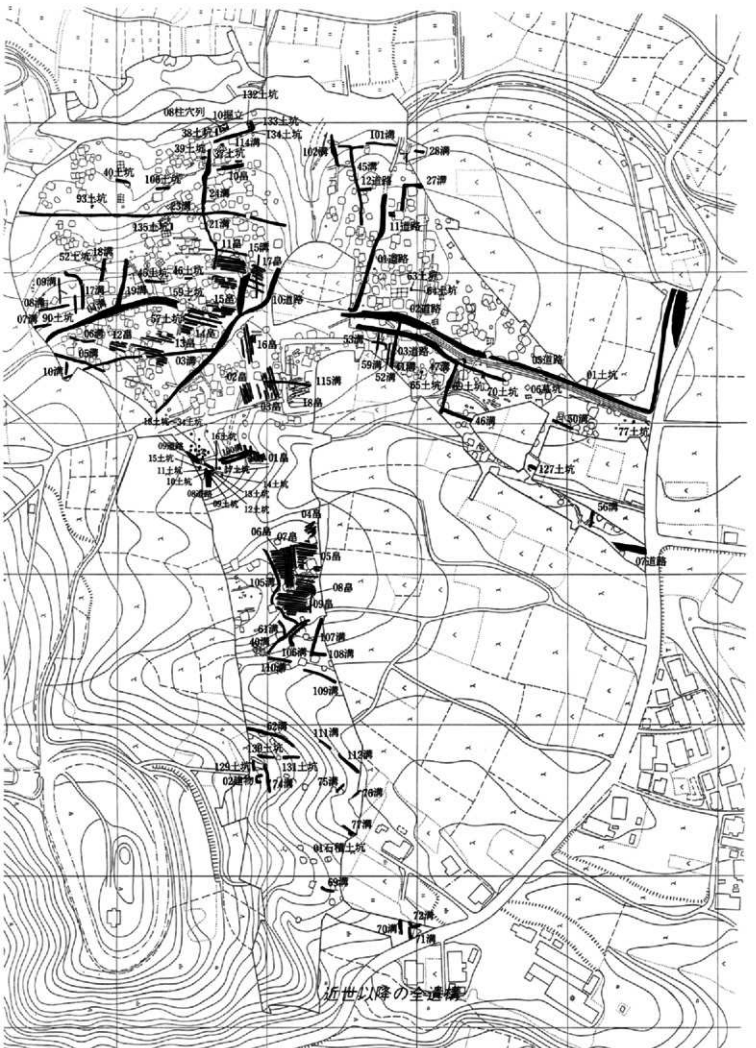
性格不明なものだが、1基検出された石積土坑は、かなりの労力をもって築かれたものである。今後の類例の発見をもって、検討を続ける必要がある。

平面U字形の溝をもって、建物跡とした。これも正確には建物本体ではないため、今後の考察を要する。

【南西側地区】

ここで多く検出したのは、前段で述べたような地境の溝である。また畠も多く、短冊形土坑も少なからず見られる。それ以外では、10号掘立が近世唯一の建物となる。掘立の柱穴そのものからの遺物の出土はないが、周辺を囲む溝の存在から近世のものであることはほぼ確かだろう。

全体としては本地区での近世以降の要素は、以上を除いてあまり顕著ではない。


132土坑
08柱穴列
10掘立
133土坑
38土坑
134土坑
39土坑
114溝
37土坑
102溝
101溝
28溝
40土坑
106土坑
10島
45溝
12道路
27溝
93土坑
24溝
23溝
11道路
135土坑
21溝
52土坑
18溝
11溝
15溝
17島
09溝
43土坑
46土坑
08道路
63土坑
112溝
19溝
158土坑
15島
64土坑
06溝
07溝
90土坑
67土坑
02道路
22島
14島
13溝
16島
55溝
03道路
05溝
03溝
92島
59溝
61溝
47溝
52溝
65土坑
66土坑
70土坑
05島
01土坑
10溝
115溝
18島
85島
46溝
30溝
77土坑
14土坑
34土坑
163土坑
09溝
15土坑
01島
11土坑
19土坑
14土坑
08道路
18土坑
09土坑
12土坑
127土坑
04島
56溝
06島
07島
05島
07道路
105溝
08島
09島
61溝
48溝
107溝
106溝
108溝
110溝
109溝
62溝
111溝
30土坑
112溝
129土坑
13土坑
02建物
74溝
75溝
76溝
77溝
01石敷土坑
65溝
72溝
70溝
71溝

近世以降の全遺構

2　中世

この時期については、すでに前章でその要点について詳述した。ここでは、地区ごとに検出遺構・遺物の概要をまとめる。

【北西側地区】

ここでの中心は、04号道路と館跡そして04号道路西側の掘立建物群である。

館跡は、残念ながら主屋想定部分が範囲外となったが、全体規模を推定できる程度には堀を検出することができ、また内部施設についても３方向を区画する柵・塀跡の柱穴列と方形竪穴を確認した。本地域の中世城館の調査としては、規模は小さいものの植松城・中ノ原城に次ぐ検出となった。

出土遺物は上野地方の中世城館の他例に漏れず、決して多くはない。しかし、少数ではあるが14世紀代の竜泉窯青磁片や茶臼類など一定度、存続期間と性格を想定する資料を確認した。ただし、調査時において中世と認識されていたのは堀だけであり、遺物についても本報告で掲載したものが完全に全てではない可能性は残る。

道路の西側に展開する井戸を伴う掘立建物群は、道路とほぼ並行の南北方向を主軸とするものが多い。基本的には館跡の存続期間と同時の存続が考えられる。規模・形状の異なる個々の建物の性格を特定することはできないが、館居住者に従属的な人たちの住居群であることは間違いない。また、その生業の一つに鍛冶があったことも確かである。

建物群の周縁では自然石を敷いた２基の墓坑が東西に見られた。東側のものに残っていた熟年～老年期の人骨は、この建物群居住者と考えられる。

南北方向に延びる堀底の道路の使用は、その後現代まで継続されている。

【東側地区】

ここでは、中世の遺構は極めて希薄である。わずかに矢田稲荷久保地区で１基の井戸を確認しただけである。調査範囲の形状から考えれば、館跡の直接東側部分は、他に中世の遺構が存在した可能性は乏しい。ただし、稲荷久保の12号井戸周辺の調査範囲は狭く、井戸という遺構の性格から考えて、この周辺に建物群などがあったかもしれない。

その傍証で、この井戸のやや南側で14世紀前半の竜泉窯青磁碗片を確認している。また井戸のすぐ近くでは、13～14世紀の銅銭埋納が見られたことも、関係しているだろう。

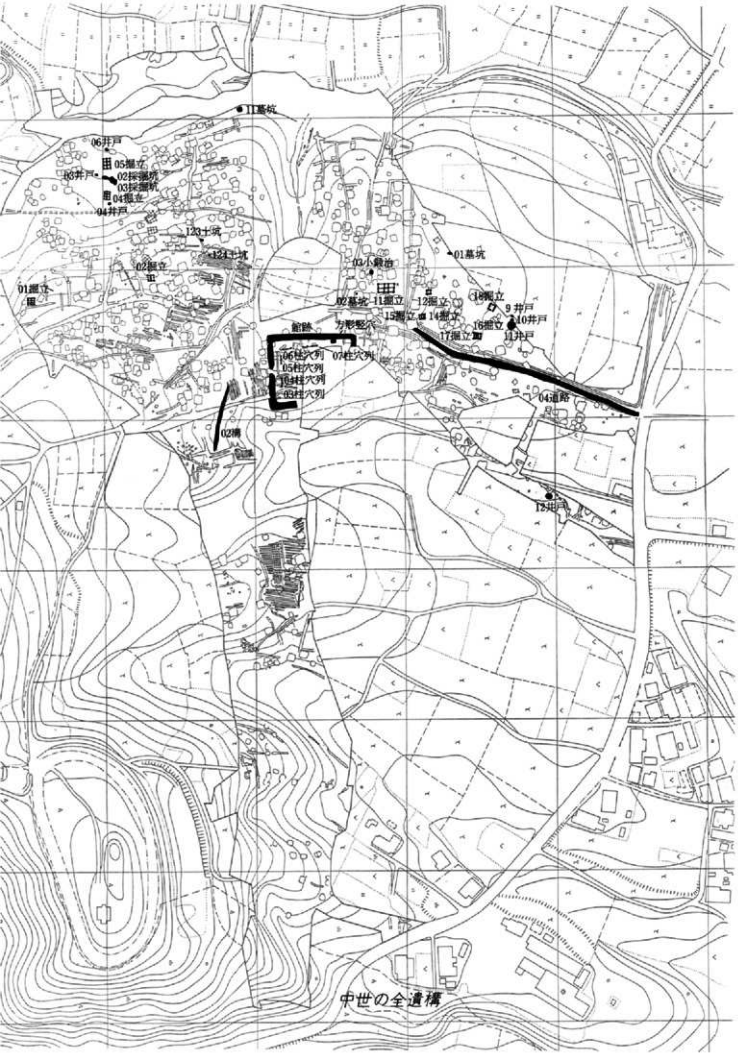
東端の天久沢陣城の直下の傾斜地には、関連する遺構は全く見られなかった。

【南西側地区】

掘立建物群が中心である。この建物群は、さらに井戸を伴って集中する東西方向主軸の南西部分グループとそれ以外に分かれる。まださらに多くの建物があった可能性は高い。重要なことは、出土舶載陶磁よりここの建物群の一部が、北西側地区より古い13世紀に遡りうること、そして別の一部は近世初頭までの継続が想定しうることである。他地域より長い存続期間は、この地区が少なくとも近世には他と分かれて多胡村の領域に入ったこととの関係が考えられる。

多胡川と北西部分との境をなす低地に囲まれた先端部分には、六道銭を埋納する墓坑があった。

全体として、この地区はさらに多くの時期の異なった建物群と墓坑が存在した可能性が高い。西の多胡館と北西側地区の館跡（天王原居館）の関係を考える重要な役割があったことを考えることができ、調査時の検出が一部にとどまったことが惜しまれる。


11墓坑
06井戸
05掘立
03井戸
02探溝坑
03探溝杭
04掘立
04井戸
123土坑
124土坑
02掘立
01掘立
03小鍛冶
01墓坑
02墓坑
11掘立
12掘立
13掘立
14掘立
15掘立
16掘立
17掘立
9井戸
10井戸
11井戸
館跡
方形竪穴
06柱穴列
07柱穴列
05柱穴列
04柱穴列
03柱穴列
02溝
04道路
12井戸

中世の全遺構

3　古代以前

第Ⅰ章第1節で述べたように、本書ではこの時代の全体像を記述することはできない。「竪穴住居以外」とされた報告遺構を、以下地区ごとにまとめる。なお古墳時代は後期のみ、また縄文時代は晩期のみである。

【北西側地区】

A　古代　　土器類を多く出土した溝の大部分は中世以降のもので、確実な人為的遺構は、東側の低地際を北から南に向かう水路01号と48・49号溝（両者は同一遺構で、東側地区の57号溝に続く可能性あり）のみである。竪穴集落と重複する東西方向の区画溝31号については性格時期ともに確定しがたい。他には、小鍛冶遺構と土器集積が見られるが、詳細については不明である。南西側地区との境界をなす多胡川へ流れる流路(60号溝)は、この時代には形成されていた可能性が高い。

顕著な遺物としては、「小子貳？」を刻字した平瓦・須恵器円面硯(01号溝)が見られた。本地区の古代遺物の数量は多いが、竪穴を壊した中世以降の遺構への流入であり、確実な古代遺構は少ない。

B　古墳時代

東西方向に直線状に走る26号溝からややまとまって須恵器が出ている。一応、古墳時代の溝としたが、流入の可能性はある。また、遺構に伴わない状態で滑石臼玉が数点出土した。

【東側地区】

A　古代　　低地部への斜面で2カ所、土器集積が見られた。これは、基本的にはそれぞれ1個の須恵器大甕が壊れたものである。水汲みなどの用途での作業中に故意ではなく破損したものであり、低地部分の湧水の利用の跡と考えるのが自然である。北側の溝57号は、北西側地区の48・49号溝の延長の可能性がある。

顕著な遺物としては、軒丸瓦(05号溝)がある。

B　古墳時代　遺構・遺物ともに不明。

C　縄文時代　低地を望む斜面左岸で、東信濃地方の晩期氷式土器甕片を含んだ方形の81号土坑を検出した。同期の土器片が他にも存在した可能性は残る。

【南西側地区】

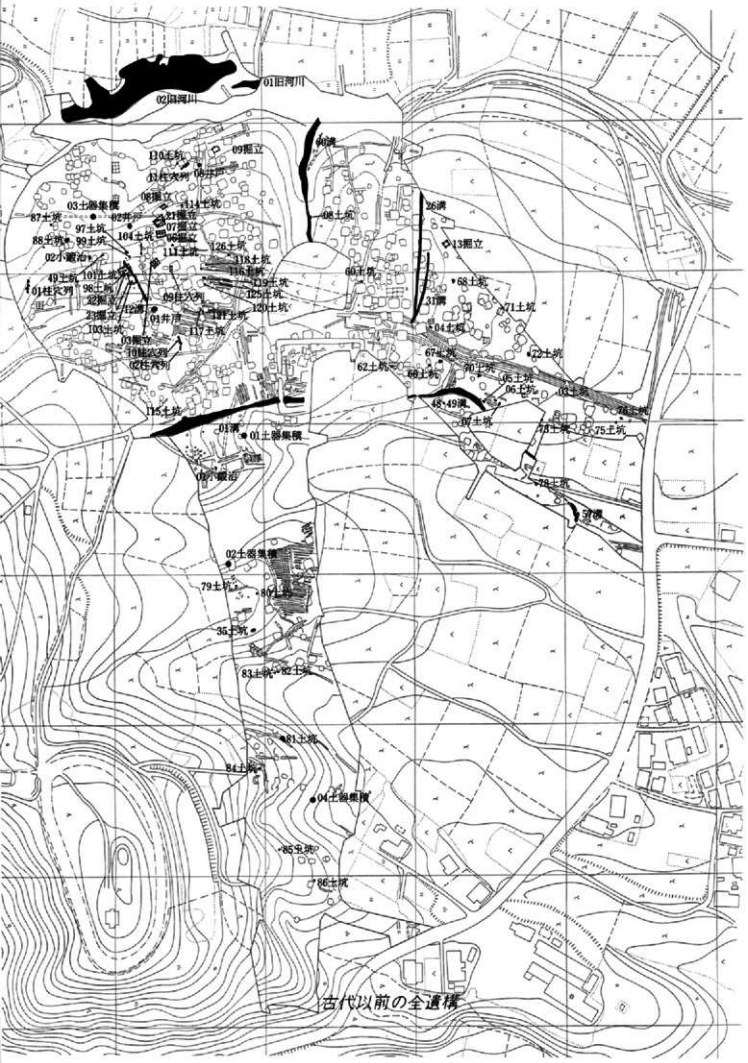
A　古代　　掘立建物群が展開している。竪穴住居の集落は大きく南北2群に分かれるが、掘立は北側に集中している。大型の掘り方を持つ柱穴と北北西・南南東方向の主軸を特徴とする。本報告で記した8棟以外にも多数存在する可能性があり、竪穴住居との重複を含めて古代の集落を考える上で極めて重要な遺構群であるが、調査時また竪穴整理では遺憾ながらほとんど考慮されていない。

また竪穴の空白部分で土器集積があった。これは明らかに須恵器坏を中心に意図的な配置が見られ、さらに土師質の土錘も集中している。ただし、特殊な器形のものはなく、全て日常生活具である。その他に小鍛冶遺構も見られ、本地区の古代の集落はかなり多様な姿を見せる。

顕著な遺物としては、刻字平瓦(01号井戸)、鉄製刀子(110号土坑)、また遺構外出土の刻字滑石片岩紡錘車がある。

B　古墳時代　掘立建物になる可能性もある柱穴列が、3基見られる。また多胡川の旧河川を確認し、そこに石敷遺構があった。生活水の取水場所であろうか。銅製耳環を出土した123号土坑があった。

【備考】　以上のように掲載遺跡の最も多い古代の遺構は、南西側地区の掘立群と土器集積そして北西側地区から東側地区に続く南から北への水路が最も顕著な人為的遺構である。竪穴集落とこれらとの関係を再検討することが、本遺跡の古代を明らかにするための必須の手続きと考えられる。


01旧河川
02旧河川
03土器集積
04溝
05溝
06井戸
07掘立
08土坑
09掘立
10土坑
11土坑
12土坑
13掘立
14土器集積
15土器集積
16土器集積
17土器集積
18土器集積
19土器集積
20土器集積
21掘立
22土器集積
23掘立
24溝
25溝
26溝
31溝
35土坑
36土器集積
37土器集積
38土器集積
39土器集積
40土器集積
41土器集積
42土器集積
43土器集積
44土器集積
45土器集積
46土器集積
47土器集積
48土器集積
49土器集積
50土器集積
51土器集積
52土器集積
53土器集積
54土器集積
55土器集積
56土器集積
57土器集積
58土器集積
59土器集積
60土器集積
61土器集積
62土器集積
63土器集積
64土器集積
65土器集積
66土器集積
67土器集積
68土器集積
69土器集積
70土器集積
71土器集積
72土器集積
73土器集積
74土器集積
75土器集積
76土器集積
77土器集積
78土器集積
79土器集積
80土器集積
81土器集積
82土器集積
83土器集積
84土器集積
85土器集積
86土器集積
87土器集積
88土器集積
89土器集積
90土器集積
91土器集積
92土器集積
93土器集積
94土器集積
95土器集積
96土器集積
97土器集積
98土器集積
99土器集積
100土器集積
101土器集積
102土器集積
103土器集積
104土器集積
105土器集積
106土器集積
107土器集積
108土器集積
109土器集積
110土器集積
111土器集積
112土器集積
113土器集積
114土器集積
115土器集積
116土器集積
117土器集積
118土器集積
119土器集積
120土器集積
121土器集積
122土器集積
123土器集積
124土器集積
125土器集積
126土器集積
127土器集積
128土器集積
129土器集積
130土器集積
131土器集積
132土器集積
133土器集積
134土器集積
135土器集積
136土器集積
137土器集積
138土器集積
139土器集積
140土器集積
141土器集積
142土器集積
143土器集積
144土器集積
145土器集積
146土器集積
147土器集積
148土器集積
149土器集積
150土器集積
151土器集積
152土器集積
153土器集積
154土器集積
155土器集積
156土器集積
157土器集積
158土器集積
159土器集積
160土器集積
161土器集積
162土器集積
163土器集積
164土器集積
165土器集積
166土器集積
167土器集積
168土器集積
169土器集積
170土器集積
171土器集積
172土器集積
173土器集積
174土器集積
175土器集積
176土器集積
177土器集積
178土器集積
179土器集積
180土器集積
181土器集積
182土器集積
183土器集積
184土器集積
185土器集積
186土器集積
187土器集積
188土器集積
189土器集積
190土器集積
191土器集積
192土器集積
193土器集積
194土器集積
195土器集積
196土器集積
197土器集積
198土器集積
199土器集積
200土器集積
201土器集積
202土器集積
203土器集積
204土器集積
205土器集積
206土器集積
207土器集積
208土器集積
209土器集積
210土器集積
211土器集積
212土器集積
213土器集積
214土器集積
215土器集積
216土器集積
217土器集積
218土器集積
219土器集積
220土器集積
221土器集積
222土器集積
223土器集積
224土器集積
225土器集積
226土器集積
227土器集積
228土器集積
229土器集積
230土器集積
231土器集積
232土器集積
233土器集積
234土器集積
235土器集積
236土器集積
237土器集積
238土器集積
239土器集積
240土器集積
241土器集積
242土器集積
243土器集積
244土器集積
245土器集積
246土器集積
247土器集積
248土器集積
249土器集積
250土器集積
251土器集積
252土器集積
253土器集積
254土器集積
255土器集積
256土器集積
257土器集積
258土器集積
259土器集積
260土器集積
261土器集積
262土器集積
263土器集積
264土器集積
265土器集積
266土器集積
267土器集積
268土器集積
269土器集積
270土器集積
271土器集積
272土器集積
273土器集積
274土器集積
275土器集積
276土器集積
277土器集積
278土器集積
279土器集積
280土器集積
281土器集積
282土器集積
283土器集積
284土器集積
285土器集積
286土器集積
287土器集積
288土器集積
289土器集積
290土器集積
291土器集積
292土器集積
293土器集積
294土器集積
295土器集積
296土器集積
297土器集積
298土器集積
299土器集積
300土器集積
301土器集積
302土器集積
303土器集積
304土器集積
305土器集積
306土器集積
307土器集積
308土器集積
309土器集積
310土器集積
311土器集積
312土器集積
313土器集積
314土器集積
315土器集積
316土器集積
317土器集積
318土器集積
319土器集積
320土器集積
321土器集積
322土器集積
323土器集積
324土器集積
325土器集積
326土器集積
327土器集積
328土器集積
329土器集積
330土器集積
331土器集積
332土器集積
333土器集積
334土器集積
335土器集積
336土器集積
337土器集積
338土器集積
339土器集積
340土器集積
341土器集積
342土器集積
343土器集積
344土器集積
345土器集積
346土器集積
347土器集積
348土器集積
349土器集積
350土器集積
351土器集積
352土器集積
353土器集積
354土器集積
355土器集積
356土器集積
357土器集積
358土器集積
359土器集積
360土器集積
361土器集積
362土器集積
363土器集積
364土器集積
365土器集積
366土器集積
367土器集積
368土器集積
369土器集積
370土器集積
371土器集積
372土器集積
373土器集積
374土器集積
375土器集積
376土器集積
377土器集積
378土器集積
379土器集積
380土器集積
381土器集積
382土器集積
383土器集積
384土器集積
385土器集積
386土器集積
387土器集積
388土器集積
389土器集積
390土器集積
391土器集積
392土器集積
393土器集積
394土器集積
395土器集積
396土器集積
397土器集積
398土器集積
399土器集積
400土器集積
401土器集積
402土器集積
403土器集積
404土器集積
405土器集積
406土器集積
407土器集積
408土器集積
409土器集積
410土器集積
411土器集積
412土器集積
413土器集積
414土器集積
415土器集積
416土器集積
417土器集積
418土器集積
419土器集積
420土器集積
421土器集積
422土器集積
423土器集積
424土器集積
425土器集積
426土器集積
427土器集積
428土器集積
429土器集積
430土器集積
431土器集積
432土器集積
433土器集積
434土器集積
435土器集積
436土器集積
437土器集積
438土器集積
439土器集積
440土器集積
441土器集積
442土器集積
443土器集積
444土器集積
445土器集積
446土器集積
447土器集積
448土器集積
449土器集積
450土器集積
451土器集積
452土器集積
453土器集積
454土器集積
455土器集積
456土器集積
457土器集積
458土器集積
459土器集積
460土器集積
461土器集積
462土器集積
463土器集積
464土器集積
465土器集積
466土器集積
467土器集積
468土器集積
469土器集積
470土器集積
471土器集積
472土器集積
473土器集積
474土器集積
475土器集積
476土器集積
477土器集積
478土器集積
479土器集積
480土器集積
481土器集積
482土器集積
483土器集積
484土器集積
485土器集積
486土器集積
487土器集積
488土器集積
489土器集積
490土器集積
491土器集積
492土器集積
493土器集積
494土器集積
495土器集積
496土器集積
497土器集積
498土器集積
499土器集積
500土器集積
501土器集積
502土器集積
503土器集積
504土器集積
505土器集積
506土器集積
507土器集積
508土器集積
509土器集積
510土器集積
511土器集積
512土器集積
513土器集積
514土器集積
515土器集積
516土器集積
517土器集積
518土器集積
519土器集積
520土器集積
521土器集積
522土器集積
523土器集積
524土器集積
525土器集積
526土器集積
527土器集積
528土器集積
529土器集積
530土器集積
531土器集積
532土器集積
533土器集積
534土器集積
535土器集積
536土器集積
537土器集積
538土器集積
539土器集積
540土器集積
541土器集積
542土器集積
543土器集積
544土器集積
545土器集積
546土器集積
547土器集積
548土器集積
549土器集積
550土器集積
551土器集積
552土器集積
553土器集積
554土器集積
555土器集積
556土器集積
557土器集積
558土器集積
559土器集積
560土器集積
561土器集積
562土器集積
563土器集積
564土器集積
565土器集積
566土器集積
567土器集積
568土器集積
569土器集積
570土器集積
571土器集積
572土器集積
573土器集積
574土器集積
575土器集積
576土器集積
577土器集積
578土器集積
579土器集積
580土器集積
581土器集積
582土器集積
583土器集積
584土器集積
585土器集積
586土器集積
587土器集積
588土器集積
589土器集積
590土器集積
591土器集積
592土器集積
593土器集積
594土器集積
595土器集積
596土器集積
597土器集積
598土器集積
599土器集積
600土器集積
601土器集積
602土器集積
603土器集積
604土器集積
605土器集積
606土器集積
607土器集積
608土器集積
609土器集積
610土器集積
611土器集積
612土器集積
613土器集積
614土器集積
615土器集積
616土器集積
617土器集積
618土器集積
619土器集積
620土器集積
621土器集積
622土器集積
623土器集積
624土器集積
625土器集積
626土器集積
627土器集積
628土器集積
629土器集積
630土器集積
631土器集積
632土器集積
633土器集積
634土器集積
635土器集積
636土器集積
637土器集積
638土器集積
639土器集積
640土器集積
641土器集積
642土器集積
643土器集積
644土器集積
645土器集積
646土器集積
647土器集積
648土器集積
649土器集積
650土器集積
651土器集積
652土器集積
653土器集積
654土器集積
655土器集積
656土器集積
657土器集積
658土器集積
659土器集積
660土器集積
661土器集積
662土器集積
663土器集積
664土器集積
665土器集積
666土器集積
667土器集積
668土器集積
669土器集積
670土器集積
671土器集積
672土器集積
673土器集積
674土器集積
675土器集積
676土器集積
677土器集積
678土器集積
679土器集積
680土器集積
681土器集積
682土器集積
683土器集積
684土器集積
685土器集積
686土器集積
687土器集積
688土器集積
689土器集積
690土器集積
691土器集積
692土器集積
693土器集積
694土器集積
695土器集積
696土器集積
697土器集積
698土器集積
699土器集積
700土器集積
701土器集積
702土器集積
703土器集積
704土器集積
705土器集積
706土器集積
707土器集積
708土器集積
709土器集積
710土器集積
711土器集積
712土器集積
713土器集積
714土器集積
715土器集積
716土器集積
717土器集積
718土器集積
719土器集積
720土器集積
721土器集積
722土器集積
723土器集積
724土器集積
725土器集積
726土器集積
727土器集積
728土器集積
729土器集積
730土器集積
731土器集積
732土器集積
733土器集積
734土器集積
735土器集積
736土器集積
737土器集積
738土器集積
739土器集積
740土器集積
741土器集積
742土器集積
743土器集積
744土器集積
745土器集積
746土器集積
747土器集積
748土器集積
749土器集積
750土器集積
751土器集積
752土器集積
753土器集積
754土器集積
755土器集積
756土器集積
757土器集積
758土器集積
759土器集積
760土器集積
761土器集積
762土器集積
763土器集積
764土器集積
765土器集積
766土器集積
767土器集積
768土器集積
769土器集積
770土器集積
771土器集積
772土器集積
773土器集積
774土器集積
775土器集積
776土器集積
777土器集積
778土器集積
779土器集積
780土器集積
781土器集積
782土器集積
783土器集積
784土器集積
785土器集積
786土器集積
787土器集積
788土器集積
789土器集積
790土器集積
791土器集積
792土器集積
793土器集積
794土器集積
795土器集積
796土器集積
797土器集積
798土器集積
799土器集積
800土器集積
801土器集積
802土器集積
803土器集積
804土器集積
805土器集積
806土器集積
807土器集積
808土器集積
809土器集積
810土器集積
811土器集積
812土器集積
813土器集積
814土器集積
815土器集積
816土器集積
817土器集積
818土器集積
819土器集積
820土器集積
821土器集積
822土器集積
823土器集積
824土器集積
825土器集積
826土器集積
827土器集積
828土器集積
829土器集積
830土器集積
831土器集積
832土器集積
833土器集積
834土器集積
835土器集積
836土器集積
837土器集積
838土器集積
839土器集積
840土器集積
841土器集積
842土器集積
843土器集積
844土器集積
845土器集積
846土器集積
847土器集積
848土器集積
849土器集積
850土器集積
851土器集積
852土器集積
853土器集積
854土器集積
855土器集積
856土器集積
857土器集積
858土器集積
859土器集積
860土器集積
861土器集積
862土器集積
863土器集積
864土器集積
865土器集積
866土器集積
867土器集積
868土器集積
869土器集積
870土器集積
871土器集積
872土器集積
873土器集積
874土器集積
875土器集積
876土器集積
877土器集積
878土器集積
879土器集積
880土器集積
881土器集積
882土器集積
883土器集積
884土器集積
885土器集積
886土器集積
887土器集積
888土器集積
889土器集積
890土器集積
891土器集積
892土器集積
893土器集積
894土器集積
895土器集積
896土器集積
897土器集積
898土器集積
899土器集積
900土器集積
901土器集積
902土器集積
903土器集積
904土器集積
905土器集積
906土器集積
907土器集積
908土器集積
909土器集積
910土器集積
911土器集積
912土器集積
913土器集積
914土器集積
915土器集積
916土器集積
917土器集積
918土器集積
919土器集積
920土器集積
921土器集積
922土器集積
923土器集積
924土器集積
925土器集積
926土器集積
927土器集積
928土器集積
929土器集積
930土器集積
931土器集積
932土器集積
933土器集積
934土器集積
935土器集積
936土器集積
937土器集積
938土器集積
939土器集積
940土器集積
941土器集積
942土器集積
943土器集積
944土器集積
945土器集積
946土器集積
947土器集積
948土器集積
949土器集積
950土器集積
951土器集積
952土器集積
953土器集積
954土器集積
955土器集積
956土器集積
957土器集積
958土器集積
959土器集積
960土器集積
961土器集積
962土器集積
963土器集積
964土器集積
965土器集積
966土器集積
967土器集積
968土器集積
969土器集積
970土器集積
971土器集積
972土器集積
973土器集積
974土器集積
975土器集積
976土器集積
977土器集積
978土器集積
979土器集積
980土器集積
981土器集積
982土器集積
983土器集積
984土器集積
985土器集積
986土器集積
987土器集積
988土器集積
989土器集積
990土器集積
991土器集積
992土器集積
993土器集積
994土器集積
995土器集積
996土器集積
997土器集積
998土器集積
999土器集積
1000土器集積

古代以前の全遺構

第VI章　索引

遺構索引（時代・分類順）

分類	種類	時代	地区	本文	写真
交通	01道路	近代	北西	26	17
交通	03道路	近代	北西	26	19
交通	09道路	近代	北西	56	なし
交通	11道路	近代	北西	34	なし
交通	12道路	近代	北西	49	38
生産	01畑	近代	北西	56	なし
生産	02畑	近代	北西	56	なし
生産	03畑	近代	北西	56	なし
生産	18畑	近代	北西	55	なし
不明	27溝	近代	北西	34	27
不明	28溝	近代	北西	34	27
不明	45溝	近代	北西	49	38
不明	46溝	近代	北西	45	33
不明	47溝	近代	北西	45	33
不明	50溝	近代	北西	45	34
不明	59溝	近代	北西	45	35
不明	100溝	近代	北西	56	なし
不明	70土坑	近代？	北西	122	73
生産	04畑	近代	東	72	なし
生産	05畑	近代	東	72	なし
生産	06畑	近代	東	72	なし
生産	07畑	近代	東	72	なし
生産	08畑	近代	東	72	なし
生産	09畑	近代	東	72	なし
不明	62溝	近代	東	74	47
不明	105溝	近代	東	72	なし
不明	106溝	近代	東	72	46
不明	107溝	近代	東	72	なし
不明	108溝	近代	東	72	なし
不明	109溝	近代	東	72	なし
不明	110溝	近代	東	72	なし
不明	112溝	近代？	東	74	47
生産	10畑	近代	南西	82	なし
生産	11畑	近代	南西	82	67
生産	12畑	近代	南西	109	68
生産	13畑	近代	南西	109	68
生産	14畑	近代	南西	109	68
生産	15畑	近代	南西	109	なし
生産	17畑	近代	南西	109	68
不明	30溝	近代	南西	109	なし
不明	17溝	近代	南西	100	62
不明	31溝	近代	南西	82	なし
不明	45土坑	近代	南西	100	62
不明	46土坑	近代	南西	100	なし
不明	93土坑	近代	南西	136	81
不明	132土坑	近代？	南西	82	なし
不明	133土坑	近代？	南西	82	なし
不明	134土坑	近代？	南西	82	なし
埋葬	06墓坑	近世？	北西	26	18
交通	02道路	近世	北西	26	18
交通	05道路	近世	北西	26	21
交通	06道路	近世	北西	26	23
生産	16畑	近世？	北西	109	68
不明	41溝	近世	北西	45	35
不明	52溝	近世	北西	45	35
不明	53溝	近世？	北西	45	35
不明	101溝	近世	北西	49	36
不明	102溝	近世	北西	49	36
不明	115溝	近世？	北西	52	なし
不明	01土坑	近世？	北西	27	25
不明	63土坑	近世？	北西	120	72
不明	64土坑	近世？	北西	120	72
不明	65土坑	近世？	北西	120	72
不明	69土坑	近世	北西	122	73
不明	77土坑	近世	北西	136	75
不明	122土坑	近世	北西	46	34
居住	02建物	近世？	東	74	49
生産	01石臼土坑	近世	東	78	51
交通	07道路	近世	東	66	43
交通	08道路	近世？	東	56	なし
不明	40溝	近世	東	72	46
不明	56溝	近世	東	66	43
不明	61溝	近世？	東	72	46
不明	69溝	近世	東	79	52
不明	70溝	近世	東	79	52
不明	71溝	近世	東	79	52

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	72溝	近世？	東	79	52
不明	74溝	近世？	東	74	49
不明	75溝	近世？	東	74	なし
不明	76溝	近世	東	74	50
不明	77溝	近世	東	74	50
不明	111溝	近世	東	74	47
不明	09土坑	近世	東	61	42
不明	13土坑	近世	東	61	42
不明	10土坑	近世？	東	61	42
不明	11土坑	近世？	東	61	42
不明	12土坑	近世？	東	61	42
不明	14土坑	近世？	東	61	42
不明	15土坑	近世？	東	61	42
不明	16土坑	近世？	東	61	42
不明	17土坑	近世？	東	61	42
不明	18土坑	近世？	東	61	42
不明	19土坑	近世？	東	61	42
不明	20土坑	近世？	東	61	42
不明	21土坑	近世？	東	61	42
不明	22土坑	近世？	東	61	42
不明	23土坑	近世？	東	61	42
不明	24土坑	近世？	東	61	42
不明	25土坑	近世？	東	61	42
不明	26土坑	近世？	東	61	42
不明	27土坑	近世？	東	61	42
不明	28土坑	近世？	東	61	42
不明	29土坑	近世？	東	61	42
不明	30土坑	近世？	東	61	42
不明	31土坑	近世？	東	61	42
不明	32土坑	近世？	東	61	42
不明	33土坑	近世？	東	61	42
不明	34土坑	近世？	東	61	42
不明	129土坑	近世？	東	74	48
不明	130土坑	近世？	東	74	48
不明	131土坑	近世？	東	74	48
居住	10掘立	近世？	南西	85	54
居住	08柱穴列	近世？	南西	85	54
交通	10道路	近世	南西	109	68
不明	03溝	近世	南西	100	68
不明	04溝	近世	南西	100	66
不明	05溝	近世	南西	100	67
不明	06溝	近世	南西	109	67
不明	07溝	近世？	南西	100	61
不明	08溝	近世	南西	100	なし
不明	09溝	近世？	南西	100	61
不明	15溝	近世？	南西	109	60
不明	18溝	近世	南西	100	62
不明	19溝	近世	南西	100	62
不明	23溝	近世？	南西	82	53
不明	24溝	近世	南西	82	53
不明	114溝	近世？	南西	82	54
不明	37土坑	近世	南西	85	54
不明	38土坑	近世	南西	85	54
不明	39土坑	近世	南西	86	55
不明	40土坑	近世	南西	90	57
不明	52土坑	近世	南西	100	62
不明	57土坑	近世？	南西	113	66
不明	59土坑	近世？	南西	113	66
不明	90土坑	近世	南西	136	80
不明	106土坑	近世	南西	141	83
不明	135土坑	近世	南西	88	55
居住	簡易	中世	北西	52	37
居住	03柱穴列	中世	北西	52	37
居住	04柱穴列	中世	北西	52	37
居住	05柱穴列	中世	北西	52	37
居住	06柱穴列	中世	北西	52	37
居住	07柱穴列	中世	北西	52	37
居住	為形屋穴	中世	北西	52	37
居住	11掘立	中世？	北西	44	30
居住	12掘立	中世？	北西	41	29
居住	14掘立	中世？	北西	42	29
居住	15掘立	中世？	北西	42	29
居住	16掘立	中世？	北西	38	28
居住	17掘立	中世？	北西	35	28
居住	18掘立	中世？	北西	35	28
居住	09井戸	中世？	北西	35	28

分類	種類	時代	地区	本文	写真
居住	10井戸	中世	北西	35	28
居住	11井戸	中世	北西	35	28
埋葬	04墓坑	中世？	北西	40	29
埋葬	07墓坑	中世？	北西	37	24
生産	03小穴	中世	北西	41	31
交通	04道路	中世	北西	26	20
不明	02溝	中世？	北西	56	なし
居住	12井戸	中世	東	65	44
居住	12掘立	中世？	南西	106	65
居住	02掘立	中世？	南西	105	63
居住	04掘立	中世？	南西	99	58
居住	05掘立	中世？	南西	99	58
居住	03井戸	中世？	南西	99	58
居住	04井戸	中世？	南西	99	57
居住	06井戸	中世？	南西	99	58
埋葬	13墓坑	中世	南西	82	54
生産	02掘棚列	中世？	南西	99	57
生産	03掘棚列	中世？	南西	99	57
不明	123土坑	中世	南西	147	87
不明	124土坑	中世	南西	148	87
居住	13掘立	古代？	北西	40	29
生産	01土器集積	古代	北西	60	41
生産	01小穴	古代	北西	61	42
不明	01溝	古代	北西	56	38
不明	32溝	古代	北西	26	17
不明	48溝	古代	北西	45	33
不明	49溝	古代	北西	45	33
不明	60溝	古代？	北西	49	36
不明	63土坑	古代	北西	33	なし
不明	64土坑	古代	北西	33	26
不明	65土坑	古代	北西	45	32
不明	66土坑	古代？	北西	45	32
不明	67土坑	古代？	北西	45	32
不明	68土坑	古代	北西	50	なし
不明	69土坑	古代	北西	114	71
不明	62土坑	古代	北西	118	71
不明	66土坑	古代	北西	120	なし
不明	67土坑	古代	北西	122	72
不明	68土坑	古代	北西	122	なし
不明	70土坑	古代？	北西	122	73
不明	71土坑	古代	北西	124	なし
不明	72土坑	古代	北西	124	74
不明	73土坑	古代	北西	124	74
不明	75土坑	古代	北西	124	74
不明	76土坑	古代	北西	125	74
生産	02土器集積	古代	東	79	55
生産	04土器集積	古代	東	76	50
不明	52溝	古代	東	66	43
不明	55土坑	古代？	東	72	77
不明	78土坑	古代	東	128	78
不明	79土坑	古代	東	130	77
不明	82土坑	古代？	東	133	なし
不明	83土坑	古代	東	133	78
不明	84土坑	古代	東	133	79
不明	85土坑	古代	東	134	79
不明	86土坑	古代	東	134	79
居住	03掘立	古代	南西	102	63
居住	06掘立	古代	南西	88	55
居住	07掘立	古代	南西	88	55
居住	08掘立	古代？	南西	88	なし
居住	09掘立	古代	南西	85	54
居住	21掘立	古代	南西	88	55
居住	22掘立	古代	南西	139	なし
居住	23掘立	古代	南西	139	なし
居住	01柱穴列	古代	南西	106	65
居住	09柱穴列	古代	南西	141	84
居住	01井戸	古代	南西	102	64
居住	02井戸	古代	南西	93	57
居住	08井戸	古代？	南西	86	55
生産	02小穴	古代？	南西	106	65
生産	03土器集積	古代	南西	94	58
不明	12溝	古代	南西	100	62
不明	49土坑	古代？	南西	104	なし
不明	87土坑	古代	南西	136	79
不明	88土坑	古代	南西	136	79
不明	89土坑	古代？	南西	136	80

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	91土鈴	古代	南西	136	80
不明	92土鈴	古代	南西	136	80
不明	97土鈴	古代	南西	139	81
不明	98土鈴	古代	南西	139	81
不明	99土鈴	古代	南西	139	82
不明	101土鈴	古代	南西	139	82
不明	103土鈴	古代	南西	139	83
不明	104土鈴	古代	南西	139	83
不明	107土鈴	古代	南西	141	84
不明	109土鈴	古代	南西	141	84
不明	110土鈴	古代	南西	143	84
不明	111土鈴	古代	南西	143	84
不明	114土鈴	古代	南西	144	85
不明	115土鈴	古代	南西	144	85
不明	116土鈴	古代	南西	145	なし
不明	117土鈴	古代	南西	145	86
不明	118土鈴	古代	南西	145	なし
不明	119土鈴	古代	南西	145	86
不明	120土鈴	古代	南西	147	86
不明	121土鈴	古代	南西	147	86
不明	122土鈴	古代	南西	147	87
不明	125土鈴	古代	南西	148	88
不明	126土鈴	古代	南西	148	88
不明	28溝	古墳	北西	20	10

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	80土鈴	古墳	東	130	77
居住	02竪穴列	古墳	南西	143	68
居住	10竪穴列	古墳	南西	143	なし
居住	11竪穴列	古墳	南西	144	68
自然	01旧河川	古墳	南西	115	69
自然	02旧河川	古墳	南西	115	69
不明	61土坑	縄文	東	131	77
居住	19掘立	不明	北西	35	27
居住	20掘立	不明	北西	35	27
生活	04集石	不明	東	68	42
生産	01採掘坑	不明	東	72	46
不明	55溝	不明	東	66	43
不明	56溝	不明	東	66	44
不明	64溝	不明	東	74	48
不明	65溝	不明	東	74	48
不明	104溝	不明	東	72	なし
不明	128土坑	不明	東	68	44
居住	05井戸	不明	南西	106	64
不明	20溝	不明	南西	100	63
不明	25溝	不明	南西	82	53
不明	113溝	不明	南西	82	34
不明	36土坑	不明	南西	85	なし
不明	41土坑	不明	南西	100	なし
不明	42土坑	不明	南西	100	62

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	43土坑	不明	南西	100	62
不明	44土坑	不明	南西	100	62
不明	47土坑	不明	南西	102	なし
不明	48土坑	不明	南西	103	なし
不明	50土坑	不明	南西	106	なし
不明	51土坑	不明	南西	106	なし
不明	53土坑	不明	南西	106	62
不明	54土坑	不明	南西	106	なし
不明	55土坑	不明	南西	106	なし
不明	56土坑	不明	南西	112	66
不明	58土坑	不明	南西	112	66
不明	93土坑	不明	南西	136	81
不明	94土坑	不明	南西	136	81
不明	95土坑	不明	南西	136	81
不明	96土坑	不明	南西	136	81
居住	01建物	不明	北西	27	24
居住	14井戸	不明	北西	56	37
不明	103溝	不明	北西	49	36
不明	02土坑	不明	北西	35	なし
不明	61土坑	不明	北西	116	71
不明	74土坑	不明	北西	124	なし
不明	01不明	不明	北西	34	26
自然	01風倒木	不明	北西	36	なし

遺物索引

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0061	PM	不明	鏡	染付	154	6
0030	PM	北西	小鉢?	染付	34	6
0180	PM	南西	皿	染付	102	6
0092	HM	南西	壺蓋?		116	70
0037	PE	北西	鏡	染付	34	6
0054	PE	東	鏡	染付くらわんか	72	6
0047	PE	東	丸鍋	染付	133	6
0073	PE	南西	皿	染付	150	6
0040	PE	北西	皿	染付	36	6
0070	PE	東	手塩皿	染付	129	6
0048	PE	北西	小杯	染付	127	6
0045	PE	不明	瓶	染付	154	6
0042	CE	北西	鏡	染付	34	6
0181	CE	南西	鏡	染付	102	6
0083	CE	南西	鏡	二彩銅毛目	112	6
0046	CE	不明	鏡	染付	154	6
0042	CE	北西	鏡	飴釉	34	6
0053	CE	南西	鏡	二彩銅鏡	113	6
0041	CE	不明	鏡	飴釉	154	6
0057	CE	南西	皿	鉄絵貫入鏡風	116	6
0038	CE	北西	皿	灰釉	34	6
0043	CE	東	皿	鉄釉	154	6
0063	CE	南西	皿	灰釉	86	6
0042	CE	不明	皿	志野	154	6
0018	CE	北西	小皿	志野	127	6
0086	CE	東	小杯	飴釉	72	6
0058	CE	東	鉢	透明釉	72	6
0044	CE	南西	鉢	二彩	154	6
0062	CE	南西	行列皿	鉄釉	150	6
0041	CE	北西	徳利?	飴釉	34	6
0057	CE	不明	仏飯器	灰釉	154	6
0117	HE	北西	焙烙		29	18
0060	PI	北西	鏡	青磁	127	5
0066	PI	北西	鏡	青磁	30	5
0060	PI	東	鏡	青磁	129	5
0070	PI	南西	鏡	青磁	150	5
0067	PI	南西	鏡	青磁	150	5
0064	PI	南西	天目鏡	青磁	147	5
0059	PI	北西	鉢	青磁	54	5
0068	PI	北西	鉢	青磁	59	5
0069	PI	南西	鉢	青磁	150	5
0049	CC	南西	鏡	天目	150	6
0080	CC	北西	皿	灰釉	127	6
0071	CC	北西	皿	灰釉	127	6
0053	CC	北西	鉢皿	飴釉	58	6
0018	CC	北西	小皿	灰釉	127	6
0050	CC	南西	小皿	灰釉	150	6
0079	G	北西	コ本鉢		127	75
0282	G	北西	コ本鉢		39	28
0017	G	北西	コ本鉢		54	38
0039	G	北西	コ本鉢		54	38

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0133	G	北西	コ本鉢		30	20
0124	G	北西	コ本鉢		30	20
0254	G	東	コ本鉢		69	44
0253	G	東	コ本鉢		69	44
0256	G	東	コ本鉢?		69	44
0580	G	不明	コ本鉢		155	91
0032	G	北西	壁9鉢		54	38
0075	HC	北西	小皿		31	21
0076	HC	北西	小皿		31	21
0077	HC	北西	小皿		31	21
0077	HC	南西	小皿		114	67
0311	HC	南西	小皿		143	84
0578	HC	南西	小皿		150	88
0536	HC	南西	小皿		150	88
0679	HC	南西	小皿		150	88
0557	HC	不明	小皿		155	91
0249	HC	北西	鳴		39	28
0250	HC	北西	鳴		39	28
0251	HC	北西	鳴		39	28
0057	HC	北西	鳴		54	38
0029	HC	北西	鳴		54	38
0030	HC	北西	鳴		54	38
0031	HC	北西	鳴		54	38
0259	HC	東	鳴		69	44
0090	HC	南西	鳴		102	61
0328	HC	南西	鳴		148	87
0607	HC	南西	鳴		155	91
0074	KC	東	平瓦		133	79
0039	CD	北西	鍋	灰釉	54	5
0094	CD	北西	鍋	灰釉	58	5
0301	CD	南西	鍋	灰釉	139	5
0306	CD	南西	鍋	灰釉	141	5
0371	CD	南西	鍋	灰釉	147	5
0572	CD	不明	鍋	灰釉	156	5
0614	CD	南西	小皿	灰釉	159	5
0346	CD	北西	可目	灰釉	126	5
0128	CD	北西	鍋	灰釉	29	5
0128	CD	北西	鍋	灰釉	30	5
0320	CD	南西	鍋	灰釉	145	5
0632	KD	東	鉢丸瓦		130	78
0007	KD	南西	鉢丸瓦		114	67
0144	KD	北西	丸瓦		31	20
0171	KD	北西	丸瓦		32	23
0343	KD	北西	丸瓦		36	26
0070	KD	北西	丸瓦		59	41
0179	KD	北西	丸瓦		47	33
0186	KD	北西	丸瓦		48	34
0199	KD	東	丸瓦		66	43
0600	KD	東	丸瓦		133	79
0601	KD	東	丸瓦		133	79
0142	KD	北西	平瓦		30	20

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0143	KD	北西	平瓦	短字	30	20
0161	KD	北西	平瓦		32	23
0024	KD	北西	平瓦	剪字	55	39
0087	KD	北西	平瓦	剪字小手孔?	59	41
0068	KD	北西	平瓦		59	41
0069	KD	北西	平瓦		59	41
0188	KD	北西	平瓦		48	34
0339	KD	東	平瓦	鐵刷	132	78
0238	KD	南西	平瓦	剪字	105	64
0512	KD	不明	平瓦	剪字	157	92
0513	KD	不明	平瓦	剪字	157	92
0202	KD	東	物隠瓦		66	43
0246	SD	北西	鋼		39	28
0185	SD	北西	鋼		47	34
0194	SD	北西	鋼		47	34
0046	SD	北西	鋼		58	40
0047	SD	北西	鋼		58	40
0048	SD	北西	鋼		58	40
0050	SD	北西	鋼		58	40
0052	SD	北西	鋼		58	40
0053	SD	北西	鋼	転用鋼	58	40
0035	SD	北西	鋼		62	42
0272	SD	北西	鋼		119	71
0281	SD	北西	鋼		123	72
0283	SD	北西	鋼		123	72
0276	SD	北西	鋼		123	72
0280	SD	北西	鋼		123	72
0282	SD	北西	鋼		127	75
0084	SD	北西	鋼		127	73
0176	SD	北西	鋼		127	73
0030	SD	北西	鋼		127	73
0352	SD	東	鋼		71	45
0335	SD	東	鋼		135	79
0041	SD	東	鋼		139	76
0069	SD	東	鋼		133	79
0432	SD	南西	鋼		96	58
0433	SD	南西	鋼		96	58
0434	SD	南西	鋼		96	58
0227	SD	南西	鋼		105	64
0228	SD	南西	鋼		105	64
0229	SD	南西	鋼		105	64
0287	SD	南西	鋼		106	63
0078	SD	南西	鋼		114	67
0366	SD	南西	鋼		137	79
0295	SD	南西	鋼		139	82
0305	SD	南西	鋼		141	84
0309	SD	南西	鋼		143	84
0310	SD	南西	鋼		143	84
0332	SD	南西	鋼		147	86
0063	SD	南西	鋼		150	88
0060	SD	南西	鋼		150	88

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0565	SD	南西	鍋		150	88
0558	SD	南西	鍋		150	88
0566	SD	不明	鍋		156	91
0569	SD	不明	鍋		156	91
0566	SD	不明	鍋		156	91
0088	SD	北西	鍋?		58	40
0381	SD	東	鍋?		71	43
0278	SD	北西	小型鍋		43	30
0504	SD	北西	小型鍋		47	32
0049	SD	北西	小型鍋		58	40
0435	SD	南西	小型鍋		96	58
0246	SD	北西	坏		39	26
0247	SD	北西	坏		39	26
0182	SD	北西	坏		47	34
0183	SD	北西	坏		47	34
0184	SD	北西	坏		47	34
0190	SD	北西	坏		47	34
0044	SD	北西	坏		58	40
0045	SD	北西	坏		58	40
0034	SD	北西	坏		62	42
0270	SD	北西	坏		119	71
0341	SD	北西	坏		125	73
0342	SD	北西	坏		125	73
0346	SD	北西	坏		125	73
0005	SD	北西	坏		54	38
0148	SD	北西	坏		31	21
0850	SD	北西	坏		127	75
0842	SD	北西	坏		127	75
0885	SD	北西	坏		127	75
0845	SD	北西	坏		127	75
0350	SD	東	坏		71	43
0553	SD	東	坏		150	88
0607	SD	東	坏		159	98
0546	SD	東	坏		150	88
0539	SD	東	坏		150	88
0219	SD	南西	坏		105	64
0220	SD	南西	坏		105	64
0221	SD	南西	坏		105	64
0222	SD	南西	坏		105	64
0223	SD	南西	坏		105	64
0224	SD	南西	坏		105	64
0240	SD	南西	坏		93	57
0243	SD	南西	坏		88	55
0376	SD	南西	坏		96	58
0377	SD	南西	坏		96	58
0378	SD	南西	坏		96	58
0379	SD	南西	坏		96	58
0380	SD	南西	坏		96	58
0381	SD	南西	坏		96	58
0382	SD	南西	坏		96	58
0383	SD	南西	坏		96	58
0384	SD	南西	坏		96	58
0385	SD	南西	坏		96	58
0386	SD	南西	坏		96	58
0387	SD	南西	坏		96	58
0388	SD	南西	坏		96	58
0389	SD	南西	坏		96	58
0390	SD	南西	坏		96	58
0391	SD	南西	坏		96	58
0392	SD	南西	坏		96	58
0393	SD	南西	坏		96	59
0394	SD	南西	坏		96	59
0395	SD	南西	坏		96	59
0396	SD	南西	坏		96	59
0397	SD	南西	坏		96	59
0398	SD	南西	坏		96	59
0399	SD	南西	坏		96	59
0400	SD	南西	坏		96	59
0401	SD	南西	坏		96	59
0402	SD	南西	坏		96	59
0403	SD	南西	坏		96	59
0404	SD	南西	坏		96	59
0405	SD	南西	坏		96	59

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0406	SD	南西	坏		97	59
0407	SD	南西	坏		97	59
0408	SD	南西	坏		97	59
0409	SD	南西	坏		97	59
0410	SD	南西	坏		97	59
0411	SD	南西	坏		97	59
0412	SD	南西	坏		97	59
0413	SD	南西	坏		97	59
0414	SD	南西	坏		97	59
0415	SD	南西	坏		97	59
0416	SD	南西	坏		97	59
0417	SD	南西	坏		97	59
0418	SD	南西	坏		97	59
0419	SD	南西	坏		97	59
0420	SD	南西	坏		97	59
0421	SD	南西	坏		97	59
0422	SD	南西	坏		97	59
0423	SD	南西	坏		97	59
0424	SD	南西	坏		97	59
0425	SD	南西	坏		97	59
0426	SD	南西	坏		97	59
0427	SD	南西	坏		97	59
0428	SD	南西	坏		97	59
0429	SD	南西	坏		97	59
0430	SD	南西	坏		97	59
0431	SD	南西	坏		97	59
0462	SD	南西	坏		97	59
0467	SD	南西	坏		97	59
0468	SD	南西	坏		97	59
0469	SD	南西	坏		114	67
0099	SD	南西	坏		102	62
0365	SD	南西	坏		137	79
0303	SD	南西	坏		138	83
0554	SD	南西	坏		150	89
0552	SD	南西	坏		150	89
0548	SD	南西	坏		150	89
0540	SD	南西	坏		150	89
0538	SD	南西	坏		150	89
0541	SD	南西	坏		150	89
0547	SD	南西	坏		150	89
0537	SD	南西	坏		150	89
0556	SD	南西	坏		150	89
0544	SD	南西	坏		150	89
0331	SD	南西	坏		150	88
0498	SD	南西	坏		156	91
0499	SD	不明	坏		156	91
0501	SD	不明	坏		156	91
0502	SD	不明	坏		156	91
0537	SD	不明	坏		156	91
0542	SD	不明	坏		156	91
0849	SD	不明	坏		156	91
0551	SD	不明	坏		156	91
0006	SD	北西	坏蓋		54	38
0007	SD	北西	坏蓋		54	38
0353	SD	東	坏蓋		71	43
0364	SD	東	坏蓋		77	50
0570	SD	東	坏蓋		150	77
0190	SD	東	坏蓋		66	43
0030	SD	南西	坏蓋	転用硯	105	64
0031	SD	南西	坏蓋		105	64
0426	SD	南西	坏蓋		97	60
0437	SD	南西	坏蓋		97	60
0438	SD	南西	坏蓋		98	60
0439	SD	南西	坏蓋		98	60
0440	SD	南西	坏蓋		98	60
0441	SD	南西	坏蓋		98	60
0442	SD	南西	坏蓋		98	60
0443	SD	南西	坏蓋		98	60
0444	SD	南西	坏蓋		98	60
0445	SD	南西	坏蓋		98	60
0446	SD	南西	坏蓋		98	60
0447	SD	南西	坏蓋		98	60
0448	SD	南西	坏蓋		98	60

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0218	SD	南西	坏蓋		90	55
0202	SD	南西	坏蓋		139	83
0284	SD	南西	坏蓋		137	79
0446	SD	南西	小型坏蓋		98	60
0104	SD	南西	蓋		102	63
0118	SD	北西	蓋	転用硯	29	18
0054	SD	北西	皿		58	40
0549	SD	北西	皿		127	75
0503	SD	北西	皿		127	75
0558	SD	南西	皿		150	89
0567	SD	南西	皿		150	89
0132	SD	北西	皿?		30	20
0571	SD	南西	耳皿		151	89
0193	SD	北西	鉢		47	34
0247	SD	北西	鉢		125	73
0480	SD	南西	脚付盤		98	60
0481	SD	南西	脚付盤		98	60
0482	SD	南西	脚付盤		98	60
0189	SD	北西	瓶		47	34
0008	SD	北西	瓶		55	38
0123	SD	北西	瓶		29	18
0170	SD	北西	瓶		31	21
0356	SD	東	瓶		71	45
0454	SD	南西	瓶		96	60
0079	SD	南西	瓶		114	67
0051	SD	北西	瓶?		58	40
0009	SD	北西	長頸瓶		55	38
0057	SD	北西	長頸瓶		58	40
0576	SD	東	長頸瓶		133	78
0578	SD	東	長頸瓶		133	78
0506	SD	南西	長頸瓶		151	89
0577	SD	不明	長頸瓶		156	91
0058	SD	北西	円面硯		58	40
0581	SD	不明	円面硯		156	91
0095	SD	北西	甕		55	38
0096	SD	南西	転用甕		102	62
0060	SD	北西	甕		59	40
0061	SD	北西	甕		59	40
0062	SD	北西	甕		59	40
0064	SD	北西	甕		59	41
0065	SD	北西	甕		59	41
0066	SD	北西	甕		59	41
0120	SD	北西	甕		29	17
0121	SD	北西	甕		29	17
0178	SD	北西	甕		47	33
0180	SD	北西	甕		47	33
0181	SD	北西	甕		47	33
0187	SD	北西	甕		47	34
0195	SD	北西	甕		47	34
0196	SD	北西	甕		47	34
0010	SD	北西	甕		55	38
0011	SD	北西	甕		55	38
0012	SD	北西	甕		55	38
0013	SD	北西	甕		55	38
0014	SD	北西	甕		55	38
0015	SD	北西	甕		55	38
0016	SD	北西	甕		55	38
0019	SD	北西	甕		55	39
0020	SD	北西	甕		55	39
0021	SD	北西	甕		55	39
0022	SD	北西	甕		55	39
0023	SD	北西	甕		55	39
0208	SD	北西	甕		50	36
0282	SD	北西	甕		123	72
0284	SD	北西	甕		123	72
0118	SD	北西	甕		29	19
0119	SD	北西	甕		29	19
0120	SD	北西	甕		29	19
0127	SD	北西	甕		29	19
0136	SD	北西	甕		30	20
0137	SD	北西	甕		30	20
0138	SD	北西	甕		30	20
0139	SD	北西	甕		30	20

番号	種類	地区	器 形	特 徴	本文	写真
0140	SD	北西	壺		30	20
0141	SD	北西	壺		30	20
0145	SD	北西	壺		30	20
0147	SD	北西	壺		30	20
0175	SD	北西	壺		30	20
0150	SD	北西	壺		31	22
0151	SD	北西	壺		31	22
0152	SD	北西	壺		31	22
0152	SD	北西	壺		31	22
0154	SD	北西	壺		31	22
0155	SD	北西	壺		31	22
0156	SD	北西	壺		31	22
0157	SD	北西	壺		31	22
0158	SD	北西	壺		32	22
0159	SD	北西	壺		32	22
0160	SD	北西	壺		32	23
0162	SD	北西	壺		32	23
0163	SD	北西	壺		32	23
0165	SD	北西	壺		32	23
0166	SD	北西	壺		32	23
0167	SD	北西	壺		32	23
0168	SD	北西	壺		32	23
0169	SD	北西	壺		32	23
0072	SD	北西	壺		127	78
0037	SD	北西	壺		121	78
0257	SD	東	壺		69	44
0258	SD	東	壺		69	44
0354	SD	東	壺		71	45
0355	SD	東	壺		71	45
0264	SD	東	壺		72	77
0265	SD	東	壺		72	77
0285	SD	東	壺		129	76
0334	SD	東	壺		135	79
0232	SD	南西	壺		105	64
0233	SD	南西	壺		105	64
0234	SD	南西	壺		105	64
0235	SD	南西	壺		105	64
0236	SD	南西	壺		105	64
0237	SD	南西	壺		105	64
0241	SD	南西	壺		93	57
0244	SD	南西	壺		88	55
0245	SD	南西	壺		88	55
0456	SD	南西	壺		98	60
0457	SD	南西	壺		98	60
0458	SD	南西	壺		99	60
0459	SD	南西	壺		99	60
0460	SD	南西	壺		99	61
0461	SD	南西	壺		99	61
0216	SD	南西	壺		90	58
0217	SD	南西	壺		90	58
0073	SD	南西	壺		113	66
0074	SD	南西	壺		113	66
0075	SD	南西	壺		113	66
0076	SD	南西	壺		113	66
0080	SD	南西	壺		114	67
0081	SD	南西	壺		114	67
0082	SD	南西	壺		114	67
0083	SD	南西	壺		114	67
0084	SD	南西	壺		114	67
0085	SD	南西	壺		114	67
0086	SD	南西	壺		114	67
0100	SD	南西	壺		102	62
0101	SD	南西	壺		102	62
0103	SD	南西	壺		102	63
0098	SD	南西	壺		102	62
0099	SD	南西	壺		139	83
0219	SD	南西	壺		145	86
0374	SD	南西	壺		151	89
0378	SD	南西	壺		151	89
0412	SD	不明	壺		156	91
0063	SD	北西	壺?		39	41
0018	SD	北西	壺?		35	38
0087	SD	南西	壺?		102	62

番号	種類	地区	器 形	特 徴	本文	写真
0483	SD	南西	小型壺		99	61
0488	SD	南西	小型壺		99	61
0482	SD	南西	小型壺		116	70
0357	SD	東	大壺		71	45
0363	SD	東	大壺		77	50
0470	SD	南西	大壺		98	60
0471	SD	南西	大壺		98	60
0326	SD	南西	短頸壺		86	54
0059	SD	北西	羽釜		58	49
0063	SD	北西	羽釜		58	49
0071	SD	北西	羽釜		58	49
0187	SD	北西	羽釜		47	34
0273	SD	北西	羽釜		119	71
0336	SD	北西	羽釜		121	72
0124	SD	北西	羽釜		29	18
0125	SD	北西	羽釜		29	18
0173	SD	北西	羽釜		32	23
0177	SD	北西	羽釜		127	75
0266	SD	東	羽釜		133	79
0325	SD	南西	羽釜		86	54
0327	SD	南西	羽釜		86	54
0260	SD	南西	羽釜		144	85
0261	SD	南西	羽釜		144	85
0262	SD	南西	羽釜		144	85
0317	SD	南西	羽釜		144	85
0324	SD	南西	羽釜		147	87
0330	SD	南西	羽釜		148	88
0304	SD	南西	羽釜		151	89
0277	HD	北西	鉢		43	30
0043	HD	北西	坏		30	41
0279	HD	北西	坏		43	30
0275	HD	北西	坏		123	73
0296	HD	北西	坏		125	74
0344	HD	北西	坏	暗紋	125	74
0122	HD	北西	坏		30	19
0172	HD	北西	坏		32	23
0528	HD	北西	坏	暗紋	128	75
0228	HD	南西	坏		105	64
0226	HD	南西	坏		105	64
0047	HD	南西	坏	暗紋	88	55
0367	HD	南西	坏		99	61
0368	HD	南西	坏		99	61
0369	HD	南西	坏		99	61
0370	HD	南西	坏		99	61
0371	HD	南西	坏		99	61
0372	HD	南西	坏		99	61
0373	HD	南西	坏		99	61
0469	HD	南西	坏		99	61
0211	HD	南西	坏		103	63
0212	HD	南西	坏		103	63
0214	HD	南西	坏		90	58
0215	HD	南西	坏		90	58
0296	HD	南西	坏		139	83
0088	HD	南西	坏		114	67
0089	HD	南西	坏		114	67
0090	HD	南西	坏		114	67
0093	HD	南西	坏		102	62
0294	HD	南西	坏		139	81
0297	HD	南西	坏		139	82
0208	HD	南西	坏		141	84
0318	HD	南西	坏		145	85
0379	HD	南西	坏		151	89
0380	HD	南西	坏		151	89
0526	HD	不明	坏	暗紋	156	91
0522	HD	不明	坏		156	91
0523	HD	不明	坏		156	91
0529	HD	不明	坏		156	91
0530	HD	不明	坏		156	91
0032	HD	南西	合付小皿		161	89
0298	HD	南西	鉢		139	82
0094	HD	南西	蓋?		102	62
0490	HD	南西	高坏		151	81
0203	HD	南西	土器		138	81

番号	種類	地区	器 形	特 徴	本文	写真
0001	HD	北西	壺		55	38
0374	HD	北西	壺		29	17
0130	HD	北西	壺		32	23
0149	HD	北西	壺		32	23
0164	HD	北西	壺		32	23
0801	HD	東	壺		66	43
0358	HD	東	壺		76	50
0359	HD	東	壺		77	50
0360	HD	東	壺		77	50
0361	HD	東	壺		76	50
0362	HD	東	壺		77	50
0200	HD	東	壺		66	43
0220	HD	南西	壺		93	57
0213	HD	南西	壺		90	58
0106	HD	南西	壺		83	53
0268	HD	北西	壺		119	71
0271	HD	北西	壺		119	71
0274	HD	北西	壺		119	71
0290	HD	南西	壺		137	80
0291	HD	南西	壺		137	80
0289	HD	南西	壺		137	80
0207	HD	南西	壺		141	84
0315	HD	南西	壺		144	85
0323	HD	南西	壺		147	86
0167	HD?	北西	壺?		29	16
0378	HD	北西	小型壺		61	41
0834	HD	不明	小型壺		156	91
0026	HD	北西	土器		56	39
0038	HD	北西	土器		139	75
0017	HD	北西	土器		129	75
0463	HD	南西	土器		99	61
0464	HD	南西	土器		99	61
0465	HD	南西	土器		99	61
0466	HD	南西	土器		99	61
0881	HD	南西	土器		151	89
0884	HD	南西	土器		151	89
0882	HD	南西	土器		151	89
0883	HD	南西	土器		151	89
0887	HD	南西	土器		151	89
0889	HD	南西	土器		151	89
0885	HD	南西	土器		151	89
0892	HD	南西	土器		151	89
0893	HD	南西	土器		151	89
0586	HD	南西	土器		151	89
0890	HD	南西	土器		151	89
0892	HD	南西	土器		151	89
0884	HD	南西	土器		151	89
0888	HD	南西	土器		151	89
0808	HD	不明	土器		156	91
0885	HD	不明	土器		156	91
0836	HD	北西	鞴		62	42
0837	HD	北西	鞴		62	42
0838	HD	北西	鞴		62	42
0839	HD	北西	鞴		62	42
0611	SF	南西	坏		152	90
0608	SF	南西	坏		152	90
0108	SF	北西	坏蓋		29	18
0111	SF	北西	甕		29	16
0112	SF	北西	甕		29	16
0114	SF	北西	甕		29	16
0032	SF	不明	壺		156	93
0110	SF	北西	壺		29	16
0113	SF	北西	壺		29	16
0115	SF	北西	壺		29	16
0204	SF	不明	壺		66	44
0316	HF	南西	坏		143	85
0312	HF	南西	坏		143	84
0314	HF	南西	坏		144	85
0121	HF	北西	坏		31	20
0174	HF	北西	坏		31	20
0203	HF	東	坏		66	44
0332	HF	東	坏		139	77
0272	HF	南西	坏		113	66

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0395	鉄釘	南西	坏		192	62
0473	鉄釘	南西	坏		116	70
0474	鉄釘	南西	坏		116	70
0475	鉄釘	南西	坏		116	70
0476	鉄釘	南西	坏		116	70
0477	鉄釘	南西	坏		116	70
0479	鉄釘	南西	坏		116	70
0480	鉄釘	南西	坏		116	70
0481	鉄釘	南西	坏		116	70
0482	鉄釘	南西	坏		116	70
0484	鉄釘	南西	坏		116	70
0486	鉄釘	南西	坏		116	70
0478	鉄釘	南西	坏		116	70
0482	鉄釘	南西	坏		116	70
0485	鉄釘	南西	坏		116	70
0531	鉄釘	南西	坏		152	90
0525	鉄釘	南西	坏		152	90
0472	鉄釘	南西	坏		152	90
0532	鉄釘	南西	坏		152	90
0533	鉄釘	南西	坏		152	90
0494	鉄釘	不明	坏		158	93
0519	鉄釘	不明	坏		158	93
0520	鉄釘	不明	坏		158	93
0521	鉄釘	不明	坏		158	93
0523	鉄釘	不明	坏		158	93
0524	鉄釘	不明	坏		158	93
0502	鉄釘	不明	坏		158	93
0003	鉄釘	北西	高坏		56	39
0004	鉄釘	北西	高坏		56	39
0320	鉄釘	北西	高坏		125	73
0600	鉄釘	不明	小型鉢		158	93
0600	鉄釘	不明	小型鉢		158	93
0002	鉄釘	北西	大型鉢？		33	38
0349	鉄釘	北西	壺		123	74
0349	鉄釘	東	壺		71	45
0313	鉄釘	南西	壺		143	84
0487	鉄釘	南西	壺		116	70
0489	鉄釘	南西	壺		116	70
0490	鉄釘	南西	壺		116	70
0491	鉄釘	南西	壺		116	70
0499	鉄釘	不明	壺		158	93
0604	鉄釘	不明	壺		158	93
0626	鉄釘	不明	壺		158	93
0488	鉄釘	南西	壺？		116	70
0340	鉄釘	北西	小型壺		125	73
0487	鉄釘	不明	小型壺		158	93
0535	鉄釘	不明	小型甕？		158	93
0267	丸	東	壺		132	77
1003	石器	北西	石臼		54	38
1001	石器	北西	茶臼		54	38
1002	石器	北西	茶臼		54	38
1006	石器	北西	砥石		30	19
1029	石器	北西	砥石		128	76
1030	石器	東	砥石		132	78
1028	石器	東	砥石		133	78
1013	石器	北西	砥石		39	28
1008	石器	北西	砥石		30	20
1005	石器	北西	有孔砥石		30	19
1010	石器	東	砥石？		75	48
1011	石器	東	砥石？		75	48
1012	石器	東	砥石？		75	48
1007	石器	北西	砥籠車	未製品	48	34
1018	石器	北西	砥籠車		123	73
1028	石器	北西	砥籠車		128	76
1033	石器	北西	砥籠車		128	76
1014	石器	東	砥籠車	未製品	133	78
1035	石器	東	砥籠車		132	78
1031	石器	南西	砥籠車		151	89
1032	石器	南西	砥籠車		151	89
1034	石器	南西	砥籠車	刻字	151	90
1020	石器	南西	砥籠車		157	92
1016	石器	不明	砥籠車	未製品	157	92
1019	石器	不明	砥籠車		157	92

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
1021	石器	不明	砥籠車	未製品	157	92
1036	石器	不明	砥籠車	未製品	157	92
1037	石器	不明	砥籠車	未製品	157	92
1038	石器	不明	砥籠車		157	92
1022	石器	不明	砥籠車？		157	92
1026	石器	不明	砥石?石器	線刻	157	92
1009	石器	北西	白玉		30	36
1024	石器	北西	白玉		32	33
1023	石器	北西	白玉		128	76
1025	石器	北西	白玉		131	80
1017	石器	不明	丸玉		157	92
1027	石器	北西	小玉		128	76
1004	石器	北西	有孔円盤		29	18
0007	銅	北西	銅弾		127	75
0001	銅	不明	矢尻	銀象眼	154	6.90
0002	銅	南西	煙管雁首		87	85
0003	銅	南西	煙管雁首		137	80
0004	銅	不明	煙管雁首		154	90
0006	銅	南西	耳環		147	87
0008	銅	東	鉄	開元通宝	129	94
0009	銅	東	鉄	開元通宝	129	94
0010	銅	東	鉄	太平通宝	129	94
0046	銅	北西	鉄	至道元宝	127	94
0041	銅	北西	鉄	咸平元宝	44	94
0011	銅	東	鉄	祥符通宝	129	94
0058	銅	不明	鉄	景德元宝	155	94
0012	銅	東	鉄	祥符元宝	129	94
0040	銅	南西	鉄	祥符元宝	83	94
0013	銅	東	鉄	天禧通宝	129	94
0014	銅	東	鉄	天聖元宝	129	94
0060	銅	不明	鉄	天聖元宝	155	94
0015	銅	東	鉄	皇宋通宝	129	94
0016	銅	東	鉄	皇宋通宝	129	94
0017	銅	東	鉄	皇宋通宝	129	94
0018	銅	東	鉄	皇宋通宝	129	94
0019	銅	東	鉄	皇宋通宝	129	94
0043	銅	南西	鉄	皇宋通宝？	155	94
0051	銅	不明	鉄	皇宋通宝	155	94
0020	銅	東	鉄	嘉祐通宝	129	94
0021	銅	東	鉄	嘉祐通宝	129	94
0059	銅	北西	鉄	熙寧元宝	30	94
0050	銅	北西	鉄	熙寧元宝？	30	94
0022	銅	東	鉄	熙寧元宝	129	94
0023	銅	東	鉄	熙寧元宝	129	94
0024	銅	東	鉄	熙寧元宝	129	94
0025	銅	東	鉄	熙寧元宝	129	94
0042	銅	北西	鉄	元豊通宝	127	94
0044	銅	北西	鉄	元豊通宝	127	94
0045	銅	北西	鉄	元豊通宝	127	94
0047	銅	北西	鉄	元豊通宝	127	94
0026	銅	東	鉄	元豊通宝	129	94
0027	銅	東	鉄	元豊通宝	129	94
0028	銅	東	鉄	元豊通宝	129	94
0029	銅	東	鉄	元豊通宝	129	94
0056	銅	南西	鉄	元豊通宝	155	94
0039	銅	北西	鉄	元祐通宝	127	94
0030	銅	東	鉄	元祐通宝	129	94
0031	銅	東	鉄	元祐通宝	129	94
0032	銅	東	鉄	聖宋元宝	129	94
0034	銅	南西	鉄	政和通宝	83	94
0033	銅	東	鉄	崇寧元宝	129	94
0035	銅	北西	鉄	淳祐元宝	127	94
0048	銅	北西	鉄	洪武通宝	34	38
0042	銅	北西	鉄	永乗通宝	127	94
0036	銅	東	鉄	永乗通宝	129	94
0061	銅	不明	鉄	永乗通宝	155	94
0052	銅	不明	鉄	古宋永通宝	154	94
0053	銅	不明	鉄	古宋永通宝	154	94
0054	銅	不明	鉄	古宋永通宝	154	94
0037	銅	東	鉄	新寛永通宝	129	94
0038	銅	南西	鉄	一銭	139	94
0055	銅	不明	鉄	一銭？	154	94
0057	銅	南西	鉄	不明	153	94

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0109	銅	不明	薄板片		155	91
0005	銅	北西	有孔円盤		121	72
0080	鉄	南西	鉄	新寛永通宝	114	94
0073	鉄	南西	小刀		152	90
0106	鉄	北西	鞘金具？		54	38
0107	鉄	北西	鞘金具？		54	38
0082	鉄	南西	刮下？		141	83
0084	鉄	南西	刮下状		152	90
0087	鉄	南西	刀子		113	66
0088	鉄	南西	刀子		143	84
0067	鉄	南西	刀子		138	81
0072	鉄	南西	刀子		152	90
0071	鉄	南西	刀子		152	90
0066	鉄	不明	刀子		158	93
0074	鉄	不明	刀子		158	93
0075	鉄	不明	刀子		158	93
0089	鉄	不明	刀子		158	93
0065	鉄	北西	刀子？		128	76
0078	鉄	東	刀子？		130	76
0070	鉄	南西	刀子？		152	90
0068	鉄	不明	刀子？		158	93
0079	鉄	南西	鞍		150	88
0063	鉄	南西	鞍		150	88
0085	鉄	不明	鞍		155	91
0095	鉄	不明	鞍		155	91
0097	鉄	北西	鞍？		29	18
0100	鉄	北西	鞍？		127	75
0101	鉄	東	鞍？		69	44
0091	鉄	東	鞍？		78	47
0102	鉄	不明	鞍？		155	91
0108	鉄	不明	大型鞍？		155	91
0086	鉄	南西	鐙金具		113	66
0098	鉄	北西	鐙金具？	凸形	59	41
0090	鉄	南西	斧	袋状	131	80
0064	鉄	北西	斧	袋状	128	76
0062	鉄	東	鎌		133	78
0064	鉄	不明	鎌		154	90
0077	鉄	不明	短鎌		154	90
0081	鉄	南西	小鎌		141	83
0110	鉄	北西	鋤先		48	34
0093	鉄	南西	ヤリ？		152	90
0076	鉄	不明	火打金		134	80
0096	鉄	南西	火打金？		87	85
0103	鉄	北西	角釘		128	76
0097	鉄	北西	角釘？		128	76
0104	鉄	北西	小角釘		126	75
0105	鉄	北西	釘片		31	21
0083	鉄	南西	バネ		141	83
0090	鉄	不明	ベーゴマ	八角形	154	90
0092	鉄	南西	針金状		152	90
0111	鉄	東	不明鉄片		73	47
0128	鉄	北西	鉄滓		39	28
0118	鉄	北西	鉄滓		118	71
0124	鉄	北西	鉄滓		45	34
0122	鉄	北西	鉄滓		53	38
0123	鉄	北西	鉄滓		126	73
0114	鉄	東	鉄滓		75	48
0119	鉄	南西	鉄滓		111	66
0112	鉄	南西	鉄滓		113	66
0117	鉄	南西	鉄滓		100	62
0121	鉄	南西	鉄滓		100	63
0116	鉄	南西	鉄滓		136	80
0113	鉄	南西	鉄滓		136	81
0120	鉄	南西	鉄滓		146	86
0115	鉄	南西	鉄滓		111	66
0001	骨	北西	馬歯		35	26
0002	骨	北西	馬歯		35	26
0004	骨	北西	牛歯		109	72
0005	骨	北西	馬歯		女し	78
0006	骨	東	馬歯		75	47
0007	骨	南西	馬歯		111	66
0003	骨	南西	牛歯		女し	88
0008	骨	北西	人骨・骨		33	24

Summary

1. Outline of the Site

This Yata site is located at Tennohhara (the Northwest part), Inarikubo, Yatsugashira, Su ginokubo, Kurumajizoh, Amakuzawa sections of Yata, Kannon-yama section of Taira (the East part), and Kobutabayasi section of Tago (the Southwest part), on Yoshii town, Gunma Prfc. The excavation area is consists of fields and low lands at the foot of Amakuyama hill, on the Yata terrace, one of the right bank in the Kanra corridor.

The archaeological excavation was held from April 1st 1986 to August 27th 1990 as the first time and from November 5th to 26th as the second time, by our team. And recently the location of this site had changed the Yosii interchange on the Johshin-etsu Highway.

The results of several hundreds hole type dwellings before the of Ancient times on this site was already published as "Yata site vol. I／Ⅶ" from 1990 to 97.

2. Number of Main Monuments and Artifacts

After Pre-Modern Ages : 19 fields, 50 gutters, 11 roads and a horse tomb ; a writing brush case of bronze inlaid silver

the Middle Age : a residense of surrouding rectangle moat, 11 buildings, 7 wells, 3 tombs, and 2 roads ; 9 shards of Longquan celadon bowls and Chinese coins

the Ancient time : 9 buildings, 5 wells, 4 concentrated potteries. a smithery and 7 ditchs ; roof tile and spindle ring with characters, terracotta sinkers, big jars of Sueki stoneware

Kofun Period : 3 fences and 2 old rivers with a flag part ; bronze earring and stone beads

Johmon Period : a small hole of the Latest stage ; a shard of Koori type jar from east part of ancient Shinano district

3. Characteristic Results

A. After The Pre Modern Ages

On these ages, we could confirmed many fields at the Southwest and the East part. Most of them were reclaimed after the worst eruption of Asama volcano at 1783, and those border ware almost same with recently fields.

B. The Middle Age

At the residense of surrouding rectangle moat (50×59m) not found the strong defensive structure, and according to artifacts, imported ceramics and millstones for tea, its clearly showed that the residents, probably Tago family, had a few economic power and daily had been staied in here from 13th to 15th centuries.

Along the west side of the residense we found the old road toward the Kamakura highway at north, as a interesting facts, in the west part of this road there were 2 groups of buildings with wells and no defensive structure.

By those facts showed us that on this time the residencial separation was very evidently on both side of the old road as a border, probably because of difference on social／politic class.

And according to those results, we could described a picture of scene on this time. (p.182)

C. The Ancient Time

On the limited data in this book, exception of several hundreds hole type dwellings, we can not think to reconstruction of the human activities at this time.

At the Ancient time, we have to write finding not less than 9 buildings in 2 groups, and major part of them overlap with hole type dwellings. It is means that this village consisted of not only hole type dwllings but also buildings too, and the time relation for both monuments had a little difference. Because of those fact, if want to reconstruct a view of this village on the Ancient time, we must study to the subject of buildings, possibility much more existed.

And the others, we find a long ditch arong east side of the village or the left bank of Inarikubo low land from south to north.

(Sakai T.)

報告書抄録

書名	矢田遺跡Ⅷ
副書名	関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻	第43集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告
シリーズ番	第216集
編著者名	坂井　隆　　宮崎重雄
編集機関	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377　群馬県勢多郡北橘村下箱田784-2
発行年	1997年

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
矢田	多野郡吉井町 大字矢田字天王原・稲荷久保・谷頭・杉之久保・車地蔵・天久沢・大字多比良字観音山・大字多胡字小薑林	103632	10005-00124	361427	1385945	19860401～19900827 19911105～19911126	90,000㎡	高速道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
矢田	生産 交通 埋葬	近世近代	畠 溝 道路 墓坑	19 50 11 1	銀象嵌銅製矢立端部 馬骨	1 1	近世後期浅間山爆発を前後する畠地と字境の変化
	居住 埋葬 交通	中世	環濠居館 掘立柱建物 井戸 墓坑 道路	1 11 7 3 2	竜泉窯青磁碗鉢片 人骨 埋納銅銭	9 1	方形居館と道路を境に接する掘立柱建物群が顕著に分かれる
	居住 生活 生産	古代	掘立柱建物 井戸 土器集積 小鍛冶 溝	9 5 4 1 7	刻字瓦・紡錘車 土錘 鉄滓 須恵器大甕 鉄刀子		竪穴住居群に重複する大型掘立柱建物群と低地際に走る水路
	自然 居住	古墳	旧河川 柱穴列	2 3	銅耳環 滑石臼玉		川際に石敷遺構
	生活	縄文	土坑	1	晩期水式甕		弥生前期並行

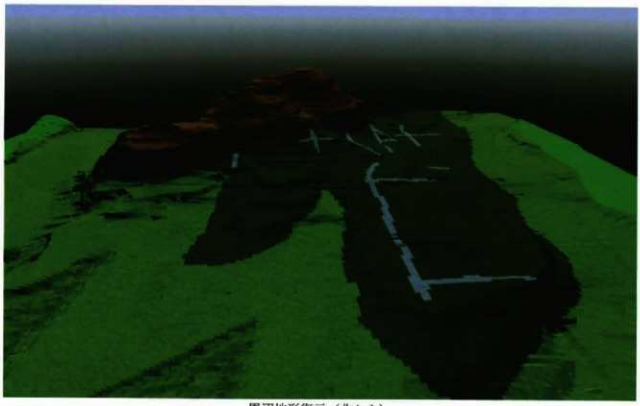
二　写真図版

牛伏山から北方向　中央に遺跡地

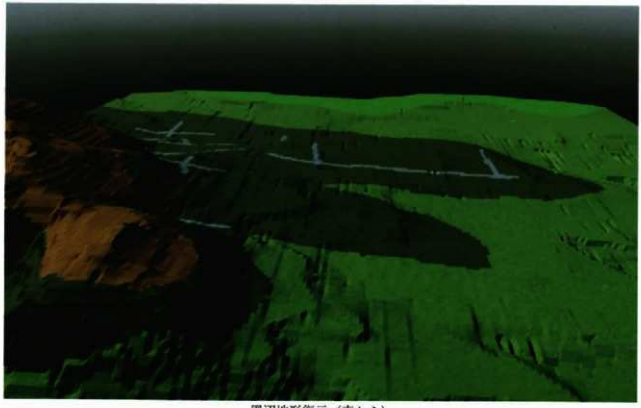
西方向　手前中央が遺跡地

北方向の景観

東側調査地（西から）

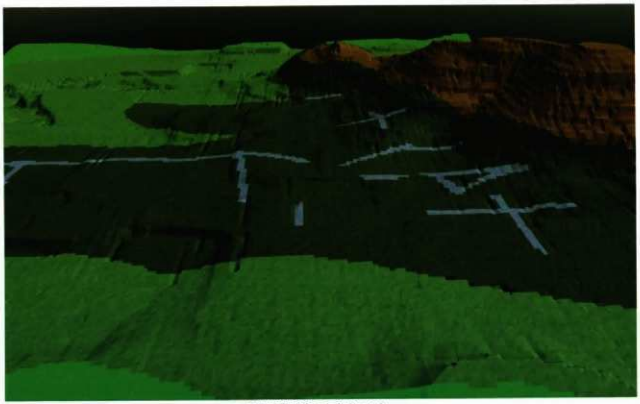


周辺地形復元（北から）



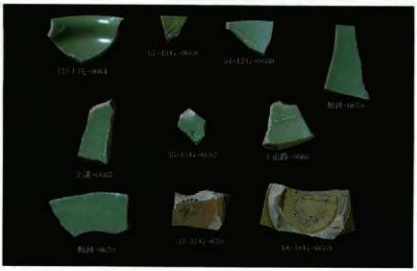
周辺地形復元（東から）

周辺地形復元（南から）

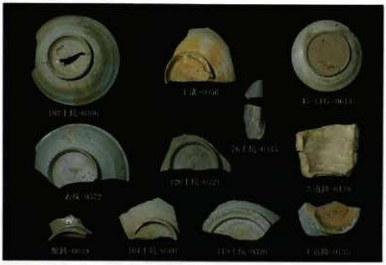


周辺地形復元（西から）

出土陶磁器



中世船載陶磁（上・左）



古代灰釉陶器（上・左）

近世近代 国産陶磁
（上・右）

銀象嵌銅製矢立蓋（表面採集）

遺跡地遠望

調査地と周辺

南方向から　　牛伏山から遺跡地

南東方向から

中央が遺跡地南西地区　左が多胡川

北からの矢田台地

南方向から

正面が榛名山

遺跡からの眺望

北方向

北方向

北方向

北東方向

北東方向

北東方向

調査地東端と東方向

東方向

中央丘が天久沢陣城跡

南東方向

南方向

南方向

復元住居群

PL. 10

南西方向

左奥が牛伏山　右下に多胡川の谷

西方向

中央左奥が荒船山　手前が多胡集落

北西方向

中央が多胡集落

北西方向

右端が榛名山

遺跡地全景

矢田天王原中央東側（北から）

矢田天王原中央東側（北から）

矢田天王原中央西側（東から）

矢田天王原南西側（南から）

矢田天王原南東側（南東から）

矢田天王原南東側（西から）

矢田天王原南端（北西から）

矢田稲荷久保南側（西から）

矢田谷頭西側（北から）

矢田谷頭東側（北西から）

矢田杉之久保北側（南から）

矢田杉之久保北側（東から）

矢田車地蔵（西から）調査地東側

矢田車地蔵（西から）

矢田車地蔵（南東から）

矢田車地蔵（西から）

多比良観音山（南から）

多胡小蓋林北側（北から）

多胡小蓋林中央部（北西から）

多胡小蓋林西側（南西から）

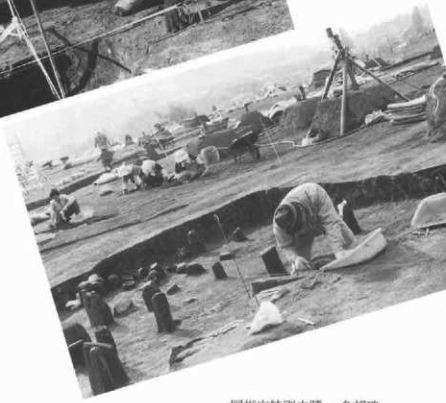
多胡小蓋林南西端（北から）

多胡小蓋林南東側（北から）

多胡小蓋林南東側（北西から）

調 査

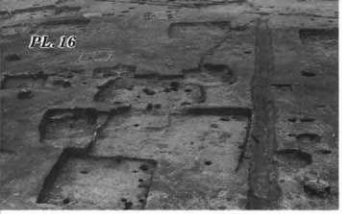
作業風景



復元住居群

国指定特別史蹟　多胡碑

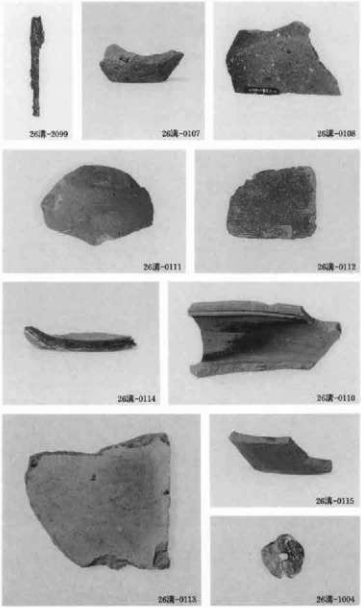
北西側地区大型遺構と遺物



26号溝　掘り上がり（西から）

26号溝　掘り上がり（東から）

26号溝　遺物出土状態（西から）



31号溝　掘り上がり（西から）

31号溝　セクション（西から）

31溝-0120

31溝-0121

01号道路　掘り上がり（北西から）

01号道路　掘り上がり（北東から）

1道路-0374

01号道路　遺物出土状態（西から）

01号道路(集石部分)（西から）

02号道路　掘り上がり（南西から）

02号道路　遺物出土状態（南から）

02号道路　掘り上がり（南から）

02道路-0125

02道路-0118

02道路-0122

02道路-0119

02道路-0127

02道路-0126

02道路-1003

03号道路　掘り上がり（北東から）

04号道路　掘り上がり（南西から）

04道路-1006

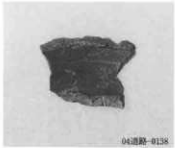
04道路-0133

04道路-0132

04道路-0134

04道路-0136

04道路-0137


04道路-0138

04道路-0139

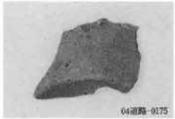
04号道路　掘り上がり　(北東から)

04道路-0140

04道路-0141

04道路-0145

04道路-0147


04道路-0175

04道路-0142

04道路-0143

04道路-0144

04道路-0131

04道路-0174

04号道路　掘り上がり　(北東から)

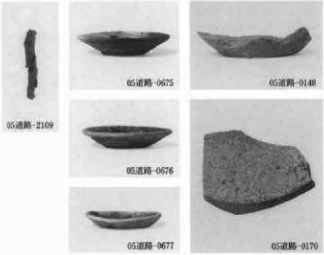
05号道路　掘り上がり（東から）

05号道路　掘り上がり（西から）

05号道路　全景（東から）

05号道路　遺物出土状態（東から）

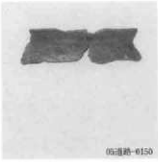
05号道路　掘り上がり（南から）



05号道路　全景（北から）

05号道路　掘り上がり（北から）

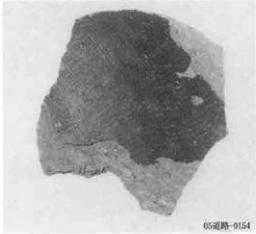
05道路-0151



05道路-0150

05道路-0152

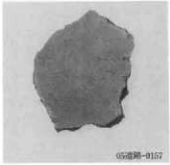
05道路-0153



05道路-0154

05道路-0155

05道路-0156



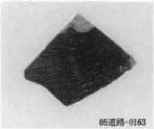
05道路-0157

05道路-0158

05道路-0159

05道路-0160

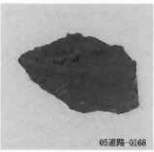
05道路-0162


05道路-0163

05道路-0165

05道路-0166

05道路-0167


05道路-0168

05道路-0169

05道路-0130

05道路-0172

05道路-0149

05道路-0164

05道路-0171

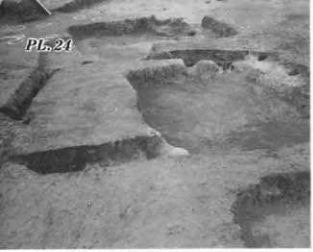
05道路-0161

06号道路　掘り上がり（東から）

06号道路　掘り上がり（東から）

06道路-0173

06道路-1024



01号建物　掘り上がり（西から）

01号建物　掘り上がり（北から）

02号墓抗　検出状態（東から）

02号墓抗　人骨出土状態（南から）

01号土坑　遺物出土状態（北から）

06号墓坑　馬骨出土状態（北東から）

06号墓坑　馬骨出土状態（北東から）

06号墓坑　馬骨出土状態（西から）

01号不明遺構　全景（南から）

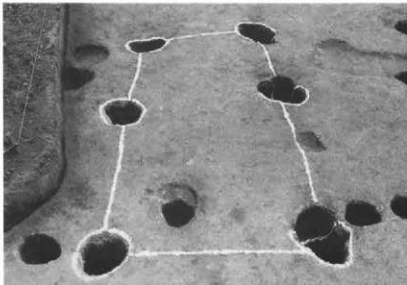
01号不明遺構　掘り上がり（東から）

01号不明遺構　セクション（東から）

27号溝　掘り上がり（南東から）

28号溝　掘り上がり
（南から）

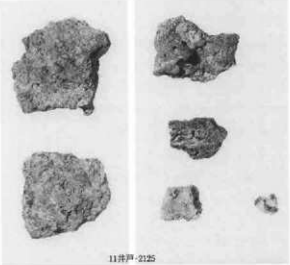
19号掘立　掘り上がり
（西から）

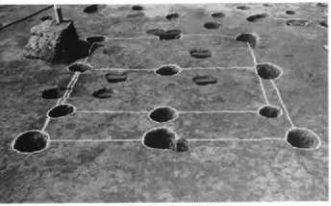


20号掘立　掘り上がり
（北から）

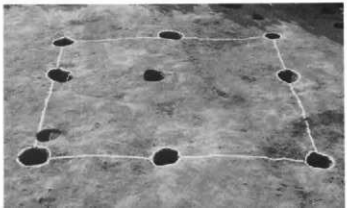
09号井戸　掘り上がり（西から）

10(左)・11(右)号井戸　掘り上がり（南西から）



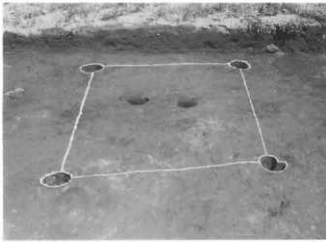


16(奥)・17(手前)号掘立　掘り上がり（南から）



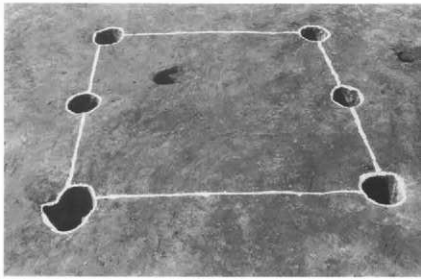
18号掘立　掘り上がり（南東から）

01号墓坑　検出状態（北から）

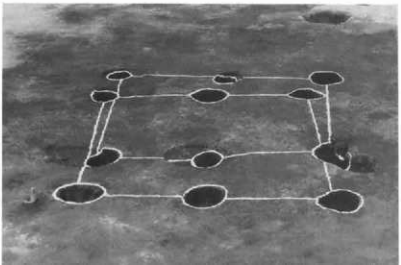


13号掘立　掘り上がり（南東から）

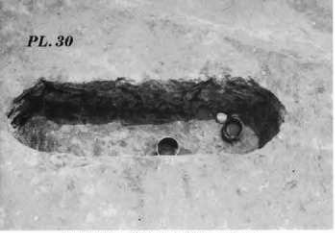
01号墓坑　掘り上がり（北から）



12号掘立　掘り上がり（南から）



14・15号掘立（奥から）
掘り上がり（南から）



04号土坑　遺物出土状態（西から）

04号土坑　セクション（南から）

04土坑-0277

04土坑-0278

04土坑-0279

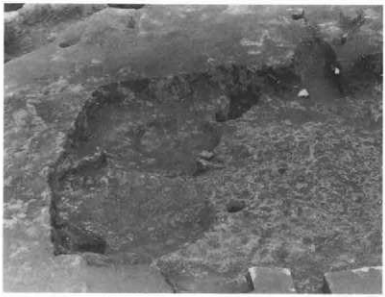
11号掘立　全景（南から）

11号掘立　掘り上がり（南から）

03号小鍛冶　遺物出土状態（東から）

03号小鍛冶　炉体セクション（西から）

03号小鍛冶　炉体（南から）



03号小鍛冶　掘り上がり（西から）

05号土坑　掘り上がり（南西から）

05号土坑　遺物出土状態（南から）

07号土坑　掘り上がり（北西から）

06号土坑　掘り上がり（南から）

46溝-0178

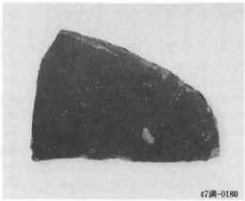
46溝-0179

46号溝　掘り上がり（南から）

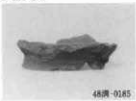
47号溝　掘り上がり（西から）

46号溝　掘り上がり（南から）

47溝-0181


47溝-0180

48・49号溝　遺物出土状態（西から）


48溝-0185

48・49溝-0194

48溝-0182

48溝-0183

48溝-0184

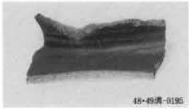
48溝-0190

48・49溝-0193

48溝-0186

48・49溝-0197

48溝-0187


48・49溝-0195

48・49溝-0196

48溝-0188

48・49号溝　遺物出土状態（北東から）

48溝-0189

48溝-1007

49溝-2124

50号溝　掘り上がり（南から）

127号土坑　掘り上がり（南から）

41号溝　掘り上がり（西から）

41号溝　遺物出土状態（東から）

53号溝　掘り上がり（南から）

59号溝　掘り上がり（西から）

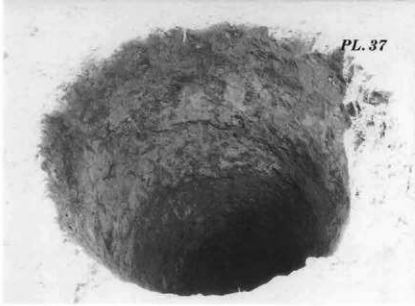
52号溝　掘り上がり
（西から）

60号溝　全景（東から）

101・102・103号溝・12号道路　全景（北東から）

102号溝　セクション（西から）

45号溝　掘り上がり（北から）



14号井戸　掘り上がり（北から）

館跡　掘り上がり（東から）

館跡　全景（南西から）

館跡　全景（南から）
（03～07号柱穴列・方形竪穴）

館跡堀　セクション（南西から）

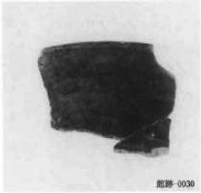
館跡-0017

館跡-0029

館跡-0032

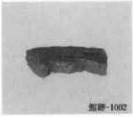
館跡-0027

館跡-0028


館跡-0030

館跡-0031

館跡-1001


館跡-1002

館跡-1003

館跡-2106

館跡-2107

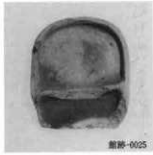
館跡-0005

館跡-0006

館跡-0007

館跡-0008

館跡-0009


館跡-0025

館跡-0001

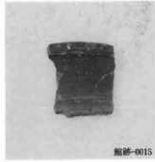
館跡-0010

館跡-0011

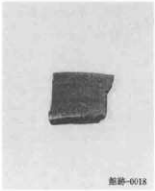
館跡-0012

館跡-0013

館跡-0014


館跡-0015

館跡-0016



01号溝　掘り上がり（南から）

01号溝　遺物出土状態（北から）

01溝-0046

01溝-0047

01溝-0048

01溝-0050

01溝-0052

01溝-0053

01溝-0055

01溝-0049

01溝-0044

01溝-0045

01溝-0054

01溝-0051

01溝-0057

01溝-0058

01溝-0071

01溝-0263

01溝-0059

01溝-0060

01溝-0061

01溝-0062

01溝-0064

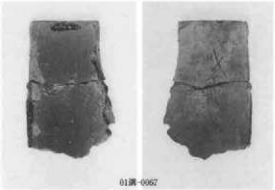
01溝-0065

01溝-0066

01溝-0063

01溝-0043

01溝-0070


01溝-0067

01号溝付近ピット群（北から）

01溝-0068

01溝-0069

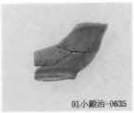
01溝-2098

01号土器集積　検出状態（南西から）

01号土器集積　検出状態（北から）

01土器-0375

01号小鍛冶　検出状態（南から）



01小鍛冶-0635

01小鍛冶-0634

01小鍛冶-0636

01小鍛冶-0637

01小鍛冶-0638

01小鍛冶-0639

01号小鍛冶　掘り上がり（南から）

円形桶土坑群（9～34号土坑）　全景（西から）

東側地区大型遺構と遺物

07道路-0198

07道路-0200

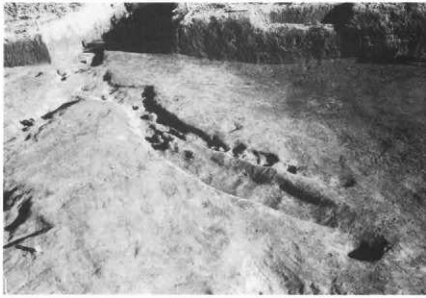
07道路-0199

57溝-0201

57溝-0202

07号道路　遺物出土状態（北から）

57号溝　遺物出土状態（西から）



55(左)・56(右)号溝　全景（東から）

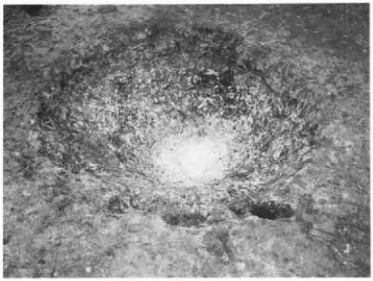
55(左)・56(右)号溝　掘り上がり（東から）

58号溝　遺物出土状態（南から）

58溝-0203

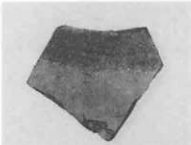
58溝-0204

12井戸-0254



12号井戸　掘り上がり（南から）

12井戸-0255



12井戸-0256

12井戸-0259

12井戸-2101

12井戸-0257

12井戸-0258

128号土坑　遺物出土状態（東から）

01号集石　検出状態（西から）

01号集石　検出状態（北から）

02土集-0351

02土集-0350

02土集-0352

02土集-0353

02土集-0356

02土集-0355

02土集-0354

02土集-0349

02号土器集積　検出状態（北から）

02土集-0357

40号溝　遺物出土状態（北西から）

40(右)・106(左)号溝　掘り上がり（北西から）

40(中央)・61(手前)・106(奥)号溝　全景（西から）

01号採掘坑　全景（北西から）

01号採掘坑　掘り上がり（北西から）

62号溝　全景（北から）

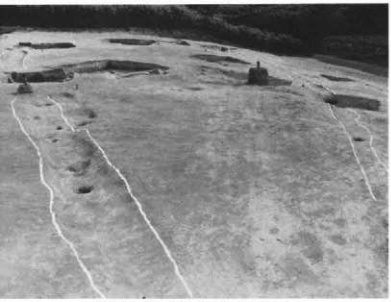
62号溝　掘り上がり（南から）

62号溝　馬歯出土状態（西から）

111・112号溝　掘り上がり（南西から）

130号土坑　掘り上がり（南から）

130号土坑　掘り上がり（北から）



131号土坑　掘り上がり（北から）

64(右)・65(左)号溝・129号土坑(中央奥)
掘り上がり（北から）

64号溝　遺物出土状態（北から）

64号溝　遺物出土状態（東から）

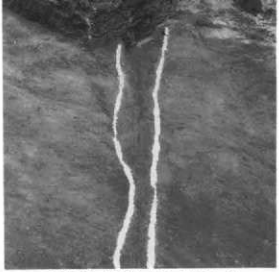
02号建物(手前)・74号溝(奥)　掘り上がり（南から）

02号建物　遺物出土状態（東から）

02号建物　遺物出土状態（南から）

02号建物(奥)・74号溝(手前)　掘り上がり　(北西から)

74号溝　掘り上がり（西から）

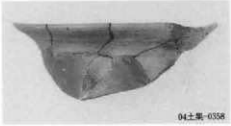


76号溝　掘り上がり（南東から）

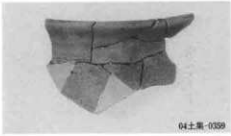
77号溝　掘り上がり（南西から）

04号土器集積　検出状態（西から）

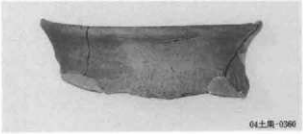
04土集-0364



04土集-0358



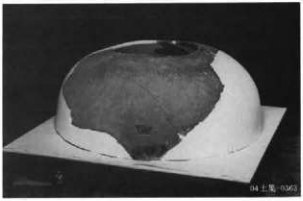
04土集-0359



04土集-0360

04土集-0362

04土集-0361



04土集-0363

01号石積土坑　検出状態（西から）

01号石積土坑　検出状態（北から）

01号石積土坑　検出状態（東から）

01号石積土坑　掘り上がり（北から）

69号溝　掘り上がり（南から）

70号溝　遺物出土状態（西から）

71号溝　掘り上がり（南から）

72号溝　掘り上がり（南から）

23号溝　全景（北から）

23号溝　検出状態(北から)

23号溝　集石部分検出状態　(北から)

23号溝　集石部分検出状態（南から）

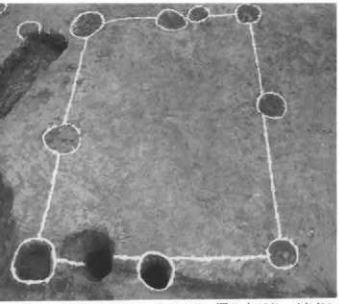
24(右)・25(左)号溝　掘り上がり（西から）

113号溝　全景（南から）

113号溝　掘り上がり　（北東から）

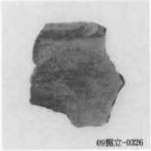
114号溝（手前）・10号掘立（奥）　掘り上がり（東から）

114号溝・10号掘立・11号墓坑（右）・08号柱穴列（掘立内）・38号土坑（奥）　掘り上がり　（北から）



09号掘立（中央）・37号土坑（左上）　掘り上がり　（南東から）

09掘立-0325



09掘立-0326

09掘立-0327

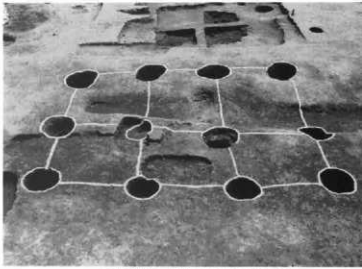
08井戸-0242

08井戸-0243

08井戸-0244

08号井戸　掘り上がり（西から）

08井戸-0245


06号掘立　掘り上がり（西から）

06掘立-0216

06掘立-0217

06掘立-0214

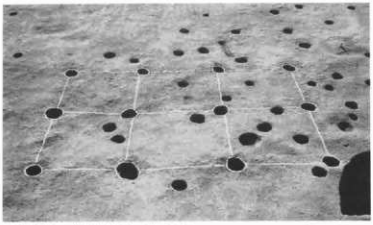
06掘立-0215

06掘立-0213

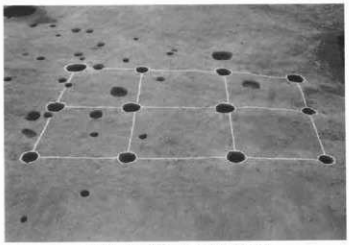
07掘立-0218

135号土坑（左上）・21号掘立（未検出）
07号掘立・掘り上がり（西から）

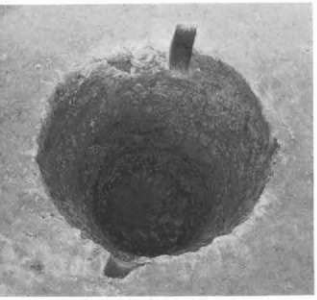
04(左)・05(右)号掘立　全景（南から）



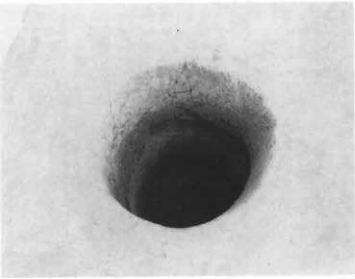
04号掘立　掘り上がり（北から）



05号掘立　掘り上がり（北から）



03号井戸　掘り上がり（南から）



06号井戸　掘り上がり（西から）

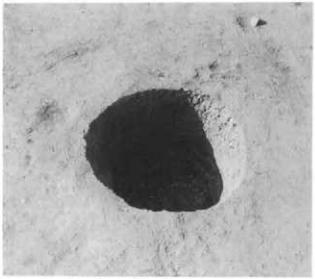
03号採掘坑(中央)40号土坑(手前)　掘り上がり　(北西から)

02号採掘坑(中央)40号土坑(手前)　掘り上がり　(南西から)

02号井戸　掘り上がり (南から)

02井戸-0240

02井戸-0239



04号井戸　掘り上がり (東から)

04井戸-0241

03号土器集積　検出状態（西から）
（上・下）

03土集-0432

03土集-0433

03土集-0434

03土集-0435

03土集-0376

03土集-0377

03土集-0378

03土集-0379

03土集-0380

03土集-0381

03土集-0382

03土集-0383

03土集-0384

03土集-0385

03土集-0386

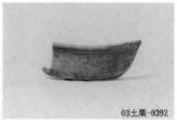
03土集-0387

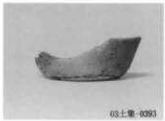
03土集-0388

03土集-0389

03土集-0390

03土集-0391


03:土集-0392


03:土集-0393

03:土集-0394

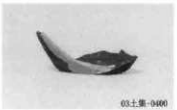
03:土集-0395

03:土集-0396

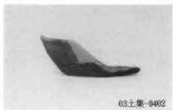
03:土集-0397

03:土集-0398

03:土集-0399


03:土集-0400

03:土集-0401


03:土集-0402

03:土集-0403

03:土集-0404

03:土集-0405

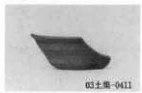
03:土集-0406

03:土集-0407

03:土集-0408

03:土集-0409

03:土集-0410


03:土集-0411

03:土集-0412

03:土集-0413

03:土集-0414

03:土集-0415

03:土集-0416

03:土集-0417

03:土集-0418

03:土集-0419

03:土集-0420

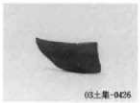
03:土集-0421

03:土集-0422

03:土集-0423

03:土集-0424

03:土集-0425


03:土集-0426

03:土集-0427

03:土集-0428

03:土集-0429

03:土集-0430

03:土集-0431

03:土集-0462

03:土集-0467

03:土集-0468

03土集-0436

03土集-0437

03土集-0438

03土集-0439

03土集-0440

03土集-0441

03土集-0442

03土集-0443

03土集-0444

03土集-0445

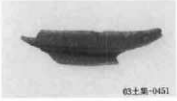
03土集-0446

03土集-0447

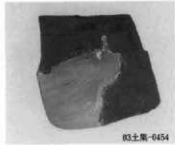
03土集-0448

03土集-0449

03土集-0450


03土集-0451

03土集-0452


03土集-0454

03土集-0456

03土集-0457

03土集-0458

03土集-0459

03土集-0471

03土集-0470

03土集-0460

03土集-0461

03土集-0453

03土集-0455

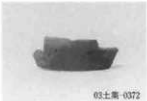
03土集-0367

03土集-0368

03土集-0369

03土集-0370

03土集-0371


03土集-0372

03土集-0373

03土集-0469

03土集-0463

03土集-0464

03土集-0465

03土集-0466

07号溝　遺物出土状態（北から）

09号溝　セクション（西から）

07溝-0092